鹿屋体育大学

令和４年度

体育学部シラバス

学籍番号	氏　　名

NATIONAL INSTITUTE OF FITNESS AND SPORTS IN KANOYA

目　　次

一般科目

【コミュニケーション科目】

総合英語Ⅰ …… (1)
総合英語Ⅰ（再履修）…… (2)
総合英語Ⅱ …… (3)
総合英語Ⅱ（再履修）…… (4)
総合英語Ⅲ（コミュニケーションのための英文法）…… (5)
総合英語Ⅲ（英語多読・多聴）…… (6)
総合英語Ⅲ（健康とスポーツ関連の英語）…… (7)
総合英語Ⅳ（アクティブリーディング）…… (8～9)
総合英語Ⅳ（スポーツ英語）…… (10)
総合英語Ⅳ（日常会話）…… (11)
総合英語Ⅳ（プレゼンテーション入門）… (12～13)
総合英語Ⅴ（Q＆Aのテクニック）…… (14～15)
総合英語Ⅴ（海外留学）…… (16～17)
総合英語Ⅴ（アクティブコミュニケーション）…… (18)
総合英語Ⅵ（オリンピック）…… (19)
総合英語Ⅵ（異文化コミュニケーション）…… (20)
総合英語Ⅶ（海外で暮らす）…… (21)
総合英語Ⅶ（実践プレゼンテーション）… (22～23)
中国語 …… (24)
韓国語 …… (25)
国語・文章表現法 …… (26～27)
ドイツ語 …… (28)
日本語演習Ⅱ …… (29)
現代日本事情 …… (30)
各国文化研究 …… (注1)

【社会・文化・自然科目】

倫理・哲学 …… (31)
人権論 …… (32)
ジェンダー論 …… (33)
歴史学 …… (34)
社会学 …… (35)
日本国憲法 …… (36)
日本文化論 …… (37)
異文化理解 …… (38)
生物化学論 …… (39)
身体科学論 …… (40)
環境論 …… (41)
社会に出るための経済学 …… (42)
バイオメカニクスを学ぶための物理・数学 …… (43)

【総合科目】

総合演習A …… (44)
総合演習B …… (45)
情報処理A …… (46～47)
情報処理B …… (48～49)
情報処理C …… (50)
プレゼンテーション・討論Ⅰ …… (51)
プレゼンテーション・討論Ⅱ …… (52)
交流リベラルアーツ …… (注2)

（注1）「各国文化研究」：単位互換科目
（注2）「交流リベラルアーツ」：単位互換科目

キャリア形成科目

【キャリアデザイン科目】

キャリアデザインⅠ …… (53)
キャリアデザインⅡ …… (54)
キャリアデザインⅢ …… (55)
キャリアセミナー …… (56)
キャリアコミュニケーション …… (57)
企業実習 …… (58)
キャリア対策セミナー（教員）…… (59)
キャリア対策セミナー（一般企業）…… (60)
キャリア対策セミナー（公務員）…… (61)
ボランティア活動 …… (62)

専門科目

【基礎科目A】

解剖生理学 …… (63)
体育学概論 …… (64)
体育・スポーツ史 …… (65)
健康教育学 …… (66)
運動生理学 …… (67)
運動生理学（再履修者）…… (68)
スポーツ栄養学 …… (69)
スポーツ社会学 …… (70)
スポーツマネジメント概論 …… (71)
生涯スポーツ学概論 …… (72)
スポーツ心理学 …… (73)
バイオメカニクス …… (74)
衛生学・公衆衛生学 …… (75)
スポーツ医学 …… (76)

【基礎科目B】

救急処置論・実習 …… (77)
トレーニング科学概論 …… (78)
スポーツメンタルトレーニング論 …… (79)
運動学概論 …… (80)
学校保健 …… (81)
スポーツと法 …… (82)
コーチ学概論 …… (83)
障がい者スポーツ論 …… (84)
武道学概論 …… (85)

【応用科目】

コンディショニング論・実習 …… (86)
生涯スポーツ実践論 …… (87)
武道史 …… (88)
運動生化学 …… (89)
アスレチックトレーナー論 …… (90)
アスレチックトレーナー実習 …… (91)
スポーツ産業論 …… (92)
スポーツ文化論 …… (93)
スポーツトレーニング実践論 …… (94)
スポーツ政策論 …… (95)
武道文化論 …… (96)
身体発育発達・老化論 …… (97)
スポーツ戦術実践論 …… (98)
スポーツ調査法 …… (99)
スポーツビジネス論 …… (100)
体育・スポーツ統計学 …… (101)
スポーツマーケティング論 …… (102)
運動処方論 …… (103)
応用スポーツ心理学 …… (104)
イベント管理学概論 …… (105)

ヘルスプロモーション論・実習 …… (106)
スポーツ国際開発論 …… (107)
スポーツパフォーマンス研究論 …… (108)
救急法実習 …… (注3)

【実験演習科目】
体育学実験Ⅰ …… (109～110)
体育学実験Ⅱ …… (111～115)

【関連実技科目】
陸上・体操・水泳 …… (116～117)
バスケットボール …… (118)
サッカー …… (119)
バレーボール …… (120)
テニス …… (121)
卓球 …… (122)
バドミントン …… (123)
ソフトボール …… (124)
ダンス …… (125～126)
柔道 …… (127～128)
剣道 …… (129～130)
エアロビックダンス …… (131)
ジョギング＆ウォーキング …… (132)
生涯スポーツ・レクリエーション＆ゲームズ …… (133)
アウトドアスポーツ実習(夏季) …… (134)
アウトドアスポーツ実習(冬季) …… (135)
海洋スポーツ …… (136～139)
ラグビー …… (140)
ゴルフ …… (141～142)
なぎなた …… (143)
相撲 …… (144)
弓道 …… (145)
野外活動 …… (146)
体力トレーニング …… (147～148)

専攻科目
【専修科目】
(アスリート・コーチング系)
[競技スポーツ論・実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ]
陸上競技 …… (149～156)
水泳 …… (157～160)
体操競技 …… (161～168)
バレーボール …… (169～172)
バスケットボール …… (173～180)
サッカー …… (181～185)
テニス …… (186～189)
海洋スポーツ …… (190～197)
自転車競技 …… (198～205)
野球 …… (206～213)

(生涯スポーツ系)
生涯スポーツ学総論 …… (214)

[生涯スポーツ論・演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ]
コミュニティ・マネジメント …… (215～217)
健康・体力 …… (218～220)
野外教育 …… (221～225)

(武道系)
[専修武道論・実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ]
柔道 …… (226～232)
剣道 …… (233～240)

(注3)「救急法実習」: 単位認定科目

【指導実践科目】
スポーツ指導実践概論 …… (241)
スポーツ指導実習
スポーツコーチ実習 …… (242)
生涯スポーツ指導実習 …… (243)
武道指導実習 …… (244)

教職科目
【教職】
教師論 …… (245)
教育心理学 …… (246)
特別支援教育 …… (247)
道徳の理論と指導法 …… (248)
総合的な学習の時間の指導法 …… (249)
特別活動論 …… (250)
教育方法・技術 …… (251)
学校と教育の歴史 …… (252)
教育法・教育行政 …… (253)
介護等体験 …… (254)
生徒・進路指導論 …… (255)
教育相談・カウンセリング論 …… (256)
教育課程論 …… (257)

【専門】
保健体育科教育法Ⅰ …… (258)
保健体育科教育法Ⅱ …… (259)
保健体育科教育法Ⅲ …… (260)
保健体育科教育法Ⅳ …… (261)
教育実習Ⅰ …… (262)
教育実習Ⅱ …… (263)
教職実践演習 …… (264)

【ゼミナール】
ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ …… (265～311)

一　般　科　目

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅰ (111A1-2200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	吉重　美紀			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	25名
授業の概要	アスリートや指導者として海外でも活躍するためには、英語の基礎力は不可欠である。本授業では、ロサンゼルスを舞台に４人の若者の日常生活を描いた様々な映像を題材にして、４技能をバランスよく使いながら、英語だけでなくアメリカの文化についても学ぶ。これにより、学生が将来どのような場面においても使える基礎的英語力が身につくことが期待される。オンラインビデオやオーディオを必ず視聴すること。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英語の基本的文法事項について理解し、それを応用できるようになる。		○	○		○		30
	■情意的領域	毎回の活動に主体的に取り組む。 異なる国々の文化や習慣に関心を持つ。	○		○				30
	■技能的領域	英語で話し、聞き、書き、読めるよう基本的４技能を身につける。また英語の発音やリスニングに慣れる。	○	○			○		40

成績評価の基準	CheckLink課題、定期試験（中間、期末）の得点を合計し６０点以上を合格。なお、４月受験の英語プレイスメントテストの得点も評価に加味される（１０％）。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『We Love L.A. ！　L.A. イングリッシュ・ライフ～映像で学ぶ大学基礎英語～』 (Robert Hickling, 臼倉　美里　著，金星堂、2018、2500円+税) 参考書：『アスリートたちの英語トレーニング術』（岡田圭子他著,岩波ジュニア文庫, 2011) 『＜意味順＞英作文のすすめ』（田地野彰著, 岩波ジュニア文庫, 2011)		
履修条件・ 関連科目	4月当初の英語プレイスメントテスト結果でこのクラスに指定された学生２５名のみ。２５名以上の受け入れは不可。国際交流センターが提示する履修条件をよく読んで、履修ください。	備考(教員メッセージ含む)	タブレット必携。英語の発音、リスニングに慣れるよう自分でもオンラインビデオを視聴し勉強しましょう。Check Linkを使って課題をしてもらうため、教科書は必ず購入ください（教科書固有番号で学習者登録が必要なため）。
オフィス・アワー	木曜日：昼休み、午後４時～５時　図書館２階吉重教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉重　美紀	事前アンケート、コースおよび課題の説明	1課 p.16～17 予習,ビデオ視聴（１時間）
2	〃	Unit 1 Welcome to L.A. be動詞	2課 p.22～23 予習,ビデオ視聴（１時間）
3	〃	Unit 2 I Love Fruit! 可算名詞／不可算名詞	3課 p.28～29 予習,ビデオ視聴（１時間）
4	〃	Unit 3 Campus Life 一般動詞(現在時制)	4課 p.34～35 予習,ビデオ視聴（１時間）
5	〃	Unit 4 Lunchtime 代名詞	5課 p.40～41 予習,ビデオ視聴（１時間）
6	〃	Unit 5　First Date　一般動詞(過去時制)	6課 p.46～47 予習,ビデオ視聴（１時間）
7	〃	Unit 6　Where’s Linda? 進行形	U.1～U.6の復習, 配布プリント（２時間）
8	〃	前半の総復習、中間試験(U. 1～U.6)	7課 p.52～53 予習,ビデオ視聴（１時間）
9	〃	Unit 7 Andy’s News　will / be going to	9課 p.64～65 予習,ビデオ視聴（１時間）
10	〃	Unit 9 Moving Day　前置詞	10課 p.70～71 予習,ビデオ視聴（１時間）
11	〃	Unit10 A Beautiful View 現在完了	12課 p.82～83 予習,ビデオ視聴（１時間）
12	〃	Unit 12 Seeing Stars　　WH疑問文	13課 p.88～89 予習,ビデオ視聴（１時間）
13	〃	Unit 13 Buying Food for a BBQ　動名詞 / 不定詞	14課 p.94～95 予習,ビデオ視聴（１時間）
14	〃	Unit 14 Putting on a New Face 接続詞, 学期末試験について	15課 p.100～101予習,ビデオ視聴（１時間
15	〃	Unit 15 Nice Surprises 受動態	総復習（2時間）
16	〃	学期末試験（筆記＋リスニング、中間試験含む）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅰ（再履修） (111A1-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	吉重　美紀			補助担当者名	
単位数	２　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	球技・陸上競技・格闘技などよく知られたスポーツの歴史や特徴、有名選手、あるいは他のスポーツとの関係等について、いろいろな角度から、やさしい英語を通して学ぶ。スポーツの知識を深めながら、英語力の向上を目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英文の内容を理解し、各話題に対し自分の考えを持ち英語で表現できる。	○		○	○			30
	■情意的領域	１４の競技についての英文を読みながら、各競技や選手等に関心を持つ。	○		○				30
	■技能的領域	語彙、文法、表現、構文など英文の読解力を高めるとともに、発音や読み、リスニング力も向上させる。	○			○	○		40

成績評価の基準	毎回の発表は学生相互評価。レポートは２回提出。学期末試験を行ない、総合的に評価して６０点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『Enjoy English through World Sports 英語で楽しむ世界のスポーツ』 (染矢正一、Fred Ferrasci, Paul Murray著，朝日出版、2019、1500円+税) 参考書：『アスリートたちの英語トレーニング術』 （岡田圭子・野村隆宏著、岩波ジュニア文庫,2011,820円＋税）		
履修条件・ 関連科目	前年度までに指定の科目を履修できなかった再履修者対象（国際交流センターが提示する履修条件をよく読むこと）。受講者多数の場合は、上級生を優先し、他の学生は他の年度・学期での受講をお願いするかもしれません。	備考(教員メッセージ含む)	辞書とタブレット必携。発表の準備として、必ず事前打ち合わせに参加（オンライン等）すること。
オフィス・アワー	木曜日：昼休み、午後４時～５時　図書館２階吉重教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉重　美紀	Introduction to the course、presentation について	1課 p.2～5を予習する（１時間）
2	〃	Unit 1 Baseball	2課 p.6～9を予習する（１時間）,発表指導
3	〃	Unit 2　Football	3課 p.10～13を予習する（１時間), 発表指導
4	〃	Unit 3 Figure Skating	4課 p.14～17を予習する（１時間), 発表指導
5	〃	Unit.4 Sumo	5課 p.18～21を予習する（１時間), 発表指導
6	〃	Unit 5 Basketball	1課~5課レポート提出, 6課 p.22～25を予習する（2.5時間)
7	〃	Unit 6　Rugby	7課 p.26～29を予習する（1時間),発表指導
8	〃	Unit 7 The Marathon	8課 p.30～33を予習する（1時間),発表指導
9	〃	Unit 8 Boxing	9課 p.34～37を予習する（1時間),発表指導
10	〃	Unit 9 Tennis	テストに備え、総復習
11	〃	English Achievement Test (CASEC test)	10課 p.38～41を予習する（１時間）,発表指導
12	〃	Unit 10 Volleyball	11課 p.42～45を予習する（１時間）,発表指導
13	〃	Unit 11 Judo	12課 p.46～49を予習する（１時間）,発表指導
14	〃	Unit 12 Swimming	14課 p.54～57を予習する（１時間）,発表指導
15	〃	Unit 14 Ekiden	学期末試験受験の準備をする（4時間）
16	〃	学期末試験(筆記+リスニング)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅱ (111A2-2200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	吉重　美紀			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	25名
授業の概要	アスリートや指導者として海外で活躍するためには、英語の基礎力は不可欠である。本授業では、4技能をバランスよく使いながら英語の基礎を学ぶ。特に「仕事で英語を使う」ことをイメージしながら英語表現や基本的な文法事項を学ぶだけでなく、ニューヨークの生活やアメリカ文化に関する情報にも触れる。これにより、学生が将来どのような場面においても使える基礎的英語力が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英語の基本的文法事項について理解し、それを応用できるようになる。		○	○		○		30
	■情意的領域	毎回の課題に主体的に取り組む。 異なる国々の文化や習慣に関心を持つ。	○		○				30
	■技能的領域	英語で話し、聞き、書き、読めるよう基本的４技能を身につける。また英語の発音に慣れる。	○	○			○		40

成績評価の基準	CheckLinkによる課題、定期試験（中間、期末）等の評価を合計し６０点以上を合格。なお、４月受験の英語プレイスメントテストの得点も評価に加味される(１０％）。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『English Missions Basic ミッション型大学英語の総合演習：基礎編』 (Robert Hickling, 臼倉　美里　著，金星堂、2019、1900円+税) 参考書：『アスリートたちの英語トレーニング術』 （岡田圭子・野村隆宏著,岩波ジュニア文庫, 2011) 『＜意味順＞英作文のすすめ』（田地野彰著, 岩波ジュニア文庫, 2011)		
履修条件・ 関連科目	テスト結果でこのクラスに指定された１年次生２５名。前期、後期に開講されるが両学期とも２５名以上の受け入れは不可。国際交流センターが提示する履修条件をよく読んで履修ください。	備考(教員メッセージ含む)	辞書、タブレット必携。CheckLinkを使って課題をしてもらうため、教科書を必ず購入ください（教科書固有番号で学習者登録が必要なため）。
オフィス・アワー	木曜日：昼休み、午後４時～５時　図書館２階吉重教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉重　美紀	事前アンケート、コースおよび課題の説明、Pre-Unit:	第1課 予習（１時間）
2	〃	Unit 1 Welcome to the "Big Apple" 現在形	第２課 予習（１時間）
3	〃	Unit 2 What's the Boss Like? 代名詞	第３課　予習（１時間）
4	〃	Unit 3 Masa's First Day on the Job 前置詞	第４課 予習（１時間）
5	〃	Unit 4 Summer Fun 過去形	第6課 予習（１時間）
6	〃	Unit 6 Brainstorming 進行形	第７課 予習（１時間）
7	〃	Unit 7 Glad to Be of Service WH疑問文	中間試験に備え、U.1～U.7の復習
8	〃	前半の総復習、中間試験(U. 1～U.7)	第8課 予習（１時間）
9	〃	Unit 8 Socializing with Co-Workers 動名詞・不定詞	第9課 予習（１時間）
10	〃	Unit 9 Vacation Spots 未来形	第10課 予習（１時間）
11	〃	Unit10 Sports Talk 比較級・最上級	第12課 予習（１時間）
12	〃	Unit 12 Party Time 現在完了形	第13課 予習（１時間）
13	〃	Unit 13 Office Meeting 関係詞	第14課 予習（１時間）
14	〃	Unit 14 A Bit of History 受動態、 学期末試験について	第15課 予習（１時間）
15	〃	Unit 15 Farewell, Masa and Lucy 接続詞	学期末試験に備え総復習（２時間）
16	〃	学期末試験(筆記+リスニング,中間試験含む)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅱ（再履修） (111A2-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	吉重　美紀			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～４年次	受け入れ人数	35
授業の概要	やさしい英語で身近な話題であるスポーツとアスリートについて学ぶ一方、英語の基礎文法の再確認をし、英文読解やリスニングに慣れるようにする。 テキストのハーフ・タイムやCoffee Breakでは、スポーツ関連の英語の豆知識や本文で扱ったスポーツやアスリート等に関するエピソードについてもふれる。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英文の内容を理解し、各話題に対し自分の考えを持ち英語で表現できる。	○		○	○	○		40
	■情意的領域	８つのスポーツ競技、６人のアスリート、１チームについての英文を読みながら、各スポーツや選手等に関心を持つ。	○		○				30
	■技能的領域	語彙力、文法、表現、構文を含む英文の読解力を高めるとともに、リスニング力も向上させる。	○			○	○		30

成績評価の基準	英語による発表、課題・レポート提出、さらに学期末試験を行ない、総合的に評価して６０点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『Attention All Sports Fans!』 (Mark Thompson, 谷岡　敏博著，英宝社、2021、1800円+税) 参考書：『英単語学習の科学』（中田達也著, 研究者,　2019年）		
履修条件・ 関連科目	前年度までに指定の科目を履修できなかった再履修者対象。国際交流センターが提示する履修条件をよく読むこと。受講者多数の場合は上級生を優先し、他の学生は他の年度・学期での受講をお願いするかもしれません。	備考(教員メッセージ含む)	教科書は必ず購入してください。辞書、タブレット必携。発表準備として、必ず事前打ち合わせに参加のこと。
オフィス・アワー	木曜日：昼休み、午後4時～5時、図書館２階吉重教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉重　美紀	Introduction to the course、presentation について	発表指導（１時間）
2	〃	Unit 1 Major League Baseball(be動詞)	発表指導（１時間）
3	〃	Unit 2 Shouhei Ohtani–"It's Shou Time!"（現在形）	発表指導（１時間）
4	〃	Unit 3 NBA （過去形＆未来形）	発表指導（１時間）
5	〃	Unit 4 Rui's Road to the NBA (助動詞)	発表指導（１時間）
6	〃	Unit 5 Football Most Popular Sport in USA (進行形)	発表指導（１時間）
7	〃	Unit 6 Super Bowl(受動態)	発表指導（１時間）
8	〃	Unit 7 Wimbledon (現在完了形)	発表指導（１時間）
9	〃	Unit 8 Naomi Osaka – Love (不定詞)	発表指導（１時間）
10	〃	Unit 10 Hinako Shibuno – Smiling Cinderella (比較)	発表指導（１時間）
11	〃	Unit 11 Carl Lewis–Sportsman of the Century (関係代名詞)	発表指導（１時間）
12	〃	Unit 12 Sani Brown Loves Sunny Florida (形容詞と副詞)	発表指導（１時間）
13	〃	Unit 13 Yuzuru Hanyu–Prince on Ice (分詞と動名詞)	発表指導（１時間）
14	〃	Unit 14 King Kazu – J. League Pioneer (前置詞)	発表指導（１時間）
15	〃	Unit 15 Gender Inequality in Sports (itの用法と否定)	発表指導（１時間）
16	〃	学期末試験(筆記+リスニング)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅲ（コミュニケーションのための英文法）①②③④ (111A3-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	田嶋　靖子			補助担当者名	
単位数	２　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	35名程度
授業の概要	従来の読解・翻訳中心型の英語から、昨今はコミュニケーションで活かす事のできる英語力が求められています。これまで学んできた英文法の知識を、日常の場面を想定したフレーズに落とし込み反復的に練習することで、コミュニケーションをとる際の基礎的な英語文法・言い回しの定着を目指します。また、コミュニケーションをとる上で不可欠な、グローバルな視点を養う機会を提供します。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	基本的な英語の構造を理解し、それを日常の英語コミュニケーションに用いることができるようになる。	○	○			○		60
	■情意的領域	課題や自分で設定した自主学習目標に主体的に取り組み、意欲的に英語によるコミュニケーションに参加することができる。	○		○				30
	■技能的領域	機会に応じた時制や言い回しを用いて、間違いを恐れず英語コミュニケーションをすることができる。	○	○		○			10

成績評価の基準	授業での積極的な言語活動への参加、課題・小テストの提出状況を総合的に評価し、６０点以上を合格とする。学期末試験のスコアを１０％分として評価に用いる。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：Say It Now! Grammar for Communication 話す・伝える英文法　高田智子・Diane H　Nagatomo著金星堂 @1,800円(税別) 補助教材　適宜授業の中で紹介し、必要に応じてこちらで準備し配布します。 参考書 総合英語 Forest(フォレスト),塙タカユキ他著　㈱桐原書店, 1999 ※高校までに使用した総合的な内容の文法書が手元にあれば、そちらで十分です。 英会話 話を組み立てるパワーフレーズ 講義編, 大西泰斗　ポール・マクベイ著, NHK出版, 2021 英会話 話を組み立てるパワーフレーズ トレーニング編, 大西泰斗　ポール・マクベイ著, NHK出版, 2021		
履修条件・ 関連科目	履修条件：総合英語Ⅱの単位を修得していること、もしくは、プレイスメントテストの結果が、TOEICスコア換算で、300以下でかつ、下位50番目より上位の結果であること。関連科目：総合英語Ⅱ、総合英語Ⅳ	備考(教員メッセージ含む)	基礎的な文法をしっかり復習・学習し、英語でのコミュケーションを楽しみましょう。
オフィス・アワー	月曜日１０：００～１０：３０　国際交流センター２階　非常勤講師控室　（国重教授研究室隣です） 英語の勉強方法に関する相談や質問等を受け付けます。メールアドレスは１回目の授業内でお知らせします。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田嶋　靖子	Introduction　授業概要・課題・評価についての説明。 英語の基礎を見直そう！　５文型の重要性	英語学習計画について考えてみよう 指定したStreamから気づきを得よう
2	〃	Unit1 I Commute by Train. 【現在時制・過去時制】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
3	〃	Unit2 What Are You Going To Do This Weekend?　【未来表現】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
4	〃	Unit3 Have You Ever Volunteered? 【現在完了形】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
5	〃	Unit4 Is There a Bank Near Here? 【There is／are 構文】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
6	〃	Unit5 Could I Join Your Class? 【助動詞①】 Unit6 You Should Apply for the Program. 【助動詞②】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
7	〃	Unit7　What do the Plans Include? 【疑問詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
8	〃	Unit8　My New Apartment is Safer than My Old One.【比較級・最上級】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
9	〃	Unit9　Typing is Easy for Me!【動名詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
10	〃	Unit10　I Have Many Things to Learn. 【to 不定詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
11	〃	Unit11　If I Travel Abroad, I’ll Take a Group Tour.【because/if節】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
12	〃	Unit12　Osamu Tezuka is Admired by Many People. 【受動態】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
13	〃	Unit13　Here is a Book Showing Various Recipes!【過去分詞・現在分詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
14	〃	Unit14　There is a Candidate who I Want to Support. 【関係代名詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
15	〃	Unit15　This Semester Finished So Fast！【頻度・様子を表す副詞】	次週のＵｎｉｔ予習：単語・文法確認（４０分） ＋自主学習（２０分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅲ（英語多読・多聴） (111A3-2202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (コミュニケーション科目)
担当教員名	国重　徹			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	全学年	受け入れ人数	35名
授業の概要	アスリートもスポーツ指導者も国際舞台で活躍するためには、英語でコミュニケーションを取るための力を持っていることが必須である。本授業では、コミュニケーションスキルのうち、まずはReading, Listeningの基本的なスキルを習得させることを目的とし、多読・多聴活動を通して、やさしい英文を大量にインプットし、学習者のreadingとlisteningのfluencyを高める。その上で、英語による多話や多書も行い、英語によるアウトプットの力増進へも繋げていく。本授業を通して、本学の教育目標やカリキュラムポリシーにおける「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」の涵養が期待される。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、対面授業が難しいと判断した場合は、オンラインによる遠隔授業とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英語の基本的な文法事項を理解し、それをコミュニケーションにスムーズに用いることができるようになる。やさしい英文を日本語を介さず英語のまま読んだり聴いたりして理解し、概要をつかめるようになる。また、間違いをおそれず、英語を書いたり、話したりできるようになる。	○	○			○		60
	■情意的領域	課題に主体的に取り組む。授業内外で、自分のレベル、興味関心に合った英語の本を積極的に読んだり、聴いたりしようという姿勢を示し、読んだり、聴いたりした本については、記録用紙に意欲的に記録しようとする。	○	○			○		30
	■技能的領域	英語コミュニケーションに必要なスキル（Reading, Listening, Speaking, Writing）及び基本的な英文法を身につける。間違いを恐れず、英語を話したり、書いたりできる。	○	○			○		10

成績評価の基準	定期試験（新型コロナウイルスの感染状況から対面の試験実施が難しいと判断した場合は、オンラインで行うか、レポート課題にする可能性あり）を実施し、その成績、課題、小レポート、多書・多話などの言語活動への参加、多読・多聴の語数、冊数、記録用紙の提出状況などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	『Skills for Better Reading 』、石谷由美子著、南雲堂 (1800円 + 税) 補助教材：『英語多読・多聴教材』（こちらで全て準備します） 参考書：『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』（森沢洋介著、ベレ出版）		
履修条件・ 関連科目	履修条件：総合英語Ⅱの単位を修得していること、もしくは、プレイスメントテストの結果が、TOEICスコア換算で300以下でかつ、下位50番目より上位の結果であること。 関連科目：総合英語Ⅱ、総合英語Ⅳ	備考(教員メッセージ含む)	毎回辞書を持ってきてください。
オフィス・アワー	木曜日　昼休み及び12:40～13:00　国際交流センター2階　国重研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	国重　徹	Orientation, On how to read easy English books extensively	Preview of the textbook and extensive reading (1 hour)
2	〃	Conclusion / Reasons	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
3	〃	Social Trend	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
4	〃	Result / Cause	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
5	〃	Several Explanations	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
6	〃	Comparison	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
7	〃	For and Against	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
8	〃	Classification	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
9	〃	History	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
10	〃	Process ※2年次受講生は授業外の指定した期間中にアチーブメントを受ける。	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
11	〃	Cause and Effect	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
12	〃	Definition of a New Word	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
13	〃	Research	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
14	〃	New Products, New Service	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
15	〃	Reading Graphs	Review and preview of the textbook, and extensive reading (1 hour)
16	〃	Final report or exam (online or in-person depending on the COVID-19 pandemic situation)	Review of the textbook, and extensive reading (1 hour)

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅲ（健康とスポーツ関連の英語）	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	吉重　美紀			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4	受け入れ人数	35
授業の概要	約250語程度のわかり やすい英文で書かれた健康・ライフスタイルについての文章を読み、健康についての理解を深めるとともに、語彙やリスニング、読解等の英語力全般を高めることをめざす。健康トピックについて、自分の考えを英語で発表する練習もする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英文の内容を理解し、各話題に対し自分の考えを持ち、英語で表現できる。	○		○	○			30
	■情意的領域	健康とライフスタイルに関する 英文を読むことで、健康に関する 知識を深めるとともに、健康に関心を持つ。	○		○				30
	■技能的領域	クラスでのインタラクティブな活動を通して、英語のリ スニングやスピーキングの運用能力を伸ばす。	○			○	○		40

成績評価の基準	課題、レポート提出。さらに学期末試験を行ない、総合的に評価して６０点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト ：『 Healthy Habits for Better Life　よりよい健康生活を求めて』 （ Joan McConnell,山内　圭著、成美堂、2021年） 参考書：『 英単語学習の科学』（ 中田達也著, 研究社,2019年）		
履修条件・ 関連科目	英語プレイスメントテスト結果でこのクラスに指定された学生等。総合英語Ⅰ,Ⅱ(再履修）開講のため、開講できない学期もありえます。その場合は、他の教員の総合英語Ⅲを受講するか他の学期で受講ください。 国際交流センターが提示する履修条件をよく読んで、履修ください。	備考(教員メッセージ含む)	辞書、タブレット必携。
オフィス・アワー	水曜日： 昼休み、図書館２階吉重教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉重　美紀	Introduction to the course、 事前アンケート	Chap.1 p.8～10を予習する （ 1 時間）
2	〃	Chapter 1 Sleep Is Important	Chap. 2 p.14～16を予習する （ 1 時間）
3	〃	Chapter 2 Is Salt Bad for Us?	Chap. 3 p.20～22を予習する （ 1 時間）
4	〃	Chapter 3 Water Is Wonderful	Chap. 4 p.26～28を予習する （ 1 時間）
5	〃	Chapter 4 Hot Springs: A Miracle of Nature	Chap. 5 p.32～34を予習する （ 1 時間）
6	〃	Chapter 5 Healthy Lessons from the Blue Zones	Chap.6 p.38～40, U.1～5レ ポート (2.5時間）
7	〃	Chapter 6 Unhealthy Habits	Chap.1～6 Review （ 1 時間）
8	〃	Review Test (U.1～U.6) , レ ポート 発表	Chap.7 p.44～46を予習する （ 1 時間）
9	〃	Chapter 7 Let’ s Dance!	Chap.8 p.50～52を予習する （ 1 時間）
10	〃	Chapter 8 The Story of Sugar	Chap.9 p.56～58を予習する （ 1 時間）
11	〃	Chapter 9 Companion Animals	Chap.10 p.62～64を予習する （ 1 時間）
12	〃	Chapter 10 Music and Medicine	Chap.11 p.68～70, U.6～10レ ポート (2時間）
13	〃	Chapter 11 Please Listen to Me!	Chap.12 p.74～76を予習する （ 1 時間）
14	〃	Chapter 12 Let's Eat Together!	Chap.14 p.86～89, U.6～10レ ポート (2時間）
15	〃	Chapter 14 Believe in Yourself!	学期末試験準備
16	〃	Final Test (Written + Listening test)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅳ（アクティブリーディング） (111B4-2203)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	国重　徹			補助担当者名	なし
単位数	2　単位	履修年次	全学年	受け入れ人数	25名
授業の概要	国際人として英語を使えるようにするには、まず聴くことや読むことを通して、やさしい英語をたくさんインプットすることにより、相手が口頭もしくは文書で伝えようとすることを理解できるようになることが必要となる。本授業ではReading skillの養成を中心としながらも、他の3技能、すなわち、Listening, Writing, Speakingのskills及び英文法の力などを総合的に養成することを目的とする。同時に、多読・多聴教材を用いて大量の英語のインプットを行い、英語の聴解力、読解力を伸ばすことも目的とする。さらに、読み聞かせ、多書・多話などを通して随時アウトプットの練習も行う。本科目は、本科目は、制定された教育目標、カリキュラムポリシーに基づいた「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力を涵養する」ことを目標とする科目である。原則、授業は全て英語で行う。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、対面授業が難しいと判断した場合は、オンラインによる遠隔授業とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	さまざまなトピックについて書かれた、ある程度の長さのやさしい英文をある程度以上の速度で日本語を介さずに英語のまま読んだり聴いたりして理解し、概要をつかめるようになる。	○				○		30
	■情意的領域	課題に主体的に取り組む。意欲的に英語を聴き取ろうとする。授業内はもちろん、授業外でも、自分のレベル、興味関心に合った英語多読・多聴の本を進んで読んだり、聴いたりしようという姿勢を示し、読んだり、聴いたりした本については、記録用紙に意欲的に記録しようとする。	○		○				30
	■技能的領域	間違いを恐れず積極的に英文を音読したり、英語を話したり、書いたりすることができるようになる。	○	○		○	○		40

成績評価の基準	定期試験（新型コロナウイルスの感染状況から対面の試験実施が難しいと判断した場合は、オンラインで行うか、レポート課題にする可能性あり）を実施し、その成績、課題、小レポート、言語活動（多読・多聴・多書・多話）への参加、多読・多聴の語数、冊数、記録用紙の提出状況などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『Changing Times, Changing Worlds』（Joan McConnell他著、成美堂、1900円+税） 補助教材：『英語多読・多聴教材』（こちらで全て準備します） 参考書：『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』（森沢洋介著、ベレ出版）
履修条件・ 関連科目	履修条件：総合英語Ⅲの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア305以上（TOEICスコア換算したTOEFLなどの資格も含む）を有していること。　関連科目：総合英語Ⅲ、総合英語Ⅴ 備考(教員メッセージ含む)：大量の英語インプットとアウトプットを楽しみましょう！
オフィス・アワー	木曜日 昼休み及び12:40～13:00　国際交流センター２階　国重研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	国重　徹	Introduction、アンケート、授業の進め方等について、多読の仕方について、評価について	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
2	〃	Smokey Bear: A Mascot with a Message, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
3	〃	Overtourism is a Problem!, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
4	〃	Gender Equality in the Workplace, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
5	〃	Changing Definitions of Beauty, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
6	〃	Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
7	〃	Nature and Health, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
8	〃	これまでの振り返り。投げ込み教材その１。 ※2年次受講生は授業外の指定した期間中にアチーブメントを受ける。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習(1時間)
9	〃	投げ込み教材その２。多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
10	〃	Golden Years and Silver Divorces, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
11	〃	Trees: A Gift from Nature, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
12	〃	Tattoos, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
13	〃	Redefining Gender and Marriage, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)

14	〃	All the Lonely People, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
15	〃	Think Before You Talk, Text, or Tweet, 多読・多聴、（多書・多話は適宜）、記録、貸出　※読み聞かせは随時行う。	多読図書貸出、読み方・聴き方指導、多読・多聴及び授業の予習、復習(1時間)
16	〃	Final report or exam (online or in-person depending on the COVID-19 pandemic situation)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅳ（スポーツ英語） (111B4-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	佐賀　ターニャ			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	This class is a low intermediate level lesson. Using the theme of popular sports we will practice speaking, hearing, writing and communication. Basic vocabulary, grammar and similar skills will be practiced and reviewed.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	In this class students will use English as much as possible The vocabulary and grammar learned previously will be put to use. Practical usage is a major goal of this class.							30
	■情意的領域	The students will work together in groups and pairs as well as working on their own. Attention to the other students' work and activities is important.		○		○			30
	■技能的領域	Much of the class will be done in English. Students will be expected to work with each other in English as well as to work with the instructor in English.		○			○		40

成績評価の基準	Learning attitude is vey important, 30% of the grade. Any excused absences must have the official form.		
テキスト、教材 参　考　書	The text "Heroes: English Through Sports 1&2" will be provided by the instructor posted on the WebClass.		
履修条件・ 関連科目	All work will be done in class or on the WebClass.	備考(教員メッセージ含む)	Required: an iPad, notebooks, pens and pencils. Any academic dishonesty (学業の不正行為) will result in a zero grade for the term.
オフィス・アワー	Please contact the instructor by WebClass email.		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	佐賀　ターニャ	Introduction: Class Rules, WebClass, students and the instructor.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
2	〃	Unit 1. Basketball: Reading, writing, grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
3	〃	Unit 1. Basketball: Pair & group work about sports & players.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
4	〃	Unit 2. Volleyball: Reading, writing, grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
5	〃	Unit 2. Volleyball: Pair & group work about sport & players.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
6	〃	Unit 3. Football: Reading, writing, grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
7	〃	Unit 3. Football: Pair & group work about sport & players.	Presentation Preparation.
8	〃	Presentation 1. About My Sport (Live Presentation).	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
9	〃	Unit 4. Swimming: Reading, writing, grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
10	〃	Unit 4. Swimming: Pair and group work about sport & players.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
11	〃	Unit 5. Baseball: Reading, writing, grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
12	〃	Unit 5. Baseball: Pair & group work about sport & players.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
13	〃	Unit 6. Tennis: Reading, writing, grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
14	〃	Unit 6. Tennis: Pair & group work about sport & players.	Presentation Preparation.
15	〃	Presentation 2: My Hero (Written Report).	Review for Final Exam.
16	〃	Final Exam.	

※令和３年度の内容を参考に掲載しています。

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅳ（日常会話） (111B42202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	エルメス　デイビット			補助担当者名	
単位数	２　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	Asking questions is a very important part of communication. The main goal of this class is to strengthen your ability to ask and answer basic questions in English. We will use these questions to practice effective techniques for communication and to improve your English fluency.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Asking and answering questions with relevant information; presenting ideas clearly					○		30
	■情意的領域	Attendance and active participation in individual, group, and class activities	○						30
	■技能的領域	Effective Questioning and Answering skills (=Communication); Presentation skills			○	○			40

成績評価の基準	Attendance （出席）　３０％ Classwork （課題、プレゼンテーション）　４０％ Final Test （期末試験）　３０％		
テキスト、教材 参　考　書	Let's Chat (EFL Press) by John Pak		
履修条件・ 関連科目	TOEIC 305395 Prerequisite: 総合英語III	備考(教員メッセージ含む)	Please come to every class and try your best!
オフィス・アワー	毎週の水曜日１０～１７：００、毎週の木曜日１３：００～１７：００、毎週の火曜日１３：００～１７：００　遠隔の場合：適宜対応。ただし、事前にメールなどでアポイントを取っておくこと。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	エルメス　デイビット	Class Introduction	Review and prepare required procedures (Zoom etc.) and materials (texbook etc.) 1時間
2	〃	Unit 1 Getting Acquainted (Part 1) Personal Information; Reporting information about classmates	Writing: Answer simple questions about your partner （1時間）
3	〃	UUnit 1 Getting Acquainted (Part 2) Do you like…? Which do you prefer…?	Write (and answer) 4 questions: Do you like…? What 's your favorite…? Do you prefer…? （1時間）
4	〃	Unit 2 Experiences (Part 1) Transcription (Listen and write)	Writing: Add 2 more lines for Reiko and Mark （1時間）
5	〃	Unit 2 Experiences (Part 2) Giving a 'reason' before a question Q&A: When you were young…? / When you were a child…?	Ask me 3 questions about when I was young （1時間）
6	〃	Unit 2 Experiences (Part 2) Verbs: go ? went ? gone Have you ever…?	Answer 3 questions from page 7. Add more information to explain your answer （1時間）
7	〃	Unit 3 Sport & Leisure What do you know about sumo?! Paraphrasing questions	Paraphrase 12 questions about sports （1時間）
8	〃	Unit 3 Sport & Leisure I think a … is bigger than a …. / Sports and Leisure questions	Write 5 'interesting' questions about sports and leisure （1時間）
9	〃	Presentation: Sports and Leisure Presentation Introduction	Presentation planning and preparation （1時間）
10	〃	Presentation Preparation & Practice	Presentation practice （２時間）
11	〃	Presentation Day!	Presentation 感想　（1時間）
12	〃	Unit 4 Shopping & Money He said, "…" / Paraphrasing	Complete the paraphrasing Mark and Reiko's conversation （1時間）
13	〃	Unit 4 Shopping & Money Reading & Writing numbers How much is a 1bedroom apartment in Sydney Australia?	Add information (x3) to the prices you found online （1時間）
14	〃	Unit 4 Shopping & Money What's the population of …? How much do you usually spend?	Answer 3 questions (with information) about money and time （1時間）
15	〃	Course review & Final Test introduction	Study! （３時間）
16	〃	Final Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅳ（プレゼンテーション入門） (111B4-2204)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	国重　徹			補助担当者名	なし
単位数	2　単位	履修年次	全学年	受け入れ人数	25名
授業の概要	グローバル化の進んだ現在、英語で効果的なプレゼンテーションをする能力がますます必要になってきている。本授業では、基本的な英語のプレゼンテーションの構成や、作り方を学び、それに基づいて実際に英語で簡単なプレゼンテーションを作り、発表し、受講者も含めてお互いにレビューし合い、それに基づいてプレゼンターションを改善、再発表、再評価というサイクルで授業を展開する。本授業を通して、本学の教育目標やカリキュラムポリシーにおける「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」の涵養が期待される。なお、本授業は基本的に全て英語で実施する。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、対面授業が難しいと判断した場合は、オンラインによる遠隔授業とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	英語のプレゼンテーションの構成や種類、具体的な作り方、発表の仕方の基礎を理解し、実際にプレゼンテーションを作成、発表する際に、得た基礎的知識を生かせる。	○		○	○			60
	■情意的領域	プレゼンテーション作成などの課題に主体的、積極的に取り組む。間違いを恐れず、英語で相手に意味のある内容を伝えようという意欲を持つ。	○			○			20
	■技能的領域	英語によるプレゼンテーションに必要な基礎的スキル（Reading, Listening, Speaking, Writing）を身につける。効果的なプレゼンテーションに必要な論理性、構成力、話し方及び、非言語的な技能（デリバリー：姿勢、アイコンタクトなど）の基礎を身につける。	○		○	○			20

成績評価の基準	プレゼンの作成取り組み、発表（修正も含む）、課題提出等を総合的に評価し、60点以上を合格とする。発表等は、新型コロナウイルスの感染状況により、対面もしくはオンラインで行う。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『Writing for Presentations in English』（杉田由仁他著、南雲堂）（1700円＋税）		
履修条件・ 関連科目	履修条件：総合英語Ⅲの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア305以上（TOEICスコア換算したTOEFLなどの資格も含む）を有していること。　関連科目：総合英語Ⅲ、総合英語Ⅴ	備考(教員メッセージ含む)	基礎的な英語のプレゼンテーション技術を身につけられるよう、一緒に学びましょう。
オフィス・アワー	木曜日　昼休み及び12:40～13:00　国際交流センター2階　国重研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	国重　徹	授業のオリエンテーション、多読の仕方説明 Introduction, Chapter 1 Informative Presentations Section 1: The History of Our University, Example of an English presentation, Preparation of the first English presentation (Topic: My Favorite Sport)	Section 2の予習、発表準備、多読多聴（1時間）
2	〃	Section 2: My Favorite Country, Preparation of the first English presentation (Topic: My Favorite Sport)	Section 3の予習、発表準備、多読多聴（1時間）
3	〃	Section 3: The Four Basic Food Groups, Preparation of the first English presentation (Topic: My Favorite Sport)	Section 4の予習、発表準備、多読多聴（1時間）
4	〃	Section 4: Japan's Education System, Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport), Review and/or modification of the presentation	Section 5の予習、発表準備、プレゼンパワポ修正、多読多聴（1時間）
5	〃	Section 5: What is Science? Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport), Review and/or modification of the presentation	Section 6の予習、発表準備、プレゼンパワポ修正、多読多聴（1時間）
6	〃	Section 6: Social Networking Services, Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport), Review and/or modification of the presentation	プレゼンパワポ修正、多読多聴（1時間）
7	〃	Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport) the second time, Review and/or modification of the presentation	Section 2の予習、発表準備、プレゼンパワポ修正、多読多聴（1時間）
8	〃	Delivering the first English presentation (Topic: My Favorite Sport) the second time, Review and/or modification of the presentation, Chapter 2 Persuasive Presentations Section 1: Should Students Wear School Uniforms?　Preparation of the second English presentation (Topic: How to Be Healthy Both Physically and Mentally?) ※2年次受講生は授業外の指定した期間中にアチーブメントを受ける。	Section 2の予習、発表準備、多読多聴（1時間）
9	〃	Section 2: The Case for Organ Donation, Preparation of the second English presentation (Topic: How to Be Healthy Both Physically and Mentally?)	Section 3の予習、発表準備、多読多聴（1時間）
10	〃	Section 3: Global Warming: What Is to Be Done? Preparation of the second English presentation (Topic: How to Be Healthy Both Physically and Mentally?)	Section 4の予習、プレゼンパワポ修正、多読多聴（1時間）
11	〃	Section 4: Exercise and Physical Fitness, Delivering the second English presentation (Topic: How to Be Healthy Both Physically and Mentally?), Review and/or modification of the presentation	Section 5の予習、プレゼンパワポ修正、多読多聴（1時間）

12	〃	Section 5: Overpopulation: Causes and Consequences, Delivering the second English presentation (Topic: How to Be Healthy Both Physically and Mentally?), Review and/or modification of the presentation	Section 6の予習、プレゼンパワポ修正、多読多聴（１時間）
13	〃	Section 6: Hybrid or Electric? Delivering the second English presentation (Topic: How to Be Healthy Both Physically and Mentally?), Review and/or modification of the presentation	プレゼンパワポ修正、多読多聴 （１時間）
14	〃	Delivering the second English presentation (Topic: How to Be Healthy Both Physically and Mentally?) the second time, Review and/or modification of the presentation	プレゼンパワポ修正、多読多聴 （１時間）
15	〃	Delivering the second English presentation (Topic: How to Be Healthy Both Physically and Mentally?) the second time, Review and/or modification of the presentation, Review of the whole course, Answering the questionnaire, Questions and Answers	プレゼンパワポ修正（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅴ（Ｑ＆Ａのテクニック） (111B5-2200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	国重　徹			補助担当者名	なし
単位数	２　単位	履修年次	全学年	受け入れ人数	25名
授業の概要	さまざまなテーマの英語の新聞記事や英文に基づいて英語で自分の意見を話す練習、英語運用能力を高めるのに効果のあるシャドウイングの練習及び大量の英語のインプットのための多読・多聴を通してfluencyを高め、国際人として通用する英語力の基礎を身につける。本授業を通して、本学の教育目標やカリキュラムポリシーにおける「国内はもとより国際社会で活躍できる語学力とコミュニケーション能力」の涵養が期待される。原則として授業は全て英語で行う。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、対面授業が難しいと判断した場合は、オンラインによる遠隔授業とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	さまざまなテーマの大量の英文を、ある程度以上の速度で日本語を介さず英語のまま読んだり聴いたりして理解し、概要をつかめるようになる。	○			○	○		30
	■情意的領域	授業内はもちろん、授業外でも、自分のレベル、興味関心に合った英語多読・多聴の本を進んで読もうという姿勢を示し、読んだ本については、記録用紙に意欲的に記録しようとする。間違いを恐れず、進んで英語で自分の意見を言おうとする。	○		○	○			30
	■技能的領域	英文を正しい発音とイントネーションで音読及び、シャドウイングできるようになる。また、英語での相手の意見を理解し、尊重した上で、積極的に英語で自分の意見を言うことができるようになる。	○	○		○	○		40

成績評価の基準	定期試験（新型コロナウイルスの感染状況から対面の試験実施が難しいと判断した場合は、オンラインで行う可能性あり）をマンツーマンのインタビュー形式で実施する。その成績、課題、小テスト、言語活動（主にgroup discussion）への参加、多読・多聴の語数、冊数、記録用紙の提出状況などを総合的に評価し、60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『新ゼロからスタートシャドーイング（入門編）』（宮野智靖著、ジェイ・リサーチ出版、1400円＋税） 補助教材：『英字新聞の記事やその他のさまざまな英文』及び『英語多読・多聴教材』（こちらで全て準備します） 参考書：『どんどん話すための瞬間英作文トレーニング』（森沢洋介著、ベレ出版）
履修条件・ 関連科目	履修条件：総合英語Ⅳの単位を修得していること、もしくは、TOEICスコア400以上（TOEICスコア換算したTOEFLなどの資格も含む）を有していること。　関連科目：総合英語Ⅳ、総合英語Ⅵ
備考(教員メッセージ含む)	授業で渡すdiscussion用の英文（記事）は前もって必ず読み、discussion pointsについての自分の意見を英語で言えるように準備しておくこと。辞書は必ず持参すること。 大量の英語インプットとアウトプットを楽しみましょう！
オフィス・アワー	木曜日 昼休み及び12:40～13:00 国際交流センター２階　国重研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	国重　徹	Introduction、アンケート、自己紹介、授業の進め方について、評価について、シャドウイングについて、多読について	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
2	〃	シャドウイングテスト用英文提示、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
3	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
4	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
5	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
6	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
7	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
8	〃	中間試験（1対1の面接試験）※2年次受講生は授業外の指定した期間中にアチーブメントを受ける。	多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
9	〃	中間試験のreview、シャドウイングテスト用英文提示、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
10	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。

11	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
12	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
13	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
14	〃	シャドウイングの練習、discussion、英文記事提示、多読・多聴	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
15	〃	シャドウイングの練習、discussion、学期末試験についての説明、多読・多聴、最終記録用紙提出。	discussion用の英文記事及び多読図書を読む（60分）。シャドウイングの練習（10分）。多読・多聴図書貸出。読み方指導。
16	〃	学期末試験（1対1の面接試験）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅴ（海外留学）① (111B52201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	シレニ・ミヒャエル			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	This class will introduce several topics related to culture, language and sports. The class will provide students with vocabulary, grammar and communication skills necessary to communicate their thoughts and opinions about these topics.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Students will apply their acquired language skills to write cohesive short texts about a topic.					○		30
	■情意的領域	Students will conduct simple research about the presented topics and introduce their findings to each other.	○						30
	■技能的領域	Students will use learned language to communicate in partners and groups, and to complete language activities.	○			○			40

成績評価の基準	Students will receive points for attendance and for active participation each class.		
テキスト、教材 参　考　書	Evolve Student’ s Book 1 (by Leslie Anne Hendra et al.) 英和・和英辞典		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	Please come on time and prepared!
オフィス・アワー	質疑は授業後、若しくはメールにて受け付けます。メールアドレス：michael.sileny@gmail.com		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	シレニ・ミヒャエル	Orientation, introduction	Review (30 minutes)
2	〃	Textbook Unit 1 (I am…)	Review (1 hour)
3	〃	"How similar are European Languages?"	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
4	〃	Review "How similar are European Languages?" Textbook Unit 2 (Great people)	Review (1 hour)
5	〃	"Where does the hamburger come from?"	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
6	〃	Review "Where does the hamburger come from?" Textbook Unit 3 (Come in)	Review (1 hour)
7	〃	"Is Twitter bad for sports performance?"	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
8	〃	Review "Is Twitter bad for sports performance?" Textbook Unit 4 (I love it)	Review (1 hour)
9	〃	"How Different Accents Develop"	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
10	〃	Review "How Different Accents Develop" Textbook Unit 5 (Mondays and fun days)	Review (1 hour)
11	〃	"What Happens if the Olympic Torch Accidentally Goes Out?"	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
12	〃	Review "What Happens if the Olympic Torch Accidentally Goes Out?" Textbook Unit 6 (Zoom in, zoom out)	Review (1 hour)
13	〃	"Where Does Baseball Come From?"	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
14	〃	Review "Where Does Baseball Come From?" Textbook Unit 7 (Now is good)	Review (1 hour)
15	〃	Review	Test study (2 hours)
16	〃	Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅴ（海外留学）② (111B5-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	エルメス　デイビット			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	In this class, you will learn about campus life in other countries, and study useful English for school life abroad. You will also create your own personal English-Japanese handbook. The handbook will include useful questions, expressions, and language you learn each day in class.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Understand and be able to use natural English expressions for active study (=communication) abroad					○		30
	■情意的領域	Attendance and active participation in individual, group, and class activities	○						30
	■技能的領域	Effective Questioning and Answering skills; Communicative Fluency; Presentation skills			○	○			40

成績評価の基準	Attendance （出席）　３０％ Classwork （課題、プレゼンテーション、英和ハンドブック）　４０％ Final Test （期末試験）　３０％		
テキスト、教材 参　考　書	Encounters on Campus (NAN'UN-DO) by Michael P Critchley Pocket-sized notebook (英和ハンドブック用)		
履修条件・ 関連科目	TOEIC 400-445 Prerequisite: 総合英語IV	備考(教員メッセージ含む)	Please come to all classes and try your best!
オフィス・アワー	毎週の水曜日１０：００～１７：００、毎週の木曜日１３：００～１７：００、毎週の火曜日１３：００～１７：００ 遠隔の場合：適宜対応。ただし、事前にメールなどでアポイントを取っておくこと。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	エルメス　デイビット	Class Introduction	Review and prepare required procedures (e.g. Zoom, WebClass) and materials (texbook etc.)（1時間）
2	〃	Unit 1 Nice to Meet You – Making friends on campus	Add today’s English to E-J notebook（1時間）
3	〃	Unit 2 This is My Friend – Introducing people	Add today’s English to E-J handbook（1時間）
4	〃	Unit 3 Where Do People Hang Out? – Asking for advice	Add today’s English to E-J handbook（1時間）
5	〃	Unit 4 I Went to That Place – Sharing experiences	Add today’s English to E-J handbook（1時間）
6	〃	Unit 5 I Have a Question – Asking questions in class	Add today’s English to E-J handbook（1時間）
7	〃	Unit 6 Would It Be Possible to Study This? – Making requests to a teacher	Add today’s English to E-J handbook（1時間）
8	〃	Unit 7 I Have to Miss Next Class – Explaining an absence to a teacher	Add today’s English to E-J handbook（1時間）
9	〃	Presentation Introduction/Preparation – NIFS in Kanoya: My School Life	Presentation preparation（2時間）
10	〃	Presentations	Presentation 感想（1時間）
11	〃	Unit 8 What Are You Doing on Sunday? – Inviting friends to go out	Add today’s English to E-J notebook （1時間）
12	〃	Unit 9 What Should We Get? – Suggesting/Talking about foods	Add today’s English to E-J notebook （1時間）
13	〃	Unit 10 Yeah, I’ll Give You That – Exchanging opinions	Add today’s English to E-J notebook （1時間）
14	〃	Unit 11 Come On, I’ll Help You – Encouraging/Supporting friends	Add today’s English to E-J notebook （1時間）
15	〃	Class review	Study! （3時間）
16	〃	Final Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅴ（アクティブコミュニケーション） (111B5-2202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	シレニ・ミヒャエル			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	This class will introduce several topics related to culture, language and sports. The class will provide students with vocabulary, grammar and communication skills necessary to communicate their thoughts and opinions about these topics.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Students will apply their acquired language skills to write cohesive short texts about a topic.					○		30
	■情意的領域	Students will conduct simple research about the presented topics and introduce their findings to each other.	○						30
	■技能的領域	Students will use learned language to communicate in partners and groups, and to complete language activities.	○			○			40

成績評価の基準	Students will receive points for attendance and for active participation each class.		
テキスト、教材 参　考　書	New Connection Book 1 (by Teruhiko Kadoyama et al.) 英和・和英辞典		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	Please come on time and prepared!
オフィス・アワー	質疑は授業後、若しくはメールにて受け付けます。メールアドレス：michael.sileny@gmail.com		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	シレニ・ミヒャエル	Orientation, introduction	Review (30 minutes)
2	〃	Textbook Unit 1 (Greeting People)	Review (1 hour)
3	〃	"German Bread"	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
4	〃	Review "German Bread" Textbook Unit 2 (Talking about Eating Habits)	Review (1 hour)
5	〃	“Weird Sports: Cheese Rolling”	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
6	〃	Review “Weird Sports: Cheese Rolling” Textbook Unit 3 (Making Suggestions)	Review (1 hour)
7	〃	“Why are there so many vegetarians in Europe?”	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
8	〃	Review “Why are there so many vegetarians in Europe?” Textbook Unit 4 (Receiving Customers)	Review (1 hour)
9	〃	“Why are English pronunciations so weird?”	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
10	〃	Review “Why are English pronunciations so weird?” Textbook Unit 5 (Asking for a Lower Price)	Review (1 hour)
11	〃	"The Rivalry Between Adidas and Puma"	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
12	〃	Review "The Rivalry Between Adidas and Puma" Textbook Unit 6 (Asking for Directions)	Review (1 hour)
13	〃	“Global Warming and the Winter Olympics”	Reading, looking up vocabulary (1 hour)
14	〃	Review “Global Warming and the Winter Olympics” Textbook Unit 7 (Making an Appointment)	Review (1 hour)
15	〃	Review	Test study (2 hours)
16	〃	Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅵ（オリンピック） (111B62200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	佐賀　ターニャ			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	25
授業の概要	This class is a high intermediate level lesson. We will study English through the history of the Olympics starting with the ancient games until the Tokyo games of 1964. Using this topic we will practice speaking, hearing, reading writing and communication. Moderate levels of grammar and vocabulary to improve skills will be introduced.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	We will use English as much as possible. The students will be researching Olympic history worldwide together. Practical usage will be our most important aspect.							30
	■情意的領域	In this class the students will be working individually, in pairs and indi?erent number groups. Cooperation and teamwork will be very important.	○		○				30
	■技能的領域	English will be used exclusively, all instructions, classwork, homework, presentations and tests will be in English. The communications with the instructor should be in English.	○				○		40

成績評価の基準	Learning attitude is very important, 30% of the ?nal grade will be decided by attendance. All excused absences require an an excused absence form. Otherwise the class grade will be a “0” (zero).		
テキスト、教材 参　考　書	The test The Games of the Gods : English Through Olympic History” will be provided by the Instructor via the WebClass.		
履修条件・ 関連科目	All classwork, homework, presentations and tests will be done either in class or by WebClass.	備考(教員メッセージ含む)	Required: an iPad, notebooks, pens and pencils. Any academic dishonesty (学業の不正行為)will result in a zero grade for the term.
オフィス・アワー	Please contact the instructor by WebClass email.		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	佐賀　ターニャ	Introduction. WebClass, class rules, students and the instructor.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
2	〃	Unit 1.The Ancient Greek Olympics. Reading, writing & grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
3	〃	Unit 1. The Ancient Greek Olympics: Pair & group work & discussion.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
4	〃	Unit 2. The Roman Games: Reading, writing & grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
5	〃	Unit 2. The Roman Games: Pair & group work & discussion.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
6	〃	Unit 3. Athens 1896: Reading, writing & grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
7	〃	Unit 3. Athens 1896: Pair & group work & discussion.	Presentation Preparation.
8	〃	Presentation 1: My Sports Hero (Live presentation).	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
9	〃	Unit 4. Berlin 1936: Reading, writing & grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
10	〃	Unit 4. Berlin 1936: Pair & group work & discussion.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
11	〃	Unit 5. London 1948: Reading, writing & grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
12	〃	Unit 5. London 1948: Pair & group work & discussion.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
13	〃	Unit 6. Tokyo 1964: Reading, writing & grammar.	Homework: In My Opinion/Video (30 min).
14	〃	Unit 6 Tokyo 1964: Pair & group work & discussion.	Presentation Preparation.
15	〃	Presentation 2: Famous Olympic Events.	Review for Final Eam.
16	〃	Final Eam.	

※令和３年度の内容を参考に掲載しています。

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅵ（異文化コミュニケーション） (111B6-2201)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	エルメス　デイビット			補助担当者名	
単位数	２　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	15
授業の概要	People around the world share common issues. However, different people think (and talk) about those issues differently. In this class, you will study about some common issues that many people face and learn English that will help you to discuss these kinds of issues better.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Expressing opinions with relevant information; presenting ideas clearly					○		30
	■情意的領域	Attendance and active participation in individual, group, and class activities	○						30
	■技能的領域	Effective discussion skills for communication; Presentation skills			○	○			40

成績評価の基準	Attendance （出席）　３０％ Classwork （課題、プレゼンテーション）　４０％ Final Test （期末試験）　３０％		
テキスト、教材 参　考　書	Impact Issues 2 (Pearson Japan) by Richard Day et al.		
履修条件・ 関連科目	TOEIC 450–495 Prerequisite: 総合英語V	備考(教員メッセージ含む)	Please come to all classes, try your best, and share your opinions!
オフィス・アワー	毎週の水曜日１０：００～１７：００、毎週の木曜日１３：００～１７：００、毎週の火曜日１３：００～１７：００ 遠隔の場合：適宜対応。ただし、事前にメールなどでアポイントを取っておくこと。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	エルメス　デイビット	Class introduction	Review and prepare required procedures (e.g. Zoom, WebClass) and materials (texbook etc.)（1時間）
2	〃	Unit 1. First Impressions	For you, which features are the most important about a person's appearance? （１時間）
3	〃	Unit 2. Big or small?	“What is good about living in a city?”（１時間）
4	〃	Unit 3. The Good Language Learner	“What are the pros of living in another country?” （１時間）
5	〃	Unit 4. Getting Ahead	“How do you think parents should show their love?” （１時間）
6	〃	Unit 5. Forever Single	“What are the benefits of staying single?”（１時間）
7	〃	Presentation Introduction	Presentation planning （１時間）
8	〃	Presentation preparation and practice	Presentation preparation and practice （2時間）
9	〃	Presentation Day	Presentation 感想 （１時間）
10	〃	Unit 6. What are friends for?	“What do you and your close friends usually do for each other?” （１時間）
11	〃	Unit 10. My Student Life	“What are the most important reasons to go to university?” （１時間）
12	〃	Unit 11. International Relationships	“What are some advantages and disadvantages of an international marriage?” （１時間）
13	〃	Unit 12. Create Another Future	“Which ideas do you think are excellent for improving the environment?” （１時間）
14	〃	Unit 15. Ask Annie	Ex. 1 “What do you think about living together before marriage?” （１時間）
15	〃	Course review & Final Test introduction	Study! （３時間）
16	〃	Final Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅶ（海外で暮らす） (111B7-2202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	シレニ・ミヒャエル			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	15
授業の概要	This class will introduce several topics related to culture, language and sports. The class will provide students with vocabulary, grammar and communication skills necessary to communicate their thoughts and opinions about these topics. The main focus will be on intercultural understanding and communication.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Students will apply their acquired language skills to write cohesive short texts about a topic.					○		30
	■情意的領域	Students will conduct simple research about the presented topics and introduce their findings to each other.	○						30
	■技能的領域	Students will use learned language to communicate in partners and groups, and to complete language activities.	○			○			40

成績評価の基準	Students will receive points for attendance and for active participation each class.		
テキスト、教材 参　考　書	Four Corners Level 2 Student's Book (by Jack C. Richards, David Bohlke) 英和・和英辞典		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	Please come on time and prepared!
オフィス・アワー	質疑は授業後、若しくはメールにて受け付けます。メールアドレス：michael.sileny@gmail.com		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	シレニ・ミヒャエル	Orientation, introduction	Review (30 minutes)
2	〃	Textbook Unit 1 (My interests)	Research, preparation (1 hour)
3	〃	Group discussion: "What's the European Union?"	Reading, research (1 hour)
4	〃	In depth discussion: "What's the European Union?" Textbook Unit 2 (Descriptions)	Review (1 hour)
5	〃	Textbook Unit 3 (Rain or shine)	Research, preparation (1 hour)
6	〃	Group discussion: "What's so special about FC Barcelona?"	Reading, research (1 hour)
7	〃	In depth discussion: "What's so special about FC Barcelona?" Textbook Unit 4 (Life at home)	Review (1 hour)
8	〃	Textbook Unit 5 (Health)	Research, preparation (1 hour)
9	〃	Group discussion: "What German Traditions Do You Know?"	Reading, research (1 hour)
10	〃	In depth discussion: "What German Traditions Do You Know?" Textbook Unit 6 (What’s on TV?)	Review (1 hour)
11	〃	Textbook Unit 7 (Shopping)	Research, preparation (1 hour)
12	〃	Group discussion: "The Strange History of Neuschwanstein Castle"	Reading, research (1 hour)
13	〃	In depth discussion: "The Strange History of Neuschwanstein Castle" Presentation introduction + preparation	Review (1 hour) Presentation preparation (1 hour)
14	〃	Presentation preparation	Presentation preparation (1 hour)
15	〃	Presentations Review	Test study (2 hours)
16	〃	Test	

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合英語Ⅶ（実践プレゼンテーション） (111B72203)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	エルメス　デイビット			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	15
授業の概要	In this class, you will learn skills and phrases for use in presentations. You will use those skills to create a presentation, practice it, and deliver it to the class. The class aims to strengthen your ability to present effectively in English.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	Understand and be able to use language and skills for effective English presentations			○	○			20
	■情意的領域	Attendance and active participation in individual, group, and class activities	○						30
	■技能的領域	Presentation skills; Effective Questioning and Answering skills; Communicative Proficiency				○			50

成績評価の基準	Attendance: 30% Presentations: 50% Assignments: My Favorite Speech (10pts), Group outline (10pts), Presentation SelfEvaluation Sheet x2(20pts): 20%		
テキスト、教材 参　考　書	Effective Presentation Skills for Beginners (Asahi Press) by Tomoko Sugihashi et al.		
履修条件・ 関連科目	TOEIC 500 Prerequisite: 総合英語VI	備考(教員メッセージ含む)	Come to every class, try your best, and don't be shy!
オフィス・アワー	毎週の水曜日１０：００～１７：００、毎週の木曜日１３：００～１７：００、毎週の火曜日１３：００～１７：００ 遠隔の場合：適宜対応。ただし、事前にメールなどでアポイントを取っておくこと。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	エルメス　デイビット	Class Introduction	Review and prepare required procedures (e.g. Zoom, WebClass) and materials (texbook etc.) （1時間）
2	〃	Unit 1 Getting Started 1.11.3	Review （1時間）
3	〃	Review 1.2 & 1.3 Unit 1 Getting Started 1.4 & 1.5	1.5 Start thinking about the project topic: “My Favorite _____” （１時間）
4	〃	Unit 2 Voice	2.5 Preparation for a one minute speech A. Complete My Favorite ____ exercises B. Read the example. C. Write a script of My Favorite _____. （１時間）
5	〃	Unit 3 Gestures	3.5 Bring a typed “My Favorite” presentation script, and add more details to your one minute speech. （１時間）
6	〃	Unit 4 Q&A Skills	4.5 A. Bring some photos / pictures or objects related to your presentation B. Make a list of 1) the questions your audience may ask and 2) your possible answers. （１時間）
7	〃	Unit 5 Visuals	5.5 Finish your visuals and bring it to the class for presentation rehearsals. （１時間）
8	〃	Unit 6 Rehearsals	6.5 Rehearse at least 10 times. Simulate the actual situation as much as possible (time limit, using your poster on the wall etc.) （１時間）
9	〃	Unit 7 On Stage (Presentation)	7.4 Watch your video and fill out your SelfEvaluation sheet. （１時間）
10	〃	Extra Skill Unit I Group Presentations	Collect information for the group topic. （１時間）
11	〃	Extra Skill Unit I Group Presentations	Submit the group outline. Start writing a script of your part of the presentation. （１時間）

12	〃	Extra Skill Unit II Using Data and Graphs	Include some data and a graph. Add more details and expand your presentation script. （1 時間）
13	〃	Extra Skill III Speaking More Fluently Inclass Group Presentation preparation	Complete the script. Put all the visuals in one file if PowerPoint is used. Practice your part of the presentation. （1 時間）
14	〃	Group presentation rehearsals	Practice, practice, practice. （1 時間）
15	〃	Group presentations	Fill in the Group Presentation SelfEvaluation sheet. （1 時間）
16	〃	Group presentations II Review and Feedback	

授業科目名 (ナンバリングコード)	中国語 (111A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	陳　躍			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	ほぼ毎年中国からの留学生と台湾からの留学生が参加しているので、留学生と交流する形で楽しく学べると思う。留学生の参加を大歓迎！！！ 中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （キャリアデザイン力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	日中文化の相違点を知る			○				30
	■情意的領域	主体的に授業へ取り組む 日中文化の相違に興味、関心を持つ	○						30
	■技能的領域	簡単な会話と自己紹介ができる		○			○		40

成績評価の基準	授業期間における演習への参加、授業ごとの会話小テスト、レポート感想、期末テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは、次のものを購入すること、『楽しい中国』于国軍著　斯文堂2009 年＠1,700円 参考書として、次のものを推薦する、『恋文の翻訳―日中往来』陳躍著　南日本新聞社2005 年＠1,500円		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をしてください。
オフィス・アワー	非常勤のため、授業以外の時間は大学にいないので、メールで対応する。chenyue0205@yahoo.co.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	陳　躍	会話練習：第１回我是上海人（授業ガイダンス） 文化事情：「空気を読まないと中国人空気を読む日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
2	〃	第２回我叫王平 「ストレートに言う中国人と遠回しにいう日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
3	〃	第３回南京路 「傍若無人な中国人と人の目ばっかり気にする日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
4	〃	第４回几点了？ 「朝青龍を好きな中国人と白鵬を好む日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
5	〃	第５回今天是星期几？ 「卓球を好きな中国人と野球を好きな日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
6	〃	第６回家有几口人？ 「店員さんが神様である中国人とお客さんが神様である日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
7	〃	第７回没関系（映画） 「『構わない』をよくいう中国人と『すまない』をよくいう日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
8	〃	第８回香港的夏天（映画） 「なれなれしい中国人とよそよそしい日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
9	〃	第９回四川菜很好吃 「初対面の人に給料を聞く中国人と妻にしか給料を教えない日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
10	〃	第10 回我経常散歩 「自分の用件から言う中国人と相手の都合から聞く日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
11	〃	第11 回牌价是多少？ 「イルカを食べる中国人とくじらを食べる日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
12	〃	第12 回漢語難不難 家族には「有難う」言わない中国人と家族にも「有難う」いう日本人	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
13	〃	第13 回我没吃蒜 「『私』をよく使う中国人と『思う』をよく使う日本人」	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
14	〃	第14 回我想去超市 喧嘩を恐れない中国人と喧嘩を恐れる日本人	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
15	〃	第15 回来我家玩? 違って当たり前と思う中国人と違いを嫌う日本人	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分
16	〃	学期末試験中国語での自己紹介発表	予習３０分復習３０分 中国事情を聞いた感想を書く２０分

授業科目名 (ナンバリングコード)	韓国語 (111A0-2301)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	李　賢雄			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	韓国語を基礎からきちんと学びたい、韓国人との簡単な日常会話を楽しみたい、韓国の文化への理解を深めたい学生を対象に授業を行い、異文化への興味関心を持つことを期待する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	この科目を学ぶことにより、ハングルの読み書きができる。	○			○	○		50
	■情意的領域	韓国の文化を学ぶことにより異文化への興味関心を持ち、他者へ説明ができる。	○		○				20
	■技能的領域	基礎文法及び表現を学ぶことにより、簡単な日常会話ができる。	○	○					30

成績評価の基準	・成績認定の必要条件は、２／３以上の出席率（出席回数10回以上） ・定期試験　50%、小テスト　30%、課題　20%の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	・テキスト：「KOREAN LANGUAGE Ⅰ」、HYUNWOONG LEE & KAORI TSURUTA　共著、2021年 ・参考書：「あいうえおから始める書き込み式ハングルBOOK」、栗原 景 著、2012年、成美堂出版		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	・毎回、前回学習した内容について小テストを行う。 ・テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストを準備し、予習をしておくこと。 ・学習した内容をレポート課題(プリントを用意)として出し、次回に回収、チェックをして学生に返します。
オフィス・アワー	質疑等は授業後、若しくは以下のメールにて受けます。 satsuma0509@naver.com		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	李　賢雄	オリエンテーションとハングル字の学習（基本母音）	基本母音字の書き（40分）
2	〃	ハングル字の学習（子音：平音）	子音字の書き①（40分）
3	〃	ハングル字の学習（子音：激音・濃音）	子音字の書き②（40分）
4	〃	ハングル字の学習（複合母音）	複合母音字の書き（40分）
5	〃	ハングル字の学習（パッチム）	パッチムの書き（40分）
6	〃	かな文字のハングル対照表＆電子機器のハングル入力の仕方	47都道府県のハングル表記の書き（60分）
7	〃	発音変化（有声化・連音化・濃音化・鼻音化・激音化）	発音矯正の書き(60分)
8	〃	第１課　挨拶と??紹介について（文法と応用）	新しい表現と単語の書き（60分）
9	〃	第２課　物事の名称について（単語と本文読み）	新しい表現と単語の書き(60分)
10	〃	第２課　物事の名称について（文法と練習問題）	練習課題（30分）
11	〃	第３課　家族の呼び名と＆　存在の有無について（単語と本文読み）	新しい表現と単語の書き(60分)
12	〃	第３課　家族の呼び名と＆　存在の有無について（文法と練習問題）	練習課題（30分）
13	〃	第４課　場所の名称と交通手段について（単語と本文読み）	新しい表現と単語の書き（60分）
14	〃	第５課　場所の名称と交通手段について（文法と応用）	練習課題(60分)
15	〃	第５課　漢数字と買い物について（単語と本文読み）	総合練習課題（40分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	国語・文章表現法 (111A0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	森　克己・栗山　靖弘・山田　恭久・小路　由美子・日髙　孝			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	170名程度
授業の概要	本授業では，新入生が本学で学術的な学習をする上で必要不可欠なアカデミックライティングや国語力に関する基礎的な知識（認知）やスキル（技能），マナー（態度）の修得を目指すことを目標としている．具体的には，アカデミックライティングは，毎回提出する授業レポートや課題作品の作成，国語力では読書の必要性を理解し，課題の図書を読んで自己考察文を作成し，推敲や発表を行う．本授業を通して，ドキュメンテーションスキル・プレゼンテーションスキル・コミュニケーションスキル等の基礎が構築されることを期待している．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・語彙，文法，文章構成などの表現に必要な基礎知識について理解できる ・読書を通して身につく能力について理解し活用できる	○			○			35
	■情意的領域	・他者の文章についても興味・関心を持ち，積極的にコミュニケーションを図ること，国語や表現に関する情報を仲間と協力して探求し，要点を整理することができる	○			○			23
	■技能的領域	・自分の言葉で思いを表現することができる ・論理的で読み手に分かりやすい文章を書くことができる			○				42

成績評価の基準	授業の取組は，授業への積極的な準備や参加度（［授業レポート：3点×14回＋授業まとめレポート4点＝46点］や［課題作品：18点×3回＝54点］及び[作品発表：15点×2回]）について総合的に評価し，単位認定を行う．なお，課題を期日までに提出・準備できなかった場合は，減点の対象となる．		
テキスト、教材 参　考　書	課題図書を必ず購入すること：永田和宏(2018)『知の体力』新潮社.(836円) その他、授業テキストと資料を配付する．		
履修条件・ 関連科目	1年次に履修することが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	大学での学びを深めるために重要な科目である．
オフィス・アワー	森　：水曜日午後 栗山：随時対応：研究棟6階　教員研究室 山田・小路・伊藤：授業の前後に対応		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己 栗山　靖弘 山田　恭久 小路　由美子 日髙　孝	オリエンテーション：国語・文章表現法での学びとは	授業レポートの作成〔3点〕，授業資料の復習（30分）
2	栗山　靖弘 山田　恭久 小路　由美子 日髙　孝	文章表現の基礎：文章構成と思考の流れ，クラス分け	授業レポートの作成〔3点〕，授業資料の復習（30分）
3	〃	課題A：文章を論理的に書く，「自己体験に基づく意見文」の表現法 （課題選択，主題設定，構想）	授業レポートの作成〔3点〕 課題A［18点］，構想表の作成（1時間）
4	〃	：良い文章とは（グループ・ディスカッション），文章の推敲	授業レポートの作成〔3点〕，作品の下書き（1時間）
5	〃	：文章表現上の留意点整理，文章の推敲	授業レポートの作成〔3点〕，作品の清書（1時間），作品の音読（30分）
6	〃	：作品発表，自己評価・他者評価	授業レポートの作成〔3点〕，作品発表A[15点],授業資料の復習（30分），課題図書の通読（1時間）
7	〃	課題B　：読書の力，「課題図書からの自己考察文」の表現法	授業レポートの作成〔3点〕 課題B［18点］，課題図書の通読（1時間），構想表の作成（1時間）
8	〃	：「課題図書からの自己考察文」の構想と記述	授業レポートの作成〔3点〕，作品の下書き（1時間）
9	〃	：良い文章とは（グループ・ディスカッション），文章の推敲	授業レポートの作成〔3点〕，作品の清書（1時間），作品の音読（30分）
10	〃	：作品発表，自己評価・他者評価	授業レポートの作成〔3点〕，作品発表A，授業資料の復習（30分）
11	森　克己 栗山　靖弘 山田　恭久 小路　由美子 日髙　孝	課題C：自分をどう表現するか ―自分の言葉で思いを伝える― 自己分析，自分史，自己PR等，様々な文種の紹介	授業レポートの作成〔3点〕 課題C［18点］，授業資料の復習と自己分析（30分），構想表の作成（1時間）
12	〃	「自己分析からの自己表明文」の構想と記述	授業レポートの作成〔3点〕，下書きの作成（1時間）

13	栗山　靖弘 山田　恭久 小路　由美子 日髙　孝	：良い文章とは（グループ・ディスカッション），文章の推敲	授業レポートの作成〔3点〕，作品の清書（1時間），作品の音読（30分）
14	〃	：作品発表，自己評価・他者評価	授業レポートの作成〔3点〕，作品発表B[15点]，作品の音読（30分），授業資料の復習（30分）
15	〃	授業のまとめ，振り返りと授業評価	授業レポートの作成〔4点〕，作品発表B，授業振り返りアンケートの記入（10分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ドイツ語 (111A0-2302)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	大野　克彦			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	【授業の目標】ドイツ語の実用的なコミュニケーション能力（初歩的な会話・文法・読解・聴解など）を修得する。 【授業の運営方法】テキストや補助資料などを用いながら授業をおこなう。 【学習の効果】自分に関することが伝えられたり，簡単な表現が理解できるようになることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	基礎的な語句・文法・読解力を修得する。 初歩的なコミュニケーション能力を身につける。					○		60
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、課題に意欲的に取り組む。		○		○			20
	■技能的領域	自分のことについて表現することができる 相手のことについて尋ねることができる		○		○			20

成績評価の基準	成績発行の必要条件は６割以上の出席率（出席回数１０回以上）。 成績評価の具体的基準は，定期試験６０％および毎時間終了時の確認テスト・授業中の発表４０％		
テキスト、教材 参　考　書	プリントを配付して授業を行う		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	特になし
オフィス・アワー	質問は授業後、もしくはメールで受け付ける。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	大野　克彦	授業ガイダンス（演習の概要、評価方法等）、アルファベットの読み方	復習：アルファベットの読み方（30分）
2	〃	つづりと発音、数字	復習：つづりと発音の対応を覚える（60分）
3	〃	第１課　動詞の不定形、人称代名詞	復習：不定形の構造を理解する（60分）
4	〃	第１課　動詞の現在人称変化	復習：動詞の変化を覚える（60分）
5	〃	第１課　平叙文、命令文、疑問文	復習：動詞の定形の位置を理解する（30分）
6	〃	第１課　練習問題、あいさつ表現	復習：動詞にかかわる文法事項を振り返る（60分）
7	〃	第２課：sein，haben の現在人称変化	復習：sein，haben の変化を暗記する（30分）
8	〃	第２課　はい・いいえの答え方、nichtの位置	復習：疑問文への答え方を習得する（30分）
9	〃	第２課　練習問題、時刻の言い方、天候の表現	復習：第２課への内容を振り返る（60分）
10	〃	第３課　名詞の性、定冠詞、名詞の複数形	復習：名詞の性と男性・中性・女性の定冠詞を覚える（60分）
11	〃	第３課　不定冠詞、所有冠詞	復習：男性・中性・女性の不定冠詞、所有冠詞を覚える（60分）
12	〃	第３課　練習問題、日常使う名詞	復習：第３課の内容を振り返る（60分）
13	〃	第４課：話法の助動詞とその現在人称変化	復習：話法の助動詞の変化を覚える（30分）
14	〃	第４課：話法の助動詞を持つ文の語順	復習：助動詞の定形と本動詞の不定形の位置を理解する（30分）
15	〃	第４課：練習問題、いろいろな会話表現	復習：前期の学習を振り返る（60分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	日本語演習Ⅱ	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	吉重　美紀			補助担当者名	無し
単位数	２　単位	履修年次	留学生１、２年次	受け入れ人数	１０名程度
授業の概要	専門分野での勉学・研究には、日本語による論理的思考による理解および表現能力が不可欠である。 本授業では、大学・大学院で専門分野の勉強をしようとする留学生のために作成された教材を使って、論理的な文章の書き方やレポート作成に必要な知識や技術を学ぶことををめざす。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	専門的な文章を書くために必要な表現、文法、文章作成に必要な基本事項を学ぶ。また、自分で書いた文章を人前で発表できるようになる。	○		○	○			40
	■情意的領域	読み手の視点を持って文章を作成し、日本語での文章作成に関心を持つ。他の学生の書いた文章を読んで助言できる。	○						20
	■技能的領域	研究計画書の作成を目標に、専門分野のレポートなど論理的な文章を書くことが出来るようになる。	○		○				40

成績評価の基準	授業における演習への参加、レポート課題作成や発表の評価を合計し、６０点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『新訂版　留学生のための論理的な文章の書き方』 （スリーエーネットワーク、2020, 1400円+税） 補助教材：『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』 （鎌田美千子他著 スリーAネットワーク、2014） 参考書：『論文作成デザイン--テーマの発見から研究の構築へ--』（細川英雄著、東京図書、2012)
履修条件・ 関連科目	外部講師による日本語補講も同時に履修する事が望ましい。 ７月、１２月に実施される日本語能力試験(N-1,N-2)に挑戦する事が望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	本授業が留学生の皆さんの大学での学習やレポート作成の支えになることを願っています。
オフィス・アワー	木曜日　昼休み及び１６時～１７時　図書館２階　吉重教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉重　美紀	日本語プレイスメントテスト、インタビュー、コース説明	第１課の予習（１時間）
2	〃	第１部　基礎編ー文章表現の基礎知識　第１課　レポートに使われる文体	「私の日本での食生活」の作文（1.5時間）
3	〃	第１部　第２課　文の基本	前回作文の書き直し（４５分）
4	〃	第１部　第２課　名詞化、首尾一貫した文	「私の専門」作文（1.5時間）
5	〃	第１部　第3課　段落に分ける　1.文章の構成	前回作文（私の専門）の書き直し(45分)
6	〃	第１部　第3課　　2. 段落内の構成	「これからの生活」の作文（1.5時間）
7	〃	第１部　第４課　「は」と「が」	前回作文の書き直し(1時間)
8	〃	第１部　第４課 主題の「は」	「私の国の有名な人」作文（1.5時間）
9	〃	第2部　研究計画書の作成　第５課　テーマを述べる　助詞相当語	前回作文の書き直し(1時間)
10	〃	第2部　第５課　研究テーマを述べる、研究テーマの重要性を述べる	「研究テーマについて」作文（２時間）
11	〃	第2部　第６課　理由・経過を述べる　1. 理由の表現	作文（研究テーマ）の書き直し（１時間）
12	〃	第2部　第６課　2. 時間の表現	「私が日本へ来るまで」作文（1.5時間）
13	〃	第2部　第７課　定義をする　　1.名詞文を書く　「こと」と「の」	作文（私が日本へ来るまで）の書き直し（1時間）
14	〃	第2部　第７課　定義をする　2. 定義をする	研究計画書の作成(1.5時間)
15	〃	まとめ、研究計画書の完成と発表、批評	研究計画書の書き直し（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	現代日本事情	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ科目)
担当教員名	吉重　美紀			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次（留学生）	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	留学生は、母国・自分自身のことについて他国（日本など）との比較を通して意識的に捉えなおし、母国のことや自分の考えを日本語で発信できる力が不可欠である。本授業では、日本の事情をきっかけとして提供し、留学生の母国の事情と比較しながらクラスの討議を通して日本の諸事情の理解を深めるとともに、母国の事情について発信できるようになることをめざす。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	日本語での情報収集、情報伝達、調査分析、原稿作成、発表などの基本的スキルを養成する。	○		○	○			30
	■情意的領域	日本社会・日本人の意識や行動に対して関心をもつとともに、クラスで一緒に学ぶ留学生の異なる国々の文化や習慣にも関心を持つ。	○			○			30
	■技能的領域	自分でテーマを探して調査、考察、発表できるようになる。	○		○	○			40

成績評価の基準	授業への参加、課題レポート、口頭発表の評価を合計し、６０点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	『クローズアップ日本事情15 ––日本語で学ぶ社会と文化』 （佐々木瑞枝著　ジャパンタイムズ 2017 2500円） 『中上級学習者向け日本語教材　日本文化を読む』 （京都日本語教育センター編著　アルク　2012 2400円）		
履修条件・ 関連科目	外部講師による日本語補講も同時に履修する事が望ましい。 日本語能力試験（７月、12月）に挑戦する事が望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	木曜日　昼休み及び１６時～１７時　図書館２階　吉重教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉重　美紀	日本語プレイスメントテスト、インタビュー、コース説明	発表準備、資料の読解（1時間）
2	〃	第６課　知っておきたい日本の歴史　Section 1 j	発表準備、資料の読解（1時間）
3	〃	第６課　知っておきたい日本の歴史　Section 1 ,2	資料の読解,小テスト準備（1時間）
4	〃	第６課小テスト、第７課　伝統文化体験　Section 1	発表準備、資料の読解（1時間）
5	〃	第６課小テスト、第７課　伝統文化体験　Section 1,2	テスト準備、資料の読解（1.5時間）
6	〃	第７課小テスト、　やっぱり敬語が必要なわけ（橋本　治）	発表準備、資料の読解（1時間）
7	〃	第８課　現代文化とポップカルチャー　Section 1	発表準備、資料の読解（1時間）
8	〃	現代文化とポップカルチャー　Section 2	テスト準備,資料の読解　(1.5時間)
9	〃	第８課小テスト、第９課　スポーツの楽しみ方　Section 1	テスト準備,資料の読解　(1時間)
10	〃	第９課　スポーツの楽しみ方　Section 1,2	テスト準備,資料の読解　(1.5時間)
11	〃	第９課小テスト、　シンプル（山本　昌代）、ブブヅケ（梅棹　忠夫）	発表準備,資料の読解　(1時間)
12	〃	第１０課　前進を続ける科学技術　Section 1	発表準備,資料の読解　(1時間)
13	〃	第１０課　前進を続ける科学技術　Section 1、２	発表準備,資料の読解　(1時間)
14	〃	第１０課小テスト、　第１２課　教育と子供たち　　Section 1	発表準備,資料の読解　(1時間)
15	〃	まとめの口頭発表	発表の振り返り(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	倫理・哲学 (112A0-1300)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会・文化・自然科目)
担当教員名	小川　仁志			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1	受け入れ人数	何名でも可
授業の概要	授業の目標：哲学のあらゆる分野について一通り基礎を知り、それらの知識を使いこなせるようになる 授業の運営方法：講義を基本とするが、グループワークも取り入れる 学習の効果：哲学的思考ができるようになる				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理 （コミュニケーション力、課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	受講者は哲学のあらゆる分野の基礎知識を修得する。				○			20
	■情意的領域	自分の人生や世の中に深いレベルで関心を持つようになる。	○						10
	■技能的領域	哲学的に物事が考えられるようになる。			○				70

成績評価の基準	成績発行の必要条件は、３分の２以上の出席率（１０回以上）。成績評価の具体的基準は、授業での発表への積極的参加２０点、対話への積極的参加１０点、最終のレポートの成績７０点。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：必要に応じてプリントを配布 参考書：小川仁志著『ビジネスエリートのための！リベラルアーツ哲学』（すばる舎）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	対話を重視するので、積極的参加のできる人の履修を期待します。
オフィス・アワー	集中講義のため休み時間に対応。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小川　仁志	イントロダクション―哲学を学び、使うとはどういうことか？	授業関連資料に関する復習（１時間）
2	〃	西洋哲学とは何か？―知のツールとして西洋哲学をマスターする	授業関連資料に関する復習（１時間）
3	〃	幸福論を学ぶ―三大幸福論を中心に幸福に関する哲学を紹介する	授業関連資料に関する復習（１時間）
4	〃	哲学カフェ①―「幸せとは何か？」をテーマに哲学対話を行う	授業関連資料に関する復習（１時間）
5	〃	政治哲学とは何か？―政治哲学の基礎について概説する	授業関連資料に関する復習（１時間）
6	〃	政治哲学の実践―政治哲学を使って課題の解決を試みる	授業関連資料に関する復習（１時間）
7	〃	日本哲学とは何か？―日本哲学の基礎について概説する	授業関連資料に関する復習（１時間）
8	〃	日本映画に見る日本哲学―日本映画を見て日本哲学を抽出する	授業関連資料に関する復習（１時間）
9	〃	中国哲学とは何か？―中国哲学の基礎を概説する	授業関連資料に関する復習（１時間）
10	〃	中国哲学の名言に学ぶ―中国哲学の名言を分析する	授業関連資料に関する復習（１時間）
11	〃	応用倫理とは何か？―応用倫理の基礎を概説する	授業関連資料に関する復習（１時間）
12	〃	哲学カフェ②―スポーツ倫理をテーマに哲学対話を行う	授業関連資料に関する復習（１時間）
13	〃	現代思想とは何か？―現代思想の基礎について概説する	授業関連資料に関する復習（１時間）
14	〃	現代思想を作る―現代思想の構築を試みる	授業関連資料に関する復習（１時間）
15	〃	アニメ哲学体験―哲学としてのアニメを体験する	授業関連資料に関する復習（１時間）
16	〃	アニメ哲学とは何か？―アニメと哲学の関係について考察する	授業関連資料に関する復習（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	人権論 (112A0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	人権の意義・内容・歴史などを解説するとともに、日本国憲法や国際人憲章典・条約等の人権規定の意義・内容等を解説することにより、受講生が人権問題の考え方や基礎知識を身につける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	現代社会における主要な人権問題の考え方を身に付ける。		○			○		50
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、レポートに積極的に取り組む。	○		○				50
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績、毎回の授業時に課されるレポートへの取組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：授業時に資料を配付する。 参考書：中川義朗編・『現代の人権と法を考える』（法律文化社）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	森：水曜日、木曜日の午後（５０８研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	オリエンテーション：学習の目的、内容、方法、評価のしかた	履修要項の予習（10分以上）
2	〃	人権の意義、内容、歴史①	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
3	〃	人権の意義、内容、歴史②	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
4	〃	現代社会における人権	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
5	〃	子どもの人権（総論）	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
6	〃	子どもの人権（各論）（児童虐待）①	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
7	〃	子どもの人権（各論）（児童虐待）②	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
8	〃	定期試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ジェンダー論 (112A0-1302)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	前田　博子			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180
授業の概要	各自のジェンダー意識を自覚する機会を提供する．国際社会と国内におけるジェンダーに関する解釈とその取り組みについて知識を提供する． 社会のさまざまな場面におけるジェンダーバイアスに敏感になること，人権問題としてのジェンダー課題の理解力が向上することが期待される．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ジェンダーに関する課題と取り組みについて知識を得る。 ジェンダー課題の背景についての理解を高める。	○		○		○		50
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、授業における課題に積極的に取り組む。	○		○				50
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績、毎回の授業時に課されるレポートへの取組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：適宜プリントを配付する 参考書：富岡恵美子・吉岡睦子編・「現代日本の女性と人権」（明石書店）、 金城清子「法女性学のすすめ」（有斐閣） 飯田貴子他編「よくわかるスポーツとジェンダー」（ミネルヴァ書房）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	iPadを必携すること。対面授業において質疑を行う場面で使用する。
オフィス・アワー	随時６０６研究室，メールでの対応も可		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　博子	本時の進め方 社会における「性」別への偏見	シラバスによる予習・講義内容の復習（1時間）
2	〃	ダイバーシティ 性のあいまいさとセクシュアリティの構成要素	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
3	〃	人権と差別 性による差別の実態	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
4	〃	国際社会の動き 国際組織の動き　女子差別撤廃条約，SDGｓなど	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
5	〃	労働環境における男女差別と対処 男女雇用機会均等法	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
6	〃	社会と家庭生活における共同・協力 男女共同参画社会基本法	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
7	〃	ハラスメントとジェンダー スポーツの場における問題事例	課題による予習・講義内容の復習（1時間）
8	〃	スポーツと性　全体のまとめ 期末試験	課題による準備（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	歴史学 (112A01303)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	山田　理恵・山本　一生			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	本授業では、歴史的事実に対する考え方や解釈のしかたを理解し、日本の歴史を、特に近代以降の日本の対外政策に焦点をあてて考察することを通して、国際関係のなかでの日本の歴史的位置づけや日本の文化に対する理解を深め、現代がかかえる諸問題を検討し国際平和の在り方を考える。 それらによって、歴史学の考え方やとらえ方を修得するとともに、教養として必要な知識を身につけ、論理的に考え表現できる能力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	歴史的事実に対する考え方や解釈のしかたを理解する。 史料批判および史料吟味について論じることができる。 現代社会がかかえる諸問題を分析し、国際平和の在り方を論じることができる。			○				70
	■情意的領域	授業に積極的に参加する。 課題に意欲的に取り組む。	○			○			30
	□技能的領域								

成績評価の基準	毎授業時に実施する小レポート、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時（山田：７０５研究室、山本：３０８研究室） ただし、事前にアポイントを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山田　理恵	「歴史」に親しむ―激動の２０世紀を振り返りながら―	参考書等の予習および復習（30分以上）
2	〃	「歴史」とは何か	参考書等の予習および復習（30分以上）
3	山本　一生	歴史的事実と史料	参考書・資料等の予習および復習（30分以上）
4	〃	「日本国」と「日本人」の誕生	参考書・資料等の復習および予習（30分以上）
5	〃	近代日本の対外政策①	参考書・資料等の復習および予習（30分以上）
6	〃	近代日本の対外政策②	参考書・資料等の復習および予習（30分以上）
7	山田　理恵	戦争と国際平和	参考書等の予習および復習（30分以上）
8	〃	オリンピックと日本	参考書等の予習および復習、まとめ（40分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	社会学 (112A0-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	前田　博子・日下　知明			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	（前半） 社会のさまざまな現象を解釈する社会学の視点を身につけるため、ここでは「家族」をトピックとして取り上げる。 家族の実態を観察し、それを取り巻く制度、変動、規範、逸脱などの視点で理解する能力を身につける。 （後半） 若者論を中心に、メディア、人間関係、労働等のトピックを取り上げ、それらについて社会学的な視点から考える。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	(前半)家族の今日的状況について知り、その課題を理解する。家族の課題を、社会学的視点から解釈できる。 (後半)若者論を中心に、メディア、人間関係、労働等の身近なトピックについて、社会学的な視点から解釈することができる。			○				70
	■情意的領域	授業に積極的に参加する。 課題に意欲的に取り組む 社会問題と社会学的視点に興味・関心を持つ。	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業時間内に随時実施するレポートと最終レポート、および授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書として、次のものを挙げる。 ・井上俊他編『岩波講座現代社会学　１９　「家族」の社会学」』（岩波書店） ・目黒依子, 渡辺秀樹編「講座社会学２　家族」（東京大学出版会） その他、参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	人権論、ジェンダー論（履修しておくことが望ましい。）	備考(教員メッセージ含む)	授業時間内に随時実施する複数回の小テストを受け、また、課題を必ず提出すること。 iPadを必携すること。対面授業において、質疑を行う場面で使用する。
オフィス・アワー	随時（前田：６０６研究室　日下：６０７研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　博子	「家族社会学」とは 家族の形態　結婚	シラバスによる準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
2	〃	「出生」の社会学	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
3	〃	「養育」の社会学	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
4	〃	「パートナー」の社会学 多様な家族の在り方	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
5	日下　知明	現代社会と若者	授業内容の復習（１時間）
6	〃	若者と労働	授業内容の復習（１時間）
7	〃	若者とメディア	授業内容の復習（１時間）
8	〃	若者の人間関係	授業内容の復習（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	日本国憲法 (112A0-1305)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	日本国憲法の主要原則を概説するとともに、基本的な憲法問題・判例の解説を行うことによって、学生が憲法と現実社会との関わりを考える上での視座並びに法学の基礎知識を身につけることができるようにすることを目標とする。 また、教員・公務員試験等の日本国憲法に関する試験問題の解き方も身につけることができるようになることも期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	憲法と現実社会との関わりを考える視座を身に付ける。 憲法の基本原理・判例について説明できる。					○		90
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、復習問題に取り組む。	○		○				10
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績、毎回の授業時に課される復習問題（レポート）への取組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	購入すべきテキスト：森克己ほか著『基礎からわかる憲法』（第３版）（嵯峨野書院） 参考書：芦部信喜『憲法』（第５版、岩波書店）、伊藤正己『憲法入門』3024円[税込み]（第４版補訂版）		
履修条件・ 関連科目	人権論を履修することが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	森：水曜日、木曜日の午後（５０８研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	オリエンテーション：学習の目的、内容、方法、評価のしかた	履修要項・シラバスの予習（10分以上）
2	〃	憲法とは何か	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
3	〃	現代憲法の特徴	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
4	〃	明治憲法	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
5	〃	日本国憲法の成立	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
6	〃	日本国憲法の構成	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
7	〃	国民主権	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
8	〃	民主主義	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
9	〃	象徴天皇制①	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
10	〃	象徴天皇制②	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
11	〃	基本的人権（総論①）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
12	〃	基本的人権（総論②）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
13	〃	基本的人権の分類・主体	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
14	〃	基本的人権の限界	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
15	〃	平和主義	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	日本文化論 (112A0-1306)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	中村　勇・小川　仁志			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	日本とは何か。日本人とは何か。日本文化とは何か。このような問いは古からさまざまに論じられてきたが、近年のグローバリゼーションの進展のなかで、その傾向はさらに高まり多岐にわたってきている。 本講義では、「日本文化」の基礎事項についてより深い理解を得られるように、前半は精神性、宗教、生活、芸術、クールジャパンなど様々な視点から、後半は日本の身体運動文化である伝統武術や現代武道にテーマを絞り、講義、ディスカッション、ビデオ視聴、プレゼンテーション等により授業を展開する。 本講義を通じて、受講者は日本文化に関する幅広い教養を身に付け、「日本文化とは何か」を発信できることを期待する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学生が各テーマについて、基礎的知識を理解し、それを説明することができるようになる。	○		○				40
	■情意的領域	学生が各テーマについて、基礎的知識を理解した上で、客観的視点から考察することができるようになる。	○		○				30
	■技能的領域	学生が各テーマについて、自分の意見を指示された方法で 適切に表現することができるようになる。	○		○				30

成績評価の基準	授業への積極的参加姿勢およびレポートで総合的に評価する。 欠席1／3回以上は評価の対象としない		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	アクティブ･ラーニングが多い集中授業です。日本文化に興味を持ち授業へ積極的に参加できる人を歓迎します。
オフィス・アワー	中村：平日午後12:00－14:00、 ただしWebClassメール等で連絡の上調整可能。（503教員室） 小川：非常勤のため授業期間中以外は中村を通じて連絡を取ってください		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小川　仁志	日本文化と日本人の精神性	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
2	〃	生活の中の宗教	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
3	〃	日本の自然と衣食住	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
4	〃	年中行事に見る日本の型	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
5	〃	伝統文化の特徴	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
6	〃	スポーツと芸術	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
7	〃	名所と観光	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
8	〃	クールジャパンの潜勢力	復習として、授業内で指示した参考資料の熟読（３０分程度）
9	中村　勇	日本文化の特徴（まとめ）	前回までの資料・ノートを見直しておくこと（３０分程度）
10	〃	武術・武道の技法と思想（1）	復習としてWebClass上の資料を熟読すること（３０分程度）
11	〃	武術・武道の技法と思想（2）	復習としてWebClass上の資料を熟読すること（３０分程度）
12	〃	武術・武道の技法と思想（3）	復習としてWebClass上の資料を熟読すること（３０分程度）
13	〃	武術・武道の技法と思想（4）	復習としてWebClass上の資料を熟読すること（３０分程度）
14	〃	国際交流と武道文化	復習としてWebClass上の資料を熟読すること（３０分程度）
15	〃	日本文化の将来	9～14回の学習内容を整理しておくこと（３０分程度）

授業科目名 (ナンバリングコード)	異文化理解 (112A0-2307)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	国重　徹・吉重　美紀・竹中　健太郎・エルメス　デイビット・坂中　美郷・幾留　沙智			補助担当者名	なし
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	一人の人間として異文化と向き合い、平和・人権・環境など人類共通の問題解決に参加できる資質を身につけられるよう、異文化コミュニケーションの基礎知識を習得する。さらに、留学生などいろいろな文化背景の人々とコミュニケーションしていく上で手助けとなることを期待して、多様な感じ方、考え方、表現方法を体験学習的な活動を通して学生自身も体験する。なお、講師の都合で授業予定の順番が変更になることもあり得る。また、新型コロナウイルスの感染状況により、対面授業が難しいと判断した場合は、オンラインによる遠隔授業とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	異文化コミュニケーションにおける非言語と言語の抱える問題点や価値観と態度の多様性を理解する。	○						30
	■情意的領域	多様な感じ方、考え方、表現方法を体験することで、異文化コミュニケーションにおける学生の気づきを促す。	○		○	○			30
	■技能的領域	コミュニケーションにおける多様な行動の解釈の幅を広め、異文化背景を持った人々とのコミュニケーションを継続できる。	○		○	○			40

成績評価の基準	レポート提出、授業中の発表、アクティビティ、ディスカッションなど総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：各担当教員が準備します。 参考書：『多文化社会で多様性を考えるワークブック』（有田佳代子他編著、研究社、2018) 『異文化コミュニケーション--グローバル・マインドとローカル・アフェクト』 (八島智子／久保田真弓　著、松柏社、2012） 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション--多文化共生と平和構築に向けて』 （石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人著、有斐閣、2013)		
履修条件・ 関連科目	履修条件：特に条件はないが、トビタテ留学Japanによる海外派遣や交流協定校など海外への留学、および海外青年協力隊やJICAなど海外での就職を希望する学生および外国人留学生には、特に受講を勧めたい。 関連科目：総合英語Ⅰ～Ⅶ	備考(教員メッセージ含む)	辞書は毎回持参すること。実習等で欠席の場合、事前に欠席届けを提出のこと。
オフィス・アワー	吉重：木曜日昼休み及び放課後、国重：木曜日昼休み及び12:40～13:00、 エルメス：水曜日15:00～16:00,		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉重　美紀	Introduction, 事前アンケート、ボーダレス社会、文化とは？	配布資料の精読(1時間)
2	〃	コミュニケーション３つのモデル	WebClassの資料を読む（１時間）
3	〃	Space and Distance　接触行動、ボディバブル	Web Classの資料を読む（１時間）
4	〃	Gender and Communication Style 男女のコミュニケーションスタイル、日本語における男女差	第1～4回レポート提出（2.5時間）
5	エルメス　デイビット	Culture and Communication Style	Review and Report (1時間)
6	〃	Cultural Values	Review and Report (1時間)
7	〃	Barriers to Communication: Discrimination	Review and Report (1時間)
8	〃	Barriers to Communication: Individual Differences	Review and Report; レポート提出　(2時間)
9	坂中　美郷	私の異文化体験	レポート作成（1時間）
10	幾留　沙智	私の異文化体験	レポート作成（1時間）
11	竹中　健太郎	私の異文化体験	レポート作成（1時間）
12	国重　徹	異文化での生活で気づいたこと～日本では当たり前のことが海外では・・・	レポート作成（1時間）
13	〃	異文化理解について考える①（イントロ、ステレオタイプの危険性について：グループワーク＆ディスカッション）	レポート作成（1時間）
14	〃	異文化理解について考える②（ステレオタイプの危険性について：宗教その他）	レポート作成（1時間）
15	〃	異文化での生活で学んだこと～ハワイ滞在[大罪!?]記～ まとめと振り返り：異文化理解の授業で学んだこと	レポート作成（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生物化学論 (112A0-1308)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	吉田　剛一郎			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	生命がなりたっているしくみを化学的に理解する。生体がどのような物質からなりたっているか、それらの物質がどのようにつくられてこわされるのか、またそれらの物質が生体内でどのようなはたらきをもつのかを示す。生化学・栄養学・生理学など自然科学系分野の教養を身に付ける科目であるが、難易度は比較的高いため、大学院進学者向けレベルの授業である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、科学的表現力 （課題解決力、科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	１．生体を構成する物質、２．生体内の物質代謝、３．遺伝情報とその発現、の３部に分けて系統的に理解することができる。			○				70
	■情意的領域	適切な受講姿勢を保ち、積極的に作業課題に取り組むことができる。	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	認知的領域（レポート）：情意的領域（授業）＝７０：３０の比率で評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	・講義テキスト（授業時に配付する）		
履修条件・ 関連科目	運動生化学・スポーツ栄養学・運動生理学・解剖生理学	備考(教員メッセージ含む)	自然科学系分野の基礎科目であるが、難易度は比較的高いため、大学院進学者向けレベルの授業である。
オフィス・アワー	随時　３０７研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉田　剛一郎	生物化学を学ぶための基礎知識（細胞の構造とはたらきなど）	テキストの生物化学を学ぶための基礎知識を復習する。（１時間）
2	〃	糖質（グルコース・グリコーゲンなど）	テキストの糖質を復習する。（１時間）
3	〃	脂質（脂肪・コレステロールなど）	テキストの脂質を復習する。（１時間）
4	〃	タンパク質（アミノ酸・各種タンパク質）	テキストのタンパク質を復習する。（１時間）
5	〃	核酸（DNA・RNA）	テキストの核酸を復習する。（１時間）
6	〃	水（水分の出納・酸塩基平衡）	テキストの水を復習する。（１時間）
7	〃	無機質（カルシウム・ナトリウムなど）	テキストの無機質を復習する。（１時間）
8	〃	血液と尿（血漿と血球・尿の生成）	テキストの血液と尿を復習する。（１時間）
9	〃	ホルモンと生理活性物質（血糖、血圧、食欲等の調節）	テキストのホルモンと生理活性物質を復習する。（１時間）
10	〃	酵素（触媒作用と逸脱酵素）	テキストの酵素を復習する。（１時間）
11	〃	ビタミンと補酵素（生理作用と欠乏症）	テキストのビタミンと補酵素を復習する。（１時間）
12	〃	糖質代謝（解糖系・クエン酸回路など）	テキストの糖質代謝を復習する。（１時間）
13	〃	脂質代謝（カルニチンとβ酸化）	テキストの脂質代謝を復習する。（１時間）
14	〃	タンパク質代謝（アミノ酸の利用・尿素回路）	テキストのタンパク質代謝を復習する。（１時間）
15	〃	遺伝情報（遺伝子のはたらきとタンパク質合成）	テキストの遺伝情報を復習する。（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体科学論 (112A0-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	與谷　謙吾・堀内　雅弘・中垣内　真樹・田巻　弘之・山本　正嘉・廣津　匡隆・吉田　剛一郎・藤田　英二・髙井　洋平・モハモド　モニルル　イスラム・沼尾　成晴・長島　未央子・村田　宗紀・石神　睦子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	将来，身体に接する機会が多いであろう体育大学の学生にとって，身体科学の知識とともに，身体諸機能について科学的に考察できる能力が必要不可欠となる．本授業では，スポーツ生命科学系に属する各教員が、スポーツ科学領域，健康科学領域の観点から，各教員の研究成果を交えながら，身近なスポーツや身体活動と絡めて概説する．これにより，ヒトの身体の仕組みや諸機能に関する知的好奇心を惹起させ、競技力向上ならびに健康増進に役立つ科学的エビデンスに基づいた基礎的知識を習得することが期待できる．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	（専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ヒトの身体諸機能について科学的に理解できる． 身体諸機能について論理的に考察することができる			○				70
	■情意的領域	講義中にマナーを守れているかどうか．	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	毎回のレポートおよび授業に取り組む姿勢・提出物から総合的に評価し，60点以上で合格とする．詳しくは1回目の授業で説明する．		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配布する．		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	基本的に質問は随時可能ですが、質問したい教員にあらかじめメールで連絡をし、アポイントメントを取ってください。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	與谷　謙吾	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価等
2	〃	筋電図を用いた反応時間評価の事例	レポート作成（1時間）
3	村田　宗紀	バイオメカニクスを用いた身体運動の分析	レポート作成（1時間）
4	藤田　英二	いろいろな対象者に対する運動の処方	レポート作成（1時間）
5	廣津　匡隆	膝のスポーツ障害（前十字靭帯損傷の病態と治療）	レポート作成（1時間）
6	石神　睦子	心療内科について	レポート作成（1時間）
7	田巻　弘之	低強度トレーニングと電気刺激	レポート作成（1時間）
8	山本　正嘉	科学的なトレーニングとは？	レポート作成（1時間）
9	吉田　剛一郎	身体と疲労	レポート作成（1時間）
10	モハモド　モニルル イスラム	介護予防のために必要な体力について	レポート作成（1時間）
11	沼尾　成晴	生活習慣病予防に向けた運動処方	レポート作成（1時間）
12	髙井　洋平	アスリートにおけるトレーニング科学	レポート作成（1時間）
13	堀内　雅弘	高強度トレーニング（仮）	レポート作成（1時間）
14	未　　定	運動に関わる栄養・食事の役割（仮）	レポート作成（1時間）
15	中垣内　真樹	中高齢者に対する運動の効果について～健康づくり・介護予防の観点から～	レポート作成（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	環境論 (112A0-1310)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	モハモド　モニルル　イスラム			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	環境は、人類の周囲に存在する有形無形のものであり、それらがわれわれ人類に直接的あるいは間接的に何らかの影響を及ぼす状況を知ることは，自らの健康の保持増進に繋がると期待される。そのためには，環境の分類をはじめ、環境が生命に及ぼす影響およびその機序を知ることが重要であり，それらが本授業の主目的である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、科学的支援力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	環境と健康へ及ぼす影響（間接的・直接的）とその機序, 人類の生活活動による汚染・汚濁、生活環境基準, 産業廃棄物，医療廃棄物などとの関係を理解する	○		○				70
	■情意的領域	環境を簡潔明瞭に分類することができる	○		○				15
	■技能的領域	環境が人類に及ぼす負の影響について考える	○		○				15

成績評価の基準	レポートによる総合評価をし，60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	衛生学: 健康な環境づくりを支援する (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ) (日本語) 単行本 by 奥野 久美子 (著), 坂手 誠治 (著), 久保 博子 (著), 近藤 雄二 (編集)　(2014年9月出版又は最新版)　［2,800円］。あとは毎回授業前Web-Class上に資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	衛生学･公衆衛生学	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	教員研究室509号（内線: 4962）にて随時（但し，事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	モハモド　モニルル イスラム	オリエンテーション（環境論の概論）及び今後の予定について	次回以降の予定の確認（３０分）
2	〃	環境生理心理学の基礎	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
3	〃	学校体育・スポーツ現場の環境、安全と健康	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
4	〃	運動・スポーツの環境、安全と健康	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
5	〃	住環境，生活の環境と安全・健康	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
6	〃	働く環境、労働安全衛生	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
7	〃	休息としての睡眠環境	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
8	〃	加齢を考慮した環境づくり	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
9	〃	心を考慮した環境づくりと個人技術，ストレスマネジメント等	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
10	〃	放射線・電磁波と健康	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
11	〃	人類の生活活動（家庭廃棄物，医療廃棄物，産業廃棄物等）による水質汚濁	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
12	〃	廃棄物（家庭廃棄物，医療廃棄物，産業廃棄物等）管理	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
13	〃	電気・ガスの省エネルギー対策技術と適用, および暮らし方・住宅づくりと水分野での地球温暖化防止	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
14	〃	自動車リサイクル法と産業，Polychlorinated Biphenyl（PCB）対策と産業	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
15	〃	自然的環境（生物学的，化学的，物理学的）	左記の予習と配布資料の復習（６０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	社会に出るための経済学 (112A0-1311)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	栫　真二郎			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	税金・企業会計・社会保険など、社会活動において職種を問わず直面すると考えられる経済的な問題を広く取り扱う。講義及び演習を通じて基礎的な知識の習得を目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力		授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	各種税金・会計（決算書）の基礎的な知識を習得し、 書類や書類に記載されている数値の意味が理解できる。	○	○					30
	■情意的領域	授業への参加及び演習問題に積極的に取り組む。	○		○				30
	■技能的領域	簡単な税金の計算（所得税等）ができる。		○					40

成績評価の基準	出席状況が３分の２を超えることを条件に、上記到達目標に示した割合で総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：豊島正治著「書き込み式で経理実務が身につく本」ＴＡＣ出版 その他は必要に応じて資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	・テキストに沿って進行します。 ・実務家（税理士）による講義になります。
オフィス・アワー	授業の前後、質疑応答にて受け付ける。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　真二郎	経理実務と簿記①	授業内容の復習（30分）
2	〃	経理実務と簿記②	授業内容の復習（30分）
3	〃	個人の確定申告①	授業内容の復習（30分）
4	〃	個人の確定申告②	授業内容の復習（30分）
5	〃	年末調整①	授業内容の復習（30分）
6	〃	年末調整②	授業内容の復習（30分）
7	〃	給与支払報告書・法定調書・償却資産	授業内容の復習（30分）
8	〃	会社の決算①	授業内容の復習（30分）
9	〃	会社の決算②	授業内容の復習（30分）
10	〃	会社の確定申告①	授業内容の復習（30分）
11	〃	会社の確定申告②	授業内容の復習（30分）
12	〃	給与計算・社会保険（労働保険を含む）	授業内容の復習（30分）
13	〃	印紙税・コンピュータ会計	授業内容の復習（30分）
14	〃	相続税・贈与税①	授業内容の復習（30分）
15	〃	相続税・贈与税②	授業内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	バイオメカニクスを学ぶための物理・数学 (112A0-1312)	授業形態	講義	授業科目区分	一般科目 (社会･文化･自然科目)
担当教員名	村田　宗紀・永原　隆・成田　健造			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	ー
授業の概要	スポーツバイオメカニクスは、身体運動を力学に基づいて観察する分野である。本科目の目標は、2年次配置されているスポーツバイオメカニクスを学ぶ際に求められる、力学や数学に関連する基礎知識を身につけることである。特に、線形代数や微積分の基礎的な話題を中心に取り扱う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	（専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツバイオメカニクスを学ぶ際に求められる，力学や数学に関する基礎を理解する．		○			○		70
	□情意的領域								
	■技能的領域	数式を含むスポーツバイオメカニクスに関する文章が読み書きできる技能を習得する．		○			○		30

成績評価の基準	基本的に毎回出席をとる。出席が2/3以上の者について、試験の成績が60点を超えていることを合格の条件とする。 合格者に対して、試験の成績、小テスト等を勘案して、総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて授業時に資料配布 参考図書 スポーツバイオメカニクス (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)、化学同人 スポーツバイオメカニクス 完全準拠 ワークブック，化学同人		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	授業内容が不明な点があった場合は、随時自習によって補うこと。
オフィス・アワー	村田：随時　研究棟4階　404教員研究室 永原：随時　大学院棟3階　教員室1 成田：随時　研究棟8階　812教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	成田　健造	オリエンテーション 動作分析で前提となる知識 位置，速度，加速度の関係について	授業内容の復習（60分）
2	〃	関数とグラフ	授業内容の復習（60分）
3	〃	数値微分	授業内容の復習（60分）
4	〃	位置，速度，加速度の関係（1次元運動）	授業内容の復習（60分）
5	〃	テスト①	テスト範囲の復習（60分）
6	永原　隆	数値積分	授業内容の復習（60分）
7	〃	ベクトル	授業内容の復習（60分）
8	〃	弧度法，三角関数，極座標	授業内容の復習（60分）
9	〃	位置，速度，加速度（２次元運動の取り扱い）	授業内容の復習（60分）
10	〃	テスト②	テスト範囲の復習（60分）
11	村田　宗紀	微積分	授業内容の復習（60分）
12	〃	内積・外積	授業内容の復習（60分）
13	〃	角度，角速度，角加速度	授業内容の復習（60分）
14	〃	行列	授業内容の復習（60分）
15	〃	座標変換と座標系	授業内容の復習（60分）
16	〃	テスト③	テスト範囲の復習（60分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合演習Ａ (113A02300)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	松村　勲・小森　大輔・栗山　靖弘・青木　竜			補助担当者名	
単位数	２　単位	履修年次	1	受け入れ人数	100名
授業の概要	「総合演習A」では、大学で学ぶために必要なスキルと教養を身につけることを目指す。大学での学修には、「読む・聴く・書く・話す」ことの総合的な活用が必要になる。そのための基盤を形成し、大学での学びにスムーズに接続できるようにすることを目指した授業を行う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （キャリアデザイン力、課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	大学で必要とされるスキルや教養を身につけている。	○		○				30
	■情意的領域	他者の意見に耳を傾けて、コミュニケーションをとることができる。	○			○			30
	■技能的領域	情報を正確な読み取りや解釈、自分の意見の表現ができる。	○		○				40

成績評価の基準	授業での提出物、レポート、プレゼンテーションおよび話し合い等への参加を総合的に判断して評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	筒井美紀(2014)『大学選びより100倍大切なこと』ジャパンマニシスト社 →初回の授業までに必ず購入しておくこと。		
履修条件・ 関連科目	キャリアデザインⅠ	備考(教員メッセージ含む)	大学では、自分に必要な科目を履修し、単位を習得していくことになる。また、個々の授業では１つの「正解」を見つけたり、答えや公式を「暗記」するのではなく、自分なりのものの見方や考え方を形成することが重要である。大学のこのような特性に鑑み、本科目が設定されている。受け身ではなく、積極的な参加を期待する。
オフィス・アワー	松村：随時。事前にメールでアポをとること。 小森：随時。事前にメールでアポをとること。 栗山：随時。事前にメールでアポをとること。 青木：随時。事前にメールでアポをとること。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	松村　勲 小森　大輔 栗山　靖弘 青木　竜	オリエンテーション：人に何かを伝えるために	★指定されたテキスト（本）の購入が必要となります。
2	〃	読む・聴く・わかる(テキスト第２章)	テキストの予習・復習(30分)
3	〃	自力で問いを立て、自力で答えを出す(テキスト第1章)	テキストの予習・復習(30分)
4	〃	「好きなことなら続けられる」のか？(テキスト第3章)	テキストの予習・復習(30分)
5	〃	学ぶために必要な技術(テキスト第４章)	テキストの予習・復習(30分)
6	〃	大学でのリテラシー(テキスト第５章)	テキストの予習・復習(30分)
7	〃	大学での学び①	授業資料および内容の復習(30分)
8	〃	大学での学び②	授業資料および内容の復習(30分)
9	〃	時事・社会問題①	授業資料および内容の復習(30分)
10	〃	時事・社会問題②	授業資料および内容の復習(30分)
11	〃	時事・社会問題③	授業資料および内容の復習(30分)
12	〃	時事・社会問題④	授業資料および内容の復習(30分)
13	〃	プレゼンテーション①発表テーマの設定	授業資料および内容の復習(30分)
14	〃	プレゼンテーション②準備	プレゼンテーションの準備(60分)
15	〃	プレゼンテーション③全体での発表	授業全体の復習(60分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合演習Ｂ (113A02301)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	現在わが国が直面している少子・高齢化、国際化、情報化に関わる諸問題や学校におけるいじめや家庭における児童虐待、さらには環境問題など、解決すべき諸問題を考察することにより、受講生が総合的な視野や問題解決能力を身につけ、教員を目指す者としての資質を高めることを目標とする。 また、将来教員となった際に「総合的な学習の時間」などにおいて生徒に対して授業を行う際の指導方法・内容の習得に資する効果も期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	我が国が抱える社会問題の基礎知識を身に付ける。 我が国が抱える社会問題を考える視点を身に付ける。			○	○			90
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、授業での発表・レポート作成に積極的に取り組む。	○		○				10
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業での発表内容、毎回の授業時に課されるレポートへの取組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	学生各自が担当するテーマについての図書・新聞・雑誌などの資料を検索・収集することを原則とするが、担当教員からも適宜各テーマについての関連資料を提供する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	森：水曜日、木曜日の午後（５０８研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	少子・高齢化と社会保障改革　(1) 総論：活力ある少子・高齢社会	履修要項・シラバスの予習（10分以上）
2	〃	(2) 高齢者介護の現状と課題	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
3	〃	(3) 年金制度の現状と課題	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
4	〃	(4) 医療保険制度の現状と課題	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
5	〃	わが国財政の現状と行財政改革	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
6	〃	児童虐待への対応	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
7	〃	いじめ問題への対応	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
8	〃	体育・スポーツにおける指導者による体罰・虐待問題の現状と対策	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
9	〃	国際社会との共生	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
10	〃	環境問題　(1) ダイオキシン、環境ホルモン	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
11	〃	(2) ごみ問題と循環型社会	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
12	〃	(3) バイオハザード	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
13	〃	ＩＴ革命	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
14	〃	現代若者の職業意識：ニート、格差社会	配付資料の復習、授業での発表の準備（30分以上）
15	〃	まとめ	

授業科目名 (ナンバリングコード)	情報処理A (113A0-2202)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	和田　智仁			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	1クラス60名以内
授業の概要	コンピュータと通信ネットワークは現代社会に広く浸透し利用されている．学生生活においても情報の収集やレポート作成，各種手続きなどコンピュータと通信ネットワークの利用は欠かせない．また，デジタル社会の進展に対応するため，数理・データサイエンス・AIへの関心を高め，これらを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成しなければならない． 本授業では，個人のタブレットおよび情報処理演習室のパソコンを使用した演習を通じ，コンピュータと通信ネットワークに関する基本的な知識と利用方法，およびデータサイエンスの基礎を学ぶことを目的とする．また，情報倫理や大学の情報セキュリティポリシーについて理解し，それらに沿って行動できるようになることを目標とする． 本授業により，新入生が大学生活を送るうえで身につけておきたい情報技術と，それに関連する知識を習得できる．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理 （科学的表現力，専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	コンピュータと通信ネットワークの基本的な仕組みと特性について理解する． データサイエンス・AIの活用領域を知り，活用のための技術を理解する．	○	○	○		○		40
	■情意的領域	情報通信技術の活用に関心を持ち，主体的に情報を収集し，利用できる． 情報セキュリティ保全に関して積極的に参加できる．	○		○				15
	■技能的領域	目的に応じてオフィスソフトウェア等のアプリケーションを利用できる． 各種データの分析を行うことができる． 情報セキュリティに配慮した機器やシステムの利用ができる．	○	○	○		○		45

成績評価の基準	授業の際に提示される課題の実施状況(50%)，技能試験・期末試験(50%)によって評価を行う． なお，本授業では10 分間で日本語の文章300 文字以上を入力できるタイプ能力の習得を必須とする．		
テキスト、教材 参　考　書	保本正芳，基礎からはじめるデータサイエンス，noa出版． ※この教科書は翌年の情報処理Bでも使用予定です		
履修条件・ 関連科目	教科書，指定タブレットおよびキーボードを持参すること．	備考(教員メッセージ含む)	情報処理演習室の収容人数の都合により，演習の際は4クラスに分けて開講する． 詳細はWebClassに掲示するので，そちらを確認すること．
オフィス・アワー	事前連絡　研究棟4階　401教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田　智仁	授業ガイダンス，タブレットの各種設定とWebClassの利用	[授業前]タブレットの初期セットアップ（1時間） [授業後]情報処理演習室，タブレット，WebClassの利用方法の復習（1時間）
2	〃	クラウドサービスの利用と多要素認証・情報セキュリティ	[授業前]多要素認証に関するビデオ視聴．クラウドサービスの調査(1時間) [授業後]クラウドサービスの設定と利用を行う(1.5時間)
3	〃	社会で起きている変化・コンピュータ基礎(1)	[授業前]教科書Section 1の予習（1時間） [授業後]タイピング練習（1時間）
4	〃	スポーツデータとアプリケーション（データ・AI利活用の最新動向）	[授業前]スポーツ分野におけるデータ活用事例やアプリの調査を行う（1時間） [授業後]自身に関連するデータ活用事例やアプリの調査（1時間）
5	〃	データ活用を知る・社会で活用されているデータ～表計算ソフトの導入～	[授業前]アプリの準備，教科書Section 2の予習（1時間） [授業後]Excel課題（1時間）
6	〃	データ分析の基礎I・データの活用領域 ～表計算の基礎～	[授業前]教科書Section 3 Step2 Lesson1の予習（1時間） [授業後]授業内容の復習（1時間）
7	〃	データ分析の基礎II・データ活用のための技術 ～データベース活用・ピボットテーブル～	[授業前]教科書Section 3 Step2 Lesson2,3の予習（1時間） [授業後]授業内容の復習（1時間）
8	〃	データ分析の基礎III・データを守るうえでの留意事項 ～グラフ～	[授業前]教科書Section 3 Step2 Lesson4の予習（1時間） [授業後]授業内容の復習（1時間）
9	〃	インターネットとメール（データ・AI活用における留意事項）	[授業前]指示された資料・ビデオの確認（1時間） [授業後]復習，メールの作法確認（1時間）

10	〃	アカデミックライティング 〜文書作成ソフト導入〜	[授業前]授業スライドによる予習（1時間） [授業後]授業内容の復習・レポート作成（1時間）
11	〃	コンディション記録とタブレットの活用・データ・AI活用の現場	[授業前]スポーツ分野におけるクラウドサービスやアプリの調査を行う（1時間） [授業後]タブレット用アプリを自身の競技活動に活用する方法を検討しレポートにまとめる（2時間）
12	〃	アカデミックライティングII 〜レポートをまとめる〜	[授業前]授業資料を使ったの予習（1時間） [授業後]課題作成（1時間）
13	〃	データを表現する・プレゼンテーション基礎I	[授業前]教科書Section 5 Lesson 1,2の予習（1時間） [授業後]課題作成（1時間）
14	〃	データを表現する・プレゼンテーション基礎II	[授業前]オンラインプレゼンテーションの準備（1時間） [授業後]課題作成（1時間）
15	〃	総合演習（ワープロ・表計算連携，クラウド活用，データを守る上での留意事項）	[授業前]これまでの内容を全体的に復習する（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	情報処理Ｂ (113A0-2203)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	和田　智仁			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	１クラス60名程度
授業の概要	『情報処理A』で習得した知識・技能を発展させ，より実践的な情報処理能力と情報活用能力を習得し，数理・データサイエンス・AIへの関心を高めるとともに，これらを適切に活用する能力を高めることを目標とする． 授業では卒業研究に着手することを念頭に，資料の収集，統計処理の基礎やデータ解析のための計算技術，クラウドサービスの活用，タブレット活用，レポートや論文作成のための文書作成技術などについて解説するとともに，機器を使った演習を行う．特にデータ分析に関しては，実際のデータを用いた演習行う． 本授業により，大学における学習・研究活動に必要となる技能を習得できるとともに，社会での活動に役立つ情報処理・情報活用能力を習得できる．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、科学的表現力 （科学的支援力，専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	論文・レポートの目的や作成手法を理解し，説明できる． 研究資料の収集，整理方法について理解する． コンピュータを使った演算方法を理解する． クラウドサービスの特性や利用法を理解する．	○	○	○		○		50
	■情意的領域	探求心を持って情報の収集と整理に取り組む． 論理的思考を養い，課題解決に応用できる．	○						10
	■技能的領域	データを計算，表示し，分析する能力を持つ． オフィスソフトウェアの応用的な活用が可能になる． レポートなどの長文を構成・作成するための技術を持つ． クラウドサービスを利用できる．	○		○				40

成績評価の基準	レポート(70%)と期末テスト(30%)の評価により情報活用能力を総合的に判断し，評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	資料などは授業前にWebClassを通じて提供する． タブレットおよびキーボードは毎週持参すること．		
履修条件・ 関連科目	情報処理A を履修しておくこと	備考(教員メッセージ含む)	教室の収容人数の都合により，受講クラスを調整する場合があります．対象者には後期履修変更期間までに通知します．
オフィス・アワー	事前連絡　研究棟4階　401教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田　智仁	オリエンテーション（授業の進め方，クラウドサービスの利用），情報活用能力について考える	[授業前]タブレットの準備・ソフトウェア更新等（1時間） [授業後]クラウドサービスの利用手順確認（1時間）
2	〃	質問調査の分析I ～スポーツ庁世論調査から～	[授業前]スポーツ庁の調査結果を確認する（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
3	〃	質問調査の分析II ～基本統計量～	[授業前]データの分析方法を検討する（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
4	〃	質問調査の分析III ～ピボットテーブル～	[授業前]分析方法を検討する（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
5	〃	質問調査の分析III ～可視化～	[授業前]グラフを使った可視化について，資料を基に調査を行う（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
6	〃	時系列データ分析I	[授業前]モーションキャプチャーシステムについて授業スライドに基づいて調査する（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
7	〃	時系列データ分析II	[授業前]資料に基づき位置情報からの速度・加速度の算出方法を確認する（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
8	〃	時系列データ分析III	[授業前]資料に基づき位置情報からの角度・各速度の算出方法を確認する（1時間） [授業後]課題に取り組む（2時間）
9	〃	構造化された文書の作成I	[授業前]授業資料を使い予習を行う（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
10	〃	構造化された文書の作成II	[授業前]体育学研究の論文を探し書式を確認する．また投稿規定を確認する（1時間） [授業後]実際の論文を確認しながら授業内容を復習する（1時間）

11	〃	スポーツとICT（AIの活用）	[授業前]競技スポーツにおけるICT・AIの活用状況を調査する（1時間） [授業後]ICT・AIについて自身の競技で利用できることを実践する（1時間）
12	〃	プログラミングの基礎	[授業前]スライドに基づく予習を行う．（1時間） [授業後]プログラミング演習を行う（1時間）
13	〃	データ分析I（平均と標準偏差）	[授業前]授業スライドに基づき予習を行う（1時間） [授業後]課題に取り組む（1時間）
14	〃	データ分析II（正規分布・成績処理）	[授業前]授業スライドに基づき予習を行う（1時間） [授業後]課題に取り組む（2時間）
15	〃	総合演習	[授業前]これまでの授業内容を振り返り，学修内容を整理する（1時間） [授業後]試験対策を行う（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	情報処理C (113B0-2200)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	和田　智仁			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	40
授業の概要	本授業では，スポーツ科学研究におけるデータ処理を念頭に，プログラミングの基本とプログラミングによるデータ処理技術を取得することを目標とする． プログラミング環境としてはMATLABを使用する．また後半の演習では，モーションキャプチャー，フォースプレート，各種センサー等で各自が取得したデータを題材とした実践的な分析を試みる． また，画像解析領域での活用が進むAIを中心に，AIの活用領域，最新動向などを学ぶ．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	（科学的支援力，専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	情報のデジタル化手法を理解する． 記述されたプログラムを読み，理解できる． データの適切な表現方法を知る．	○		○	○			30
	■情意的領域	プログラミングに取り組むことができる． 問題解決を目指しあらゆる方法に取り組むことができる．	○		○	○			30
	■技能的領域	基礎的なプログラミングが可能となる． スポーツ科学データをコンピュータで取り扱うことができる． 自分の課題にコンピュータを活用できる．	○	○	○	○			40

成績評価の基準	□授業への取り組み状況（30%） □レポート等の提出状況（70%）を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	資料などは授業前にWebClassを通じて提供する．		
履修条件・ 関連科目	情報処理A, B を履修していること スポーツ科学関連のデータを取り扱うゼミナールに所属することが望ましいが，それに限定するものではない．	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	事前連絡　研究棟4階　401教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田　智仁	オリエンテーション（プログラミング言語）	プログラミング環境の構築 ・Mathworksアカウントの準備 ・MATLABインストール
2	〃	情報のデジタル化I(数値の符号化)	[授業前](1時間)数値の符号化手法について調査する [授業後](1時間)授業内容の復習
3	〃	情報のデジタル化I(標本化と量子化)	[授業前](1時間)授業資料に基づく予習 [授業後](1時間)授業内容の復習
4	〃	データの取り込みとプロットI	[授業前](1時間)授業資料に基づく予習 [授業後](1時間)授業内容の復習
5	〃	データの取り込みとプロットII（配列の取り扱い）	[授業前](1時間)授業資料に基づく予習 [授業後](1時間)授業内容の復習
6	〃	MatlabプログラミングI（基本構文）	[授業前](1時間)MATLAB Graderを使ったプログラミング演習 [授業後](1時間)MATLAB Graderを使ったプログラミング演習
7	〃	MatlabプログラミングII（関数）	[授業前](1時間)MATLAB Graderを使ったプログラミング演習 [授業後](1時間)MATLAB Graderを使ったプログラミング演習
8	〃	プログラム設計・フローチャート	[授業前](1時間)MATLAB Graderを使ったプログラミング演習 [授業後](1時間)MATLAB Graderを使ったプログラミング演習
9	〃	データ構造（配列，テーブル，セル配列）	[授業前](1時間)授業資料に基づく予習 [授業後](1時間)授業内容の復習
10	〃	テーブル変数への関数の適用	[授業前](1時間)『基礎からはじめるMATLABデータ解析入門』を視聴する [授業後](1時間)授業内容の復習
11	〃	データの可視化	[授業前](1時間)MATLABを用いた可視化の手法について調査する [授業後](1時間)データの可視化を実践する（レポート）
12	〃	画像解析とAI	[授業前](1時間)授業資料を使った予習 [授業後](1時間)AIを使った画像認識デモプログラムを実施する
13	〃	スポーツデータ処理演習I	[授業前](1時間)演習用データの収集 [授業後](1時間)データ処理
14	〃	スポーツデータ処理演習II	[授業前](1時間)データ処理 [授業後](1時間)発表準備
15	〃	データ処理結果発表会	[授業前](1時間)発表準備 [授業後](1時間)最終レポート作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	プレゼンテーション・討論Ⅰ (113A0-2304)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	脇谷　聖美			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	２年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	本授業は，自分の専門性や魅力など伝えたいことを相手の立場に立って自分の言葉で表現できるプレゼンテーションに関する基礎理論の理解および基本スキルを培うことを目的としている．具体的には，指導や支援の場面で活かせる相手の情況を聴き出すインタビュー・スキル，考えや専門性を伝える場面で活かせる相手を惹き付けながら理解・合意・行動へと導くプレゼンテーション・スキルなど，相互理解と円滑なコミュニケーションの力が身につく．テキストの事前精読を踏まえて，基礎理論と基本スキルは対話型講義と演習で理解し，演習は相互フィードバックをおこない自己課題を認知する．さらに，グループワークやグループディスカッションを通して，受講者間の相互理解と創造的かつ発展的な結論を出す討論の基礎力も身につくことも期待している．授業は集中授業で，２日間実施する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ 相手の情況を的確に把握するためのインタビューに関する理論を理解している． ・ 自分の考えを的確に相手に伝えるプレゼンテーションのシナリオを理論に基づいて作成できる．	○		○				30
	■情意的領域	プレゼンテーションや討論について興味・関心を持ち，それを積極的かつ受講生同士で協力して探求する．	○			○			20
	■技能的領域	・ 相手の情況を効果的に把握するインタビューができる． ・ 相手の立場に立って，自分の魅力や考えをプレゼンテーションできる． ・ 討論等で，その課題を達成できる．	○			○			50

成績評価の基準	授業の取り組みは，積極的な授業参加の状況，各演習（発表）と課題レポート等は課題に対する真摯な取り組み及び出来具合について，総合的に評価し，単位認定をおこなう．		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：書籍『パーフェクト・プレゼンテーション』 ＊必携，＊授業実施日までに事前購読（学内売店），＊事前精読を前提に授業をおこなう （八幡紘芦史著、アクセス・ビジネス・コンサルティング株式会社発行、本体価格@3000円） 参考資料等は，授業時に適宜配布する． 参考図書：書籍『自分の考えをしっかり伝える技術』（八幡紘芦史著、ＰＨＰ研究所発刊、本体価格@1200円） 書籍『話ベタでも100%伝わる「３」の法則』（八幡紘芦史著、ダイヤモンド社発刊、本体価格@1400円）		
履修条件・ 関連科目	２年次以上であること．	備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが，コミュニケーション力を効果的に方向付けるので履修することが望まれる また，テキスト精読前提で演習中心の授業をおこなうので，必ずテキストを準備し、精読をしておくこと．
オフィス・アワー	教務課・キャリア支援係へ相談下さい．適宜，担当教員との連絡調整をします（月～金，9:00～17:00）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	脇谷　聖美	オリエンテーション，プレゼンテーション演習，課題の抽出	テキスト第1～5章の事前精読（8時間）
2	〃	相手の情況を聴く，インタビュー演習，プレゼンテーション演習	
3	〃	伝わる基本構造，プレゼンテーション演習	
4	〃	相手の興味を惹く話の組み立て方，プレゼンテーション演習	課題レポートの取り組み（30分）
5	〃	稔りある討論の仕方，グループディスカッション演習	
6	〃	グループディスカッション演習，プレゼンテーション演習	
7	〃	プレゼンテーション演習	
8	〃	受講成果プレゼンテーション，相互評価，授業の振返り	テキスト再精読，日常での実践

授業科目名 (ナンバリングコード)	プレゼンテーション・討論Ⅱ (113A0-2305)	授業形態	演習	授業科目区分	一般科目 (総合科目)
担当教員名	脇谷　聖美			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3 年次	受け入れ人数	20人程度
授業の概要	本授業は，自分の専門性や魅力など伝えたいことを相手の立場に立って自分の言葉で表現できるプレゼンテーションおよび討論に関する理論の理解と実践的なスキルを培うことを目的としている．具体的には，研究・学会発表で的確に相手に伝わるプレゼンテーションのスキル，就職試験の面接や仕事など双方向なコミュニケーションが求められる中で参画型の活発な討論スキル，相手の興味を惹き付けながら理解を促進し，合意（賛同）を得て行動へ導くプレゼンテーションのスキルを身につける． テキストの事前精読を踏まえて，授業は演習中心で実施し，実践的スキル獲得へ相互フィードバックで自己課題を認識する． また，視覚資料の作成と活用を実習する．授業は集中授業で，２日間実施する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・自分の考えを的確に相手に伝えるプレゼンテーションのシナリオを理論に基づいて作成できる． ・プレゼンテーションや討論について分析・評価できる．	○		○				30
	■情意的領域	プレゼンテーションや討論について興味・関心を持ち，それを積極的かつ受講生同士で協力して探求する．	○			○			20
	■技能的領域	・ 双方向のコミュニケーションの中で，自分の魅力や考えを効果的にプレゼンテーションできる． ・ 討論等を行って，その課題を達成できる．	○			○			50

成績評価の基準	授業の取り組みは，積極的な授業参加の状況，各演習と課題レポート等は課題に対する真摯な取り組み及び出来具合について，総合的に評価し，単位認定をおこなう．		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：書籍『パーフェクト・プレゼンテーション』 ＊必携，＊授業実施日までに事前購読（学内売店），＊事前精読を前提に授業をおこなう （八幡紘芦史著、アクセス・ビジネス・コンサルティング株式会社発行、本体価格@3000円） 参考資料等は，授業時に適宜配布する． 参考図書：書籍『自分の考えをしっかり伝える技術』（八幡紘芦史著、ＰＨＰ研究所発刊、本体価格@1200円） 書籍『話ベタでも100%伝わる「３」の法則』（八幡紘芦史著、ダイヤモンド社発刊、本体価格@1400円）		
履修条件・ 関連科目	３年次以上であること． 「プレゼンテーション・討論Ⅰ」を履修していることが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが，卒論研究発表や就職活動の面接等を効果的に方向付けるので履修することが望まれる また，テキスト精読前提で演習中心の授業をおこなうので，必ずテキストを準備し、精読をしておくこと
オフィス・アワー	教務課・キャリア支援係へ相談下さい．適宜，担当教員との連絡調整をします（月～金，9:00～17:00）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	脇谷　聖美	オリエンテーション，理解度テスト，プレゼンテーション演習，課題の抽出	テキスト第1～9章の事前精読（15時間）
2	〃	伝わる構造と話しの組み立て方， プレゼンテーション演習	
3	〃	グループディスカッション演習，参画型の活発な討論の仕方	
4	〃	グループディスカッション演習，参画型の活発な討論の仕方	課題レポートの取り組み（30分）
5	〃	効果的な伝え方と視覚資料（スライド）活用，プレゼンテーション演習	
6	〃	プレゼンテーション演習，シナリオ作成と添削	
7	〃	プレゼンテーション演習，視覚資料（スライド）の作成と添削，リハーサル	
8	〃	受講成果プレゼンテーション，相互評価，授業の振返り	テキスト再精読，日常での実践

キャリア形成科目

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアデザインⅠ	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	中村　勇・キャリア形成支援室			補助担当者名	特任助教（予定）
単位数	2　単位	履修年次	1	受け入れ人数	小クラス12人程度
授業の概要	本授業では、新入生が本学で学生生活を送る上で必要不可欠な情報や知識（認知）、スキル（技能）、マナー（態度）の修得を目指すとともに、各自の将来をみすえたキャリアプランを構想するための基礎的な考え方や態度を身につけることを目的としている。具体的には大学生活等の情報収拾、授業レポートの作成、各課題の作成や発表を行う。本授業を通して、一年次に最低限必要な情報や知識が獲得できるとともに、自己分析力や自己表現力の基礎が構築されることを期待している。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、キャリアデザイン力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	本学の教育方針について理解できる 本学での学び方について理解し活用できる	○		○	○			45
	■情意的領域	自分自身や他学生の大学生活について興味関心を持ち、積極的にコミュニケーションを図ること、仲間と協力して情報を探求することができる	○		○	○			30
	■技能的領域	レポート作成やプレゼンテーションの基礎的な技能を学び、表現することができる	○		○	○			25

成績評価の基準	授業参加、レポート、プレゼンテーション、授業ノートについて評価し、6割以上を合格とします。原則として1／3以上の欠席がないこと。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト・教材は授業時に紙媒体やWebClass等でのデジタル媒体で配付します		
履修条件・ 関連科目	1年次、前期に履修すること	備考(教員メッセージ含む)	●本授業は学内外から様々な講師を招くためシラバスで提示したスケジュールが前後する場合があります。 ●また全体授業と小クラス単位での授業の2通りのスタイルで行うので、次回の授業場所や内容について掲示やWeb Class、クラスメートを通じて確認しておくこと。
オフィス・アワー	キャリア支援係：月～金　9時～17時 中村勇：木曜日　12時ー13時（会議等で変更あり） 小クラス担当教員の時間はそれぞれ確認すること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇 キャリア形成支援室	オリエンテーション	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
2	〃	自分の強みを測る	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
3	〃	健康な学生生活を送る（1）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分
4	〃	健康な学生生活を送る（2）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
5	〃	基本的なレポートの書き方を学ぶ	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
6	〃	基本的なプレゼンテーションの仕方を学ぶ	プレゼンの準備を行う（最低30分）
7	〃	自分史を振り返る（1）	プレゼンの準備を行う（最低30分）
8	〃	自分史を振り返る（2）	プレゼンの準備を行う（最低30分）
9	〃	キャンパスライフを考える（1）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
10	〃	キャンパスライフを考える（2）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
11	〃	キャンパスライフを考える（3）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
12	〃	【全体】自分の強みを知る（PROGテストのフィードバック）	授業資料を復習し次回の予習を行う（最低30分）
13	〃	キャンパスライフをデザインする（1）	プレゼンの準備を行う（一時間程度）
14	〃	キャンパスライフをデザインする（2）	プレゼンの準備を行う（最低30分）
15	〃	キャリアデザインⅠのまとめ	ここまでの生活を振り返り課題に取り組む（一時間程度）

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアデザインⅡ (121A0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	キャリア形成支援室・金高　宏文			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180名
授業の概要	本授業では、キャリア形成に関わる基礎的・汎用的能力の段階的修得を目指すとともに、キャリアを考える上で一つの柱となる体育・スポーツにおける「専門性」（大学で何を学び、身につけるか）を考えるために、体育・スポーツにおける専門分野の知識や技能（ゼミナール情報を含む）の理解とその専門性がどのように実社会や職業で生かされていくのかについて考え、選択する力が身につくことを期待している。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・体育・スポーツの専門領域（学問・研究体系）について理解し，自分自身の研究の志向性を表現することができる。 ・自分自身の強みを表現できる。	○		○				60
	■情意的領域	・情報提供者について興味・関心を持ち、テーマについて積極的に探求できる。 ・キャリア形成について必要な情報を積極的にかつ協力的に収集できる。	○						20
	■技能的領域	・演習等で円滑なコミュニケーションを行うことができる。 ・演習等で自分自身の考えを整理し，表現できる。	○						20

成績評価の基準	授業の取組みは、授業への積極的な準備（宿題）や授業態度及び課題に対する真摯な取組み及び説明力について（5点×8回＝40点）、課題レポート等については内容の妥当性を評価し、単位認定を行う。		
テキスト、教材 参　考　書	i-Padを持参すること．授業で必要な資料は，「WebClass」よりダウンロードすること． 参考図書は、授業時に推薦する。		
履修条件・ 関連科目	１年次であること（２年次以上の履修は原則認めない）．	備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが、ゼミや職業の選択を効果的に方向づける内容であるため履修することが望まれる。
オフィス・アワー	教務課キャリア支援室へご相談ください。適宜、担当教員と連絡調整します。（月～金、９：００～１７：００）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	キャリア形成支援室 金高　宏文	オリエンテーション、体育・スポーツにおける「専門性」と職業選択との関わり（先輩の講話）	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
2	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る①（体育科教育学、体育心理学） 将来の職業を考えるために･･･自己・他己分析から、自分の強み・弱みを考える	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
3	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る②（体育経営管理、体育方法） 将来の職業を得るために･･･自分をアピールする（履歴書等の作成）のポイント	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
4	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る③（運動生理学、バイオメカニクス） 将来の職業を得るために･･･大学４年間で達成すべき課題を考える①	WebClassにより復習と宿題（30分以上） レポート課題１（30点）の提出 （15分以上）
5	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る④（測定評価、発育発達、体育社会学） 将来の職業を得るために･･･大学４年間で達成すべき課題を考える②	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
6	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る⑤（介護福祉・健康づくり、保健、アダプデッド・スポーツ科学、体育哲学、体育史、スポーツ人類学） 将来のキャリア等を考えるために･･･資格取得を考える	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
7	〃	体育・スポーツの専門領域等を知る⑥（補足） 将来のキャリア等を考えるために･･･インターンシップ等を考える	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
8	〃	将来のキャリア等を考えるために･･･専門領域やゼミナールの選択を考える 学習の振り返り	レポート課題２（30点）の提出（15分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアデザインⅢ (121A0-3301)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	キャリア形成支援室・金高　宏文・国重　徹・中村　勇			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	120名
授業の概要	本授業では、キャリアデザインⅠ・Ⅱで修得した基礎的な自己分析力、自己表現力を活かし、キャリア形成に関する情報（知識）やスキル（技能）、マナー（態度）の段階的修得を目指すとともに、他者理解を促す考え方や態度を身につけることを目的とする。具体的には、上級生や社会人とのインタビューワーク（交流）と受講生によるグループディスカッション（GD)により職業選択に関わる業界情報の収集、他者の立場に応じた自己表現力（ドキュメンテーションスキル・コミュニケーションスキル等）の育成を行う。本授業を通して、大学生活におけるキャリア形成に必要な知識やマナーが獲得できるとともに、他者の立場に適応した自己表現力が構築されることを期待している。授業は12ー2月で、8回開講する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、キャリアデザイン力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・就職活動を含めたキャリア形成の流れをインタビュー等により情報を収集し，理解する。 ・職種と業界研究ができる。			○				50
	■情意的領域	・同級生、上級生、ＯＢ・ＯＧ、社会人のキャリアデザインについて興味・関心を持ち、積極的に探求できる。 ・キャリア形成について必要な情報を積極的にかつ協力的に収集できる。 ・各交流会に対し、積極的かつ協力的に参加することができる。	○						50
	■技能的領域	・定められた時間内でテーマに沿った話し合いを行うことができる。 ・身近な他者の意見を聞き、状況を把握して自分の意見を言うことができる。 ・考えたり、話し合った内容を集約し、要約や感想を書くことができる。	○						

成績評価の基準	授業の取組みは、授業への積極的な準備（宿題）や授業態度及び課題に対する真摯な取組み及び説明力について（6点×7回＋8点）、課題レポート等（50点）については内容の妥当性を評価し、単位認定を行う。		
テキスト、教材 参　考　書	i-Padを持参すること．授業で必要な資料は，「WebClass」よりダウンロードすること．		
履修条件・ 関連科目	２年生以上であること	備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが、職業の選択、就職活動を効果的に方向づける内容であるため履修することが望まれる
オフィス・アワー	教務課キャリア支援係へ相談ください。適宜、担当教員と連絡調整します。（月～金、９：００～１７：００）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	金高　宏文 国重　徹 中村　勇	オリエンテーション GD仕事と社会について①：職種と業界・職場研究①(学外講師)	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
2	〃	仕事と社会について②：職種と業界・職場研究②(学外講師）+GD	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
3	〃	仕事と社会について③：職種と業界・職場研究③+GD	★レポート課題１（20点）提出 WebClassにより復と宿題（30分以上）
4	〃	多様な働き方、社会でのスポーツとの関わりを考える①：（OB・OG講話１）	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
5	〃	多様な働き方、社会でのスポーツとの関わりを考える②（OB・OG・4年生講話２）＋GD	WebClassにより復習と宿題（30分以上） ★レポート課題２（20点）提出
6	〃	ビジネスマナー演習：学外講師による着こなしチェック等	WebClassにより復習と宿題（30分以上）
7	〃	大学生の職業選択：4年生（15名程度）との交流会（インタビュー）	WebClassにより復習と復習（30分以上）
8	〃	授業の振り返りのグループディスカッションと授業評価	WebClassにより復習と宿題（30分以上） ★レポート課題３（10点）提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアセミナー (121A0-3302)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	キャリア形成支援室・金高　宏文・国重　徹・隅野　美砂輝			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	80名程度
授業の概要	本授業では、制定された教育目標、カリキュラムポリシーに基づいた「キャリア形成に関わる基礎的・汎用的能力の段階的修得及び各自の進路（職業）選択に必要な情報やスキル、マナーの修得を目指すとともに、幅広い職業観が獲得できること」を目標としている。具体的には、進路選択に関する情報収集、履歴書・エントリーシートの作成・説明、採用活動動向や業界研究等に関する基礎知識の概説、基本的な面接対策（特に、プレゼンテーション）等を行う。本授業を通して、進路（職業）選択に必要な知識やマナーが獲得できるとともに、幅広い職業観を持って将来に向けて主体的に行動できることを期待している。なお、新型コロナウイルスの感染状況により、対面授業が難しいと判断した場合は、オンラインによる遠隔授業とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・進路志望先について説明できる ・就職活動において必要な履歴書作成のポイントを理解し、自分自身の強みを効果的に説明できる。			○				50
	■情意的領域	・上級生やOB・OG、企業人等の職業選択や現在の職場状況について興味・関心を持ち、積極的に探求すること、情報を有効的に仲間と共有することができる。	○						32
	■技能的領域	・与えられた期間・時間内に、プレゼンテーションの準備や発表、グループディスカッションを積極的に行うことができる。 ・授業で実施した内容の要約や、感想を書くことができる。				○			18

成績評価の基準	授業の取組みは、授業への積極的な参加や授業内レポートの提出（4点/回×8回＝32点）、プレゼンテーション及び準備／振り返り（18点）、課題レポート等の提出（50点）に対する真摯な取組みについて総合的に評価し、単位認定を行う。（オンラインによる遠隔授業になった場合は、グループやペアによるディスカッション、プレゼンテーションなども遠隔で行うか、変更の可能性あり。）		
テキスト、教材 参　考　書	適宜必要な資料を配付する。毎回資料を配付するが、詳しい資料は「Web-Class」より授業後にダウンロードすること。参考図書は適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	履修条件：３年次以上であること。関連科目：キャリアデザインⅢ、キャリア対策セミナー、キャリアコミュニケーション	備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが、職業選択や就職活動を効果的に方向づけるので是非とも履修してください。
オフィス・アワー	木曜日 昼休み及び12:40～13:00 国際交流センター２階　国重研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	キャリア形成支援室 国重　徹	・授業ガイダンス（職業志望コースの調査） ・履歴書（片面）・自己ＰＲ文・志望動機の書き方	WebClassによる復習（10分）、履歴書（片面）作成（60分）、自己PR文（1回目）の作成（60分）
2	〃	・自己PR文の発表・ブラッシュアップ ・グループディスカッション：自己PR文の発表とブラッシュアップ	WebClassによる復習（20分）、自己PR文の修正（60分） 課題１：履歴書（片面）＋自己PR文（1回目）提出
3	〃	・業界・職種及び志望先研究の方法（外部講師もしくは4年生の話）	WebClassによる復習（20分）、志望先を研究しレポートを作成（30分） 課題２：自己PR文（2回目：修正したもの）を提出
4	〃	・業界・職種及び志望先について説明する ・グループディスカッション：志望先の説明	WebClassによる復習（20分）、志望動機（１回目）を作成（60分） 課題３：志望先研究の提出
5	〃	・面接や発表等で大切なポイント：OB・OGによる講話、Ｑ＆Ａ ・グループディスカッション：志望動機の発表とブラッシュアップ	WebClassによる復習（20分）、志望動機の修正、志望動機と自己PRの発表練習（40分） 課題４：志望動機（1回目）の提出
6	キャリア形成支援室 金高　宏文 国重　徹 隅野　美砂輝	・発表①：グループ毎に志望先、志望動機、自己ＰＲを発表する。4分（3分発表＋1分質疑）×15人×3グループ	WebClassによる復習（20分）、発表の練習（40分）
7	〃	・発表②：グループ毎に志望先、志望動機、自己ＰＲを発表する。4分（3分発表＋1分質疑）×15人×3グループ	WebClassによる復習（20分）
8	キャリア形成支援室 国重　徹	・グループディスカッション演習④ ・授業のまとめ：振り返りと授業評価	WebClassによる復習（20分） 課題５：志望動機（２回目：修正したもの）を提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリアコミュニケーション (121A03303)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	野中　千尋			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	社会で活動するためには、主体性・多様性・協働性が必要である。これらを念頭に、互いの違いを認め合いあよりよい人間関係を築き活動するためのコミュニケーション力が求められている。そのため、本授業では、講義と演習をとおして、学生から社会人・組織人に至るコミュニケーションの取り方・関わり方を具体的に学んでいく。 これにより、「コミュニケーションの必要性とその表現についてわかった」から、「社会人としてのコミュニケーションがとれる」を目指し、インターンシップ・実習・就職活動・就職（社会人）・アスリート・進学・留学に向けて自信をもって臨むことを期待している。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力 （コミュニケーション力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・コミュニケーションの必要性と表現について理解できる。 ・理解したことを、具体的にレポートにできる。			○		○		70
	■情意的領域	・演習中、グループ内で協働性を大切にしながら意見交換をするなど積極的に取り組める。	○						10
	■技能的領域	・学内外の人と、非言語・言語のコミュニケーションをよりとれるようになる。	○		○				20

成績評価の基準	・各回の出席兼確認シートの提出・記入状況、課題（履歴書・レポート）の提出・記入状況、積極的な授業態度・学期末試験の結果 以上4点を総合的に評価し、60点以上を単位認定とする。		
テキスト、教材 参　考　書	・毎回、資料を配付する予定。（各自で、綴じ込み用ファイルを準備すること。）		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	・授業時間外に、レジュメを参考に復習や実践をすること。 ・課題提出については、事前にテーマ等を連絡する。
オフィス・アワー	質疑は、授業後若しくはWebclass内のメールにて受け付けます。　　名前：野中　千尋		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	野中　千尋	授業ガイダンス（講義・演習の概要　心構え　成績評価等）・私たちに求められていること	
2	〃	コミュニケーションの基本①　～声と言葉で関係を作る電話対応（様々なシーンより）	レジュメを参考に実践（３０分）
3	〃	会いたくなる履歴書（履歴書作成におけるポイントの説明）	履歴書をを作成（3時間）
4	〃	社会人と学生との違い　　第一印象の影響	履歴書提出・レジュメを参考に復習（30分）
5	〃	コミュニケーションの基本②　～相手の心に寄り添う表情（様々なシーンより）	レジュメを参考に実践（３０分）
6	〃	コミュニケーションの基本③　～心をつかむ身だしなみ（様々な業種より）	レジュメを参考に実践（３０分）
7	〃	コミュニケーションの基本④　～心にせまる挨拶・お辞儀（様々なシーンより）	レジュメを参考に実践（３０分）
8	〃	コミュニケーションの基本⑤　～思いが伝わる言葉づかい（様々なシーンより）	レジュメを参考に実践（３０分）
9	〃	コミュニケーションの基本⑥　～相手に応える態度・姿勢（様々なシーンより）	レジュメを参考に実践（３０分）
10	〃	コミュニケーションの基本⑦　～形式・ルールを抑えたビジネス文章	レポート提出・レジュメを参考に実践（３０分）
11	〃	コミュニケーションの基本⑧　～互いを大切に名刺の受け渡し・お茶のいただき方	レジュメを参考に復習（３０分）
12	〃	コミュニケーションの基本⑨　～次回つながる訪問の仕方	レジュメを参考に復習（３０分）
13	〃	コミュニケーションの基本⑩　～信頼を深める報告・連絡・相談	レジュメを参考に実践（３０分）
14	〃	それぞれが拓くキャリアコミュニケーション	レジュメを参考に実践（３０分）
15	〃	コミュニケーションに活かすサービス・ホスピタリティー	レポート提出・レジュメを参考に実践（３０分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	企業実習 (121A0-6300)	授業形態	実習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	キャリア形成支援室・金高　宏文・前田　博子			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2～3年次	受け入れ人数	30名
授業の概要	本実習では，自らの関心や将来の進路希望に応じて，企業，行政機関，非営利団体等の現場において就業体験を行うことによって，自己の職業適性やキャリアデザインにおける職業選択について深く考える契機となり，高い職業観や就業観の涵養や時代の変化に対応できる基礎的・汎用的能力が育成されることを期待している．実習は，原則として２年次が冬期・春期休業期間中，３年次では夏期・冬期・春期休業期間中に行うものとする．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、キャリアデザイン力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・訪問先の選択及び企業研究を行う（企業研究の作成）． ・就業体験を記述・説明する（実習日誌の作成）． ・就業体験を分析・評価する（所感文等の作成）．			○	○		○ (大学評価)	60
	■情意的領域	・事前の訪問先の選択，企業研究，実習準備を主体的，積極的に行うことができる． ・就業体験を主体的，積極的かつ協力的に取り組むことができる． ・実習後に就業体験について真摯に振り返ることができる．	○					○ (大学及び実習先評価)	20
	■技能的領域	・ビジネスマナー及び一般常識を身につける． ・社会人との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○					○ (実習先評価)	20

成績評価の基準	設定された就業体験の日数に参加することを条件に，事前準備や企業研究等（30点），実習日誌（20点），事後報告や所感文等（20点）及び実習先の評価（30点）の各得点を合計し，60点以上のものを合格とする．		
テキスト、教材 参　考　書	本学作成の「企業実習の手引き」等を配付． 参考図書は，授業時に推薦する．		
履修条件・ 関連科目	2年次は30単位，3年次では60単位を取得していること． 2年次はキャリアデザインⅢを，3年次ではキャリアセミナー及びキャリア対策セミナーあるいはキャリアコミュニケーションを履修することが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	選択科目であるが，職業の選択，就職活動を効果的に方向づける内容であるため履修することが望まれる。 ○実務経験のある教員による授業科目：スポーツ関連企業等の職員が実習を担当
オフィス・アワー	教務課キャリア支援係へ相談ください．適宜，担当教員と連絡調整します（月～金，9:00～17:00）．		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	キャリア形成支援室 金高　宏文 前田　博子	オリエンテーション：企業等実習の意義・目的・内容	WebClassにより復習
2	〃	訪問先の選択及び企業等研究	企業等研究レポートの作成
3	〃	事前準備（履歴書の作成，挨拶状の作成，実習計画の作成：課題設定等）	事前準備の資料等作成
4	〃	企業等実習受け入れ先等からの講話とグループディスカッション	WebClassにより復習
5	〃	就業体験（1単位：1週間）	実習日誌の作成，挨拶状の作成
6	〃	就業体験の分析・評価および今後の展望	所感文の作成
7	〃	事後報告①（就業体験の発表会等）	発表資料の作成
8	〃	事後報告②（就業体験の発表会等）	WebClassにより復習

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリア対策セミナー（教員） (121A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	森　克己・浜田　幸史・中本　浩揮・栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100
授業の概要	この授業では,公立学校を中心とする教員採用試験の過去問題の傾向と対策を解説することにより,教員試験に合格するための勉強方法,受講生が勉強を進める上での基本的な知識や態度を身につけることを目標とする。具体的には,採用試験の模擬問題の正答率が60％以上に高まることを期待している。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力、一般教養・倫理 （コミュニケーション力）	授業期間				定期試験	その他	割合％
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・受験希望する県や学校の採用条件や採用状況をﾚﾎﾟｰﾄする。 ・教員採用試験の過去問題の傾向を整理する。 ・採用試験の問題を解ける。		○	○				60
	■情意的領域	・教員志望の動機やその仕事の意味・意義について自分なりの答えを持てるようになる。 ・採用試験に向けた継続的な学習態度を身に付ける。	○		○				40
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業の取り組みは学習コメントと参加状況（毎回5点×8回＝40点）、課題レポート（10点）、模擬テスト（50点）の達成度を総合的に評価し、単位認定する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは,『教員採用試験（よくわかる）教職教養　基礎基本　完全マスター』（東京アカデミー,1,000円）『オープンセサミシリーズ　2022年度教員採用試験ステップアップ問題集⑧中学・高校保健体育』（東京アカデミー,1,680円）。参考図書として,2022年度版教員採用試験Twin Books完成シリーズ「教職教養の要点理解」（時事通信社1,400円）・同完成シリーズ②「教職教養の演習問題」（時事通信社1,400円）,Basic定着シリーズ「よくわかる中高保健体育」（時事通信社,1,680円）,月刊「教員養成セミナー」（時事通信社）,月刊「教職課程」（協同出版）を薦める。		
履修条件・ 関連科目	「キャリアセミナー」「キャリアコミュニケーション」を受講し,教職関連科目を受講すること。	備考(教員メッセージ含む)	必ず予習・復習をすること。
オフィス・アワー	森：水曜日の午後（５０８研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	「キャリア対策セミナー」受講ガイダンス及び事前の模擬テスト(教職教養と専門教養)	参考書・資料等の予習（30分以上）
2	浜田　幸史	専門教養（保健体育、学習指導要領）の過去問題の傾向と対策	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
3	森　克己	教職教養（教育法規）の過去問題の傾向と対策①	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
4	栗山　靖弘	教職教養（教育原理・教育史）の過去問題の傾向と対策①	参考書・資料等の予習・復習、課題レポート（10点）の作成（60分以上）
5	〃	教職教養（教育原理・教育史）の過去問題の傾向と対策②	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
6	中本　浩揮	教職教養（教育心理）の過去問題の傾向と対策、交流授業	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
7	森　克己	小論文（いじめ、不登校、保護者対応）の過去問題の傾向と対策	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）
8	中本　浩揮	模擬テストとその解説（教職教養・専門教養）	参考書・資料等の予習・復習（30分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリア対策セミナー（一般企業） (121A0-2301)	授業形態	演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	隅野　美砂輝・金高　宏文・国重　徹			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	60名程度
授業の概要	この授業は、企業で働くことを志望する学生を対象に、企業に関する知識、採用試験への対策、社会人基礎力等を高めることを目指して実施する。毎時の課題レポート提出、プレゼンテーション、グループワーク等を柱に、キャリアデザイン力や一般教養・倫理が身につくことを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力、一般教養・倫理 （コミュニケーション力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・受験希望する企業や業界の特性や採用条件や状況を理解する。 ・企業の採用試験の過去問題の傾向を理解する。			○				56
	■情意的領域	・志望の動機やその仕事の意味・意義について自分なりの答えを持てるようになる。 ・採用試験に向けた継続的な学習態度を身に付ける。	○						24
	■技能的領域	・一人でのプレゼンテーション，集団での討論や意見交換ができるようになる。				○			20

成績評価の基準	授業の取り組みは学習コメントと参加状況（3点×8回＝24点）、採用試験で求められる知識・態度の獲得度は課題レポート（7点×8回＝56点）、グループ面接等（20点）の成績の達成度を総合的に評価し、単位認定する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書として、「この業界・企業でこの「採用テスト」が使われている！」（SPIノートの会、1,944円）を薦める。		
履修条件・ 関連科目	「キャリアセミナー」「キャリアコミュニケーション」を受講していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	毎回の課題レポート（7点×8回＝56点）は大変ですが、これをうまく活用し、継続的な学習態度が身につくことを期待しています。
オフィス・アワー	キャリア形成支援室：水曜日　16：00～17：00		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	隅野　美砂輝 金高　宏文 国重　徹	受講ガイダンス，筆記試験対策（ウェブテスト）	課題レポートの作成（1時間）
2	〃	企業で求められている人材とインターンシップ	課題レポートの作成（1時間）
3	〃	企業で求められている人材と採用試験	課題レポートの作成（1時間）
4	〃	面接試験の傾向と対策（概要）	課題レポートの作成（30分）ウェブテストを各自受験（1時間）
5	〃	面接試験の傾向と対策（グループディスカッション）1	課題レポートの作成（1時間）
6	〃	面接試験の傾向と対策（グループディスカッション）2	課題レポートの作成（1時間）
7	〃	面接試験の傾向と対策（グループ面接）1	課題レポートの作成（1時間）
8	〃	面接試験の傾向と対策（グループ面接）2	参考書・資料等の予習・復習（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	キャリア対策セミナー（公務員） (121A0-2302)	授業形態	演習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	森　博嗣			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100
授業の概要	この授業では、都道府県及び市町村職員（消防、警察を含む）を中心とする公務員採用試験の過去問題の傾向と対策を解説することにより、公務員試験に合格するための勉強方法、受講生が勉強を進める上での基本的な知識や態度を身につけることを目標とする。具体的には、採用試験の模擬問題の正答率が60％以上に高まることを期待している。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	キャリアデザイン力、一般教養・倫理	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・受験希望する職種の採用条件や採用状況をﾚﾎﾟｰﾄする。・公務員採用試験の過去問題の傾向を整理する。・採用試験の問題を解ける。		○	○				65
	■情意的領域	・公務員の志望の動機やその仕事の意味・意義について自分なりの答えを持てるようになる。・採用試験に向けた継続的な学習態度を身に付ける。	○						35
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業の取り組みは学習コメントと参加状況（5点×7回＝35点）、採用試験で求められる知識・態度の獲得度は毎授業の復習ノートの作成（5点×7回＝35点）、課題レポート（10点）、模擬テストの成績及び作文提出（20点）の達成度を総合的に評価し、単位認定する。		
テキスト、教材 参　考　書	毎回練習問題を配付するのでテキストは不要であるが、A4ノートを準備すること。参考書として、2022年度版市役所上・中級教養・専門試験過去問500を薦める。（実務教育出版　2750円）		
履修条件・ 関連科目	「キャリアセミナー」「キャリアコミュニケーション」を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	授業を通じて、自分自身の公務員対策ノートを完成させよう！　それには継続的な復習と自己学習が重要！ ※復習ノートにより、授業後の自習活動を確認する（5点×7回＝３５点） ○実務経験のある教員による授業科目：公務員専門学校経営者
オフィス・アワー	キャリア形成支援室（キャリア支援係）：水曜日　16：00 ～17：00		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　博嗣	「キャリア対策セミナー」受講ガイダンス	各自希望する公務員採用試験の募集要綱の確認をする。１時間
2	〃	公務員採用試験の傾向と対策（基礎編１）　※	授業の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。１時間
3	〃	公務員採用試験の傾向と対策（基礎編２）　※	授業の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。１時間
4	〃	公務員採用試験の傾向と対策（実戦編１）　※	授業の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。１時間
5	〃	公務員採用試験の傾向と対策（実戦編２）　※	授業の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。１時間
6	〃	公務員採用試験の傾向と対策（実戦編３）　※	公務員模擬試験に向けて総復習、対策ノートの提出をする。２時間
7	〃	模擬テスト（20点）と解説　※	模擬試験の復習及び宿題を公務員試験対策ノートにまとめて提出する。１時間
8	〃	公務員採用試験に向けてのすべきこと（作文提出、面接練習）※	面接事項の確認、エントリーシートの記入方法などを練習する。１時間

授業科目名 (ナンバリングコード)	ボランティア活動 (121A0-6302)	授業形態	実習	授業科目区分	キャリア形成科目 (ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ科目)
担当教員名	教務委員会			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	社会の一員であることを自覚し、社会奉仕の大切さや個人の尊厳、社会連携の理念について認識を深めるために、自発的に、かつ、報酬を得ないで、社会に貢献する活動を実際に体験する。 活動内容は、①被災者への支援活動、②中・高等学校（出身校等を除く。）での指導支援活動、③学外者が主催する公開講座での指導支援活動、④学外者が主催する各種イベント等の支援活動、⑤その他社会に貢献する活動とする。ただし、親族への支援活動並びに生涯スポーツ指導実習及び介護等体験における活動は含めない。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、一般教養・倫理 （課題解決力）							
	□認知的領域								
	■情意的領域	人の痛みや社会奉仕の大切さを理解し、人間一人ひとりが違った能力や個性を有していること、社会の一員であることを再認識することによって、自分自身について再認識する契機となり、将来の目標設定や思いやりのある、人の痛みのわかる人間の育成に役立てる。			○			○ (計画書等)	100
	□技能的領域								

成績評価の基準	ボランティア活動計画書、活動報告書、証明書及びレポートを総合的に評価し、単位の認定を行う。 成績の評語は「合格」とし、活動終了時の学年及び学期に単位の認定を行う。		
テキスト、教材 参　考　書	特になし。		
履修条件・ 関連科目	事前に履修登録を行い、ボランティア活動計画書は、活動開始日の1週間前までに提出するものとする。 活動計画書及び報告書の作成にあたっては、クラス担当教員又は指導教員の所見及び教務委員会委員長又は副委員長の確認を要する。 活動にあたっては、事前にボランティア活動賠償責任保険（学生課の窓口で手続き）に加入すること。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー			

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	教務委員会	ボランティア活動計画書の作成・提出	
2	〃	ボランティア活動	
3	〃	活動報告書・レポートの作成、証明書の提出	

専　門　科　目

授業科目名 (ナンバリングコード)	解剖生理学 (131A0-1300)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	與谷　謙吾			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	―
授業の概要	解剖生理学は身体の一般的な「構造」や「機能」を把握する学問であり、その基準(一般)となる知識を理解することで対照的な症状等の理解へも繋げることができる。そのため、本講義では「かたちが解ればはたらきが見えてくる」という格言を軸に身体の各構成要素を器官、組織、細胞レベルの順に講義していく。人体の基礎的知識を身につけることで、将来ヒトを看る・指導する体育指導などの分野に役立つと期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	人体の仕組み(構造・機能)を系統的に理解できるようになる					○		100
	□情意的領域								
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業中に解説・紹介した解剖生理学の知識に関する理解度を筆記試験によってのみ評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	・参考書：「解剖生理学」（高野廣子 著、南山堂）ISBN: 4-525-60081-0 ・参考書：「ぜんぶわらかる人体解剖図」（坂井建雄、橋本尚詞 著、成美堂出版）ISBN:978-4-415-30619-3 ・配布資料：講義内容に応じて適宜配布する。		
履修条件・ 関連科目	運動生理学を履修予定の学生は本講義を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	本講義では、私語等による授業妨害はマイナス評価で取り扱う。
オフィス・アワー	與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	與谷　謙吾	オリエンテーション：かたち(解剖)とはたらき(生理)	今後の講義予定を確認し、来週以降から実施するテーマについて情報収集する。(1時間)
2	〃	外部からみた人体の構造（上肢や下肢などの人体の名称について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
3	〃	内部からみた人体の構造（内臓の名称や位置について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
4	〃	人体の器官系①：呼吸・循環器（ガス交換や動脈・静脈などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
5	〃	人体の器官系②：消化器（食道から肛門までの消化・吸収などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
6	〃	人体の器官系③：泌尿器（水分調節や尿生成について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
7	〃	人体の組織①：骨（関節の名称や成長・成熟などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
8	〃	人体の組織②：骨格筋の構造（筋肉の種類や名称などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
9	〃	人体の組織③：骨格筋の収縮（滑走説や興奮収縮連関などについて）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
10	〃	人体の組織④：脳と脊髄（中枢神経系に関する構造・機能について)	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
11	〃	人体の組織⑤：運動神経と感覚神経と自律神経（末梢神経に関する構造・機能について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に、末梢神経に関する構造・機能について復習を行う。(2時間)
12	〃	人体の組織⑥：神経の伝導路（上行伝導路(感覚)と下行伝導路(運動)の役割について)	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
13	〃	人体の感覚器①：目(眼球の構造や視機能について)	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
14	〃	人体の感覚器②：耳(聴覚と平衡覚について)	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
15	〃	人体の細胞（細胞小器官と興奮発生の機序について）	本講義のテーマに関する事項を参考書等から予習し、受講後、配布された資料を基に復習を行う。(2時間)
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学概論 (131A0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	山田　理恵・森　克己・中村　勇			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	150名程度
授業の概要	本授業では、人間の身体や身体運動をめぐる諸事象について、哲学的、倫理学的立場から考察することを通して、今日の体育・スポーツをとりまく課題や身体運動文化の意義、望ましい在り方を考究する。 それらによって、専門的な知識を活用し、論理的に考え表現できる能力、課題解決に向けて考え実践できる能力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	現代社会の体育･スポーツをめぐる倫理的問題を考察し、課題解決の方法について論じることができる。	○	○	○				70
	■情意的領域	授業に積極的に参加する。 課題に意欲的に取り組む。	○	○	○				30
	□技能的領域								

成績評価の基準	毎授業時間内に随時実施する小レポートまたは小テスト、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストとして、福永・山田・西薗編『体育・スポーツ科学概論－体育・スポーツの新たな価値を創造する－』（大修館書店、2020年初版第３刷）を購入すること。 参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習・復習すること。 受講者数の関係上、教員免許取得を希望する者を受講対象者とする。
オフィス・アワー	随時（山田：７０５研究室、森：５０８研究室、中村：５０３研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山田　理恵	「体育学」へのアプローチ	テキスト・参考書等の予習および復習（60分以上）
2	〃	「体育」の概念	テキスト・参考書・資料等の予習および予習（60分以上）
3	〃	「スポーツ」の概念	テキスト・参考書等の予習および復習（60分以上）
4	〃	体育・スポーツと「競争」「倫理」	テキスト・参考書等の予習および復習（60分以上）
5	〃	プレイ論	テキスト・参考書等の予習および復習（60分以上）
6	〃	オリンピック・パラリンピックとスポーツの価値	テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）
7	中村　勇	武道の歴史	テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）
8	〃	武道の思想とシステム	テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）
9	〃	武道の国際化	テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）
10	森　克己	スポーツの哲学・倫理と法	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）
11	〃	ドーピング問題	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）
12	〃	身体とスポーツ指導者の体罰・虐待問題	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）
13	〃	スポーツにおける子ども保護	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）
14	〃	スポーツにおけるアスリートの人権問題と課題	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）
15	山田　理恵 森　克己 中村　勇	体育・スポーツを取り巻く課題解決に向けて	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（30分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツ史 (131A0-1302)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	山田　理恵			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	70名程度
授業の概要	本授業では、体育・スポーツの歴史を通史的に概観し、各時代、各社会における体育・スポーツの特質を考察することを通して、体育・スポーツに対する理解を深め、将来の身体文化の在り方を考究する。 それらによって、専門的な知識に基づいて、論理的に考え表現できる能力および課題解決に向けて考え実践できる能力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的表現力、専門的な知識・教養 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツをめぐる諸現象を歴史的に論じることができる。 各時代、各社会における体育・スポーツの特質を論じることができる。		○	○		○		80
	■情意的領域	授業に積極的に参加する。 課題に意欲的に取り組む。	○	○	○				20
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業時に実施する小テスト（前回の授業内容について）や小レポート、課題（レポート２課題）、学期末試験（論述式）の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストとして、木村吉次編著『体育・スポーツ史概論　改訂３版』（市村出版）を購入すること。 参考書は適宜紹介する。また必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習・復習（次の授業時に実施する小テストの準備も含む）をすること。
オフィス・アワー	随時（７０５研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山田　理恵	体育・スポーツの歴史を学ぶ意義	テキスト・参考書等の予習および復習（30分以上）
2	〃	人類の進化とスポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
3	〃	古代ギリシア・ローマの体育・スポーツ	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（50分以上）
4	〃	古代日本の体育・スポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
5	〃	中世西洋・日本の体育・スポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
6	〃	近世日本の体育・スポーツ①	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
7	〃	近世日本の体育・スポーツ②	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
8	〃	近代体育の源流と国民体育理論の展開	テキスト・参考書・資料等の予習および復習（50分以上）
9	〃	欧米近代スポーツの日本への移入と展開	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
10	〃	近代オリンピックの展開	テキスト・参考書等の予習（レポート作成を含む）、復習（240分以上）
11	〃	戦争と体育・スポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
12	〃	戦後の復興と体育・スポーツ	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
13	〃	スポーツと国際平和	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
14	〃	競技の歴史とオリンピック・パラリンピック・ムーブメント	テキスト・参考書等の予習（レポート作成を含む）、復習（240分以上）
15	〃	伝統スポーツの現代的意義	テキスト・参考書等の予習および復習（50分以上）
16	〃	学期末試験（論述式）	テキスト・参考書・資料等の予習（学期末試験の準備）および復習（240分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	健康教育学 (131A01303)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	石神　睦子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	健康、病気に関する概念や知識について、生活習慣病を中心として学ぶ。また、健康維持・増進や疾病予防の方策を、主に行動科学や心身医学の観点から学ぶ。 健康づくりを指導し、普及させるための基礎的な知識を身につける科目である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康や疾病の概念について理解し、生活習慣病等の原因や予防法について説明できる。		○	○				80
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、教師からの質問に対しても自分の考えをまとめて回答できる。授業を受ける者のマナーを守れる.	○						20
	□技能的領域								

成績評価の基準	・授業への出席は 2/3 以上を最低基準とする。授業中に私語などで複数回注意を受けたものは、減点の対象とする。 ・4回の小テストやレポートの成績、授業に対する積極的な取り組み方などを総合的に評価する。 ・小テストを正当な理由で受けられなかった場合は、欠席届を提出し、与えられた条件を満たしたレポートを提出すれば採点の対象とする。 ・総合得点60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	講義内容はWebClassに掲載するので、必要であれば各自印刷すること。 参考書：「健康行動と健康教育－理論、研究、実践」、曽根智史ほか　訳、医学書院。「健康教育－ヘルスプロモーションの展開」、日本健康教育学会　編、保健同人社。「特定健診・保健指導に役立つ　健康運動指導マニュアル」、佐藤祐造ほか　編、文光堂

履修条件・ 関連科目	本授業の内容は、2年次後期に開講される学校保健の基礎知識として重要である。	備考(教員メッセージ含む)	WebClassにコースを開設している。授業で使用するPowerPointファイルを閲覧できる。 小テストを受けられなかった場合のレポート提出の要件は、WebClassコース（初回）に掲示する。
オフィス・アワー	随時　実験研究棟　３階　309 号 出席回数の確認など自己責任である事柄についての問い合わせには応じない。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石神　睦子	健康ならびに健康教育の概念、ヘルスプロモーション、健康運動指導士	WebClass による予習・復習　1時間
2	〃	健康とホメオスターシス、ストレスとストレス対処法	WebClass による予習・復習　1時間
3	〃	健康行動と行動変容，うつ病、【小テスト１】	WebClass による予習・復習　1時間
4	〃	生活習慣病と特定健康診査・保健指導、国民健康づくり運動	WebClass による予習・復習　1時間
5	〃	肥満症とメタボリック症候群	WebClass による予習・復習　1時間
6	〃	高脂血症（脂質異常症）	WebClass による予習・復習　1時間
7	〃	高血圧症、【小テスト２】	WebClass による予習・復習　1時間
8	〃	糖尿病（１）	WebClass による予習・復習　1時間
9	〃	糖尿病（２）	WebClass による予習・復習　1時間
10	〃	冠動脈疾患（１）	WebClass による予習・復習　1時間
11	〃	冠動脈疾患（２）、【小テスト３】	WebClass による予習・復習　1時間
12	〃	脳血管障害	WebClass による予習・復習　1時間
13	〃	その他の生活習慣病、運動療法が適応となる疾患	WebClass による予習・復習　1時間
14	〃	スポーツ障害（内科的障害を中心に）	WebClass による予習・復習　1時間
15	〃	健康教育と行動医学、心身医学、【小テスト４】	WebClass による予習・復習　1時間

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生理学 (131A0-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	田巻　弘之・堀内　雅弘			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	―
授業の概要	一過性の運動やトレーニングを行うと、生体諸機能は瞬時にあるいは長期間にわたり合目的的に亢進・抑制され、それぞれの状況に対してバランス良い応答・適応を起こす。本講義では、外界の反応に対してすばやく反応する動物性機能（感覚系、筋運動系、これらを制御する中枢神経機能系）と、それ以外の生命維持に必須な基本的条件を維持する植物性機能（自律神経系、循環系、呼吸系、消化系、内分泌系等）に大別し、身体を構成している器官・組織およびそれらの固有機能がどのように応答・適応していくか、その法則性（メカニズム）に関する理論を概説する。これにより、科学的知見に基づいた競技力向上のためのトレーニング、さらには健康体力増進のための運動処方といったスポーツ・体育人が担う重要な役割に関する基礎的知識を習得することが期待できる。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	一過性の運動や定期的トレーニング、不活動等に対する神経系、筋肉系、呼吸系、循環系、代謝系、内分泌系の生理応答・適応に関する基礎的知識を理解している。					○		100
	□情意的領域								
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業中に解説・紹介した運動生理学的知識に関する理解度を筆記試験によって評価し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	（教科書）改訂版　運動生理の基礎と応用（春日規克・竹倉宏明編著、フリースペース、2,600円 税別） （参考書）参考書及び参考資料については必要に応じて授業中に紹介して配付する。		
履修条件・ 関連科目	身体科学論、解剖生理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	田　巻：随時⇒メールであらかじめ予約をしてもらえれば有難いです。３０５研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田巻　弘之	オリエンテーション　　運動生理学概論、筋力について	オリエンテーションの内容を参考に、教科書を用いて全体的な予習をする（１時間）
2	〃	筋力・筋パワーとその神経性調節機構	力とパワーの違い、運動単位、サイズの原理についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
3	〃	骨格筋の微細構造と収縮機構、筋線維タイプとトレーニング	骨格筋の微細構造と興奮-収縮連関についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
4	〃	筋疲労とエネルギー供給：筋機能低下の現象と機序	筋疲労のメカニズム、筋線維タイプとスポーツの競技特性との関係についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
5	〃	トレーニングと筋肥大の原則、効率	筋肥大の原則についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
6	〃	筋収縮様式と筋損傷、筋痛と炎症、再生	実際の関節運動時の筋収縮様式や筋損傷、再生のプロセスについてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
7	〃	脊髄反射と運動制御（脳神経系）：スキルとトレーニング	実際の運動場面で関与している反射についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
8	堀内　雅弘	エネルギー供給系の運動生理学　　３つのエネルギー供給系と栄養、疲労、運動パフォーマンスとの関係	各エネルギー供給系の特徴、基質利用と栄養摂取、筋疲労の要因とパフォーマンスとの関連についてまとめよ（１時間）
9	〃	呼吸循環の運動生理学（１）呼吸器系・循環器系のしくみと安静時および運動時の呼吸循環応答	運動強度の変化にともなう呼吸循環応答についてまとめよ（１時間）
10	〃	呼吸循環の運動生理学（２）運動時のエネルギー代謝（有酸素性・無酸素性エネルギー供給動態）と持久的トレーニングにともなう生理的適応	運動強度と酸素摂取量の関係、持久的トレーニングに対する生理的適応についてまとめよ（１時間）
11	〃	呼吸循環の運動生理学（３）トレーニングの運動生理学　代謝特性を考慮したエネルギー供給能力改善のためのトレーニング	各自が行っているトレーニング方法の生理学意義についてまとめよ（１時間）
12	〃	呼吸循環の運動生理学（４）　血液、血管、血圧調節	血液性状の正常範囲、血圧調節、血流の再配分についてまとめよ（１時間）
13	〃	血液・内分泌の運動生理学　ホルモンの役割、運動・トレーニングと内分泌系応答	運動時およびトレーニング効果に重要な作用を果たすホルモンの名称とその作用についてまとめよ（１時間）
14	〃	ウォーミングアップの意義と生理的効果　体温上昇依存性、非依存性の効果とウォーミングアップの具体的実験成果の紹介	ウォーミングアップの意義と生理学的効果についてまとめよ（１時間）
15	〃	特殊環境下における運動生理学　　高温・寒冷環境、水中環境、低酸素環境における生理応答と運動パフォーマンスへの影響	特殊環境下における特徴的な生理応答についてまとめよ（１時間）
16	田巻　弘之	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生理学（再履修） (131A0–1305)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	田巻　弘之・堀内　雅弘			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	再履修者	受け入れ人数	―
授業の概要	一過性の運動やトレーニングを行うと、生体諸機能は瞬時にあるいは長期間にわたり合目的的に亢進・抑制され、それぞれの状況に対してバランス良い応答・適応を起こす。本講義では、外界の反応に対してすばやく反応する動物性機能（感覚系、筋運動系、これらを制御する中枢神経機能系）と、それ以外の生命維持に必須な基本的条件を維持する植物性機能（自律神経系、循環系、呼吸系、消化系、内分泌系等）に大別し、身体を構成している器官・組織およびそれらの固有機能がどのように応答・適応していくか、その法則性（メカニズム）に関する理論を概説する。これにより、科学的知見に基づいた競技力向上のためのトレーニング、さらには健康体力増進のための運動処方といったスポーツ・体育人が担う重要な役割に関する基礎的知識を習得することが期待できる。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	一過性の運動や定期的トレーニング、不活動等に対する神経系、筋肉系、呼吸系、循環系、代謝系、内分泌系の生理応答・抵抗に関する基礎的知識を理解している。					○		100
	□情意的領域								
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業中に解説・紹介した運動生理学的知識に関する理解度を筆記試験によって評価し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	（教科書）改訂版　運動生理の基礎と応用（春日規克・竹倉宏明編著、フリースペース、2,600円　税別） （参考書）参考書及び参考資料については必要に応じて授業中に紹介して配付する。		
履修条件・ 関連科目	身体科学論、解剖生理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	田　巻：随時⇒メールであらかじめ予約をしてもらえれば有難いです。３０５研究室 tamaki@nifs–k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田巻　弘之	オリエンテーション　　運動生理学概論、筋力について	オリエンテーションの内容を参考に、教科書を用いて全体的な予習をする（１時間）
2	〃	筋力・筋パワーとその神経性調節機構	力とパワーの違い、運動単位、サイズの原理についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
3	〃	骨格筋の微細構造と収縮機構、筋線維タイプとトレーニング	骨格筋の微細構造と興奮–収縮連関についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
4	〃	筋疲労（筋持久力）とエネルギー供給：筋機能低下の現象と機序	筋疲労のメカニズム、筋線維タイプとスポーツの競技特性との関係についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
5	〃	トレーニングと筋肥大の原則、効率	筋肥大の原則についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
6	〃	筋収縮様式と筋損傷、筋痛と炎症、再生	実際の関節運動時の筋収縮様式や筋損傷、再生のプロセスについてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
7	〃	脊髄反射と運動制御（脳神経系）：スキルとトレーニング	実際の運動場面で関与している反射についてまとめよう。WebClassの自主トレーニング選択肢問題に挑戦する。（１時間）
8	堀内　雅弘	エネルギー供給系のの運動生理学　　３つのエネルギー供給系と栄養、疲労、運動パフォーマンスとの関係	各エネルギー供給系の特徴、基質利用と栄養摂取、筋疲労の要因とパフォーマンスとの関連についてまとめよ（１時間）
9	〃	呼吸循環の運動生理学（１）呼吸器系・循環器系のしくみと安静時および運動時の呼吸循環応答	運動強度の変化にともなう呼吸循環応答についてまとめよ（１時間）
10	〃	呼吸循環の運動生理学（２）運動時のエネルギー代謝（有酸素性・無酸素性エネルギー供給動態）と持久的トレーニングにともなう生理的適応	運動強度と酸素摂取量の関係、持久的トレーニングに対する生理的適応についてまとめよ（１時間）
11	〃	呼吸循環の運動生理学（３）トレーニングの運動生理学　代謝特性を考慮したエネルギー供給能力改善のためのトレーニング	各自が行っているトレーニング方法の生理学意義についてまとめよ（１時間）
12	〃	呼吸循環の運動生理学（４）　運動と血液、免疫能、血圧応答の変化	血液性状の正常範囲についてまとめよ（１時間）
13	〃	血液・内分泌の運動生理学（２）　運動・トレーニングと内分泌系応答	運動時およびトレーニング効果に重要な作用を果たすホルモンの名称とその作用についてまとめよ（１時間）
14	〃	ウォーミングアップの意義と生理的効果　体温上昇依存性、非依存性の効果とウォーミングアップの具体的実験成果の紹介	ウォーミングアップの意義と生理学的意義についてまとめよ（１時間）
15	〃	特殊環境下における運動生理学　　高温・寒冷環境、水中環境、低酸素環境における生理応答と運動パフォーマンスへの影響	特殊環境下における特徴的な生理応答についてまとめよ（１時間）
16	田巻　弘之	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学 (131A0-1306)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	未　　定			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	体育大学学生に必要な栄養学に関する基礎的な知識を学び，さらにスポーツ現場での応用を目的別に解説する。講義を通して、より実践的な知識の習得が期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・摂取する栄養素およびその消化吸収・代謝までを理解する ・運動時の食事について理解する		○			○		80
	■情意的領域	運動時の食事に関して関心を持つ	○	○					20
	□技能的領域								

成績評価の基準	認知的領域は、主に定期試験で評価する。情意的領域は、授業後の確認テストおよび授業所感の記入により評価する。２領域を合計して、60点以上を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	田口素子・樋口満編著　体育･スポーツ系指導者・学生のためのスポーツ栄養学（市村出版）		
履修条件・ 関連科目	生物化学論・運動生化学・運動生理学・解剖生理学	備考(教員メッセージ含む)	テキストを随時使用するので、必ずテキストの準備をする。
オフィス・アワー			

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	未　　定	オリエンテーション	教科書全体を確認し、これからの授業の予習をする（60分）
2	〃	栄養素を知る①：「糖質」	教科書を参考に本日の授業を復習する（30分）
3	〃	栄養素を知る②：「脂質」	教科書を参考に本日の授業を復習する（30分）
4	〃	栄養素を知る③：「タンパク質」	教科書を参考にwebclassで本日の授業を復習（穴埋め）をする（60分）
5	〃	栄養素を知る④：「ビタミン」	教科書を参考に本日の授業を復習する（30分）
6	〃	微量ミネラル（アスリートの貧血）	教科書を参考に本日の授業を復習する（30分）
7	〃	多量ミネラル（骨づくり）	教科書を参考に本日の授業を復習する（30分）
8	〃	ジュニアアスリートと食事	配布資料を参考に本日の授業を復習する（30分）
9	〃	女性アスリートの特徴	教科書および配布資料を参考に本日の授業を復習する（30分）
10	〃	アスリートの基本的な食事	本日の授業の復習をする（30分）
11	〃	試合時の食事	教科書及び配布資料を参考に本日の授業を復習する（30分）
12	〃	アスリートのコンディション管理	配布資料を参考に本日の授業を復習する（30分）
13	〃	アスリートの減量	配布資料を参考に本日の授業を復習する（30分）
14	〃	アスリートの増量	配布資料を参考に本日の授業を復習する（30分）
15	〃	サプリメント	配布資料を参考に本日の授業を復習する（30分）
16	〃	学期末試験	

※令和３年度の内容を参考に掲載しています。

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学 (131A0-1307)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	北村　尚浩			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	130名程度
授業の概要	スポーツの現状と課題について、社会学的視点から考究する。生涯スポーツや競技スポーツの現場での諸現象について、社会学的立場から批判的、実証的にその現象を記述、説明、分析しながら課題と展望を明らかにする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	講義全般に関した基礎的知識を有する			○		○		80
	■情意的領域	授業に参加し講義内容に関した質疑に積極的に応える	○			○			15
	■技能的領域	課題レポート作成技術			○				5

成績評価の基準	学期末試験の成績70％に、出席、質疑応答を中心とした授業への取り組み状況、小レポート、課題レポート等30％を加えて総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：川西正志、野川春夫編著「改訂4版生涯スポーツ実践論」市村出版 参考書：池田勝、守能信次「講座スポーツの社会科学―スポーツの社会学」杏林書院		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	ゼミ希望者は前もって履修しておくこと。授業ではiPadを使用します。
オフィス・アワー	予約制：生涯スポーツ実践センター及び610研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	オリエンテーション	Reading assignment（30分以上）
2	〃	スポーツ社会学とは	Reading assignment（30分以上）
3	〃	プレイ論	新聞雑誌記事の収集（30分以上）
4	〃	スポーツへと社会化	Reading assignment（30分以上）
5	〃	スポーツ振興政策の課題と展望：スポーツ基本法とスポーツ庁	Reading assignment（30分以上）
6	〃	スポーツ振興政策の課題と展望：スポーツ基本計画	Reading assignment（30分以上）
7	〃	青少年のスポーツ	新聞雑誌記事の収集
8	〃	加齢とスポーツ：高齢者スポーツとQOL	Reading assignment（30分以上）
9	〃	障害者スポーツの現状と課題	Reading assignment（30分以上）
10	〃	スポーツによる地域活性化（1）：総合型地域スポーツクラブ	Reading assignment（30分以上）
11	〃	スポーツによる地域活性化（2）：スポーツイベントとスポーツツーリズム	Reading assignment（30分以上）
12	〃	スポーツ指導者制度とスポーツボランティア	Reading assignment（30分以上）
13	〃	スポーツとビジネス	Reading assignment（30分以上）
14	〃	大学スポーツ	Reading assignment（30分以上）
15	〃	スポーツと暴力	Reading assignment（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマネジメント概論 (131A0-1308)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	関　朋昭			補助担当者名	棟田　雅也
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	150
授業の概要	スポーツは一人ではできません。まずは「体育」と「スポーツ」の違いを深く理解するために原理的な理論を提供していきます。特に本授業は経営学の知見をベースとしており、ここにスポーツマネジメントの意義があります。講義の中では、「組織論」を中心に進めていきますが、特に組織と個人の関係性は全講義を通じて共通の課題となり、それをベースに概説していきます。すなわち組織と個人の構造的な仕組みを理解することができ、リーダーシップを発揮するための基礎知識が身につくことが期待されます。現代のスポーツを取り巻く話題についても毎回講義で取り挙げていきますので、マネジメントの理論を駆使しながら、これまでの自分の経験や身近な出来事などを相対化できる力を学ぶことができます。つまり物事を多面的に捉える力、一般教養・倫理を身につけることにつながります。将来スポーツに携わる職業につくキャリアデザイン力を高め、専門的な知識・教養を養うことが期待されます。毎時間小レポートを提出することになりますが、講義内の理論を駆使しなくてはならず、科学的表現力を培うことになります。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	リーダーシップ、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・スポーツに関するマネジメントの知識を理解することができる（専門的な知識・教養）。 ・現場の課題解決のために、その因果を深く考察することができる（一般教養・倫理）。	○	○	○	○			40
	■情意的領域	・積極的に講義に参加できる（リーダーシップ、キャリアデザイン力）。 ・人前で自分の意見を発表することができる（リーダーシップ）。	○	○	○	○			40
	■技能的領域	授業で学習した専門知識を用いてテストやレポートで文章表現ができる（科学的表現力）。	○	○	○	○			20

成績評価の基準	授業後のテスト、授業への取り組み状況、レポート等を総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業中に資料を配付する		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	火曜日　10時10分から11時40分　研究棟6階　関教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	関　朋昭	授業ガイダンス・スポーツとマネジメントの概念	予習1時間＋復習1時間
2	〃	スポーツにおける意思決定	予習1時間＋復習1時間
3	〃	スポーツにおけるナレッジマネジメント	予習1時間＋復習1時間
4	〃	スポーツの組織論（組織構造)	予習1時間＋復習1時間
5	〃	スポーツの組織（理念）	予習1時間＋復習1時間
6	〃	スポーツの組織論（組織行動）	予習1時間＋復習1時間
7	〃	スポーツの組織論（動機づけ理論）	予習1時間＋復習1時間
8	〃	スポーツの組織論（個人と組織）	予習1時間＋復習1時間
9	〃	スポーツにおけるリーダーシップ	予習1時間＋復習1時間
10	〃	スポーツにおけるフォロワーシップ	予習1時間＋復習1時間
11	〃	スポーツの倫理（スポーツマンシップ）	予習1時間＋復習1時間
12	〃	スポーツの倫理（勝利至上主義）	予習1時間＋復習1時間
13	〃	スポーツマーケティング	予習1時間＋復習1時間
14	〃	スポーツの経営戦略	予習1時間＋復習1時間
15	〃	スポーツのマネジメント分析	予習1時間＋復習1時間

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学概論 (131A0-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	前田　博子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	160名程度
授業の概要	生涯スポーツに関して、概念、歴史、政策、実態把握等幅広い面から教授する。この授業によりさまざまな場面でのスポーツ活動について関心が高まり、スポーツへの幅広い理解が得られることを期待する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	生涯スポーツの実態と社会の取り組みを理解する。 生涯スポーツにおける健康づくりについて理解する。					○		50
	■情意的領域	生涯スポーツに関わるさまざまな情報に関心を持ち、投げかけられたレポート課題に積極的に取り組む。	○		○				50
	□技能的領域								

成績評価の基準	認知的領域に関しては60％を配分し、学期末試験によって評価、情意的領域に関しては40％を配分し、授業参加状況と毎回行う小レポートによって評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜、資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	iPadを必携すること。対面授業において、質疑を行う場面で使用する。
オフィス・アワー	随時（６０６研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　博子	生涯スポーツの概念	シラバスによる準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
2	〃	スポーツ・フォア・オールの推進と背景	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
3	〃	スポーツ振興に関わる日本の法令	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
4	〃	生涯スポーツ振興施策と行政機関	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
5	〃	生涯スポーツ施設の状況	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
6	〃	生涯スポーツの展開とフィットネス産業	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
7	〃	アウトドアレジャー・レクリエーション	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
8	〃	プロスポーツの運営	予習・復習
9	〃	スポーツ実施者	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
10	〃	スポーツ参加への意識	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
11	〃	コミュニティ・スポーツクラブ	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
12	〃	「みるスポーツ」について	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
13	〃	「ささえるスポーツ」と障がい者スポーツ	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
14	〃	健康づくりにおける生涯スポーツの位置づけ	課題による準備（1時間）講義内容の復習（1時間）
15	〃	生涯スポーツで働く スポーツ関連資格の状況	試験準備（2時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学 (131A0-1310)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	森　司朗			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	150名程度
授業の概要	この科目は、心理学的立場からの運動指導の能力を身につける科目である。具体的には、ジュニア期からの運動指導の場で効果的な指導法を展開していくための指導の基礎となる知識と理論を提供することを目的としている。内容は「運動学習・指導」と「モーチベーション」の２つを主なテーマとして相互に関連させながら進めていく。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ心理学の基礎的知識を理解している 自分の運動経験をスポーツ心理学の知識で説明できる		○	○		○		90
	■情意的領域	主体的に授業に取り組む	○						10
	□技能的領域								

成績評価の基準	出席が2/3以上で、授業内容（運動学習・モーチベーション）の総合的理解が６割を超えていることを合格の条件とする		
テキスト、教材 参　考　書	杉原　隆「運動指導の心理学－運動学習とモーチベーションからの接近－」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習しておくこと
オフィス・アワー	月～金までの授業・各種委員会会議などを除いた空き時間～ 17時　７０２研究室、体育心理学実験室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　司朗	オリエンテーション	
2	〃	運動に対する動機づけ　1　－人はなぜ運動をするのか－	授業内容の予習と復習（30分以上）
3	〃	運動に対する動機づけ　2　－人はなぜ運動をするのか－	授業内容の予習と復習（30分以上）
4	〃	内発的動機づけ1	授業内容の予習と復習（30分以上）
5	〃	内発的動機づけ２	動機づけに関するレポート（30分以上）
6	〃	運動好き運動嫌いの心理１	授業内容の予習と復習（30分以上）
7	〃	運動好き運動嫌いの心理２	授業内容の予習と復習（30分以上）
8	〃	目標設定と目標志向性	授業内容の予習と復習（30分以上）
9	〃	覚醒とメンタルトレーニング１	授業内容の予習と復習（30分以上）
10	〃	覚醒とメンタルトレーニング２	授業内容の予習と復習（30分以上）
11	〃	運動行動の構造から見た運動学習1	授業内容の予習と復習（30分以上）
12	〃	運動行動の構造から見た運動学習２	授業内容の予習と復習（30分以上）
13	〃	運動行動の構造から見た運動学習３	運動行動構造からみた運動学習に関するレポート（30分以上）
14	〃	運動学習の理論的背景１	授業内容の予習と復習（30分以上）
15	〃	運動学習の理論的背景２	運動学習の理論に関する復習（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	バイオメカニクス (131A0-1311)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	村田　宗紀			補助担当者名	宮崎　輝光
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	―
授業の概要	身体の動く仕組みを力学的にアプローチする学問をバイオメカニクスという．バイオメカニクスは身体運動の力学的機序の解明，パフォーマンスの評価や予測など，幅広く応用されている． 本授業では，ヒトの身体運動を理解するうえで必要となる基礎的な知識を習得するとともに，力学を通じてヒトの身体運動を解釈する視点を学ぶ．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バイオメカニクスの授業内容に含まれるスポーツ動作の特徴を正しい専門用語を用いて正しく理解する	○	○			○		70
	□情意的領域								
	■技能的領域	バイオメカニクスの専門用語を正しく使える技能を習得する	○	○			○		30

成績評価の基準	基本的に毎回出席をとる。出席が2/3以上の者について、試験の成績が60点を超えていることを合格の条件とする。 合格者に対して、試験の成績、小テスト等を勘案して、総合的に評価する。
テキスト、教材 参　考　書	授業時に資料配布 参考書 『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良，藤井範久，朝倉書店（2002） 『バイオメカニクスと動作分析の原理』【著】Iwan W. Griffiths【訳】石毛勇介，川本竜史，NAP（2008） 『バイオメカニクス　人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀，吉岡伸輔，ラウンドフラット（2011） 『スポーツバイオメカニクス (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ)』，岡田英孝，藤井範久，宮西智久 (編集)，化学同人（2016） 『スポーツバイオメカニクス 完全準拠 ワークブック』，宮西智久，化学同人（2020）

履修条件・ 関連科目	必ずしも履修している必要はないが，バイオメカニクスのための物理・数学（1年後期）の内容を習得していることを前提に授業を行う． 関連科目 解剖生理学　運動生理学　トレーニング科学概論	備考(教員メッセージ含む)	高校までの基本的な数学・古典力学を学習していること． 不足する知識は自習によって補うこと．
オフィス・アワー	随時　研究棟4階　404教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	村田　宗紀	バイオメカニクスの研究方法論	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
2	〃	バイオメカニクスのための数学の基礎知識	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
3	〃	並進運動①	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
4	〃	並進運動②	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
5	〃	並進運動③	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
6	〃	並進運動④	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
7	〃	回転運動①	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
8	〃	回転運動②	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
9	〃	回転運動③	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
10	〃	回転運動④	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
11	〃	回転運動⑤	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
12	〃	その他の話題（エナジェティクス等）①	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
13	〃	その他の話題（エナジェティクス等）②	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
14	〃	その他の話題（エナジェティクス等）③	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
15	〃	その他の話題（エナジェティクス等）④	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	衛生学・公衆衛生学 (131A0-1312)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	モハモド　モニルル　イスラム			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	本授業では，公衆衛生学の概念や方法論の基礎を学ぶことをねらいとして，個人と集団レベルでの健康の増進と疾患の予防に対する理解を深める。具体的には，疾病，障害などへの一次予防, 二次予防，および三次予防の理論と心身の健康増進法や寿命の延長法などを理解するとともに，環境諸要因が個人の健康あるいは集団・社会の健康に及ぼす影響を学ぶ。また，疾病予防や健康増進などの具体的方法や知識を習得する。加えて，国際的な視点に立って，諸外国での公衆衛生などの実践活動や健康への取り組みも知り，ヘルスプロモーションの考え方を習得する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	リーダーシップ、科学的支援力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康の定義や個人と集団の健康指標，疾病とその予防，環境諸要因と健康などとの関係を理解し，国民の現状と世界における健康問題を理解する	○		○				70
	■情意的領域	疾病や健康問題を理解するとともに，体育学部専攻生として運動やスポーツ，および体育の果たす役割や意義などについて主体的に学ぶ	○		○				15
	■技能的領域	公衆衛生学，健康問題を理解するとともに，疾病予防や健康増進に関する技能を実践し，遂行できる	○		○				15

成績評価の基準	レポートによる総合評価し，60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	衛生学: 健康な環境づくりを支援する (はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ) (日本語) 単行本 by 奥野 久美子 (著), 坂手 誠治 (著), 久保 博子 (著), 近藤 雄二 (編集)　(2014年9月出版又は最新版)　［2,800円］。あとは毎回授業前Web-Class上に資料を配布すること。		
履修条件・ 関連科目	環境論を受講することが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	教員研究室509号（内線: 4962）にて随時（但し，事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	モハモド　モニルル イスラム	オリエンテーション（衛生学・公衆衛生学の概論）及び今後の予定について	次回以降の予定の確認（３０分）
2	〃	疫学の考え方と事例について（疾病解明の方法論，疫学の定義，個人の健康指標，集団の健康指標）	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
3	〃	予防の種類について（1次予防, 2次予防, 3次予防）。スクリーングについて（スクリーニング検査の有効性の指標，スクリーング検査の集団への適用）	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
4	〃	日常生活における自立のために必要な体力について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
5	〃	高齢者における転倒予防について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
6	〃	生活習慣病I　（高血圧，糖尿病，メタボリックシンドローム）の予防について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
7	〃	生活習慣病II　（脳血管疾患，虚血性心疾患等）の予防について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
8	〃	生活習慣病IIIと健康増進について（食生活，身体活動，禁煙，喫煙行動，飲酒行動，睡眠，休養，ストレス）	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
9	〃	感染症Ｉ（感染症とその疫学，感染成立の要因，咳エチケット等）について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
10	〃	感染症 II（新型コロナウイルス感染症を含むその他の代表的な感染症予防対策）について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
11	〃	集団の健康指標：比率の解説（出生率，死亡率，自然増加率，婚姻率，死産率，乳児死亡率，周産期死亡率，合計特殊出生率，総再生産率，純再生産率，死因別死亡率，年齢階級別死亡率，年齢調整死亡率，標準化死亡比，受療率，総患者数，有訴者率，通院者率，受診率，疾病・異常被患率等）	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
12	〃	人口静態統計について（人口構造，出生率，特殊出生率，死亡率，自然増加率等，出生率，死亡率，主要死因，死因順位，性・年齢階級別死因等）。人口統計を使った調査･研究の勧めについて	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
13	〃	疫学研究デザインの分類と研究に関するバイアスと交絡について（観察研究，コホート研究，症例対照研究，横断研究，地域介入試験，ランダム化比較試験）	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
14	〃	悪性疾患（がん）の予防につて	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
15	〃	小児疾患の予防について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ医学	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目A)
担当教員名	廣津　匡隆・石神　睦子			補助担当者名	藤井康成
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	スポーツの運動器官に及ぼす効果と弊害（傷害）についての知見を習得し、理論を提供する。本授業では、運動器官を解剖学的にとらえ、種目特異的に生じるスポーツ外傷・障害を部位別にも概説する。それらを通じ、スポーツ医・科学的分野への進学などを希望する学生に対して有益となり、各種の受験資格取得などを希望する学生に対しても一助となる講義を展開する。この授業は、「スポーツ医学」についての学習を通じて、本学の教育目標における「国民各層のスポーツ・武道及び体育・健康づくりを指導・普及させるような能力」を身に付ける科目です。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （リーダーシップ、課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツの運動器官に及ぼす効果と弊害について理解できる。部位別のスポーツ外傷・障害について概説し、新たな解決方法を提案して、課題を整理することができる。		○	○				80
	■情意的領域	スポーツ医・科学的分野に関して主体的に作業課題を持ち、意欲的に取り組むことができる。小児、女性、中高年、身体障がい者とスポーツについても興味・関心を提供し、運動療法についても主体的に学ぶことができる。	○						20
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業期間に行った小テスト、受講に関する態度、レポートの得点を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書・・・「スポーツ整形外科学」（松本秀男ら編集、文光堂、2020、＠15000円＋税） 「スポーツリハビリテーションの臨床」（青木治人ら編集、メディカルサイエンスインターナショナル、2019、＠7000円＋税） 「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」（小出清一ら編集、南江堂、改訂第２版、2009、＠3200円＋税）		
履修条件・ 関連科目	救急処置論・実習、アスレチックトレーナー論を履修していることが好ましい。	備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿った授業ではないため、参考書を必ずしも購入しなくても良い。授業内容を記載した資料を見て予習して、さらに復習をすること。とくに真面目な受講態度を重視する。
オフィス・アワー	廣津：水曜日　10時30分～11時30分　研究棟3階　304研究室(要予約)、石神：随時　研究棟3階　309研究室(予約制)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	廣津　匡隆	オリエンテーション及び　小児・女性とスポーツ	小児・女性とスポーツについての資料を読む。（1時間）
2	〃	中高年者とスポーツ	中高年スポーツ等についての資料を読む。（30分）
3	〃	スポーツ指導上の安全対策、内科的・外科的メディカルチェック	メディカルチェック等についての資料を読む。（1時間）
4	〃	部位別スポーツ外傷・障害1（頭部、頸部）と対処法	スポーツ傷害についての資料を読む。（30分）
5	〃	部位別スポーツ外傷・障害2（肩関節・上腕）と対処法	スポーツ傷害（肩・上腕等）についての資料を読む。（1時間）
6	〃	部位別スポーツ外傷・障害3（肘関節・前腕・手関節・手指）と対処法	スポーツ傷害（肘・前腕等）についての資料を読む。（30分）
7	石神　睦子	運動のためのメディカルチェック、運動による内科的障害	メディカルチェックと内科的障害についての資料を読む。（1時間）
8	〃	スポーツ選手に起こりやすい病気・病的現象、環境とスポーツ	スポーツ選手の病的現象、環境とスポーツについての資料を読む。（1時間）
9	廣津　匡隆	部位別スポーツ外傷・障害4（腰背部・骨盤・股関節・大腿）と対処法	スポーツ傷害（腰・背部等）についての資料を読む。（1時間）
10	〃	部位別スポーツ外傷・障害5（膝関節①）と対処法	スポーツ傷害（膝）についての資料を読む。（30分）
11	〃	部位別スポーツ外傷・障害6（膝関節②）と対処法	スポーツ傷害（膝）についての資料を読む。（1時間）
12	〃	部位別スポーツ外傷・障害7（下腿・足関節）と対処法	スポーツ傷害（足・足関節）等についての資料を読む。（1時間）
13	〃	部位別スポーツ外傷・障害8（下腿・足関節・足）と対処法	スポーツ傷害（下腿・足関節・足）等についての資料を読む。（1時間）
14	〃	スポーツと理学的処置（RICE、テーピング、搬送方法、包帯の巻き方、スポーツマッサージなどの実技を含む）	理学的処置等についての復習を行う。（1時間）
15	〃	障がい者スポーツ、アンチドーピング、まとめ	障がい者スポーツ等についての資料を読む。スポーツ医学に関するレポートを作成し提出する。（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	救急処置論・実習 (131A07300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	廣津　匡隆・石神　睦子			補助担当者名	藤井　康成・吉田　剛一郎
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	200名まで
授業の概要	スポーツ現場では医療関係者が不在のことも多いため、体育・スポーツを専攻する者にとって必須の知識・手技を習得させ、理論を提供する。本授業では、現場での救命・救急処置を概説し、実際に対応可能となることを目的として、講義・実習を進める。それらを通じ、救急蘇生法などが身につき、各種の受験資格取得などを希望する学生に対する一助ともなることをめざす。この授業は、「救急処置論・実習」についての学習を通じて、本学の教育目標における「体育・健康づくりにおける実践的かつ創造的なリーダーとして、意欲的に取り組めるような能力」を身に付ける科目である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （課題解決力、一般教養・倫理）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ現場で必須の、救命・救急処置について理解できる。 救急処置法を説明し、対処方法について提案して、課題を整理することができる。		○	○				60
	■情意的領域	救急心肺蘇生法などに対し、意欲的に取り組み学習する。骨折・脱臼・筋肉と関節の損傷などに対し、興味・関心を有し、その予防方法について、主体的に探求することができる。	○						20
	■技能的領域	段階的な救急処置法を実践し、遂行し得る能力・知識を身につけ、レポート作成を行うことができる。	○						20

成績評価の基準	授業期間に行った小テスト、実習態度、レポートなどの各得点を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	購入すべきテキスト…「アトラス応急処置マニュアル」（山本保博監訳、南江堂、原著第９版、2020、＠ 2800円＋税） 参考書…「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」（小出清一ら編集、南江堂、改訂第２版、2009、＠ 3200円＋税）		
履修条件・ 関連科目	１年次生の受講は認めない。実習演目によっては、藤井康成教授、吉田剛一郎准教授の補助を受ける。	備考(教員メッセージ含む)	講義内容を記した資料をよく読み、予習・復習をすること。とくに真剣な受講・実習態度を重視する。
オフィス・アワー	廣津：水曜日　10時30分～11時30分　研究棟3階　304研究室(要予約)、石神：随時　研究棟3階　309研究室（予約制）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	廣津　匡隆	オリエンテーション・救急処置総論	総論についての資料を読む。（30分）
2	〃	傷病者の評価・意識障害の原因	意識障害についての資料を読む。（30分）
3	〃	一次救命処置（心肺蘇生・AED）	一次救命処置についての資料を読む。（30分）
4	〃	呼吸器系の障害と応急処置	呼吸器系障害についての資料を読む。（30分）
5	〃	創傷と循環（循環傷害）	創傷と循環障害について資料を読む。（30分）
6	〃	骨・関節・筋肉の損傷（上肢）	骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。（1時間）
7	廣津　匡隆 石神　睦子	救急心肺蘇生法実習（気道確保・人工呼吸・心マッサージ［ABC］の実習）、救急処置体制と運搬・救護（救命救急処置）	救急心肺蘇生法実習についての復習をする。（1時間）
8	廣津　匡隆	骨・関節・筋肉の損傷（体幹、脊柱、下肢）	骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。（30分）
9	〃	骨・関節・筋肉の損傷（下肢）	骨・関節・筋肉損傷についての資料を読む。（30分）
10	〃	手技と備品（搬送方法、止血法、包帯の巻き方など）	手技・備品等についての資料を読む（30分）
11	〃	神経系の障害	神経系障害について復習をする。（30分）
12	〃	高温・低温による障害	高・低温障害についての資料を読む。（30分）
13	〃	異物、中毒、咬傷と刺創	異物、中毒、咬傷・刺創についての資料を読む（30分）
14	〃	よく遭遇する疾患、知っておくと良い知識	授業内容の資料を読んで復習する。（30分）
15	〃	総復習及びレポートについて	救急処置論・実習に関するレポートを作成し提出する。（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学概論 (131A0-1314)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	髙井　洋平・山本　正嘉			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	―	受け入れ人数	―
授業の概要	本授業は、スポーツ選手のトレーニングを中心に、現代のトレーニング理論の基礎となっている概念や知識について概説する。トレーニングとは、人間の形態や機能をある目的に合致するように改造していくことである。目的に合う適切なトレーニングを行うためには、科学的な知識が必要である。同時に、科学的な知見には限界があり、万能でないことを知っておく必要がある。本講義の内容を習得することにより、体育やスポーツ指導現場において、理論的なトレーニング指導を行うための基盤が得られると期待できる。スポーツ・武道及び体育・健康づくりについての指導や普及の基礎的な内容を理解する科目である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	人間の身体能力を目的に応じて変えていくために必要な知識を習得している。 習得した知識を、自身が現場で活用・応用できるような考え方が身についている。					○		60
	■情意的領域	毎回の授業で課される小レポートについて、主体的かつ意欲的に取り組もうとする。			○				40
	□技能的領域								

成績評価の基準	講義の内容を十分に理解・習得できているかを確認するために、期末試験を行う。また、授業中に行うアクティブラーニング（小レポート）の内容も加味する。期末試験と小レポートの合計点が60点以上を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	山本：山本正嘉著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版）をテキストとし、これに沿って授業を進めるので、各自で準備すること 髙井：基本的に、講義に使用するパワーポイント資料を毎回配布する。必要に応じて、参考図書を紹介する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	受講生の多くは、過去および現在において、特定のスポーツ種目に携わり、その能力を向上させようと努力しているでしょう。本講義では、自身の能力向上にとって役立つ知識を提供するとともに、それを自身の血肉にするためのアクティブラーニングを行う予定です。
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 （山本：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室、yamamoto@nifs-k.ac.jp） （髙井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙井　洋平	科学的なトレーニングとは？	トレーニングの原理原則についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
2	〃	レジスタンストレーニングの効果 - 筋肥大と筋力向上のプログラムの違い -	筋肥大・筋力を規定する要因についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
3	〃	パワートレーニングの特異性	ヒトの力－速度－パワー関係についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
4	〃	プライオメトリックトレーニングの特異性	伸張反射、筋腱複合体についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
5	〃	持久力トレーニングの特異性	運動時のエネルギー供給系についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
6	〃	各種トレーニングを組み合わせた複合トレーニングの効果	各トレーニングの特異性・効果についての予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
7	〃	ピリオダイゼーションの理論と実際	アスリートのピリオダイゼーションについて予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
8	〃	コンディショニングの理論と実際	アスリートのコンディショニングについて予習・復習（1時間）を、小レポートで確認する
9	山本　正嘉	授業ガイダンス トレーニングとは？トレーニングの原則	左記のテーマに関する予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
10	〃	科学とは何か？ 科学の有効性と限界　科学的なトレーニングの具体例	左記のテーマに関する予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
11	〃	スポーツ選手における体力要素の捉え方	左記のテーマに関する予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
12	〃	力（ちから）を規定する要因とそのトレーニング方法	左記のテーマに関する予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
13	〃	スピードを規定する要因とそのトレーニング方法	左記のテーマに関する予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
14	〃	パワー、バネを規定する要因とそのトレーニング方法	左記のテーマに関する予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
15	〃	持久力を規定する要因とそのトレーニング方法	左記のテーマに関する予習・復習（１時間）を、小レポートで確認する
16	髙井　洋平 山本　正嘉	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツメンタルトレーニング論 (131A0-1315)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	幾留　沙智			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2	受け入れ人数	80名程度
授業の概要	本講義は、心理サポートに関する専門的な知識・教養を身に付ける科目である。具体的には、メンタルトレーニングに加え、スポーツカウンセリングに関連する理論と技法について基本的事項を概観するとともに、スポーツ場面における活用法について検討する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （指導者基礎力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツメンタルトレーニングの基礎的知識・技法を理解している。競技力向上や問題解決のためのメンタルトレーニング計画を説明できる。					○		70
	■情意的領域	主体的に授業に取り組む。	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	認知的領域と情意的領域の合計が60点以上を合格の条件とする。出席回数が2/3未満の者は放棄扱いとして評価しない。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用せず、講義資料を基に授業を進める。		
履修条件・ 関連科目	スポーツ心理学	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時（603研究室）だが、予めメールにて連絡をすることが望ましい（ikudome@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	幾留　沙智	オリエンテーション	webclassの登録・授業アンケートの記入（10分）
2	〃	心理サポートの基礎1	2種類の心理サポートの違いについてまとめる（30分）
3	〃	心理サポートの基礎2	面接における望ましい態度についてまとめる（30分）
4	〃	心理技法を知る1（目標設定）	目標設定シートを完成させる（30分）
5	〃	心理技法を実践する1（パフォーマンスプロファイリング）	自身のパフォーマンスについて分析する（30分）
6	〃	心理技法を知る2（リラクセーション・イメージ）	効果的なイメージトレーニングについてまとめる（30分）
7	〃	心理技法を知る3（注意集中）	効果的な注意集中技法についてまとめる（30分）
8	〃	心理技法を実践する2（情動プロファイリング）	ピークパフォーマンス時の自身の情動について分析する（30分）
9	〃	心理技法の活用を知る1（ストレスのコントロール）	効果的なストレスのコントロール法についてまとめる（30分）
10	〃	心理技法の活用を知る2（心理的コンディショニング）	自身の心理的コンディショニング方法についてまとめる（30分）
11	〃	心理的技法の活用を知る3（チームに関わる心理1）	効果的なチーム作りについてまとめる（30分）
12	〃	心理的技法の活用を知る3（チームに関わる心理1）	効果的なコミュニケーションについてまとめる（30分）
13	〃	心理的技法の活用を知る3（チームに関わる心理3）	指導に関する自身の信念についてまとめる（30分）
14	〃	運動行動変容の理論1	行動理論・認知理論についてまとめる（30分）
15	〃	運動行動変容の理論2	社会的学習理論・合理的行為理論・トランスセオレティカルモデルについてまとめる（30分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動学概論 (131A01316)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	金高　宏文			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	２年次	受け入れ人数	160名程度
授業の概要	運動を教える者と学ぶ者とが共有する場の現象は，自然科学の客観的な方法だけでは捉えられない．運動の世界は，人間の視覚や聴覚，体性感覚などが融合された共同主観性世界（動感）と物理・生理・生化学的な客観的事実として形成されている．運動学とは，感覚（主観）的な運動意識現象を現象学的に動感と動感形態の省察から捉えようとしたものであり，効果的な運動指導のために欠くことのできない実践的な運動理論を提供している．本講義では，運動学の主な内容を概括するとともに，受講生自身が発生・習熟した運動技能を振返り，かつ今後の運動の発生・習熟を展望しながら，運動を理解し，指導するための実践能力の基礎を育成する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・教養 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・運動の発生・習熟に関する理論の概略について説明できる． ・自分自身の動感の構造分析，発生分析できる．		○	○				68
	■情意的領域	・運動に関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的に受講生同士で協力して探求する．	○						32
	□技能的領域								

成績評価の基準	毎時間，WebClassを用いて，授業ワークを行う（学修カルテに入力する）．そのため，iPadもしくはPCを持参すること．ワーク課題は，書き込み度で評価する．また，授業内容等の理解は，２回の課題レポートに対する達成度を基に評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	iPadを持参すること．授業で必要な資料は，「WebClass」よりダウンロードすること．参考図書として「指導者のためのスポーツ運動学（朝岡正雄：大修館，2019，＠2,100円+税）」，「新しい体育授業の運動学（三木四郎：明和出版，2005，＠2,000円）」，「スポーツ運動学身体知の分析論（金子明友：明和出版，2009，＠3,400円）」「器械運動の動感指導と運動学（三木四郎：明和出版，2015，＠2,200円）」「スポーツ運動学入門（金子一秀：明和出版，2015，＠2,200円）」「スポーツ運動学・現象学講座1＜わざの狂い＞を超えて（金子一秀・山口一郎編著，明和出版，＠1,900円+税」を推薦する．		
履修条件・ 関連科目	講義室収容人数の関係から１年生の受講は認めない。トレーニング科学概論、スポーツトレーニング実践論を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	・将来，スポーツや武道に積極的に関わろうと考えている学生の受講を望む， ・毎時行なう作業問題は，授業開始と同時に実施するので、遅刻しないこと．
オフィス・アワー	月曜日　15：0016：00　大学院棟３階　教員室４		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	金高　宏文	オリエンテーション：運動指導に求められる理論を知る．運動，運動学とは…	WebClass で授業内容の復習（15分）
2	〃	運動構造論：運動学習の段階・位相論運動の動作と動感／運動の発生と習熟	WebClass で授業内容の復習と1回目レポート作成に向けて準備（30分）
3	〃	運動分析論１：動き（動感）を分節し，構造分析する．	WebClassで授業内容の復習と1回目レポート作成に向けて準備（30分）
4	〃	運動分析論２：運動形態（フォーム・動作等）の図形的違いを比較分析する．	１回目レポート（20点）提出とWebClass で授業内容の復習（15分）
5	〃	運動分析論３：運動質の評価カテゴリーを用いて動感形態(フォーム･動作等）を分析する．	WebClass で授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
6	〃	運動転移論：新たな運動感覚（動感）を導く練習・指導の組立て方	WebClass で授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
7	〃	運動発達論：誕生から大人になるまでの運動発生と習熟の軌跡	WebClass で授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
8	〃	補足及びまとめの小テスト（8点）と授業評価	２回目レポート（40 点）提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	学校保健 (131A01317)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	廣津　匡隆・石神　睦子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	学校保健における保健教育・保健管理・保健組織活動および学校安全管理に関する知識を体系的に学ぶ。とくに保健教育については、保健体育教師が担当する内容を中学校・高等学校の学習指導要領にそって学習する。 健康づくりについての指導・普及のための基礎的な知識を取得し、学校現場における健康上の問題を把握する能力を身につける科目である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学校教育における学校保健の役割を理解して、学校現場でおこる健康に関する諸問題に対応するための実践的知識を得ることができる。		○	○				80
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、教師からの質問に対しても自分の考えをまとめて回答できる。授業を受ける者のマナーを守ることができる.	○						20
	□技能的領域								

成績評価の基準	・授業への出席は 2/3 以上を最低基準とする、授業中に私語などで複数回注意を受けたものは、減点の対象とする。 ・4回実施する小テストおよびレポートの成績、授業に対する積極的な取り組み方などを総合的に評価する。 ・小テストを正当な理由で受けられなかった場合は、欠席届を提出し、与えられた条件を満たしたレポートを提出すれば採点の対象とする。 ・総合得点60点以上を合格とする。・心肺蘇生実習は必修である。
テキスト、教材 参　考　書	授業内容をWebClassに掲載するので、必要であれば各自印刷すること。 参考書：新・学校保健」杉浦守邦監修、東山書房。「基礎から学ぶ学校保健」瀧澤利行編著、建帛社。「学校保健マニュアル」高石昌弘・出井美智子編集、南山堂

履修条件・ 関連科目	・1年次の履修を認めない。・健康教育学を履修しておくことが望ましい。・心肺蘇生実習に正当な理由で出席できなかった場合は、証拠書類を添付した欠席届を提出すること。その後、学外の機関で心肺蘇生講習（90分以上）を受け、受講証明書を提出すること。学校保健授業以前に受けた心肺蘇生講習受講証明書では実習修了と認められない。なお、学外の心肺蘇生講習については、欠席届が受理された者を対象として一度のみ斡旋する。	備考(教員メッセージ含む)	・WebClass にコースを開設しているので、授業で使用するPowerPointファイルを閲覧できる。 ・心肺蘇生実習は実習日が変更となる場合がある。その際は、授業や学内掲示などで前もって知らせる。 ・小テストを受けられなかった場合のレポート提出の要件と心肺蘇生実習を受けられなかった場合の学外機関で心肺蘇生実習を受けるための要件は、WebClassコース（初回）に掲示する。
オフィス・アワー	随時　実験研究棟　３階　309 号 出席回数の確認など自己責任である事柄についての問い合わせには応じない。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	石神　睦子	学校保健概説	WebClass による予習・復習　1時間
2	〃	児童生徒の心身の発達と健康	WebClass による予習・復習　1時間
3	廣津　匡隆	学校安全、学校でみられる整形外科疾患	配付資料による復習　1時間
4	石神　睦子	保健教育１：現代社会と健康、【小テスト１】	WebClass による予習・復習　1時間
5	〃	保健教育２：生涯を通じる健康	WebClass による予習・復習　1時間
6	〃	保健教育３：社会生活と健康	WebClass による予習・復習　1時間
7	〃	保健教育４：保健指導、その他の保健教育活動、心身医学	WebClass による予習・復習 1時間
8	〃	保健管理１：健康観察、健康診断、事後措置、健康相談、【小テスト２】	WebClass による予習・復習　1時間
9	〃	保健管理２：疾病予防と健康増進	WebClass による予習・復習　1時間
10	〃	保健管理３：感染症とその対策、学校環境衛生	WebClass による予習・復習　1時間
11	〃	応急処置実習（心肺蘇生法）：学外の指導員による実習	実習に適した服装で参加すること 、心肺蘇生法の予習　30分
12	〃	保健管理４：精神保健（１）　欲求不満，葛藤，学校で見られる心や精神の問題、【小テスト３】	WebClass による予習・復習　1時間
13	〃	保健管理５：精神保健（２）　妊娠、出産、性感染症、性の権利	WebClass による予習・復習　1時間
14	〃	保健管理６：精神保健（３）　喫煙，飲酒，薬物乱用	WebClass による予習・復習　1時間
15	〃	学校保健組織活動、養護教諭の役割牒 保健室の機能，発達障害，特別支援教育、【小テスト４】	WebClass による予習・復習　1時間

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツと法 (131A0-1318)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	150名程度
授業の概要	今日のスポーツにおいては、国民の誰もが身近なところで安全にスポーツを楽しむことができるようにすることが求められている。そのため、スポーツに関わる者は、スポーツ事故やスポーツ団体・クラブ等との契約、さらにはスポーツ指導者による体罰・虐待などの人権に関する法的問題に適切かつ迅速に対応するための法的知識並びにスポーツの安全に関する知識を身につけることが重要になっている。この授業では、社会体育指導者や現役のスポーツ選手として必要なこれらの知識を身につけることができるようにすることを目標とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツに関する法的問題の基礎知識を身に付ける。 スポーツに関する安全に対する考え方を身に付ける。					○		90
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、レポートに積極的に取り組む。	○		○				10
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績、毎回の授業時に課されるレポートへの取組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：森克己ほか著『標準テキスト・スポーツ法学』（エイデル研究所） 参考書：小笠原正・諏訪伸夫監修、森克己ほか著『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい）『憲法と教育人権』（日本評論社）、『スポーツ法学入門』（体育施設出版）、『リファレンスブック』（日本スポーツ協会）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	水曜日午後		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	オリエンテーション：学習の目的、内容、方法、評価のしかた	履修要項・シラバスの予習（10分以上）
2	〃	スポーツに関する法的問題（総論）	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
3	〃	スポーツ法学の体系・法源①	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
4	〃	スポーツ法学の体系・法源②	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
5	〃	スポーツ基本法の概要	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
6	〃	スポーツの権利性	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
7	〃	スポーツ団体と競技者の法的諸問題（総論）	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
8	〃	スポーツ選手の人権問題とスポーツ仲裁制度	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
9	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション①	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
10	〃	スポーツにおけるチャイルド・プロテクション②	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
11	〃	スポーツ選手の肖像権・パブリシティ権保障の現状と課題	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
12	〃	スポーツにおける不法行為	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
13	〃	スポーツ事故と法的責任①	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
14	〃	スポーツ事故と法的責任②	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
15	〃	スポーツ事故と法的責任③	テキスト・資料等の予習・復習（30分以上）
16	〃	（定期試験）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチ学概論 (131A0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	金高　宏文			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	130名程度
授業の概要	本講義では，優れたコーチ・指導者になるために必要とされる適切な人間関係を結ぶコミュニケーション能力，コーチング現場やトレーニング現場において発生する諸問題を合理的に整理・解決する課題解決のスキル，選手を取り巻く様々な内的および外的環境要因をマネジメントする能力等について解説する．そのために，受講生自身が受けた（あるいは行なった）コーチングを振返り，かつ卒業後のスポーツリーダーとしての姿を展望しながら，コーチングの実践能力の基礎を育成する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・自分自身が受けたコーチングを振返り，自らが関わろうとする将来のコーチング活動への手がかり・指針を説明する． ・スポーツコーチングの基礎的な理論やスキルを理解する．		○	○				68
	■情意的領域	コーチングに関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的にかつ受講生同士で協力して探求しようとする．	○						32
	□技能的領域								

成績評価の基準	毎時間，WebClassを用いて，授業ワークを行う．そのため，iPadもしくはPCを持参すること．ワーク課題は，書き込み度で評価する．また，授業内容等の理解は，２回の課題レポートに対する達成度を基に評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	i-Padを持参すること．授業で必要な資料は，「WebClass」よりダウンロードすること． 参考図書として、「Reference Book(JASP,4,400円）」「コーチング学への招待（日本コーチング学会編，2017，＠2,916円）」「リーダーが身につけたい25のこと（鈴木義幸：ディスカバー21，200，＠1,500円）」「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『イノベーションと企業家精神』を読んだら（岩崎夏海：ダイヤモンド社，2015，@1,600円）」「ドラッカー5つの質問（山下淳一郎著，あさ出版，＠1,300円+税）を推薦する．		
履修条件・ 関連科目	運動学概論，トレーニング科学概論，スポーツトレーニング実践論を履修しておくことが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	将来，スポーツや武道に積極的に関わろうと考えている学生の受講を望む．
オフィス・アワー	月曜日　15：00～16：00大学院棟３階　教員室４		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	金高　宏文	コーチングの理論概要：Instruction, Teaching, Coaching, Managementの相違点	WebClassで授業内容の復習（15分）
2	〃	コーチングの理論１：傾聴・質問のスキル	WebClassで授業内容の復習と１回目レポート作成に向けて準備（30分）
3	〃	コーチングの理論２：質問・承認のスキル	WebClassで授業内容の復習と１回目レポート作成に向けて準備（30分）
4	〃	コーチングの理論３：課題解決のスキル（GROWモデルの活用）	１回目レポート（30点）提出とWebClassで授業内容の復習（15分）
5	〃	コーチングの理論４：チーム・組織を動かすリーダーシップ，マネジメント力など	WebClassで授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
6	〃	コーチングの理論５：運動を創発・促発する指導技術など	WebClassで授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
7	〃	コーチングの理論６：成長し続けるためのコーチの自己点検と自己組織化	WebClassで授業内容の復習と２回目レポート作成に向けて準備（30分）
8	〃	補足及び授業評価	２回目レポート（30点）提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	障がい者スポーツ論 (131A01319)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	廣津　匡隆・前田　究			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	５０名
授業の概要	日本の身体障がい者（身障者）数は、総人口の約２％を占めており、近年、身障者スポーツは非常に盛んに行われつつある。本授業では、車椅子スポーツの医・科学的研究成果、パラリンピックなどの国際大会、知的発達障がい者のスポーツなどについて概説する。身体障がい者スポーツの現状と問題点、身障者と健常者の望ましい相互関係について考察し、身障者への接遇態度などが身につくことを可能とする。この授業は、「障がい者スポーツ」についての学習を通じて、本学の教育目標における「国民各層の体育・健康づくりを指導・普及させるような能力」を身に付ける科目です。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、リーダーシップ、専門的な知識・教養 （一般教養・倫理）							
	■認知的領域	身体障がい者スポーツの概要、対象障がい（脊髄損傷など）の病態について理解できる。車椅子スポーツの医・科学的研究成果を概説し、新たな解決方法を提案して、課題を整理することができる。	○		○				50
	■情意的領域	知的発達障がい者のスポーツについても理解し、意欲的に身障者スポーツへと取り組むことができる。身障者スポーツの現状と問題点、障がい者と健常者の望ましい相互関係について、興味・関心を持ち、それらの課題について主体的に追求することができる。	○		○				50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業期間に行った小テスト、授業に対する意欲、レポートの各得点などを合計し、60 点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書…「車椅子マラソン―医・科学的研究と実践指導―」（赤嶺卓哉・前田究 著、不昧堂出版、初版、1997、@2,200円＋税） 障害者とスポーツ（高橋　明　著　岩波新書　￥700円） 必要とする参考資料は適時紹介し、資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	アスレチックリハビリテーション論・実習、 スポーツ医学を履修していることが好ましい。	備考(教員メッセージ含む)	レポートの提出が必要。とくに真剣な受講態度を重視する。
オフィス・アワー	廣津：水曜日　10時30分～11時30分　研究棟3階　304研究室(要予約) 前田：月曜日～金曜日　8時30分～16時45分　鹿児島県身体障害者福祉協会　0992286271		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	廣津　匡隆	障がい者とは	障がい者についての資料を読む。（30分）
2	〃	障がい者スポーツとは	障がい者スポーツについての資料を読む。（30分）
3	〃	障がい者の競技スポーツ	障がい者の競技スポーツについての資料を読む。（30分）
4	〃	パラリンピック競技以外の障がい者スポーツ	障がい者スポーツに関する復習を行う。（30分）
5	前田　究	障がい者スポーツの動機づけ	障がい者スポーツの動機づけについての資料を読む。（30分）
6	〃	障がい者スポーツの意義と理念	障がい者スポーツの意義と理念についての資料を読む（30分）
7	〃	障がい者スポーツとクラス分け	障がい者スポーツとクラス分けについての資料を読む。（30分）
8	〃	障がいに応じたスポーツの工夫・実施	障がいに応じたスポーツの工夫・実施についての資料を読む。（30分）
9	〃	視覚・聴覚障がい者とスポーツ	視覚・聴覚障がい者とスポーツについての資料を読む。（30分）
10	〃	知的障がい者とスポーツ	知的障がい者とスポーツについての資料を読む。（30分）
11	〃	精神障がい者とスポーツ	精神障がい者とスポーツについての資料を読む。（30分）
12	〃	重度障がい者とスポーツ	重度障がい者とスポーツについての資料を読む。（30分）
13	〃	障がい者とのコミュニケーション	障がい者とのコミュニケーションについての資料を読む。（30分）
14	〃	障がい者スポーツと安全管理	障がい者スポーツにおける安全管理のあり方についての資料を読む（30分）
15	廣津　匡隆	本授業のまとめ・最終レポート発表	レポートを作成し提出する。（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道学概論 (131A0-1320)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (基礎科目B)
担当教員名	前阪　茂樹・小澤　雄二・中村　勇			補助担当者名	小崎亮輔(小澤担当分)
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	この科目は，武道における指導や普及の基礎的な内容を理解する科目である。武道の歴史、特性、概念、流派、競技（柔道・剣道）に内在する文化性を概観して学び、近代スポーツとは異なる武道の基礎的な内容を理解することを目標としている。 授業方法については、武道全般を俯瞰する内容、柔道について俯瞰する内容、剣道について俯瞰する内容の三つの視点から講義を進めていくこととする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （一般教養・倫理）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	武道の歴史や特性及び柔道・剣道に関する基礎的な内容を理解することができる。	○	○	○		○		85
	■情意的領域	武道について関心を持ち、学習しようとする意志がある。（取り組む姿勢）	○		○				15
	□技能的領域								

成績評価の基準	※本科目は3人の武道教員によるオムニバス形式のリレー講義である。上記の評価方法を考慮した上で、中村（勇）30点、小澤30点、前阪（試験含め40点）、合計100点で評価し、60点以上をもって単位認定とする。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて適宜資料を準備する。 購入が望ましいテキスト：武道論十五講（不昧堂）、武道を知る（不昧堂）		
履修条件・ 関連科目	なし	備考(教員メッセージ含む)	武道課程の学生については必修科目である。
オフィス・アワー	前阪：水曜日15:00（506研究室）、中村：水曜日12:00（503研究室）、小澤：随時（502研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇	オリエンテーション，武術の歴史	約30分間の授業内容の振り返り
2	〃	武道の歴史	約30分間の授業内容の振り返り
3	〃	武道の伝統と競技化・国際化	約30分間の授業内容の振り返り
4	〃	武道の伝統と競技化・国際化	約１時間、レポートの作成の準備
5	〃	武道の礼法	約１時間、レポートの作成
6	小澤　雄二	柔道論	約30分間の授業内容の振り返り
7	〃	柔道と心理学	約30分間の授業内容の振り返り
8	〃	柔道と力学	約30分間の授業内容の振り返り
9	〃	柔道と体力トレーニング学	約30分間の授業内容の振り返り
10	〃	柔道とスポーツ医学	約30分間の授業内容の振り返り
11	前阪　茂樹	武道の理念と特性～その1 「武道とスポーツ」	約30分の講義内容の振り返り
12	〃	武道の理念と特性～その2 柔道と剣道	約30分の講義内容の振り返り
13	〃	剣道に内在する伝統文化性	約30分の講義内容の振り返り
14	〃	剣道と武士道精神	約30分の講義内容の振り返り
15	〃	武道の稽古・修行論	約30分の講義内容の振り返り
16	〃	試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コンディショニング論・実習 (131B0-7300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	藤田　英二			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	40人程度
授業の概要	本授業は、疲労回復やウォーミングアップ手段としてのスポーツマッサージ（ストレッチを含む）法、ならびにスポーツによるケガの予防や再発防止に役立つテーピング法を教授する。これにより、当該領域における実技力ならびに指導者基礎力が養われることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、専門的な知識・教養 （指導者基礎力）							
	■認知的領域	スポーツマッサージ法では基本的手技の名称とその具体的な手法について理解する。 テーピング法では、テーピングの目的や基本手技の主砲について理解する。	○						10
	■情意的領域	スポーツマッサージ法、セルフマッサージ法やテーピング法実習に対し、意欲的に取り組む。	○						20
	■技能的領域	スポーツマッサージ法やテーピング法において、基本的な手技ができるようになっている。		○					70

成績評価の基準	出席状況、授業への取り組み態度、およびテーピング法の実技試験にて総合的に評価を行う。		
テキスト、教材 参　考　書	参考資料は必要に応じて配布する。		
履修条件・ 関連科目	解剖生理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	受講希望者が受け入れ人数を超過する場合は、1回目のオリエンテーション時に履修希望者を対象とした抽選会を行う。この抽選会に参加できない者は、必ず抽選日までにメールなどで連絡すること（fujita@nifs-k.ac.jp）。抽選日以降の履修相談にはいっさい応じることはできない。この授業のすべての連絡は、基本的にWebClass上で行う（必ず定期的にチェックすること）。※場合によりテーピング実技に使用するテープは各自で準備する必要がある。
オフィス・アワー	随時：まずはメールにて相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	オリエンテーション	
2	〃	スポーツマッサージの歴史について	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
3	〃	スポーツマッサージ・スタティックストレッチの手技・手法について	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
4	〃	スポーツマッサージ実技	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
5	〃	スタティックストレッチ実技	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
6	〃	テーピングオリエンテーション	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
7	〃	足部のアーチに対するテーピング法	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
8	〃	肉ばなれに対するテーピング法	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
9	〃	肘関節内側側副靱帯損傷に対するテーピング法	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
10	〃	足関節のテーピング法：①（基本のテーピング）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
11	〃	足関節のテーピング法：②（バスケット・ウィーブ）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
12	〃	足関節のテーピング法：③（ドレイクメソッド）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
13	〃	膝前十字靱帯損傷に対するテーピング法	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分)。
14	〃	足関節テーピング法のおさらい	テーピング実技試験
15	〃	足関節テーピング法のおさらい	テーピング実技試験

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ実践論 (131B3-1300)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	工藤　保子・舟木　泰世・生島　淳・青島　健太			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	設定なし
授業の概要	わが国の生涯スポーツ・プロモーション、障害者スポーツ、スポーツとメディア，スポーツとボランティアの各論について学習する。生涯スポーツ政策の現状と課題を、実践者の立場から理解を深めることを目標とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	各領域における生涯スポーツ政策の現状と課題について理解する		○	○				60
	■情意的領域	授業参加状況及び質疑応答への参加態度評価	○			○			40
	□技能的領域								

成績評価の基準	特に積極的な受講態度とレポート提出状況を重視して、総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜指示する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	本授業科目は非常勤による集中講義として開講する。 担当教員プロフィール 青島健太：スポーツライター．元ヤクルトスワローズ内野手． 生島　淳：スポーツジャーナリスト.スポーツの取材・執筆活動のほか翻訳や番組キャスターを務める． 工藤保子：大東文化大学准教授．元笹川スポーツ財団スポーツ政策研究所 副主任研究員 舟木泰世：尚美学園大学総合政策学部ライフマネジメント学科専任講師．元スポーツ庁健康・体力つくり係長
オフィス・アワー	授業の前後に対応する		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	舟木　泰世	これまでのスポーツ行政・政策の流れ	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
2	〃	生涯スポーツ政策について	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
3	〃	スポーツ庁設置・第2期スポーツ基本計画について	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
4	〃	テーマ：スポーツによる地域活性化策を考える（予定）	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
5	工藤　保子	生涯スポーツとスポーツボランティアの位置づけ・概要	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
6	〃	スポーツイベントとスポーツボランティア	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
7	〃	障害者スポーツとスポーツボランティア	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
8	〃	スポーツボランティアのマネジメントワーク	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
9	青島　健太	プロ選手とアマチュア選手	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
10	〃	プロ野球とホームタウン	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
11	〃	生涯スポーツ振興におけるトップアスリートの役割	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
12	〃	アスリートのセカンドキャリア	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
13	生島　淳	生涯スポーツと現代メディア（国内編）	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
14	〃	ディスカッション	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
15	〃	生涯スポーツと現代メディア（国外編）	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）
16	〃	ディスカッション	授業内で適宜指示のあった内容を復習する（３０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道史 (131B0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	中村　勇			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	古代から現代に至るまでの武技/武術/武道の歴史的変遷について、各時代との関わり合いを含めて概説する。 武道の流派・技術・思想・道具の成立や変遷を知ることで、武道の「伝統」と「本質」を理解し、武道を指導や普及させるための専門的、応用的な内容を身につけることを目的とする。 本授業は講義方式で，ビデオ映像，配付資料、タブレット端末等を用いながら実施する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養･倫理、科学的表現力、専門的な知識･教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	武道の歴史的変遷について総合的に理解している 現代武道の成立過程について基本的知識を保有している	○	○	○				60
	■情意的領域	武道の歴史や伝統を理解しようと意欲的に講義に取り組もうとする	○	○					40
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業評価、授業内小テスト、レポートの合計得点が60 点以上を合格とする 1/3以上の欠席がある場合は単位を認定しません		
テキスト、教材 参　考　書	・スライド資料および配付資料は事前にweb-class に掲載するので必要に応じてダウンロードすること ・講義当日にも資料を配付する ・特にテキストは使用しません		
履修条件・ 関連科目	武道関連の講義・実技の事前履修や武道種目の経験が望ましい	備考(教員メッセージ含む)	本授業はWebClassとipadを用いて行いますので、iPadを持参してください
オフィス・アワー	水曜日12時～13時　他随時　５０３教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇	オリエンテーション・古代～中世期の戦闘	講義の復習（30分）
2	〃	中世武士から鎌倉武士へ	Web-class 資料の予習と復習（30分）
3	〃	戦国・安土桃山期の戦闘	Web-class 資料の予習と復習（30分）
4	〃	流派武芸の成立	Web-class 資料の予習と復習（30分）
5	〃	江戸前期の社会と武芸	Web-class 資料の予習と復習（30分）
6	〃	江戸中期の武芸：竹刀打込稽古	Web-class 資料の予習と復習（30分）
7	〃	江戸期の武術理論と武士道	Web-class 資料の予習と復習（30分）
8	〃	江戸後期の武術と幕末の動乱	Web-class 資料の予習と復習（30分）
9	〃	明治維新と武術	Web-class 資料の予習と復習（30分）
10	〃	講道館柔道の誕生	Web-class 資料の予習と復習（30分）
11	〃	大日本武徳会・学校武道・戦時武道	Web-class 資料の予習と復習（30分）
12	〃	終戦後の武道	Web-class 資料の予習と復習（30分）
13	〃	武道の国際史1	Web-class 資料の予習と復習（30分）
14	〃	武道の国際史2	Web-class 資料の予習と復習（30分）
15	〃	現代と将来の武道	Web-class 資料の予習と復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動生化学 (131B0-1302)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	吉田　剛一郎			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	150名程度
授業の概要	分子と化学反応を基礎にして、生命現象を考えるのが生化学である。スポーツマンに身近な疲労、およびドーピングをテーマとして、運動にともなうからだの変化について、生化学的な面から関連づけて講じる。運動がからだにおよぼす影響を科学的に理解できる能力を身に付ける科目である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、科学的表現力、専門的な知識・教養 （課題解決力、科学的支援力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	１．疲労、２．ドーピングの２部に分けて展開される中で、運動にともなうからだの変化を総合的に理解することができる。					○		70
	■情意的領域	適切な受講姿勢を保ち、積極的に作業課題に取り組むことができる。	○		○				30
	□技能的領域								

成績評価の基準	認知的領域（定期試験）：情意的領域（授業とレポートで１回あたり２点）＝７０：３０の比率で評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	・講義テキスト（授業時に配付する） ・長尾愛彦 著『スポーツと疲労』（鹿屋体育大学），『スポーツとくすり－アンチ・ドーピング－』（熊日出版）		
履修条件・ 関連科目	生物化学論・スポーツ栄養学・運動生理学・解剖生理学	備考(教員メッセージ含む)	運動に関わる者に必要となる科学的な知識について具体例をあげながら説明する。
オフィス・アワー	随時　３０７研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉田　剛一郎	スポーツマンの疲労・疲労研究の歴史・疲労の定義	テキストの疲労研究の歴史・定義を復習する。（１時間）
2	〃	疲労に関する諸原則・疲労の現れ方・環境条件と疲労	テキストの疲労に関する諸原則・現れ方・環境条件を復習する。（１時間）
3	〃	疲労の学説（原因）①（疲労物質説・力源消耗説）	テキストの疲労の学説（原因）を復習する。（１時間）
4	〃	疲労の学説（原因）②（物理化学的変調説）	テキストの疲労の学説（原因）を復習する。（１時間）
5	〃	疲労の学説（原因）③（内分泌説・神経中枢説・弾性説）	テキストの疲労の学説（原因）を復習する。（１時間）
6	〃	疲労度の分類・疲労の検査法	テキストの疲労度の分類・検査法を復習する。（１時間）
7	〃	トレーニングと疲労（超回復現象の生化学的意味）	テキストのトレーニングと疲労を復習する。（１時間）
8	〃	疲労を回復するには①（疲労物質説・力源消耗説から考えられる方法）	テキストの疲労の回復を復習する。（１時間）
9	〃	疲労を回復するには②（物理化学的変調説・内分泌説・中枢神経説から）	テキストの疲労の回復を復習する。（１時間）
10	〃	疲労を回復するには③（弾性説から）・効果的なトレーニングを行うには	テキストの疲労の回復を復習する。（１時間）
11	〃	ドーピングについて①（語源・定義の変遷・歴史）	テキストのドーピングの語源・定義・歴史を復習する。（１時間）
12	〃	ドーピングについて②（分類・禁止される理由・検査）	テキストのドーピングの分類・禁止理由・検査を復習する。（１時間）
13	〃	くすりについて（効果・副作用・スポーツ選手のくすりの使用の是非）	テキストのくすりを復習する。（１時間）
14	〃	アンチ・ドーピング①（大学生のドーピングに対する考え方の分析から）	テキストのアンチ・ドーピングを復習する。（１時間）
15	〃	アンチ・ドーピング②（ドーピングについて考えておく必要のある注意事項）	テキストのアンチ・ドーピングを復習する。（１時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	アスレチックトレーナー論 (131B2-1303)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	廣津　匡隆・藤田　英二			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	一般的なリハビリテーション医科学の解説とともに、アスレチックトレーナーの役割、対象となる各種疾患の病態について論説する。本授業では、スポーツ外傷・障害の部位および疾患別リハビリテーションと、主な実践者であるアスレチックトレーナーのスポーツ現場での役割や活動に必要な基礎知識について講義を進める。これにより、実際にアスレチックトレーナーのスポーツ現場での役割に関する知識が身につき、将来この分野での就業などを希望する学生への一助となることを目指す。この授業は、アスレチックトレーナーについての学習を通じて、本学の教育目標における「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する知識を活用できるような能力」を身に付ける科目である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （コミュニケーション力、一般教養・倫理）							
	■認知的領域	アスレチックトレーナーが行うリコンディショニングの概念、対象となる各種疾患の病態について理解できる。これらを知ることで、スポーツ外傷・障害に対する新たな解決方法を提案できるよう、課題を整理することができる。		○	○				60
	■情意的領域	スポーツ外傷・障害後のトレーニング計画の具体的な立案方法について理解するとともに、当該分野への興味・関心を提供し、主体的に勉学することができる。	○						40
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業レポート（その他の課題など）が提出されているという条件で、授業態度（意欲）、小テストならびに提出されたレポート内容などの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（①アスレティックトレーナーの役割、③スポーツ外傷・障害の基礎知識、⑤検査・測定と評価、⑦アスレティックリハビリテーション）』（公益財団法人日本スポーツ協会）		
履修条件・ 関連科目	1年次生の受講は認めない。救急処置論・実習を履修していることが好ましい。	備考(教員メッセージ含む)	テキストや配付資料に沿って授業を行うので、準備をし、予習・復習をすること。特に真面目な受講態度を重視する。
オフィス・アワー	廣津：水曜日　10時30分～11時30分　研究棟3階　304研究室（要予約)、藤田：メールにて相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	オリエンテーション	
2	〃	スポーツ現場におけるアスレチックトレーナーの歴史と日本の現状	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
3	〃	スポーツ現場におけるアスレチックトレーナーの役割	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
4	〃	スポーツ現場におけるアスレチックトレーナーの倫理	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
5	〃	リコンディショニング総論１	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
6	〃	リコンディショニング総論２	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
7	〃	リコンディショニング総論３	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
8	〃	アスレチックトレーナーが行う測定と評価１	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
9	〃	アスレチックトレーナーが行う測定と評価２	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
10	〃	アスレチックトレーナーが知っておくべきアンチ・ドーピングについて	WebClassにて配付した資料で予習・復習を行っておく。（1時間）
11	廣津　匡隆	スポーツ外傷・障害の基礎知識	総論・基礎知識についての資料を読む。（1時間）
12	〃	部位・疾患別リハビリテーション：体幹・脊椎	リハビリテーション（体幹・脊椎）についての資料を読む。（1時間）
13	〃	部位・疾患別リハビリテーション：上肢	リハビリテーション（上肢）についての資料を読む。（1時間）
14	〃	部位・疾患別リハビリテーション：股関節・大腿・膝	リハビリテーション（股関節・大腿・膝）についての資料を読む。（１時間）
15	〃	部位・疾患別リハビリテーション：下腿・足	リハビリテーション（下腿・足）についての資料を読む。（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	アスレチックトレーナー実習 (131B0-6300)	授業形態	実習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	藤田　英二			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	30人程度
授業の概要	本授業は、「アスレチックトレーナー論」で得た知識を基に、実習を通じて当該分野に対するさらなる知識と技能を身につけることを目標とする。これにより、リコンディショニングに必要なアスレチックトレーニングの課題解決力、科学的支援力、実技力ならびに実技指導力が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、科学的支援力、専門的な知識・教養 （実技指導力、課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ活動を安全に実施できる環境整備と安全管理能力について理解する。また、運動器の機能解剖を基に、スポーツ外傷・障害について理解し、リコンディショニングに必要なアスレチックトレーニングの計画作成・実施に必要な知識を得る。			○				60
	■情意的領域	当該分野に興味・関心を持ち、意欲的に取り組む意思を持つ。	○						20
	■技能的領域	リコンディショニングを目的としたアスレチックトレーニングの実施に必要な基本手技ができるようになる。	○						20

成績評価の基準	出席状況、授業への取り組み状況、レポート課題により総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考資料は必要に応じて配布する。 参考書：「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨」		
履修条件・ 関連科目	「アスレチックトレーナー論」を履修済みでなくてはならない。 解剖生理学、スポーツ医学、救急処置論・実習は履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	受講希望者が受け入れ人数を超過する場合は、1回目のオリエンテーション時に抽選会を行う。この抽選会に参加できない者は、必ず抽選日までにメールなどで連絡すること（fujita@nifs-k.ac.jp）。抽選日以降の履修相談にはいっさい応じない。この授業のすべての連絡は、基本的にWebClass上で行う（必ず定期的にチェックすること）。※場合によりテーピング実技に使用するテープは各自で準備する必要がある。
オフィス・アワー	随時：まずはメールにて相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	オリエンテーション	
2	〃	救急処置・応急処置について（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
3	〃	PRICE処置と熱中症予防について（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
4	〃	心肺蘇生・アイシング等実技	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
5	〃	頚部～腰部の構造と末梢神経支配（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
6	〃	頚部～腰部のケガと脳振盪（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
7	〃	肩関節の構造とケガ（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
8	〃	上肢の構造とケガ（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
9	〃	股関節～大腿部の構造とケガ（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
10	〃	膝関節の構造とケガ①（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
11	〃	膝関節～足関節の構造とケガ（講義）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
12	〃	ROM、MMTとその他の評価法（講義＆実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
13	〃	体表の触診と徒手検査（講義＆実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
14	〃	肩関節回旋腱板と股関節のトレーニング（実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。
15	〃	体幹のトレーニング（実技）	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（30分）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ産業論 (131B0-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	関　朋昭・隅野　美砂輝			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	スポーツ産業は1980年代より広く認識されるようになり，近年その規模および重要性が益々高まっている産業領域である． 本授業では主に講義を中心として，産業およびスポーツ産業の定義から，スポーツ産業に関する用語や理論について概説する．また個々の領域であるスポーツ用品産業，スポーツメディア産業，スポーツイベント産業，スポーツ施設空間産業，プロスポーツ産業などの内容や構造について概説する．スポーツに関する産業を成長発展させるための専門的・応用的な知識や考え方・意欲を身につける科目である．また，科学的表現力，専門的な知識・教養が身につくことが期待される．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ産業に関する知識を統合し，産業の視点からスポーツを捉えることができる．またそれ自体やその課題について分析し，説明できる．	○		○		○		50
	■情意的領域	スポーツ産業について興味・関心を持ち，学ぶ姿勢やその課題解決に向かって意欲的に取り組む意思を持つ．	○		○		○		50
	□技能的領域								

成績評価の基準	2/3 以上出席している者のみ評価の対象とし、総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：なし。授業中に資料を配付する。 参考書：スポーツ産業論 第7版 原田宗彦編著 杏林書院 2021 2,750 円		
履修条件・ 関連科目	スポーツマネジメント概論、スポーツ社会学、生涯スポーツ学概論、体育・スポーツ史 生涯スポーツ学総論	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	関：seki@nifs-k.ac.jp、604 教員室 隅野：月曜16-17時　msumino@nifs-k.ac.jp、501 教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	関　朋昭	オリエンテーション／スポーツ産業とは（概略）	シラバスの確認，スポーツニュースの収集（1時間）
2	〃	スポーツ産業とは（産業とは，歴史，領域）	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
3	〃	スポーツ産業とは（市場規模）	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
4	〃	スポーツ産業とは（市場規模）	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
5	隅野　美砂輝	スポーツ用品産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
6	〃	スポーツ用品産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
7	〃	スポーツ用品産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
8	〃	スポーツ用品産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
9	〃	スポーツイベントとメディア産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
10	〃	スポーツイベントとメディア産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
11	〃	スポーツイベントとメディア産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
12	〃	スポーツ施設空間産業（フィットネスクラブ）	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
13	〃	スポーツ施設空間産業（フィットネスクラブ）／プロスポーツ産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
14	〃	プロスポーツ産業	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集，予習（1時間）
15	〃	まとめ	前回の授業の振り返り，スポーツニュースの収集（1時間）
16	関　朋昭 隅野　美砂輝	学期末試験	前回までの授業の総復習（最低1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ文化論 (131B0-1305)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	真田　久			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	―
授業の概要	「スポーツ文化」や「文化としてのスポーツ」の意味合いを、「スポーツ文化複合」の視点から読み解く方法を理解する。また、スポーツを文化的事象と捉える視点と考え方について学ぶ。歴史的背景もふまえながら現代のスポーツ文化の事象と関わらせて理解する。さらに、現代社会における文化としてのスポーツの価値をどのように見出していくことができるのか、自ら問題を発見し解決に導くための思考力を身につける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	文化としてのスポーツの多様なあり方について理解できる。	○	○	○		○		50
	■情意的領域	スポーツと文化に関わることに興味を持ち、問題を発見する「気づき」の力を身につけることができる。			○	○			25
	■技能的領域	自分の考え方を他者に理解できる文章にまとめる思考力と文章力を身につけることができる。			○				25

成績評価の基準	授業時の小リポートと発表、試験から総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	『スポーツ文化論』（寒川恒夫編著,杏林書院）『よくわかるスポーツ人類学』（寒川恒夫編著・杏林書院）、 『オリンピック・パラリンピックを学ぶ』（後藤光将編,岩波ジュニア文庫）、『2020＋１東京大会を考える』（日本オリンピック・アカデミー編著）など。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	オリンピックやスポーツに関する新聞記事を読み、TVでのニュース解説などを見て、自身の考えを研ぎ澄ませること。スポーツに限らず社会の様々な事象に興味、関心を広げること。
オフィス・アワー			

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	真田　久	ガイダンス、スポーツの概念の広がり	スポーツに関する文化的側面をあげる
2	〃	スポーツ文化複合について	スポーツ文化複合の考えを適用する
3	〃	葬送儀礼としてのスポーツ	スポーツに関する儀礼について考える
4	〃	相撲と葬送儀礼	相撲の文化的側面について考える
5	〃	古代の聖火と松明競技	古代人の視点から聖火について考える
6	〃	古代スポーツと芸術	古代ギリシャのスポーツと芸術の関連について考える
7	〃	オリンピックと芸術、文化プログラム	近代オリンピックの芸術との関連について考える
8	〃	疫病とオリンピズム	アントワープ1920大会について今日的課題と合わせて考える
9	〃	嘉納治五郎のスポーツ文化	嘉納治五郎の理念と活動について考える
10	〃	オリンピックのマスコット、メダルデザイン	エンブレムやマスコットの意味について考える
11	〃	近代オリンピックと聖火	東京1964、東京2020大会の聖火リレーについて考える
12	〃	パラリンピックのスポーツ文化	パラリンピックについて考える
13	〃	長野1998大会のスポーツ文化	国際交流教育について考える
14	〃	東京2020大会のスポーツ文化	文化プログラム、ホストタウンについて考える
15	〃	東京1964大会と東京2020大会のレガシー比較	大会のレガシーについて比較し、文化的側面について考える
16	〃	試 験	スポーツを文化として捉える視点を整理する

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツトレーニング実践論 (131B1-3306)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	三浦　健・永原　隆			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	60名程度
授業の概要	スポーツトレーニングの効果的な推進は，適切な目標設定とそれを達成するための課題設定，課題解決方法や手段の選択・創造，時間資源を考慮した計画立案，効果的な実践，成果の測定・評価及び診断するという一連のトレーニングサイクル（D+PDCAサイクル）を循環させる能力が要求される．本講義では，トレーニングサイクルを形成する理論とCSCS資格で要求される各種トレーニングの方法論などを概説すると同時に，受講生が自分自身のトレーニングを振返り，かつ今後のトレーニングを立案しながら，トレーニングの実践能力の基礎を育成する．さらに，スポーツトレーニングの実践過程を記録し，分析・評価する実践的研究法（事例研究）についても言及し，その研究法の基礎が身につくことも期待している．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・自分自身のトレーニングを振返り，自らが関わろうとする将来のトレーニング活動への手がかり・指針を説明する． ・スポーツトレーニングの基礎的な理論やスキルを理解する．		○	○				70
	■情意的領域	・トレーニングに関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的にかつ受講生同士で協力して探求しようとする．	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	毎時間，WebClassを用いて，授業ワークを行う．そのため，iPadもしくはPCを持参すること．ワーク課題は，書き込み度で評価する．また，授業内容等の理解は，課題レポートに対する達成度を基に評価する．テストは，CSCSの資格認定試験の問題の理解度で評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	i-PadもしくはPCを持参すること．必要に応じて資料を配布するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること． 参考図書として，「競技力向上のトレーニング戦略（ボンパ：大修館、2006、@ 4,000円）」，「スポーツトレーニング理論（村木征人：ブックハウスHD、1994、@ 4,635）」，「NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング第4版（ブックハウスHD、2018、@ 12,000）」を推薦する．		
履修条件・ 関連科目	バイオメカニクス，運動生理学を履修しておくことが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	将来，スポーツや武道に積極的に関わろうと考えている学生の受講を望む．
オフィス・アワー	三浦：随時　総合体育館教員室 永原：随時　大学院棟3階　教員室1		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	三浦　健 永原　隆	オリエンテーション，CSCSの概要説明	Web-Class で授業内容の復習(15分)
2	〃	トレーニングのための解剖生理学	授業内容の復習（15分）
3	永原　隆	スポーツトレーニング計画の概要，計画の準備，ゴールの設定	Web-Class で授業内容の復習(15分)
4	三浦　健 永原　隆	トレーニングのためのバイオメカニクス	授業内容の復習（15分）
5	永原　隆	スポーツパフォーマンスの構造論と目標設定論１	Web-Class で授業内容の復習(15分)
6	三浦　健 永原　隆	トレーニングのための栄養学	授業内容の復習（15分）
7	永原　隆	スポーツパフォーマンスの構造論と目標設定論２	Web-Class で授業内容の復習(15分)
8	三浦　健 永原　隆	トレーニングのためのスポーツ心理学	授業内容の復習（15分）
9	永原　隆	スポーツトレーニングの手段・方法論１	Web-Class で授業内容の復習(15分)
10	三浦　健 永原　隆	トレーニングのためのプログラムデザイン	授業内容の復習（15分）
11	永原　隆	スポーツトレーニングの手段・方法論２	Web-Class で授業内容の復習(15分)
12	三浦　健 永原　隆	トレーニングのためのエクササイズテクニック	授業内容の復習（60分）
13	永原　隆	スポーツトレーニングの計画論１	Web-Class で授業内容の復習（15分）
14	〃	スポーツトレーニングの計画論２，スポーツトレーニング評価・管理論	WebClassで授業内容の復習
15	三浦　健 永原　隆	補足とまとめテスト（30点）、授業評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ政策論 (131B3-1307)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	日下　知明			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	50
授業の概要	体育・スポーツの政策問題の解決に関わる知識や考え方を概説する。特に、体育・スポーツ政策の基本的な制度や組織、体育・スポーツの政策問題を考えるための政策的なものの見方・考え方を理解することを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツ政策の基本的な制度や組織を説明することができる。 体育・スポーツの政策問題を政策的なものの見方・考え方から考えることができる。			○				80
	■情意的領域	授業中の課題に対して意欲的に取り組もうとする。	○						20
	□技能的領域								

成績評価の基準	・授業の出席回数が2/3以上の者のみを成績評価の対象とする。 ・各授業の課題、小レポート及び最終レポートにより総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	・テキストは使用せず、資料はWebClassへ掲載する。 ・参考書：菊幸一・齋藤健司・真山達志・横山勝彦[編](2011)『スポーツ政策論』成文堂、真山達志・成瀬和弥[編著](2021)『公共政策の中のスポーツ』晃洋書房		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	・授業中にWebClassを使用するため、授業にはWebClassへ接続できる端末を必ず持ってくること。 ・授業内容等は受講生の人数やその他事情により変更になる場合がある。
オフィス・アワー	随時 (607研究室)。ただし、事前にメール (t-kusaka@nifs-k.ac.jp) にて予約をしておくことが望ましい。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	日下　知明	授業の内容や評価等の説明、スポーツ政策論を学ぶ意義	授業内容の復習 (60分)
2	〃	体育・スポーツ行政組織	授業内容の復習 (60分)
3	〃	体育・スポーツ政策に関わるアクター	授業内容の復習 (60分)
4	〃	政策過程	授業内容の復習 (60分)
5	〃	体育・スポーツ財政	授業内容の復習 (60分)
6	〃	政策評価	授業内容の復習 (60分)
7	〃	地方自治体における体育・スポーツ政策に関わる組織	授業内容の復習 (60分)
8	〃	地方自治体における体育・スポーツに関する計画及び財政	授業内容の復習 (60分)
9	〃	競技スポーツ政策	授業内容の復習 (60分)
10	〃	生涯スポーツ政策	授業内容の復習 (60分)
11	〃	スポーツ施設と政策	授業内容の復習 (60分)
12	〃	学校体育政策	授業内容の復習 (60分)
13	〃	地域スポーツクラブに関する施策	授業内容の復習 (60分)
14	〃	体育・スポーツ政策における関係者の連携・協働	授業内容の復習 (60分)
15	〃	体育・スポーツ政策に関する課題の整理・検討	授業内容の復習 (60分)、最終レポート作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	武道文化論 (131B5-1308)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	中村　勇・前阪　茂樹			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	伝統性やスポーツ性、礼法の特徴など日本の伝統文化と密接なつながりを持つ武道文化について議論し、武道の本質とは何かを探る. 授業はディスカッション，課題発表などを積極的に導入し，主体的な取り組みができるようにしている。 この授業を通じて、これからの武道界のリーダーに必要な武道文化に関する知識を身につけ，表現する力を養うことができる。 WebClassやインターネットなどを利用するのでiPad等のタブレットを持参してください。 なお、参加人数等の状況に応じてシラバスで示した授業順序を入れ替えることがあります。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	武道文化としての礼法，伝統，独自性などについて理解し説明できる 武道文化に関する課題に対し適切な解決策を見いだせる	○	○	○	○			60
	■情意的領域	武道文化に関する議論に関心を持つ 各内容について客観的視点で考察しようとする	○	○	○	○			20
	■技能的領域	設問に対して自分の意見を指示された方法で適切に表現できるよう	○	○	○	○			20

成績評価の基準	授業への取り組み、授業内小テスト、レポート、発表の合計得点が60 点以上を合格とする 1/3以上の欠席がある場合は単位を認定しない		
テキスト、教材 参　考　書	・スライド資料と配付資料は事前にweb-class に掲載するので必要に応じてダウンロードすること ・配付資料は授業時にも配付する		
履修条件・ 関連科目	武道関連の講義・実技の事前履修や武道種目の経験が望ましい	備考(教員メッセージ含む)	講義資料はweb-class 上などにも掲載します iPadを使用しますので忘れないように。
オフィス・アワー	水曜日　昼休み，3限目　他随時　研究棟　５０３教員室及び５０６教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇	導入：武道文化とは	配布資料および授業の復習（30分以上）
2	〃	武道の特性1	Web-class 資料の予習と復習、発表の準備（30分以上）
3	〃	修行とは	Web-class 資料の予習と復習、発表の準備（30分以上）
4	前阪　茂樹	武道の根底に流れる剣術・兵法論を知る１ （剣術・兵法の思想／理論　殺人刀・活人剣）	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
5	〃	武道の根底に流れる剣術・兵法論を知る２ （剣術・兵法の思想／理論　　不動智）	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
6	〃	競技文化としての剣道の考え方や理論を知る１ （剣道の思想／稽古法）	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
7	〃	競技文化としての剣道の考え方や理論を知る２ （剣道のルール／道具等）	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
8	中村　勇	競技文化としての柔道の考え方や理論を知る （柔道の思想/稽古法）	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
9	〃	競技文化としての柔道の考え方や理論を知る （ルール/設備/柔道衣）	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
10	〃	武道の特性2	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
11	〃	大衆文化としての武道	資料収集・プレゼンテーションの準備（30分以上）
12	〃	武道の礼法	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
13	〃	武道の国際化1	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
14	〃	武道の国際化2	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）
15	〃	武道の伝統と発展	Web-class 資料の予習と復習（30分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体発育発達・老化論 (131B0-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	村田　宗紀・髙井　洋平・沼尾　成晴			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	―
授業の概要	成長や老化と共にヒトの身体は大きく変化する．そのため，運動指導をするにあたり，成熟や老化の程度に適した指導を行うことが求められる．また，発育発達・老化は性差や，様々な要因による個人差が存在することから，運動指導は個々に応じた配慮を求められる．本講義では，身体の発達・老化や，成長に伴う基本的な運動（走跳投動作）の変化など，具体的なデータ（図表）を示しながら，これまでの研究から明らかにされている知見を学ぶ．本講義を通じ，体育・スポーツ指導を行ううえで，年代に応じた配慮が身につくと期待できる．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （指導者基礎力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	成長に伴う身体の変化に関する基本的な知識を身につけ，他者に説明することができる．また，体育・スポーツ指導において，年代に応じた配慮ができるようになる．			○		○		100
	□情意的領域								
	□技能的領域								

成績評価の基準	成績評価はレポート（発育発達論：高井，村田担当分）および定期試験（老化論：沼尾担当分）にて行う．レポートおよび定期試験は，授業内容で取り扱った内容が理解できているか，および自身の意見が述べられているかを問う．単位認定には，レポート（発育発達論：高井，村田担当分）で60点以上かつ，定期試験（老化論：沼尾担当分）で60点以上の評価を得ることが必要となる．なお，所定の出席（2/3以上）に満たない場合にも単位が認定されない． 高井：授業内に課す小レポートと，講義終了後に課すレポートで成績を評価する． 村田：授業内に課す小レポートと，講義終了後に課すレポートで成績を評価する． 沼尾：試験にて成績を評価する
テキスト、教材 参　考　書	参考書 からだの発達　身体発達学へのアプローチ（高石昌弘，樋口満，小島武次．大修館書店） からだの発達と加齢の科学（樋口満，佐竹隆．大修館書店） 辞典　発育・成熟・運動（Robert M. Malina (著)，Claude Bouchard (著)，高石昌弘（訳），小林寛道（訳）．大修館書店） 理学療法学テキスト　高齢者理学療法学（池添冬芽（編）．メジカルビュー社）
履修条件・ 関連科目	解剖生理学，運動生理学，バイオメカニクスを履修していることが望ましい。　　備考(教員メッセージ含む)：特になし。
オフィス・アワー	村田：随時　研究棟4階　404教員研究室 髙井：随時可能　（スポーツトレーニング教育研究センター　教官室2　y-takai@nifs-k.ac.jp） 沼尾：随時可能　研究棟4階　406教員研究室（不在の場合もあるため、事前にメールなどでアポイントをとることが望ましい。 numashige@nifs-k.ac.jp)

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙井　洋平	オリエンテーション、発育発達を学ぶ意義	小レポート（授業内）、人の発育発達について予習・復習を行う．（1時間）
2	〃	体格、身体組成の発育	小レポート（授業内）、身体組成について予習・復習を行う．（1時間）
3	〃	筋力・筋パワーの発達	小レポート（授業内）、筋力・パワーについて予習・復習を行う．（1時間）
4	〃	エネルギー代謝における発達	小レポート（授業内）、心肺呼吸循環について予習・復習を行う．（1時間）
5	〃	発育期のフィジカルトレーニング	小レポート（授業内）、トレーニングの原理・原則について予習・復習を行う．（1時間）
6	村田　宗紀	運動能力の発達	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
7	〃	基本動作の発達（走・跳・投動作）①	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
8	〃	基本動作の発達（走・跳・投動作）②	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
9	〃	基本動作の発達（走・跳・投動作）③	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
10	〃	基本動作の発達（走・跳・投動作）④	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
11	沼尾　成晴	高齢者の特徴	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
12	〃	高齢化に伴う身体機能の変化	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
13	〃	高齢者の機能評価（身体機能）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
14	〃	高齢者に対する運動トレーニング1（筋力，平衡機能，持久力）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
15	〃	高齢者に対する運動トレーニング（転倒予防，認知症予防）	授業内容の予習・復習を行う．（1時間）
16	〃	定期試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ戦術実践論 (131B1-1310)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	髙橋　仁大・濱田　幸二・萬久　博敏・松村　勲・三浦　健・塩川　勝行・榮樂　洋光			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	スポーツ戦術実践論は、主に講義により、球技種目を中心とした試合中の攻防、駆け引きに関する詳細、日常練習での戦術トレーニングを計画的に進めるための基礎理論、戦術分析（試合分析）の基礎理論などについて概説し、選手として、個人戦術やチーム戦術の基本をマスターするとともに、将来コーチ（指導者）として大成するために必要不可欠な諸問題の解決事例を検討する。これにより体育学の知識を用いて応用・分析し、説明することができる能力としての、スポーツ現場での判断力と行動力を高めることや、実践場面でのスカウティング力が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	個人戦術やチーム戦術の基本を理解する。 戦術トレーニングのための基礎理論を理解する。 戦術分析（試合分析）の基礎理論を理解する。	○		○				60
	■情意的領域	選手として戦術を活用することに関心を持つ。 指導者として戦術を活用することに関心を持つ。 戦術分析（試合分析）を活用することに関心を持つ。	○		○				40
	□技能的領域								

成績評価の基準	各担当教員の課すレポートの得点と授業参画を合計し、60 点以上のものを合格とする。１／３以上の欠席により単位は認定されない。
テキスト、教材 参　考　書	「スポーツの戦術入門」（ヤーン・ケルン著（朝岡、水上、中川監訳）、大修館、1998） 「THE ESSENTIALS OF PERFORMANCE ANALYSIS」（M. Hughes and I. M. Franks, Routledge, 2008）　他、配付資料等
履修条件・ 関連科目	スポーツパフォーマンス研究論
備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配付やレポート提出等を行う
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 濱田（研究棟8階808教員研究室） 萬久（実験プール教官室） 松村（研究棟3階310教員研究室） 三浦（研究棟8階807教員研究室） 塩川（研究棟8階810教員研究室） 榮樂（研究棟7階709教員研究室または海洋スポーツセンター）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙橋　仁大	スポーツ戦術の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
2	塩川　勝行	サッカーの戦術と実践① 小レポート	講義内容の復習（1時間）
3	〃	サッカーの戦術と実践②	講義内容の復習（1時間）及びレポート作成
4	濱田　幸二	バレーボールの戦術と実践① 小レポート	講義内容の予習と復習（1時間）
5	〃	バレーボールの戦術と実践② 小レポート	講義内容の予習と復習（1時間）
6	三浦　健	バスケットボールの戦術と実践	小レポート（20分）
7	〃	孫子の兵法　－名将の戦略戦術－	小レポート（20分）
8	萬久　博敏	競泳の戦術と実践	小レポート・講義内容の復習（1時間）
9	榮樂　洋光	セーリング競技の戦術と戦略	小レポート・講義内容の復習（1時間）
10	松村　勲	陸上競技（トラック・ロード）の戦術と戦略	小レポート等の作成（20分）
11	髙橋　仁大	テニスの戦術と実践①	講義内容の予習と復習（1時間）
12	〃	テニスの戦術と実践②	講義内容の予習と復習（1時間）
13	〃	戦術評価のためのゲームパフォーマンス分析の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
14	〃	戦術評価のためのゲームパフォーマンス分析の事例と応用	講義内容の予習と復習（1時間）
15	〃	スポーツ戦術の実践に向けて	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ調査法 (131B3-1311)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	北村　尚浩			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	体育・スポーツの現場における様々な社会調査の基本と実施方法、さらには、調査データのコンピュータによる統計的分析とレポート作成の方法論を学ぶ。卒業研究やスポーツプロモーションに必要な，コンピュータを利用した社会調査データの活用方法への理解が深まる。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	講義全般に関した基礎的知識を有する	○	○			○		55
	■情意的領域	授業に参加し講義内容に関した質疑に積極的に応える	○			○			25
	■技能的領域	課題レポート作成技術			○				20

成績評価の基準	学期末試験の成績55％に、授業態度、質疑応答を中心とした授業への取り組み状況、小テスト、課題レポート等45％を加えて総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	大谷 信介ら「新・社会調査へのアプローチ―論理と方法」ミネルヴァ書房 森山和夫「社会調査方入門」有斐閣ブックス 鈴木敦子「質問紙デザインの技法」		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時（６１０研究室）kitamura@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	体育・スポーツ現場における社会調査の意義	新聞記事の検索（30分以上）
2	〃	量的調査と質的調査	Reading assignment（30分以上）
3	〃	調査と研究の進め方	Reading assignment（30分以上）
4	〃	社会調査の企画	Reading assignment（30分以上）
5	〃	調査票の設計（1）	リサーチデザインの作成（30分以上）
6	〃	調査票の設計（2）	リサーチデザインの作成（30分以上）
7	〃	サンプリング	Reading assignment（30分以上）
8	〃	分析データの準備	Reading assignment（30分以上）
9	〃	SPSSによるデータ分析と結果のまとめ方（1）	Reading assignment（30分以上）
10	〃	SPSSによるデータ分析と結果のまとめ方（2）	Reading assignment（30分以上）
11	〃	SPSSによるデータ分析と結果のまとめ方（3）	Reading assignment（30分以上）
12	〃	データ分析の実際（1）	データ分析（30分以上）
13	〃	データ分析の実際（2）	データ分析（30分以上）
14	〃	レポート作成（1）	レポート作成（30分以上）
15	〃	レポート作成（2）	レポート作成（30分以上）
16	〃	最終試験	最終レポート提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツビジネス論 (131B3-1312)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	隅野　美砂輝・棟田　雅也			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	スポーツに関するビジネスを立ち上げる際，一般のビジネスと同様にビジネスプラン(事業計画書)の作成は必要不可欠である.本授業は，講義，個人課題，グループプロジェクトにより，ビジネスプランに必要な項目や作成の手順について概説し，実際にビジネスプランの作成を行わせることによって，スポーツ・武道および体育・健康づくりに関するビジネスやプロジェクトを企画立案するための専門的，応用的な知識や考え方，意欲を身につける科目である.また，コミュニケーション力，課題解決力，専門的な知識・教養が身につくことが期待される.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、課題解決力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ビジネスプランに必要な項目について理解し，その知識を用いて実際に作成することができる	○		○	○			50
	■情意的領域	起業やビジネスの運営に興味・関心を持ち，意欲的に取り組む意思を持つ	○		○	○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	課題の提出状況、授業への取組み状況より総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	資料を適宜配付する。 参考書： 健康フィットネス・マネジメント、山崎利夫 監修、サイエンティスト社、2010 日経MJ、日本経済新聞社 日経トレンディ、日本経済新聞社		
履修条件・ 関連科目	スポーツ経営・管理学概論、スポーツ産業論、スポーツマーケティング論、スポーツ社会学の受講が望ましい。 受け入れ人数を超えた場合は、上記授業の履修状況・授業態度・成績等により制限を行う可能性がある。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	隅野：501研究室 棟田：602研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	隅野　美砂輝 棟田　雅也	オリエンテーション:授業の進め方，内容について	スポーツに関連したビジネスや自分の興味のあるビジネスについて情報収集(1時間)
2	〃	ビジネスのアイディア出し（ブレーンストーミング）#1	次回のブレストテーマのアイディアを事前に考えてくる(1時間)
3	〃	ビジネスのアイディア出し（ブレーンストーミング）#2	個人課題(ユニークなビジネスアイディア紹介)のテーマを探る(1時間)
4	〃	個人課題の作成	個人課題(ユニークなビジネスアイディア紹介)のテーマを絞る、情報収集を行う（1時間）
5	〃	個人課題の作成	個人課題(ユニークなビジネスアイディア紹介)の提出、発表のための準備を行う（1時間）
6	〃	個人課題の発表とディスカッション	個人課題(ユニークなビジネスアイディア紹介)の作成（1時間）
7	〃	ビジネスプラン作成のための基礎知識(アイデア出し、環境分析)	ビジネスアイディアをできるだけ多く考案してくる(1時間)
8	〃	ビジネスプラン作成のための基礎知識(マーケティング)	ビジネスアイディアをできるだけ多く考案してくる(1時間)
9	〃	ビジネスプラン作成のための基礎知識	ビジネスアイディアをできるだけ多く考案してくる(1時間)
10	〃	グループプロジェクト課題の検討1	事業計画書の項目についてそれぞれ考えてくる(1時間)
11	〃	グループプロジェクト課題の検討2	事業計画書の項目についてそれぞれ考えてくる(1時間)
12	〃	グループプロジェクト課題のサマリー（要約）作成	グループプロジェクト課題のサマリー(要約)の作成(1時間).
13	〃	グループプロジェクト課題の作成	グループプロジェクト課題の作成と準備(1時間).
14	〃	グループプロジェクト課題の作成	グループプロジェクト課題の作成と準備(1時間).
15	〃	グループプロジェクト課題の発表とディスカッション	グループプロジェクト課題の作成と発表の準備(1時間)、授業の振り返り（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツ統計学 (131B0-1313)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	西嶋　尚彦・松岡　弘樹			補助担当者名	
単位数	２　単位	履修年次	３年次	受け入れ人数	－
授業の概要	情報社会化が進み，データ分析に基づく問題解決能力が必要となっている．本授業では，SPSS，R，Python等の統計分析ソフトウェアを用いて，分散分析，相関・回帰分析，多変量統計解析，構造方程式モデリング，ニューラルネットワーク等の機械学習手法などの分析方法，分析結果の読み取り方を学ぶ．これにより，先端的な統計分析手法と機械学習のデータ分析手法等を卒業論文等のデータへ適用し，問題を解決する実践力を修得する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力		授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	統計分析手法と機械学習手法を理解し，説明できる．			○				40
	■情意的領域	体育・スポーツ分野におけるデータの統計分析の実践力の向上に意欲的に取り組む．			○				20
	■技能的領域	授業内容の手順に従って，統計分析手法と機械学習手法を実践し，データ分析過程をレポートする．			○				40

成績評価の基準	全１６回の授業の「基本的，先端的統計分析方法」についてのレポートを作成し，レポートを提出する．		
テキスト、教材 参　考　書	資料は「Web-Class」からダウンロードする． 参考書：1)「Rによる心理・調査データ解析 第2版」(緒賀郷志 著，2019, @3080円), 2)「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 第3版」(小塩真司 著，2018, @3080円)		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	・統計ソフトウェアを用いるため，各自ネットワークに接続できるPCを準備すること．
オフィス・アワー			

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	西嶋　尚彦	１．オリエンテーション，統計ソフトウェアのインストール(SPSSまたはR)	復習
2	〃	２．統計ソフトウェアのインストール（Python）	復習
3	松岡　弘樹	３．SPSSまたはR を用いた一元配置分散分析（繰り返しなし）	復習
4	〃	４．SPSSまたはR を用いた一元配置分散分析（繰り返しあり）	レポート提出
5	〃	５．SPSSまたはR を用いた二元配置分散分析（繰り返しなし）（主効果）	復習
6	〃	６．SPSSまたはR を用いた二元配置分散分析（混合モデル１交互作用）	復習
7	〃	７．SPSSまたはR を用いた二元配置分散分析（混合モデル２単純主効果）	レポート提出
8	〃	８．SPSSまたはR を用いた相関，偏相関分析	復習
9	〃	９．SPSSまたはR を用いた重回帰分析	復習
10	〃	１０．SPSSまたはR を用いたロジスティック回帰分析	レポート提出
11	〃	１１．SPSSまたはR を用いた構造方程式モデリング（回帰モデル）	復習
12	〃	１２．SPSSまたはR を用いた構造方程式モデリング（多重指標モデル）	レポート提出
13	〃	１３．SPSSまたはR を用いた項目反応理論分析	レポート提出
14	〃	１４．Python を用いた記述統計	復習
15	〃	１５．Python を用いた決定木分析	復習
16	〃	１６．Python を用いたニューラルネットワーク	レポート提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツマーケティング論 (131B3-1314)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	隅野　美砂輝			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	60名
授業の概要	スポーツに関するビジネスを行う際、一般のビジネスと同様にマーケティングの基本的な原理、知識、手法の理解は必要不可欠である。本授業では、主に講義を中心として、スポーツの分野に関してマーケティングの基本的な原理、知識、手法を概説する。スポーツに関するビジネスを効率的かつ効果的に行うための専門的・応用的な知識や考え方・意欲を身につける科目である。また、事業運営力、一般教養・倫理、専門的な知識や教養が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	スポーツ・マーケティングに関する知識を統合し、それ自体やその課題について分析し説明できる。マーケティングの視点から、スポーツを捉えることができる。	○		○	○	○		50
	■情意的領域	スポーツ・マーケティングについて興味・関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢や、その課題解決に向かって意欲的に取り組む意思を持つ。	○		○	○	○		50
	□技能的領域								

成績評価の基準	期末試験成績、課題の提出状況により総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストはないが、以下の参考書を推薦する。 山﨑利夫編著「健康フィットネス・マネジメント」サイエンティスト社 小川孔輔著「マーケティング入門」日本経済新聞出版社 グロービズ・マネジメント・インスティテュート編著「新版MBAマネジメント・ブック」		
履修条件・ 関連科目	・1 年次の履修は認めない ・「スポーツ社会学」「スポーツ産業論」「スポーツマネジメント概論」を履修しておくことが望ましい ・受入れ人数を超える場合は、以上の授業の履修状況・授業態度および成績により制限を行う可能性があるため、第1回目の授業には必ず出席すること。出席できない場合は事前に相談すること。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	501研究室　火曜日　16-17時　msumino@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	隅野　美砂輝	授業の進め方説明、スポーツ・マーケティングとは	リーディングアサイメント（1時間）
2	〃	スポーツにおけるマーケティングの意義・役割	スポーツにおけるマーケティング概念の復習を行う（1時間）
3	〃	スポーツ分野におけるスポンサーシップ	スポンサーシッププログラムやコンセプトを考案する（1時間）
4	〃	市場分析と顧客分析（環境分析、市場の機会と脅威、ターゲット市場）	課題：スポーツ関連企業・組織の環境分析を行う（1時間）
5	〃	市場をつかむ（マーケットリサーチ）	リーディングアサイメント（1時間）
6	〃	マーケティング・ミックス（製品、価格、流通、プロモーション）	リーディングアサイメント（1時間）
7	〃	製品、プログラム戦略（製品の概念、ポジショニング、製品の開発）	課題：ある製品・プログラムのポジショニング図の作成（1時間）
8	〃	製品、プログラム戦略（ライフサイクル、ブランド戦略）	リーディングアサイメント（1時間）
9	〃	価格戦略（価格設定）	リーディングアサイメント（1時間）
10	〃	価格戦略（価格設定、価格決定要因、ライフサイクルと価格）	オリジナルプログラムを作成し、その価格設定を行う（1時間）
11	〃	流通戦略（流通チャンネルの種類、チャンネル構築のステップ）	リーディングアサイメント（1時間）
12	〃	プロモーション戦略（購買決定プロセス、戦略立案ステップ、戦略に影響する要因）	リーディングアサイメント（1時間）
13	〃	プロモーション戦略（広告、広報、販売促進）	オリジナルのプロモーション計画を立案する（1時間）
14	〃	スポーツ関連企業のマーケティング事例	リーディングアサイメント（1時間）
15	〃	まとめ　復習	リーディングアサイメント（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論 (131B21315)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	藤田　英二			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	私たちのからだは、動かさないと生理的機能は加齢による影響以上に退行していく。しかし、過度に使いすぎると器官に不調をきたし、スポーツ障害を引き起こしてしまう。アメリカスポーツ医学会が提唱している「Exercise is Medicine」という言葉が示すように、正しい科学的知見に基づいて行われた運動は、健康づくりや疾病の予防に対して有効な手段となる。本授業では、どのような運動を、どれくらいの強さと量で行えばいいのかなど、健康のための運動処方について学ぶ。これにより運動を指導する者としての「指導者基礎力」ならびに「科学的支援力」が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養 （指導者基礎力、科学的支援力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康に関連する体力要素の内容、その評価法について理解している。また、健康の維持・増進、および疾病の予防に必要な運動の効果、リスク、方法に関して理解し、運動処方に活用することができる。	○		○	○			60
	■情意的領域	健康づくりに対する運動のあり方について興味・関心を持ち、意欲的に取り組む意思を持つ。	○						40
	□技能的領域								

成績評価の基準	出席状況、授業への取り組み状況、レポート課題により総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	この授業のすべての連絡は基本的にWebClass上で行う（必ず定期的にチェックすること）。
オフィス・アワー	必要に応じメールにて問い合わせを：fujita@nifsk.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	オリエンテーション：運動処方とは	
2	〃	健康の維持・増進に必要な体力とは何か	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
3	〃	生活習慣病について	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
4	〃	体組成について	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
5	〃	からだの発達と加齢による変化	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
6	〃	運動の強度と量の表し方	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
7	〃	適正な運動強度・量・頻度とその実施期間	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
8	〃	有酸素運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
9	〃	レジスタンス運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
10	〃	柔軟運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
11	〃	バランス運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
12	〃	骨密度を高める運動とその効果	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
13	〃	様々な対象に応じた運動処方	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
14	〃	運動処方時の安全管理	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。
15	〃	健康づくりの施策と運動習慣の形成	WebClassでの配付資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと（1時間）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	応用スポーツ心理学 (131B3-1316)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	森　司朗			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	―
授業の概要	この科目は、心理的な立場からより効果的な運動指導のするための能力を身につける科目である。具体的には、２年次で履修したスポーツ心理学の講義の内容を発展させ、より質の高い指導者として把握しておくべき最近のスポーツ心理学に関する理論及び知識を習得することを目的とする。授業内容は運動学習、動機づけ、心理学な観点からのジュニア期の運動指導のあり方などを中心に行う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツ心理学の応用知識を理解している 自分の運動経験をスポーツ心理学の知識を応用して解決できる		○	○		○		90
	■情意的領域	主体的に授業に取り組む	○						10
	□技能的領域								

成績評価の基準	出席2/3以上で、授業内容の総合理解が６割を超えていることを合格の条件とする		
テキスト、教材 参　考　書	杉原・船越・中込編著「スポーツ心理学の世界」（福村出版）		
履修条件・ 関連科目	１年次にスポーツ心理学、スポーツカウンセリング論を履修していることを授業条件とする	備考(教員メッセージ含む)	テキストに沿って授業を行うので、必ずテキストの準備をし、予習をしておくこと
オフィス・アワー	月～金までの授業・各種委員会会議などを除いた空き時間～ 17時　７０２研究室、体育心理学実験室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　司朗	オリエンテーション：スポーツ心理学とは	
2	〃	学習理論から導かれる練習・指導１	授業内容の予習と復習（30分以上）
3	〃	学習理論から導かれる練習・指導２	授業内容の予習と復習（30分以上）
4	〃	学習理論から導かれる練習・指導３	学習理論に関するまとめのレポート（30分以上）
5	〃	試合場面でのパフォーマンスの低下１	授業内容の予習と復習（30分以上）
6	〃	試合場面でのパフォーマンスの低下２	授業内容の予習と復習（30分以上）
7	〃	試合場面でのパフォーマンスの低下３	試合場面に関するレポート（30分以上）
8	〃	状況判断能力を養う１	授業内容の予習と復習（30分以上）
9	〃	状況判断能力を養う２	レポート
10	〃	状況判断能力を養う３	状況判断能力に関するまとめのレポート（30分以上）
11	〃	子どもの運動能力の現状と課題	授業内容の復習（30分以上）
12	〃	子どものスポーツ指導のあり方（体の側面から）１	授業内容の予習と復習（30分以上）
13	〃	子どものスポーツ指導のあり方（体の側面から）２	授業内容の予習と復習（30分以上）
14	〃	子どものスポーツ指導のあり方（心の側面から）１	授業内容の予習と復習（30分以上）
15	〃	子どものスポーツ指導のあり方（心の側面から）２	子どものスポーツ指導に関するまとめのレポート（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	イベント管理学概論 (131B3-1317)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	間藤　芳樹			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本授業はスポーツイベントを中心に、管理の視点より、イベントの企画、計画、制作の実践的理論手法を提供するものである。本講座は、日本イベント産業振興協会（JACE）が行っている「イベント検定」の認定講座であり、授業内で「イベント検定」の資格を修得することが可能である。（有料）				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、課題解決力、専門的な知識・教養 （コミュニケーション力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	企画書作成時、実現可能な企画を提案できる 企画実現時に具体的な管理手段を整理できる	○		○				40
	■情意的領域	①ワーキング授業により、意欲的主体的に取り組もうとする ②グループ授業により、コミュニケーション能力の重要性を理解しようとする	○						30
	■技能的領域	指示された、条件、期限内に提案書、レポートを作成できる				○			30

成績評価の基準	授業の積極的な参加・授業内の小レポート４種類、グループワーキングでの企画発表 全体レポートの各点を合計し、60点以上を合格とする		
テキスト、教材 参　考　書	基礎から学ぶ基礎からわかるイベント（イベント検定公式テキスト）間藤芳樹　編書　発売元UDジャパン3240円（税込）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	遅刻は原則として認めない ○実務経験のある教員による授業科目：プロモーション、イベント企画・制作会社経営者。 ※コロナの影響が残っている場合、グループワーキングを個人作業に変更します。
オフィス・アワー	随時受付る。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	間藤　芳樹	授業ガイダンス（概要、心構え、成績評価等）	教科書の目次を読み把握する（20分）
2	〃	イベント概論①イベントの基礎を学ぶ　概論、歴史	教科書の第１章を読む（60分）
3	〃	イベント概論②イベントの基礎を学ぶ 構造、分類	教科書の第１章のポイントを確認する（30分）
4	〃	イベントの企画を学ぶ①　　企画と計画	教科書の第３章を読む（60分）
5	〃	イベントの企画を学ぶ②　　企画と計画	教科書の第３章のポイントを確認する（30分）
6	〃	企画演習①基本構想基本計画について作業する	各種情報にアクセスし、コンテンツを探す（90分）
7	〃	イベントのリスクマネージメントについて学ぶ	各種情報にアクセスし、コンテンツを参考にする（30分）
8	〃	映像資料②実際の文化、スポーツイベントについて映像で学ぶ	イベントの映像作品を探し見る（60分以上）
9	〃	イベントの企画書を制作する①（グループワーキング　OR　個人作業）	各グループで情報交換を行う（60分）
10	〃	イベントの企画書を制作する②（グループワーキング　OR　個人作業）	各グループで、役割分担し制作作業をする（60分）
11	〃	プレゼンテーションを実施する（グループワーキング　OR　個人作業）	各グループで、リハーサルを行う（30分）
12	〃	イベントの安全管理について学ぶ	第5章を読む（30分）
13	〃	ユニバーサルイベントについて学ぶ	第５章を読みポイントの確認をする（30分）
14	〃	企画演習、課題における企画書の作成	企画書の下書きを制作する（90分）
15	〃	レポート提出　企画検証	企画書の政策をする（20分）
16	〃	全体講評　イベント検定対応	教科書のポイントを振り返り読む（40分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスプロモーション論・実習 (131B2-7301)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	中垣内　真樹・廣津　匡隆・石神　睦子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	―
授業の概要	健康維持や増進および生涯スポーツの普及を目指す上で必要なヘルスプロモーションに関わる基礎的な事項を学び，運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義，演習，実習を通して身につけることを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康および疾病予防等に関する知識を修得し，健康づくりの具体的な方法を身につける	○		○				40
	■情意的領域	健康づくり運動プログラムの組み立て方や効果と安全性を確保できる指導方法について理解する	○						40
	■技能的領域	ヘルスプロモーションに関する技能を実践し，遂行できる能力を身につける	○						20

成績評価の基準	レポートが提出されているという条件で，授業中の意欲，授業中に課したレポートなどの各得点を合計し，６０点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜授業で紹介する。 参考書：「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） 　　：「運動処方の指針　運動負荷試験と運動プログラム　原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円 ）		
履修条件・ 関連科目	運動生理学，トレーニング科学概論，生涯スポーツ論・演習[健康・体力論・演習]等を履修していることが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時 中垣内：研究棟4階　407研究室 廣　津：研究棟3階　304研究室 石　神：研究棟3階　309研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹	オリエンテーション	
2	廣津　匡隆	運動における外傷と内科的障害の予防等について学ぶ	復習・小レポート（1時間）
3	石神　睦子	心電図の基礎と運動負荷試験	復習・小レポート（1時間）
4	中垣内　真樹	健康の概念，生活習慣病概論，介護予防概論	WebClassでの復習（30分）
5	〃	呼吸循環器系と運動	WebClassでの復習（30分）
6	〃	骨格筋系と運動	WebClassでの復習（30分）
7	〃	体力測定と具体的その方法を知る	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
8	〃	トレーニング概論	WebClassでの復習（30分）
9	〃	有酸素性運動の実際ージョギング，ウオーキングー	WebClassでの復習（30分）
10	〃	ライフステージでのトレーニングとその効果	WebClassでの復習（30分）
11	〃	中高齢者向けの運動の実際	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
12	〃	生活習慣病（有疾患者）に対する適切な運動療法	WebClassでの復習（30分）
13	〃	レジスタンス運動の実際ー筋力づくり	WebClassでの復習（30分）
14	〃	健康日本２１二次指針を踏まえた運動指導のあり方	WebClassでの復習（30分）
15	〃	高齢者向けの運動の実際ースクエアステップー	予習・復習・小レポート（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ国際開発論 (131B0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	山田　理恵・北村　尚浩・森　克己・関　朋昭・モハモド　モニルル　イスラム			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2	受け入れ人数	－
授業の概要	スポーツを通じた国際開発と平和（International Development and Peace through Sport）について概観し、グローバルな視座に立って国際開発におけるスポーツの果たす役割、機能に対する理解を深める。 それによって、スポーツを通じた国際開発の意義と課題について考察する能力を身に付けることができる。 それらによって、教養として必要な知識を身につけ、論理的に考え表現できる能力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力		授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツを通じた国際開発の基礎知識を身に付ける。 スポーツを通じた国際開発の問題を考える視点を身に付ける。			○	○			70
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、授業での発表・レポート作成に積極的に取り組む。	○		○				30
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業での発表内容、毎回の授業時に課されるレポートへの取組を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：齊藤一彦・岡田千あき・鈴木直文編著『スポーツと国際協力－スポーツに秘められた豊かな可能性』（大修館書店、2015年） その他適宜紹介する。また必要に応じて資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	6回～8回（北村担当）では，iPadを使用する．	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	山田（随時：７０５研究室） イスラム：教員研究室509号（内線: 4962）にて随時（但し，事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山田　理恵	スポーツを通じた開発（国際開発・地域開発）とは	参考書等の予習および復習（30分以上）
2	森　克己	スポーツにおける人権問題と開発①	スポーツにおける人権問題と開発に関する文献・資料の予習（３０分以上）
3	〃	スポーツにおける人権問題と開発②	スポーツにおける人権問題と開発に関する文献・資料の予習・復習（３０分以上）
4	〃	スポーツにおける人権問題と開発③	スポーツにおける人権問題と開発に関する文献・資料の予習（３０分以上）
5	モハモド　モニルル イスラム	スポーツ国際開発と身体測定評価①	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
6	〃	スポーツ国際開発と身体測定評価②	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
7	〃	スポーツ国際開発と身体測定評価③	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
8	北村　尚浩	スポーツ産業と開発	Reading assignment（30分以上）
9	〃	スポーツイベントと開発	Reading assignment（30分以上）
10	〃	スポーツ産業の功罪	課題レポート（60分以上）
11	関　朋昭	スポーツ国際開発とマネジメント①（経済的効果）	リーディングアサイメント（1時間）
12	〃	スポーツ国際開発とマネジメント②（経済的効果）	リーディングアサイメント（1時間）
13	〃	スポーツ国際開発とマネジメント③（スポーツマーケティング）	リーディングアサイメント（1時間）
14	山田　理恵	スポーツと国際平和	参考書・資料等の予習および復習、まとめ（40分以上）
15	〃	オリンピック・パラリンピック・ムーブメントの展開	参考書等の予習および復習（60分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツパフォーマンス研究論 (131B4-1318)	授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (応用科目)
担当教員名	髙橋　仁大・金高　宏文・竹中　健太郎・榮樂　洋光・藤井　雅文・永原　隆			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年後期	受け入れ人数	―
授業の概要	本授業では、スポーツや武道等の実践現場における活動や取り組み（スポーツパフォーマンス）を記述（可視化）→説明（解釈）→予測（仮説創出）→操作（仮説検証）する研究方法について解説するとともに、その研究例（実践研究）を紹介する。受講生は、卒業研究等において実践研究の論文の作成ができるようになるための基礎的な研究方法について理解し、身につける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	（課題発見力，科学的表現力，専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	実践研究の研究方法を理解する．多様な実践研究について把握する	○		○				10
	■情意的領域	現場課題を積極的に研究課題へと展開し，積極的に研究をしようとする	○		○				45
	■技能的領域	現場課題から研究課題を設定し，適切な研究方法を選択し，活用できる	○		○				45

成績評価の基準	授業への積極的な参加態度（授業内レポートや質疑応答等）および各授業者から提出された課題（小レポート課題）の達成度から総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：『体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版（2018） 参考書：『スポーツパフォーマンス研究』（http://www.sports-performance.jp/）にこれまでに掲載された研究論文 iPadを持参すること．授業で必要な資料は，WebClassからダウンロードすること		
履修条件・ 関連科目	本科目は，スポーツ・武道実践科学系およびスポーツ生命科学系に所属する教員のゼミナールを受講する学生の選択必修科目となっています．	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 金高（月曜日　15:00～16:00　大学院棟3階　4教員室） 竹中（研究棟5階507教員研究室） 榮樂（研究棟7階709教員研究室） 藤井（研究棟8階804教員研究室） 永原（大学院棟3階　1教員室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙橋　仁大	オリエンテーション　スポーツパフォーマンス研究論の考え方 スポーツパフォーマンス研究の実例（球技）	講義内容の予習と復習（1時間）
2	金高　宏文	スポーツパフォーマンス研究の実例（コツとカンの分析）	講義内容の予習と復習，小レポート課題の作成（1時間）
3	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（動作やフォームの主観的評価・タイプ分け）	講義内容の予習と復習，小レポート課題の作成（1時間）
4	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（単一事例の事例研究の書き方）	講義内容の予習と復習，小レポート課題の作成（1時間）
5	榮樂　洋光	スポーツパフォーマンス研究の実例 セーリング競技(ヨット、ウインドサーフィン)	講義内容の予習と復習（1時間）
6	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例 ローイング競技(カヌー、ボート)	講義内容の予習と復習（1時間）
7	永原　隆	スポーツパフォーマンス研究の実例（研究に必要な諸要素，論文に何を書くか）	講義内容の予習と復習（1時間）
8	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（論文をどのように書くか，文献，統計，禁止事項）	講義内容の予習と復習（1時間）
9	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（陸上競技　その他）	講義内容の予習と復習（1時間）
10	竹中　健太郎	スポーツパフォーマンス研究の実例（剣道）	講義内容の予習と復習（1時間）
11	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（武道）	講義内容の予習と復習（1時間）
12	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（武道　その他）	講義内容の予習と復習（1時間）
13	藤井　雅文	スポーツパフォーマンス研究の実例（野球）	講義内容の予習と復習（1時間）
14	〃	スポーツパフォーマンス研究の実例（野球　その他）	講義内容の予習と復習（1時間）
15	髙橋　仁大	スポーツパフォーマンス研究の実例　（テニス） 自身の研究計画の提出	研究計画の作成　講義内容の予習と復習（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅰ (132A0-2100)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	與谷　謙吾・堀内　雅弘・中本　浩揮・髙井　洋平・モハモド　モニルル　イスラム・幾留　沙智・宮崎　輝光			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1	受け入れ人数	全員
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、内外部環境のさまざまな刺激に対する人体の生理機能、心理機能の応答に関して学習することは重要なことである。また、同時にこれらの研究分野で用いられる基礎的な測定方法を習得することは、心身機能を評価するための第一歩でもある。本実験演習では、スポーツサイエンスの基本的な学問である「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」の各分野における基礎的な実験を行い、その測定技術を習得するとともに、測定値を評価する基礎理論の学習を目指すものである。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・各分野における基礎的な測定方法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポートを的確に作成することができる。			○				50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで正式な出席と認める。 授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。		
テキスト、教材 参　考　書	與谷：資料はその都度配付する。		
履修条件・ 関連科目	生物化学論、解剖生理学を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	体育学実験Ⅰの運動生理学領域では、全員が被検者となって実験（運動）を行うので、運動のできる服装（Tシャツ、短パン、ジャージなど）かつスポーツシューズを履いてくること。また、バイオメカニクス領域においても、SPセンターでの実習時には室内履きシューズを持参すること。
オフィス・アワー	髙井洋平：随時可能ですが、あらかじめ予約をしてもらえると確実です。（スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp） イスラム　モハモド　モニルル：教員研究室509号（内線: 4962）にて随時 幾留沙智：随時（603研究室）だが予めメールにて連絡をすることが望ましい（ikudome@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	與谷　謙吾	血圧の測定－簡便なメディカルチェック－	メディカルチェックにおける血圧測定の意義を理解し、本実習で測定されたデータを基にレポートを作成する。（1時間）
2	〃	筋電図の測定－異なる力発揮中の筋電図－	異なる力発揮によって得られる筋電図のデータを基にレポートを作成する。（1時間）
3	與谷　謙吾 堀内　雅弘	体力測定－無酸素性パワー（瞬発力）と有酸素性パワー（持久力）－	無酸素性パワーと有酸素性パワーを測定し、それぞれの値から体力評価、種目特性などについてレポートを作成する。（1時間）
4	〃	身体組成－体脂肪率の推定－	栄研式キャリパーを用いて皮脂厚の測定、並びに体脂肪率を算出し、そのデータを基にレポートを作成する。（1時間）
5	髙井　洋平	走および跳躍パフォーマンスにおけるフィールドテストの方法	走および跳躍能力におけるフィールドテストの方法を理解し、得られたデータの相互関係をレポートに作成する。（1時間）
6	〃	人の位置の測定方法	人の位置の測定原理を理解し、データ分析を行う。得られたデータを基にレポートを作成する。（1時間）
7	宮崎　輝光	ハイスピードカメラを用いたスポーツ動作のフィードバック	ハイスピードカメラの特徴、種類、用途、測定方法を理解しレポートにまとめる。（1時間）
8	〃	モーションキャプチャーとフォースプレートを用いた3次元動作分析	モーションキャプチャーとフォースプレートの特徴、用途、測定方法を理解しレポートにまとめる。（1時間）
9	中本　浩揮 幾留　沙智	性格検査	性格検査の結果を元にレポートを作成する。（1時間）
10	〃	目標設定と運動パフォーマンス	目標設定と運動パフォーマンスの関係についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）
11	〃	練習効果の転移	練習効果の転移についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）
12	〃	反応時間	反応時間についての実験結果を元にレポートを作成する。（1時間）

13	モハモド　モニルル イスラム	バランス［閉眼片足立］，敏捷性［8フィートアップアンドゴー］の測定法	調査結果に対する評価をレポートにまとめる（1時間）
14	〃	運動時の安全性指標の計測－脈拍，主観的運動強度（RPE），動脈血酸素飽和度（SPO2）－	調査結果に対する評価をレポートにまとめる（1時間）
15	未　　定	食事摂取頻度法を用いた食事摂取状況調査及びその評価	調査結果に対する評価をレポートにまとめる（1時間）
16	〃	コンディション記録とその評価	記録したコンディション指標と主観的な疲労度や生活との関連についてレポートを作成する（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－運動生理学 (132B0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	田巻　弘之・與谷　謙吾・堀内　雅弘			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、密接に関連している自然科学領域それぞれにおいて、基礎的な知識・教養に基づき、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本実験演習Ⅱ「運動生理学」では、体育学実験Ⅰの運動生理学領域を発展させ、呼吸循環機能、神経－筋機能に関するより専門的、かつ高度な実験を実習する。これらを通じ、メディカルチェック、体力測定、運動処方、運動制御、トレーニングに関連した専門的測定技術、ならびに測定値を評価するエキスパートアイが身につくと期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・それぞれの実験に関する専門的知識、測定技術、およびデータの評価法について理解している。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいて、客観的、正確、かつ適切にデータを評価している ・学術的な表現、表記を用いてレポートやスライドを作成し、発表することができる。			○	○			50
	■情意的領域	・積極的に測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組んでいる。 ・実習を通して、自然科学分野の研究に興味・関心を示している。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出することで、正式な出席と認める。 授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）。
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配付する。
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、身体科学論、バイオメカニクス（並行開設）を履修していることが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	体育学実験Ⅱの運動生理学領域では、全員が被検者となって実験（運動）を行うので、運動のできる服装（Tシャツ、短パン、ジャージなど）で、かつスポーツシューズを履いてくること。
オフィス・アワー	與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室(yotani@nifs-k.ac.jp) 田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室(tamaki@nifs-k.ac.jp)

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田巻　弘之 與谷　謙吾 堀内　雅弘	オリエンテーションと運動前のメディカルチェック：安静時及び運動中の心電図測定実習	メディカルチェックにおける心電図の測定意義を理解し、安静時の心電図から標準波形を理解するとともに、運動中の心電図から不整脈の有無を調べ、レポートを作成する（1時間）
2	〃	運動時の呼吸循環系応答－その1－：最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習	呼気ガス分析より酸素摂取量等を算出するとともに、最大下運動時の呼吸循環系諸指標の変化と運動強度との関連について、レポートを作成し、復習する（1時間）
3	〃	運動時の呼吸循環系応答－その2－：最大酸素摂取量の測定実習	最大酸素摂取量の測定意義についてまとめるとともに、様々な運動で得られた最大酸素摂取量を比較する。また、競技特性と最大酸素摂取量の関係などについてもまとめ、復習する（1時間）
4	〃	運動時の呼吸循環系応答－その3－：暑熱環境下における最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習	暑熱環境下における最大下運動時の呼吸循環系諸指標の変化と運動強度との関連について、常温環境下におけるそれと比較し、レポートを作成する。また、これまでの実習で得たデータを取り纏め、発表資料を作成する（4時間）
5	〃	身体組成　ー体脂肪率を推定する各種測定方法ー	競技選手が体脂肪率を把握する意義、各種測定法による推定値の違い、推定誤差など、実験結果をレポートにまとめる。
6	〃	これまでのデータ整理と総まとめ－発表会－	発表会で指摘された点、疑問点をまとめ上げ、復習する（1時間）
7	田巻　弘之 與谷　謙吾	筋電図の記録方法と局所疲労時の変化	筋電図の正しい記録方法と疲労に伴う筋電図の様相を記録・分析し、データを整理する（2時間）
8	〃	誘発筋電図（H波とM波）	電気刺激で末梢神経を刺激してH波とM波を記録し、その神経系の伝導・伝達に関するメカニズムを調べる（2時間）
9	〃	運動誘発電位潜時と筋電図反応時間①	経頭蓋磁気刺激によって運動誘発電位潜時を計測し、その電位発生に至るまでのメカニズムについて調べる（2時間）

10	〃	運動誘発電位潜時と筋電図反応時間②	視覚または聴覚刺激に対する左右肢の筋電図反応時間を計測し、時間の長さに関する知見を調べる（2時間）
11	〃	筋活動の可視化（筋電図/筋酸素化）とスポーツ、トレーニングへの活用，データ解析	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）
12	〃	ストレッチングの筋力発揮/筋放電活動への影響, データ解析	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）
13	〃	脳内で力発揮を抑制するしくみ（両側性機能低下現象）を調べる	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）
14	〃	筋組織（筋線維）のイメージングと組織染色法（速筋・遅筋を染色で判定する）	WebClassにある授業内容資料をもとに、文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）
15	〃	これまでのデータ整理と総まとめ－発表会－	発表会で指摘された点、疑問点をまとめ上げ、復習する（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－バイオメカニクス (132B0-2301)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	髙井　洋平・村田　宗紀・宮崎　輝光			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本実験演習Ⅱでは、体育学実験Ⅰを発展させ、動作分析、筋力・パワー、筋腱複合体に関するより専門的かつ高度な実験を行い、動作の習熟、運動処方、運動制御、トレーニングに関連した測定技術を習得するとともに、測定値を評価する専門理論の学習を目指すものである。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術およびその評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポート作成、発表を行うことができる。			○	○			50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席し、実験の測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで、正式な出席と認める。授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席と認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取り組み状況を加味して総合的に成績を評価する（６０点以上を合格）。		
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配布する。		
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、身体科学論、バイオメカニクス（並行開設）を履修していることが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	髙井洋平　随時可能だが、事前にアポイントを取ることが望ましい（スポーツトレーニング教育研究センター・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp） 村田宗紀　随時（研究棟4階　404教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙井　洋平 村田　宗紀	オリエンテーション：バイオメカニクス研究法について、今後の授業展開について	今後行われる授業の予習を行う（1時間）
2	村田　宗紀 宮崎　輝光	カメラの設定について	筆記用具持参、運動のできる格好、レポート（1時間）
3	〃	ディジタイズ実習	試技の分析を行うこと（1時間）
4	〃	フォースプレートのデータ分析	筆記用具持参、情報処理室、レポート提出（1時間）
5	〃	2次元動作分析①	筆記用具持参、情報処理室（1時間）
6	〃	2次元動作分析②	筆記用具持参、情報処理室、レポート提出（1時間）
7	〃	3次元動作分析①	情報処理室
8	髙井　洋平	位置座標計測システムの使い方	筆記用具持参、運動できる格好、座標について予習・復習をする（1時間）
9	〃	座標を用いた人の移動に関する実験方法	筆記用具持参、運動できる格好、座標の分析について予習・復習をする（1時間）
10	〃	座標を用いた人の移動に関するデータ分析	情報処理室、筆記用具持参、授業の復習（1時間）
11	〃	座標を用いた複数人の協調性に関する測定方法	筆記用具持参、運動できる格好（1時間）
12	〃	座標を用いた複数人の協調性に関するデータ分析	筆記用具持参、授業の復習（1時間）
13	〃	座標を用いた実験計画の作成・実験実習	筆記用具持参、運動できる格好、実験デザインを考える（1時間）
14	〃	座標を用いた実験実習	筆記用具持参、運動できる格好、データの分析
15	〃	実験データの分析・レポート作成	筆記用具持参、レポート提出（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－スポーツ心理学 (132B0-2302)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	森　司朗・中本　浩揮・幾留　沙智			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	－	受け入れ人数	－
授業の概要	スポーツ・武道、ならびに体育・健康づくりの専門家を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本実験演習Ⅱ「スポーツ心理学」では、体育学実験Ⅰを発展させ、スポーツ心理学の基本的な実験の基礎知識及び手法、分析を学習していくことを目指す。主な内容としては、心理適正、運動学習実験、メンタルトレーニングにつながる心理検査、フィールド調査などを行う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術およびその評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、スポーツサイエンスの知見に基づいたレポート作成、発表を行うことができる。	○		○	○			50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実習を通して、自然科学分野に興味・関心を持つ。	○			○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを提出（必須）することで、正式な出席と認める。 授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象として、レポート内容（A、B、C等）に、測定技術の習得度、実験への取組状況を加味して総合的に成績を評価する（60点以上を合格）		
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）は、その都度配布する。 参考書：体育心理学実験実習概説（体育心理学実験指導研究会編、大修館書店）		
履修条件・ 関連科目	スポーツ心理学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	月～金までの授業・各種委員会、会議などを除いた空き時間～17時、702研究室、707教室、603教室、体育心理学実験室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　司朗 中本　浩揮 幾留　沙智	オリエンテーション（スポーツ心理学研究法について）	
2	〃	スポーツ心理学研究とその独自性	心理学の独自性についてレポートを作成する。（1時間）
3	〃	心理検査法：心理特性の心理テスト(DIPCA)の理解と実際	DIPCAの評価得点から自己分析についてレポートを作成する。（1時間）
4	〃	心理検査法:心理状態の心理テスト(PCI)の理解と実際	PCIの評価得点から自己分析についてレポートを作成する。（1時間）
5	〃	心理検査法：投影法の心理テスト(バウムテスト)の理解と実際	バウムテストの診断結果から自己分析についてレポートを作成する。（1時間）
6	〃	実験法：情報処理と反応時間①	反応時間の記録について、情報処理の観点から考察する。(1時間)
7	〃	実験法：情報処理と反応時間②	反応時間の記録について、情報処理の観点から考察する。(1時間)
8	〃	演習：質問紙研究法１	質問紙内容について考えまとめる。(1時間)
9	〃	演習：質問紙研究法２	質問項目の信頼性・妥当性について考えまとめる。(1時間)
10	〃	演習：質問紙研究法３	質問紙を作成しデータを取得する。(1時間)
11	〃	演習：質問紙研究法４	質問紙の信頼性・妥当性を統計的に分析する。(1時間)
12	〃	演習：質問紙研究法５	質問紙調査の結果をまとめ、プレゼンテーションを準備する。(1時間)
13	〃	運動能力検査(1)	幼児運動能力検査について理解し、実施方法を習得する。(1時間)
14	〃	運動能力検査(2)	幼児運動能力検査を実施し、データをまとめる。(1時間)
15	〃	運動能力検査(3)	幼児運動能力検査の結果をまとめ、プレゼンテーションする。(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育学実験Ⅱ－衛生学・公衆衛生学、スポーツ栄養学 (132B0-2303)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (実験演習科目)
担当教員名	モハモド　モニルル　イスラム・未　定			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2	受け入れ人数	10
授業の概要	スポーツ・武道、並びに体育・健康づくりの専門化を目指す体育学専攻の学生にとって、「生理学」、「バイオメカニクス」、「衛生・公衆衛生学」、「栄養学」、「心理学」など、親密に関連している自然科学領域それぞれにおいて、科学的支援力や表現力を身につけることは必須である。 本体育学実験演習Ⅱ「公衆衛生・栄養学」は、体育学実験Ⅰを発展させ、種々の環境状況の測定や食事摂取や体調の変化が影響する測定を習得するとともに、測定値を客観的に比較・評価するための専門的な学習を目指すものである。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	科学的支援力、科学的表現力、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・それぞれの実験において、測定技術及びその客観的評価法について理解する。 ・実験結果を整理し、知見に基づいたレポートの作成、対策などの発表を行うことができる。			○	○			50
	■情意的領域	・測定に携わりながら、与えられた課題に対して自主的に取り組む。 ・実験・実習を通して、自然科学分野に興味を持つ。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業へ出席して実験・測定方法を習得し、かつ実験内容をまとめたレポートを作成・提出することで正式な出席と認める。授業へ出席しても、レポートを提出しない場合は出席とは認めない。出席回数は2/3以上の受講生を対象とし、レポート内容（5段階評価）、測定技術の習得度、実験への取り組み状況を加味して、総合的に成績を評価する（60点以上を合格）		
テキスト、教材 参　考　書	実験に関するテキスト（資料）などは、その都度配付する		
履修条件・ 関連科目	環境論、衛生公衆衛生学、生物科学論、スポーツ栄養学を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	イスラム：　教員研究室509号（内線: 4962）にて随時（但し，事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	モハモド　モニルル イスラム	オリエンテーション	次回以降の予定の確認（３０分）
2	未　定	血糖値の測定方法を知る	血糖値に関する詳細および測定方法について理解しレポートにまとめる
3	〃	血糖値の変化を知る①食事による影響の検討	測定結果をレポートにまとめる
4	〃	血糖値の変化を知る②運動による影響の検討	測定結果をレポートにまとめる
5	〃	測定結果のプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備
6	〃	コンディション管理に有用な測定項目およびその測定方法を知る	測定項目および測定方法について理解しレポートにまとめる
7	〃	コンディション管理に有用な項目の条件の違いによる変化を知る	測定結果をレポートにまとめる
8	〃	測定結果のプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備
9	モハモド　モニルル イスラム	虚弱な高齢者における日常生活に必要な介護・介助について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
10	〃	虚弱な高齢者における準備体操と整理運動（クールダウン）の方法について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
11	〃	虚弱な高齢者における持久性運動の方法について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
12	〃	虚弱な高齢者における筋力向上の方法（PETボトル体操など）について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
13	〃	虚弱な高齢者におけるバランス運動の方法について	左記の予習と配布資料の復習（６０分）
14	〃	一般市民ができる一次救命処置について	左記の予習と配布資料の復習（６０分
15	〃	発表会（これまでの運動内容に関する実技テスト）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	陸上・体操・水泳 (133A0-4300)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	瓜田　吉久・萬久　博敏・松村　勲・小森　大輔・永原　隆・成田　健造・中谷　太希			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	140名
授業の概要	本授業では、中学校・高等学校学習指導要領（保健体育）に基づき、「体つくり運動」「陸上競技」「器械運動」「水泳」の４つの領域について、専門的な実技を実施する。『体つくり運動』では、運動を正しく合理的に行う理論と方法を理解させる。『陸上競技』では、陸上競技の走種目・跳躍種目・投擲種目の技能習得方法や改善方法等について教授し、それらの方法について体験・経験することで理解を深め、パフォーマンスを向上させることで模範が示せるようになることを目指す。また、学んだことを駆使しながら、学習者を「できるようにさせる」ための体験・経験を通して実技指導力の向上を図る。そのために、受講者自身に授業の中で学んだ学習内容や授業で見つけた「動きのコツ」並びに「学習上の問題」等をレポートにまとめさせ、提出させる。『器械運動』では、教科体育として技術の習得とともに指導方法を学習し、学校体育の指導者としての資質向上を図る。『水泳』では、水中という特殊な環境で実施されることから、水の特性について理解を深め、長く泳ぐためのコツや、４泳法（クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ）の基本技能を習得する。これらにより、「体つくり運動」「陸上競技」「器械運動」「水泳」の授業や指導を行う際の基礎・基本が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力 （課題解決力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・指導方法について理解し、咀嚼して説明している。 ・運動動作の問題点を見つけ、解決方法を提示している。 ・各種目での段階的な練習方法を理解している。 ・競技規則と技術的名称を理解している。	○		○				23
	■情意的領域	・主体的に授業に参加し、協力して取り組もうとする。 ・授業の実施を安全に行おうとする。 ・積極的に授業に参加する。 ・理論、実技力ともに積極的に取り組む姿勢を高める。	○						20
	■技能的領域	・学習した種目を体得し、見本が示せる。 ・学習した種目の基礎的・基本的指導ができる。 ・各種目の課題を向上させる。	○	○			○		57

成績評価の基準	３つの授業到達目標をもとに、授業姿勢、技能、レポート、実技試験など成績評価方法に基づき評価し、６０点以上の者を合格とする。各種目１００点満点中の１/３を有する。
テキスト、教材 参　考　書	【陸上競技】 ・フィールド種目においては、実技実習テキストを配付する。 ・参考書としては、次のものを推薦する。　「Do Sports Series 陸上競技」（一橋書店）、「実践陸上競技－トラック編－／－フィールド編－」（大修館書店）、「練習法百科陸上競技」帖佐寛章他著（大修館書店）、「陸上競技指導教本」日本陸上競技連盟編（大修館書店） 【器械運動】 ・「図説・器械運動」太田昌秀・伊藤政男著（大修館書店） 【水泳】 ・「水泳指導教本」日本水泳連盟編（大修館書店）
履修条件・ 関連科目	特になし。
備考(教員メッセージ含む)	本授業は同一コマにおいて、陸上競技・器械運動・水泳の回をローテーションして、２クラス開講します。詳細は関連実技科目ガイダンスで説明します。 陸上競技ではレポートの提出あり。また、学生への教育効果を高めるために、授業内容を撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究のみに使用します。 器械運動は怪我をしやすい種目につき、まじめに授業に取り組める学生の受講を希望します。
オフィス・アワー	瓜田：随時　研究棟８階８０２教員室 松村：随時　研究棟３階３１０教員室 小森：随時　研究棟８階８０５教員室 永原：随時　大学院棟3階　教員室1 中谷：随時　研究棟７階７０８教員室または体操練習室 萬久：随時　実験プール教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室または実験プール教員室 ※事前にメールまでアポイントメントを取ること

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	瓜田　吉久	砲丸投の運動構造を理解する。 砲丸投を学習するⅠ　－突き出し動作を身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前2	〃	砲丸投を学習するⅡ　－スタンディングスローを身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前3	〃	砲丸投を学習するⅢ　－身体の移動を用いた投げを身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前4	松村　勲 永原　隆	体つくり運動 走の基本動作　ハードル練習①	実施した内容をレポートにまとめる（0.5時間）
前5	〃	体つくり運動 ハードル練習②	実施内容をレポートにまとめる（0.5時間）
前6	〃	体つくり運動 ハードル練習③	実施内容をレポートにまとめる（1.0時間）

前7	小森　大輔	走高跳（ベリーロール）の運動構造を理解する。 走高跳（ベリーロール）を学習するⅠ　－助走および踏切動作を身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前8	〃	走高跳（ベリーロール）を学習するⅡ　－力強い踏切動作を身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前9	〃	走高跳（ベリーロール）を学習するⅢ　－空中動作を身につけよう－	配付資料等を参考に予習を行う。並びに授業内容を復習し、レポートにまとめる。（１時間）
前10	瓜田　吉久 松村　勲 小森　大輔 永原　隆	体験した各種目能力を測定する	体験した各種目の復讐を通して、指導のポイントを確認する。（２時間）
前11	中谷　太希	オリエンテーション 体つくり運動　鉄棒①	鉄棒の「上る技」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	体つくり運動 鉄棒②	鉄棒の「回る技」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前13	〃	体つくり運動 鉄棒③	鉄棒の「下りる技」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	体つくり運動 マット①	「前方系」の技の種類や練習方法についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	体つくり運動 マット②	「後方系」の技の種類や練習方法についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	体つくり運動 マット③	「側方系」の技の種類や練習方法についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後2	〃	体つくり運動 跳び箱①	跳び箱運動の「切り返し系」の技や練習方法に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	体つくり運動 跳び箱②	跳び箱運動の「回転系」の技や練習方法に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後4	〃	体つくり運動 総合練習（鉄棒、マット、跳び箱）	今までの学習内容やポイントを復習しておく。（1時間）
後5	〃	体つくり運動 総合試験（鉄棒、マット、跳び箱）	今までの学習内容やポイントを復習しておく。（1時間）
後6	萬久　博敏 成田　健造	ガイダンス（持ち物、心構え、成績評価等の説明） 水の特性と泳法理論 水難事故防止と安全対策	受講内容をレポートにまとめる（１時間）
後7	〃	ラジオ体操・ストレッチ 水球ボールを使った体つくり運動の実施 浮身体験 泳法撮影	受講内容をレポートにまとめる（１時間）
後8	〃	ラジオ体操・ストレッチ 水中運動の実施 背泳ぎの基礎的技術習得	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する（１時間）
後9	〃	水中ウォーキングによる体つくり運動の実施 流水プールの体験 平泳ぎの基礎技術習得	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する（１時間）
後10	〃	水中ウォーキングによる体つくり運動の実施 水中荷物運び体験を通した呼吸動作の練習 平泳ぎの復習	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する（１時間）
後11	〃	水中でのリズム運動による体つくり運動の実施 高飛込の体験 競泳のスタート技術習得 バタフライの基礎技術習得	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する（１時間）
後12	〃	水中での体つくり運動の実施 競泳のターン技術習得 クロールの基礎技術習得	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する（１時間）
後13	〃	ラジオ体操・ストレッチ 60分間泳	レポートの作成（１時間）
後14	〃	水中での体つくり運動の実施 泳法技術の総復習	書籍やメディアなどを利用して技術を理解する（１時間）
後15	〃	実技試験（４泳法）・泳法撮影 振り返りアンケート	レポートの作成（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	バスケットボール (133A04301)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	・本授業は、ルール、ドリル、練習法について講義し、これらに基づきバスケットボール専攻学生がグループの中心となって実技指導を行う。 ・バスケットボールの基本技術とゲームの方法を学習する。 ・バスケットボールのドリルを通して、体の扱い方と時間空間の認知能力を高める。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、コミュニケーション力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・バスケットボールの基本技術について、概ね説明することができる。	○						20
	■情意的領域	・ドリルやゲームに主体的に取り組む。 ・ゲームにおいて、ルール・マナーを遵守し、安全を確保し、味方同士が助け合う。	○						30
	■技能的領域	・バスケットボールの基本技術をゆっくりなら示範ができる。	○				○		50

成績評価の基準	出席回数が2/3以上でない者は、単位を認定しない。		
テキスト、教材 参　考　書	特になし。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	・基本技術のドリルの中には、授業時間だけでは身に付きにくいものも含まれるので、授業前後に復習することを勧めます。
オフィス・アワー	随時：総合体育館教員室（三浦）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	三浦　健 前村　かおり	オリエンテーション。ボールハンドリングドリル。	実施した実技内容を復習する（15分）
2	〃	Dynamic Stretch：動的柔軟性を高める。	実施した実技内容を復習する（15分）
3	〃	ドリブルドリル：３種類のその場ドリブル、５種類のチェンジ。	実施した実技内容を復習する（15分）
4	〃	２つのボールへの対処：５種類のドリブル、ボール２個の直上連続パス。	実施した実技内容を復習する（15分）
5	〃	開放性スキルと閉鎖性スキル：観察・判断・選択が球技では鍵を握る。	実施した実技内容を復習する（15分）
6	〃	ストップ＆ピボット：足さばき、目さばき、手さばき。①前向き前回り＆前向き後回り。	実施した実技内容を復習する（15分）
7	〃	ストップ＆ピボット：足さばき、目さばき、手さばき。②後向き前回り＆後向き後回り。	実施した実技内容を復習する（15分）
8	〃	シュートドリル：レイアップシュート、ストップシュート、フリースロー。	実施した実技内容を復習する（15分）
9	〃	ゲーム前の練習法①：スクエアパス。	実施した実技内容を復習する（15分）
10	〃	ゲーム前の練習法②：ドリブルシュート。	実施した実技内容を復習する（15分）
11	〃	ゲーム前の練習法③：ランニングシュート。	実施した実技内容を復習する（15分）
12	〃	ボディコントロールを高めるドリル：ボールを体側で回して、足を通してレイアップシュート。	実施した実技内容を復習する（15分）
13	〃	フリースローのグループドリル：ノックダウン。	実施した実技内容を復習する（15分）
14	〃	ハーフコート　３on３	実施した実技内容を復習する（15分）
15	〃	実技試験の為の練習。	実施した実技内容を復習する（15分～1時間）
16	〃	実技試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	サッカー (133A0-4302)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	塩川　勝行・青木　竜			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	本授業では、サッカーにおける競技特性やを理解し、基本的な実技力（止める・蹴る・運ぶ）を獲得する事を目的とし、サッカーの技術、戦術の構造や基本的な指導体系を理解し、トレーニングやゲームを計画できるように教授する。これにより、サッカーにおける基礎的な技術力や実技指導力を獲得するとともに、フェアプレーの精神や仲間とともに課題を解決してプレーを行なう能力が身に付くことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	サッカーにおけるトレーニングや指導方法について理解する。 計画的にトレーニングやゲームが行えるようになる。			○				15
	■情意的領域	積極的に実技内容、作業課題に取り組む。	○						40
	■技能的領域	サッカーにおける基本技術が正確に行えるようになる。 サッカーにおけるトレーニング指導法を理解する。	○	○			○		45

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、レポート、技能テストの各合計点が60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書として、次のものを推奨する。 「サッカー」（加藤久著,ベースボールマガジン社,1993,@1,800円） 「サッカー勝利への技術」（チャールズ・ヒューズ著,大修館,1996,@3,200円）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	水曜日１２：５０～１６：００　　８階８１０研究室（事前にアポイントを取ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	塩川　勝行 青木　竜	サッカーの概要・特性及びグループ編成・試しのゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
2	〃	個人技術の基礎：ボールフィーリング、ミニゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
3	〃	個人技術の基礎：パス＆コントロール1、ミニゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
4	〃	個人技術の基礎：パス＆コントロール2、ミニゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
5	〃	個人技術の基礎：ヘディング＆シュート、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
6	〃	個人技術の基礎：ドリブル＆フェイント、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
7	〃	個人技術の基礎：スクリーン＆ターン、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
8	〃	ルールと審判法	実施した講義内容を復習する（60分）
9	〃	個人技術及びゲーム	レポート作成（60分）
10	〃	個人及びグループ戦術（攻撃）：１対１、２対２、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
11	〃	個人及びグループ戦術（守備）：１対１、２対２、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
12	〃	グループ戦術：パス＆サポート、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
13	〃	グループ戦術：ボールポゼッション、ゲーム	実施した実技内容を復習する（60分）
14	〃	チーム戦術：フォーメーション、ゲーム及び審判	実施した実技内容を復習する（60分）
15	〃	チーム戦術：リスタート、ゲーム及び審判	レポート作成（60分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	バレーボール (133A0-4307)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	①3年次,②4年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	1．セット（トス）＆アタック系の技術習熟と攻撃戦術のレベルアップ 2．サーブ＆ブロック系の技術習熟と守備戦術のレベルアップ 3．審判実習、ゲーム分析、チームビルディングをグループごとに遂行 4．学校体育の授業指導、生涯スポーツのコーチング等に幅広く応用できる授業内容				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ルールと基本的攻撃・守備戦術について理解する。	○		○			○ (審判実習記録)	30
	■情意的領域	グループ活動の中でリーダーシップを養い、コミュニケーションが取れるようになる。	○		○	○		○ (班内の役割)	30
	■技能的領域	セッターとしてジャンプトスを習得する。	○	○			○		40

成績評価の基準	・授業：認知的、情意的、技能的領域の到達状況（授業所感の記入、授業への取り組み、学習状況に関する観察による評価等）により総合的に評価する。 ・レポート：Webclassを活用したレポート提出等（技術の動画記録、審判技能及び班内の活動記録）。 ・定期試験：ジャンプトス技術の習得を評価する。（実技試験）
テキスト、教材 参　考　書	・Webclass上の「バレーボール」テキストを使用 ・審判実習用ホイッスル ・タブレットは必ず持参すること ・必ず体育館シューズで受講すること

履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出するように。 2．本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　808 教員室（濱田）・601 教員室（坂中）・球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	濱田　幸二 坂中　美郷	誰でもできる　ジャンプセット（ワン・ツーのリズム）	レポート及び動画提出（1時間）
2	〃	コンビネーション攻撃　ダブルセミクイックアタック	レポート及び動画提出（1時間）
3	〃	必殺ブロック　アタック対ブロック、ネット上の対決	レポート及び動画提出（1時間）
4	〃	ダブルクイックと時間差攻撃　審判基礎「吹笛とハンドシグナル」	レポート及び動画提出（1時間）
5	〃	戦術トレーニング基礎①「レシーブ＆アタック」審判実習	レポート及び動画提出（1時間）
6	〃	戦術トレーニング基礎②「サーブ＆ブロック」審判実習	レポート及び動画提出（1時間）
7	〃	戦術トレーニング応用①　３人制ミニバレー　記録実習　審判応用	レポート及び動画提出（1時間）
8	〃	戦術トレーニング応用②　４人制ミニバレー　記録実習　審判応用	レポート及び動画提出（1時間）
9	〃	６人制バレーボールのセッターフォーメーション（６－２の攻守）	レポート及び動画提出（1時間）
10	〃	６人制バレーボールのセッターフォーメーション（５－１の攻守）	レポート及び動画提出（1時間）
11	〃	リーグ戦　第１戦　総合実習	レポート及び動画提出（1時間）
12	〃	リーグ戦　第２戦　総合実習	レポート及び動画提出（1時間）
13	〃	リーグ戦　第３戦　総合実習	レポート及び動画提出（1時間）
14	〃	トーナメント戦　第１戦　総合実習	レポート及び動画提出（1時間）
15	〃	トーナメント戦　第２戦　総合実習　まとめ	総合的レポート提出（2時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	テニス (133A0-4315)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	髙橋　仁大・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	48名程度
授業の概要	テニスの基礎的な実技力を獲得することと、フェアプレイの精神やテニスのマナーを理解する科目である。具体的には、ダブルスのルールの理解を通して、テニスのダブルスのゲームを楽しめるだけの実技力を身につけることを目標とする。また、テニスに関するマナーを理解し、テニスを生涯楽しむための知識を身につける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	テニスのルールを理解している テニスのマナーを理解している	○						25
	■情意的領域	主体的に授業に取り組もうとする テニスのルール・マナーを遵守する	○						25
	■技能的領域	テニスの基礎技術を遂行できる ダブルスの実践技術を遂行できる	○	○			○		50

成績評価の基準	授業参画状況、授業への積極的な取り組み、実技テストの成績を総合的に評価して、 60 点以上のものに単位を与える。１／３以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	随時配付する		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 村上（研究棟8階806教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスの原則を理解する	講義内容の予習と復習（1時間）
2	〃	10段階ラリー練習	講義内容の予習と復習（1時間）
3	〃	10段階ラリーから大きなコートへ	講義内容の予習と復習（1時間）
4	〃	サービスの導入	講義内容の予習と復習（1時間）
5	〃	サービスからのラリー	講義内容の予習と復習（1時間）
6	〃	サービスからのラリー、ゲーム	講義内容の予習と復習（1時間）
7	〃	局面練習１　サービスとリターン	講義内容の予習と復習（1時間）
8	〃	局面練習２　グラウンドストロークラリー	講義内容の予習と復習（1時間）
9	〃	局面練習３　アプローチ＆ボレー	講義内容の予習と復習（1時間）
10	〃	局面練習の復習	講義内容の予習と復習（1時間）
11	〃	ダブルスの基本　ルールとマナー	講義内容の予習と復習（1時間）
12	〃	ダブルスの応用　戦術理解	講義内容の予習と復習（1時間）
13	〃	班対抗団体戦①	講義内容の予習と復習（1時間）
14	〃	班対抗団体戦②	講義内容の予習と復習（1時間）
15	〃	班対抗団体戦③	講義内容の予習と復習（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	卓球 (133A0-4319)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	①1年次,②3年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	卓球の特性を理解し、基本的な技術を学びながら、瞬間的な判断力と反応が出来るように反射神経と敏捷性及び集中力を養う。基本技術の習得により、攻撃の組み立て方、試合の組み立て方などの戦術も学ぶ。ルールを理解し審判も出来るようになり、最後には団体戦（シングルスとダブルス）及び個人戦（シングルス）の大会（リーグ戦）が出来るようになる。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力 （コミュニケーション力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ルールが理解できる。基礎技術の名称など専門用語が説明できる。	○						10
	■情意的領域	積極的に授業へ参加し、試合を数多く行い、技術及び戦術の習得に意欲的に取り組む。	○		○	○			60
	■技能的領域	シングルス、ダブルスの戦術を身に付ける。ラリーを一定回数、一定時間継続出来る。	○	○			○		30

成績評価の基準	出席状況２/３以上で実技試験を受けることができ、実技試験で合格することが単位認定の条件になる。授業への取組み状況及び、レポート等の提出状況は単位認定条件に加点する。		
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	１．欠席届は必ず本人が提出するように。 ２．本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。 ３．タブレットは必ず持参すること。
オフィス・アワー	随時　８０８教員室（濱田）・６０１教員室（坂中）・８０６教員室（村上）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	濱田　幸二 坂中　美郷 村上　俊祐	オリエンテーション、グループ分け、アイスブレイキング、用具の説明	映像及び反省レポート提出（1時間）
2	〃	卓球の特性・基本フォーム	映像及び反省レポート提出（1時間）
3	〃	基本ストローク（フォアハンドサービス・フォアハンドロング）、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
4	〃	基本ストローク（バックハンドサービス・バックハンドショート）、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
5	〃	カットサービス・ショートカットレシーブ、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
6	〃	横回転サービス・変化球サービスのレシーブ、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
7	〃	スマッシュ・フットワーク、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
8	〃	３球目攻撃・攻撃の組み立て方、班対抗戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
9	〃	シングルスゲームの仕方（ルールと審判法）、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
10	〃	ダブルスのサービスとレシーブ、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
11	〃	ダブルスのフットワーク、シングルス戦、中間実技試験	映像及び反省レポート提出（1時間）
12	〃	ダブルスゲームの仕方（ルールと審判法）、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
13	〃	高速ラリーの習得、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
14	〃	高速ラリーの習得、シングルス戦	映像及び反省レポート提出（1時間）
15	〃	団体戦トーナメント戦　総合実技　まとめ	映像及び反省レポート提出（1時間）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	バドミントン (133A0-4321)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	三浦　健・塩川　勝行			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	32名程度
授業の概要	スポーツ文化の１つとして普及しているバドミントンの基本的な技術とルール及び特性を習得し、ゲームが日常生活の中で楽しめるようにする。それに伴いバドミントンの理解を深め、学校や一般社会で指導できるようになる。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バドミントンの基本的な技術の知識とルールを習得する。	○						10
	■情意的領域	積極的に授業・作業課題・ゲームに取り組む。	○						50
	■技能的領域	継続的に授業に参加し、練習・指導法を体験する。 バドミントンの基本技術の習得を行う。	○				○		40

成績評価の基準	授業への出席が2/3 以上という条件で、授業への取り組み、態度、技能テストの各合計点が60 点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時　総合体育館教員室（三浦）、810教員研究室（塩川）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	三浦　健 塩川　勝行	バドミントンの歴史、ルール	実施した内容を復習する（15分）
2	〃	バドミントンの運動構造	実施した実技内容を復習する（15分）
3	〃	バドミントンの基礎(1) アンダーハンドストローク（フォアハンド）	実施した実技内容を復習する（15分）
4	〃	バドミントンの基礎(2) アンダーハンドストローク（バックハンド）	実施した実技内容を復習する（15分）
5	〃	バドミントンの基礎(3) ハイクリアー	実施した実技内容を復習する（15分）
6	〃	バドミントンの基礎(4) ドロップ	実施した実技内容を復習する（15分）
7	〃	バドミントンの基礎(5) ヘアピン	実施した実技内容を復習する（15分）
8	〃	バドミントンの基礎(6)ドライブ	実施した実技内容を復習する（15分）
9	〃	バドミントンの基礎(7)スマッシュ＆レシーブ	実施した実技内容を復習する（15分）
10	〃	バドミントンの基礎(8) 約束練習	実施した実技内容を復習する（15分）
11	〃	ダブルス競技の進め方(1) ルールの理解。審判方法	実施した実技内容を復習する（15分）
12	〃	ダブルス競技の進め方(2) 班別対抗戦①	実施した実技内容を復習する（15分）
13	〃	ダブルス競技の進め方(3) 班別対抗戦②	実施した実技内容を復習する（15分）
14	〃	シングルス試合	実施した実技内容を復習する（15分）
15	〃	まとめ	実施した実技内容を復習する（15分～30分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ソフトボール (133A0-4322)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	藤井　雅文			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2,3年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	以下の内容を通して、学校体育の授業指導や生涯スポーツのコーチング等に幅広く応用できる能力を身に着ける。 ・ソフトボールを中心としたベースボール型スポーツの基本的なルールや歴史を習得する。 ・様々な形のティーボールゲームを通して、ソフトボールの基本的な技術（捕る、投げる、打つ、走る）を習得する。 ・グループごとにトレーニング計画を立てながら試合を行う中で、ゲームの進め方や審判法、基本的な戦術を習得する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力 （コミュニケーション力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ソフトボールのルールやマナーを理解している	○						20
	■情意的領域	主体的かつ積極的に授業に参加し、仲間と協力してプレイすることができる	○		○				40
	■技能的領域	ソフトボールの基本技能（捕る、投げる、打つ、走る）を遂行できる	○	○					40

成績評価の基準	授業への取組状況、記録レポート、技能テストの合計点が60点以上のものに単位を与える。 1／3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	随時配布する		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	・欠席届は必ず本人が提出すること ・授業の様子を撮影し、教育研究のために授業等で使用することがあります。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤井　雅文	オリエンテーション（授業の進め方、ベースボール型スポーツについて）	実施した内容の復習とレポート（60分）
2	〃	守備の基本（スローイング・キャッチング）、ティーボール	実施した内容の復習とレポート（60分）
3	〃	攻撃の基本（バッティング・ランニング）、ティーボール	実施した内容の復習とレポート（60分）
4	〃	ティーボール野球の工夫と実践①	実施した内容の復習とレポート（60分）
5	〃	ティーボール野球の工夫と実践②	レポート提出（120分）
6	〃	ティーボール野球の工夫と実践③	実施した内容の復習とレポート（60分）
7	〃	ソフトボールの実践①（ルール、審判法、安全管理、成績記入、ポジション）	実施した内容の復習とレポート（60分）
8	〃	ソフトボールの実践②（アウト：三振、フライ、ゴロ、ホースプレー、タッチプレー）	実施した内容の復習とレポート（60分）
9	〃	ソフトボールの実践③（ダブルプレー：ゴロ、フライ）	実施した内容の復習とレポート（60分）
10	〃	ソフトボールの実践④（タッチアッププレー）	実施した内容の復習とレポート（60分）
11	〃	ソフトボールの実践⑤（攻撃戦術：バント）	実施した内容の復習とレポート（60分）
12	〃	ソフトボールの実践⑥（攻撃戦術：ヒットエンドラン）、実技テスト	実施した内容の復習とレポート（60分）
13	〃	ソフトボールの実践⑦（守備戦術：ポジショニング）、実技テスト	実施した内容の復習とレポート（60分）
14	〃	ソフトボールの実践⑧（守備戦術：ピックオフプレー）、実技テスト	実施した内容の復習とレポート（60分）
15	〃	ソフトボールの実践⑨（学校教材と雨天時教材）、実技テスト	総合レポート提出（120分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ダンス①② (133A0-4305)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	栫　ちか子			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3,4年次	受け入れ人数	４０名程度
授業の概要	表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」から構成され、小・中・高校において発達段階に対応した内容で構成されている。表現運動・ダンスの学習では、幅広いダンスに触れ、生涯学習の観点からも、ダンスを自発的に楽しむ力を育成することがねらいとなる。 本授業では、ダンスの基本知識・技能の習得、リズムやイメージをもとにした自由な表現、作品づくりまで、段階的に身体表現能力の向上を図る。これにより、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」の基礎的な技術を習得し、その指導法と発表技法が身に付くことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力 （コミュニケーション力、課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ダンスの特性について理解することができる。 ・ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解することができる。			○				30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に課題に取り組むことができる。 ・仲間と協力して課題に取り組むことができる。	○			○			20
	■技能的領域	・リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。 ・課題に即した作品づくり・発表ができる。	○			○		○ (作品発表)	50

成績評価の基準	作品発表（定期試験）を必ず行うという条件で、授業態度、授業所感の記入，レポート、ミニ発表、作品発表（定期試験）の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜提示する。（毎時間、資料プリントを配付し，WebClassに参考資料・動画等をアップする）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	学習指導要領の改訂により、中学校においてダンスの授業が男女必修となり、教員採用選考試験で男女共通の必修課題としている県や市が増えている。ダンスはその特性上、未経験のままで教育実習や採用試験を受験することは難しいため、教職を希望する学生は、主体的な態度で受講すること。
オフィス・アワー	随時：7階703教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子	オリエンテーション（授業の進め方、ダンスの特性について、成績評価など）	WebClassにある資料で復習する（15分）
2	〃	ダンスの導入（ウォーミングアップ、交流ダンス）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
3	〃	現代的なリズムのダンス①（リズムの特徴をとらえた動き）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
4	〃	現代的なリズムのダンス②（ロックのリズムのダンス）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
5	〃	現代的なリズムのダンス③（ヒップホップのリズムのダンス）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 技能評価映像を見ながら、レポートを作成（60分）
6	〃	フォークダンス（外国のフォークダンス、日本の民踊）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
7	〃	創作ダンス①（身近な生活や日常動作、スポーツ動作から）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
8	〃	創作ダンス②（対極の動きの連続）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
9	〃	創作ダンス③（もの・道具を使って）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
10	〃	創作ダンス④（多様な感じ、はこびとストーリー）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 技能評価映像を見ながら、レポートを作成（60分）
11	〃	創作活動の基礎（群構成、空間の使い方、上演法など、グループ分け）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
12	〃	作品創作①（グループ・個人の作品づくり）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 作品の音楽編集（15分）
13	〃	作品創作②（グループ・個人の作品づくり）	授業映像から授業ノートを作成（15分） 作品の道具・衣装の準備（15分）
14	〃	作品創作③（グループ・個人の作品づくり）	知識に関するレポート作成（60分）
15	〃	作品創作④（グループ・個人の作品づくり）、作品発表リハーサル	WebClassにあるリハーサル映像を見てグループごとで省察する（30分）
16	〃	学期末試験　：　作品発表	発表に向けた音楽・衣装・道具の準備（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ダンス③④ (133A0-4306)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	萩原　香織			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3,4年次	受け入れ人数	４０名程度
授業の概要	表現運動・ダンス領域は、社会におけるダンスの広がりに対応し、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」から構成され、小・中・高校において発達段階に対応した内容で構成されている。表現運動・ダンスの学習では、幅広いダンスに触れ、生涯学習の観点からも、ダンスを自発的に楽しむ力を育成することがねらいとなる。 本授業では、ダンスの基本知識・技能の習得、リズムやイメージをもとにした自由な表現、作品づくりまで、段階的に身体表現能力の向上を図る。これにより、「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」の基礎的な技術を習得し、その指導法と発表技法が身に付くことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力 （コミュニケーション力、課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ダンスの特性について理解することができる。 ・ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解することができる。			○				30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に課題に取り組むことができる。 ・仲間と協力して課題に取り組むことができる。	○			○			20
	■技能的領域	・リズムの特徴やイメージをとらえて、即興的かつ自由な身体表現ができる。 ・課題に即した作品づくり・発表ができる。	○			○		○ (作品発表)	50

成績評価の基準	作品発表（定期試験）を必ず行うという条件で、授業態度、授業所感の記入，レポート、ミニ発表、作品発表（定期試験）の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜提示する。（毎時間、資料プリントを配付し，WebClassに参考資料・動画等をアップする）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	学習指導要領の改訂により、中学校においてダンスの授業が男女必修となり、教員採用選考試験で男女共通の必修課題としている県や市が増えている。ダンスはその特性上、未経験のままで教育実習や採用試験を受験することは難しいため、教職を希望する学生は、主体的な態度で受講すること。
オフィス・アワー	授業前後に対応		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	萩原　香織	オリエンテーション（授業の進め方、ダンスの特性について、成績評価など）	WebClassにある資料で復習する（15分）
2	〃	ダンスの導入（ウォーミングアップ、交流ダンス）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
3	〃	現代的なリズムのダンス①（リズムの特徴をとらえた動き）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
4	〃	現代的なリズムのダンス②（ロックのリズムのダンス）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
5	〃	現代的なリズムのダンス③（ヒップホップのリズムのダンス）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 技能評価映像を見ながら、レポートを作成（60分）
6	〃	フォークダンス（外国のフォークダンス、日本の民踊）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
7	〃	創作ダンス①（身近な生活や日常動作、スポーツ動作から）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
8	〃	創作ダンス②（対極の動きの連続）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
9	〃	創作ダンス③（もの・道具を使って）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
10	〃	創作ダンス④（多様な感じ、はこびとストーリー）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 技能評価映像を見ながら、レポートを作成（60分）
11	〃	創作活動の基礎（群構成、空間の使い方、上演法など、グループ分け）	授業映像から授業ノートを作成（30分）
12	〃	作品創作①（グループ・個人の作品づくり）	授業映像から授業ノートを作成（30分） 作品の音楽編集（15分）
13	〃	作品創作②（グループ・個人の作品づくり）	授業映像から授業ノートを作成（15分） 作品の道具・衣装の準備（15分）
14	〃	作品創作③（グループ・個人の作品づくり）	知識に関するレポート作成（60分）
15	〃	作品創作④（グループ・個人の作品づくり）、作品発表リハーサル	WebClassにあるリハーサル映像を見てグループごとで省察する（30分）
16	〃	学期末試験　：　作品発表	発表に向けた音楽・衣装・道具の準備（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	柔道　①③ (133A0-4309)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	小澤　雄二			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	本授業は学校体育の授業指導、社会体育のコーチング等に幅広く応用できる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能を習得し、簡易な攻防や乱取りを安全に行うことができる技能や、基礎的な指導法を身に付けることを目指している。 なお、希望者には講道館柔道初段取得を可能とする（ただし社会情勢等により、昇段審査を開催できない場合もある）。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の理合いを理解し、他者に伝える能力が身に付く。	○						30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能が身に付く。	○				○	○ (投の形の演武)	40

成績評価の基準	基本的技術の理解・実践、また学習意欲等から総合的に評価して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 柔道衣は自前とするが、オリエンテーション時に詳細を説明する。 3. 授業計画は授業の進行状況や社会情勢等による変更もあり得る。 4. 講道館柔道初段取得には昇段審査料等、約29,250円（令和2年度現在）が必要となる。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小澤　雄二	オリエンテーション（柔道の理論） 柔道衣採寸	予習復習30分
2	〃	柔道の基本①	予習復習30分
3	〃	柔道の基本②	予習復習30分
4	〃	柔道の基本③	予習復習30分
5	〃	固め技①	予習復習30分
6	〃	固め技②	予習復習30分
7	〃	投げ技①	予習復習30分
8	〃	投げ技②	予習復習30分
9	〃	投げ技③	予習復習30分
10	〃	投げ技④	予習復習30分
11	〃	投げ技⑤	予習復習30分
12	〃	投の形①	予習復習30分
13	〃	投の形②	予習復習30分
14	〃	投の形③	予習復習30分
15	〃	投の形の演武（学期末試験）	予習復習30分

授業科目名 (ナンバリングコード)	柔道　②④ (133A0-4309)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	本授業は学校体育の授業指導、社会体育のコーチング等に幅広く応用できる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能を習得し、簡易な攻防や乱取りを安全に行うことができる技能や、基礎的な指導法を身に付けることを目指している。 なお、希望者には講道館柔道初段取得を可能とする（ただし社会情勢等により、昇段審査を開催できない場合もある）。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の理合いを理解し、他者に伝える能力が身に付く。	○						30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の基本動作、投げ技、固め技、投の形等の基本的な技能が身に付く。	○				○	○ (投の形の演武)	40

成績評価の基準	基本的技術の理解・実践、また学習意欲等から総合的に評価して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 柔道衣は自前とするが、オリエンテーション時に詳細を説明する。 3. 授業計画は授業の進行状況や社会情勢等による変更もあり得る。 4. 講道館柔道初段取得には昇段審査料等、約29,250円（令和2年度現在）が必要となる。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 504研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の理論） 柔道衣採寸	予習復習30分
2	〃	柔道の基本①	予習復習30分
3	〃	柔道場の基本②	予習復習30分
4	〃	柔道の基本③	予習復習30分
5	〃	固め技①	予習復習30分
6	〃	固め技②	予習復習30分
7	〃	投げ技①	予習復習30分
8	〃	投げ技②	予習復習30分
9	〃	投げ技③	予習復習30分
10	〃	投げ技④	予習復習30分
11	〃	投げ技⑤	予習復習30分
12	〃	投の形①	予習復習30分
13	〃	投の形②	予習復習30分
14	〃	投の形③	予習復習30分
15	〃	投の形の演武（学期末試験）	予習復習30分

授業科目名 (ナンバリングコード)	剣道 (133A0-4310)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・下川　美佳			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30名程度

授業の概要	本科目は、剣道に関する基礎的な実技力を身につける科目である。 剣道の特性を理解して礼法や基本動作、対人的技能などの基礎的な技術について学ぶことを目的とする。さらに自己の能力に応じた技の攻防を工夫し学習したり、剣道を通じて適正かつ柔軟な思考や行動力、礼節を重んじて相手や仲間と協調して自らの課題解決に取り組む姿勢を学ぶ効果を期待する。 特に学習内容については、中学校、高等学校保健体育「武道」領域で取り扱う内容に準拠して行なう。 ※授業は対面の実技授業です。但し、新型コロナウィルス感染症対策と状況によってはシラバスを変更する場合があります。（その際はWeb class上で連絡します。）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の基礎的な内容について理解力がつく。	○		○				10
	■情意的領域	剣道の初歩的な実技力を身につけようとする態度が身につく。	○						30
	■技能的領域	正しい着装具、礼儀作法、足さばきや素振りなどの基本動作と初歩的な基本打突ができるようになる。	○	○			○		60

成績評価の基準	上記の評価の方法、具体的には授業に対して積極的に取り組む姿勢、施設・用具等の適正な使用状況、授業ノートの提出、及び剣道実技の習熟度・理解度などを判断・評価し、60点以上を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	テキスト教材：Web classにて対応する 授業教材：竹刀（3尺9寸）完成品＜鍔、鍔止め、竹刀袋＞（およそ3,500～4,000円） 剣道着・袴（およそ10,000円） 参考書　：全日本剣道連盟「剣道指導要領」

履修条件・ 関連科目	武道課程の学生で「専修武道論・実習（剣道）」を履修する学生は本科目を受講できない。	備考(教員メッセージ含む)	主に保健体育教員を志す者が受講して下さい。 尚、竹刀および剣道具関係はすべて自分のものを準備して下さい。（竹刀や剣道着・袴は借りたものの使用は認めません） また、初心者でどうしても準備できない者については剣道具については貸出可能です。但し、剣道着・袴、竹刀、手拭い（面下）、面マスクとシールド（コロナ対応期間のみ）については別途購入が必要です。 ※また、新型コロナウィルス感染症対策としてマスクとシールド（面着用時のみ）が必須です。
オフィス・アワー	授業終了直後の３０分間、武道館剣道教員室において連絡・相談事項を受け付ける。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 下川　美佳	オリエンテーション ・剣道の歴史と特性 ・着装及び管理方法の説明	剣道着・袴を自分でたためるようにする。（約20分）
2	〃	1．礼法の実践と基本動作の習得 （1）着装、立礼、正座、座礼 （2）姿勢、構え、蹲踞、目付、足（体）捌き、掛け声、素振り （3）切り返し	４回目までの内容の習得を到達目標として配付したテキストの内容について復習を行う。（約20分）
3	〃	〃	〃
4	〃	〃	〃
5	〃	2．応用動作としての基本打突（対人的技能Ⅰ）の習得 （1） 剣道具の着具 （2） 基本技能（しかけ技） ① 一本打ちの技 ② 連続技 ③ 引き技 （3） 応用技能（応じ技） ① 抜き技 ② すり上げ技	１０回目までの内容の習得を到達目標として配付したテキストの内容について復習を行う。（約20分）
6	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃
11	〃	3．稽古（対人的技能Ⅱ） （1）切り返し （2）約束・打ち込み稽古 （3）互格稽古 （4）簡易的な試合と審判	１５回目までの内容の習得を到達目標として配付したテキストの内容について復習を行う。（約20分）

12	〃	〃 授業内容（3）互格稽古では主に担当教員に懸かり、その内容を評価する	〃
13	〃	〃 〃	〃
14	〃	〃 〃	〃
15	〃	〃 〃	授業ノートをまとめ、提出する。（ノートの作成・まとめに約１時間）
16	〃	実技試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	エアロビックダンス (133A0-4311)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	桑原　美砂恵			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	エアロビックダンスの基本的な理論を学び、簡単なプログラムの指導法を習得する。 グループワーク、発表を通して、コミュニケーション能力の向上を身に付ける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力 （コミュニケーション力、リーダーシップ、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	エアロビックダンスの生まれた背景・歴史を理解し、指導する際に必要な基本的指導法について理解することができる。		○					20
	■情意的領域	エアロビックダンスに興味・関心を持ち、グループワーク、発表を通して、意欲的に取り組もうとする。	○			○	○		30
	■技能的領域	基本的なエアロビックダンスのステップに加え、ストレッチ、レジスタンストレーニングが出来るようになり、初心者への簡単な指導法ができる。	○	○		○	○		50

成績評価の基準	授業への参加、テスト、発表の各得点を合計し、６０点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書として次のものを推薦する。 ①「エアロビックダンスエクササイズ指導理論」JAFA 日本フィットネス協会 ①は購入する　1650円		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	授業前後に対応。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	桑原　美砂恵	授業ガイダンス、ベーシッククラス体験	配布資料を読んで復習する（１５分）
2	〃	理論：有酸素運動の基礎知識 実践：基本姿勢、基本プログラムの実際	実施した内容を復習する（２０分）
3	〃	理論：エアロビックダンスの歴史と運動特性　/　プログラムの基本構成 実践：ウォーミングアップの実際	ウォーミングアップを復習する（１５分）
4	〃	理論：エアロビックダンスエクササイズの基本の動き① 実践：ローインパクトステップ・ハイインパクトステップ	基本ステップを復習する（１５分）
5	〃	理論：エアロビックダンスエクササイズの基本の動き② 実践：上肢・下肢の組み合わせ　/　運動強度の上げ方、下げ方	実施した内容を復習する（２０分）
6	〃	理論：エアロビックダンスエクササイズのプログラミング 実践：筋コンディショニング	筋コンディショニングを復習する 機能解剖学的に学ぶ
7	〃	理論：エアロビックダンスエクササイズの指導法 実践：筋コンディショニング、クーリングダウン	筋コンディショニング・クーリングダウンを復習する（２０分） 機能解剖学的に学ぶ
8	〃	理論：運動強度の整備 実践：ショートプログラムの作り方	（プログラムの構成案）（６０分）
9	〃	理論：エアロビックダンスと音楽 実践：ショートプログラム作成（ウォーミングアップ）	グループでプログラムを作る（３０分）
10	〃	実践：ショートプログラム作成（メインエクササイズ）	グループでプログラムを作る（３０分）
11	〃	実践：（筋コンディショニング、クーリングダウン）の実際	機能解剖学的に学ぶ
12	〃	実践：プログラム作成（ウォームアップ～メイン）	グループでプログラムを作る（２０分）
13	〃	試験（実技・筆記）内容について	テストの準備をする（６０分）
14	〃	プログラム作成（グループでプログラムをつくる）	テストの準備をする（６０分）
15	〃	プログラム作成（グループでプログラムをつくる）	テストの準備をする（６０分）
16	〃	学期末試験：グループ発表・筆記テスト	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ジョギング＆ウォーキング (133A0-4313)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	北村　尚浩・松村　勲			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	50名以内
授業の概要	ジョギングとウォーキング指導の基本を習得するとともに、ウォーキングでは様々コース設定での実技を通じて運動強度の変化や指導の際の留意点について学習する。ジョギングにおいては、ジョギング企画の立案・運営をグループで協同して行う。それらを通して、実技指導力を身に付けるほか、実技力、事業運営力、専門的な知識・教養を習得することが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	運動強度の設定、調整の方法を理解する。 コース設定の方法を理解する。 正しいフォーム（動き）を理解する。	○		○				30
	■情意的領域	積極的に授業に参加することができる。	○		○				30
	■技能的領域	正しいフォームの指導ができる。 指導上の留意点を理解する。 ジョギングの企画・運営ができる。	○		○	○			40

成績評価の基準	授業態度状況と授業への取り組み状況を基本に、レポートの提出を求めジョギングとウォーキング各５０点満点で、これを合算して算出する。		
テキスト、教材 参　考　書	随時資料を提供する。		
履修条件・ 関連科目	ウォーキングではiPadを使用する.	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	北村：随時（610研究室） 松村：随時（310教員室） ※事前にメール等でアポイントメントを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	松村　勲	①ジョギング入門　健康に楽しく走るために必要なこと	復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（30分）
2	〃	②ジョギングのための準備運動と整理運動，良いフォーム作り	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）
3	〃	③楽しくジョギングする方法：デモ	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。
4	〃	④楽しいジョギングの企画・運営Ⅰ	各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する（2時間）
5	〃	⑤楽しいジョギングの企画・運営Ⅱ	各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する（2時間）
6	〃	⑥楽しいジョギングの企画・運営Ⅲ	各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する（2時間）
7	〃	⑦楽しいジョギングの企画・運営Ⅳ	各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する（2時間）
8	〃	⑧楽しいジョギングの企画・運営Ⅴ	各班で事前に実施内容を検討し、企画案を提出する（2時間） 最終レポートを作成し、提出する（1時間）
9	北村　尚浩	健康づくりとウォーキング	Reading assignment（30分以上）
10	〃	正しい姿勢とウォーキングフォーム（1）	立位姿勢の分析（1時間）
11	〃	正しい姿勢とウォーキングフォーム（2）	ウォーキング動作の分析と評価（1時間）
12	〃	ノルディックウォーキング（1）	運動記録のまとめ（1時間）
13	〃	ノルディックウォーキング（2）	ウォーキング動作の分析（1時間）
14	〃	ノルディックウォーキング（3）	ウォーキング動作の分析（1時間）
15	〃	歩行動作の比較分析	課題レポート（1時間以上）
16	〃	最終レポート提出（北村）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ・レクリエーション＆ゲームズ (133A0-4314)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	坂口　俊哉・日下　知明			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	50名程度
授業の概要	生涯スポーツの現場に必要不可欠な、ニュースポーツを中心とした生涯スポーツ及びレクリエーションゲームズの実践を通してその概要と指導の基礎を学習するとともに、生涯スポーツとレクリエーションゲームズについての認識を深める。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、コミュニケーション力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	さまざまなニュースポーツを知り、種目毎のルールを理解すると同時に、指導のための基礎知識を習得する。	○		○			○ (ノート)	50
	■情意的領域	授業に積極的に取り組むことができる。	○						30
	■技能的領域	履修学生に対して的確な指示を出すことができる（準備体操を含む）。 ニュースポーツの試合進行を適切にできる。	○						20

成績評価の基準	受講態度とレポート提出状況を重視して、総合的に評価する。特に、取り扱う種目のルールについての理解が求められる。授業内での審判、準備体操の準備と指示などの取り組みなどを加味する。ノートの提出がない場合、単位認定の対象外となる。		
テキスト、教材 参　考　書	「ニュースポーツ：ルールと実技」（野川春夫ら） 「レクリエーションコーディネーターテキスト」（日本レクリエーション協会編） 「健康・スポーツの指導」（萩裕美子編）「新レクリエーションハンドブック」		
履修条件・ 関連科目	３年時の生涯スポーツ指導実習で「野外教育施設」を選択する可能性のある学生は、この科目を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	COVID-19の感染拡大状況と当日の天気によって内容を変更することがあります。 授業内容、実施場所の変更はWebclassを利用して情報を配信します。 Webclassを利用できるように準備しておくこと。 授業の一部でiPadを使用しますので毎回持参してください。
オフィス・アワー	坂口：随時（大学院棟教員室２）．メールでアポイントを取っておくと確実です．tsakaguc@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉 日下　知明	オリエンテーション：ニュースポーツの紹介と動画の視聴、ルールへの理解	フライングディスクを用いた遊びについてWebclassを利用して予習しておくこと。(60分)
2	〃	フライングディスクのルールと実技（１）：ディスクの飛行特性、様々な種目とルールの紹介、動画視聴	ディスクの持ち方、スローイングのコツ、ディスクスポーツの種類などについての予習（60分）
3	〃	フライングディスクのルールと実技（２）：パス練習とアルティメットの導入	各自審判ができるようにアルティメットのルールを予習。次週担当の班員はゲーム進行のための準備をしておくこと（60分）
4	〃	フライングディスクのルールと実技（３）：アルティメットゲーム導入	攻撃の戦略について予習しておくこと（60分）
5	〃	フライングディスクのルールと実技（４）：アルティメットゲーム	ディスクゴルフのルールを予習しておくこと（60分）
6	〃	フライングディスクのルールと実技（5）：ディスクゴルフへの挑戦	フラッグフットボールのルールを予習しておくこと(60分)
7	〃	フラッグフットボールのルールと実技（１）：種目の概要とルールの説明、動画の視聴	ランプレーの戦略について予習しておくこと（60分）
8	〃	フラッグフットボールのルールと実技（２）：ランプレーとミニゲームを通じた戦略立案	オフェンスの戦略（パスプレー）を作成すること（60分）。次週担当の班員はゲーム進行のための準備をしておくこと。
9	〃	フラッグフットボールのルールと実技（３）：ゲーム	キンボール・スポーツのルールを確認しておくこと（60分）。
10	〃	キンボールのルールと実技（１）：ルールの解説、動画の視聴、リードアップゲーム、ヒット＆キャッチ	審判ができるように各自キンボール・スポーツのルールについて再度確認しておくこと。次週担当の班員はゲーム進行のための準備をしておくこと（60分）
11	〃	キンボールのルールと実技（２）：ゲーム	インディアカのルールについて予習をしておくこと（60分）
12	〃	インディアカのルールと実技	雨天の場合に実施する授業です。授業後にインディアカのルール、歴史について復習し学習ノートにまとめておくこと。（60分）
13	〃	ドッヂビーのルールと実技	雨天の場合に実施する授業です。必要に応じて課題を与えます。
14	〃	ローンボウルズ、ペタンク、シャッフルボード：ターゲット系ゲームの体験	各自、３種目のルールについて予習しておくこと。担当の班員は、３種目の説明とゲーム進行ができるように準備をしておくこと。（60分）
15	〃	まとめ	最終レポート提出

授業科目名 (ナンバリングコード)	アウトドアスポーツ実習（夏季） (133A0-4216)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	坂口　俊哉・北村　尚浩・日下　知明・冨山　浩三・古田　洋一			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	名程度
授業の概要	夏季山岳レジャースポーツ実習ではキャンププログラムを中心に実施する．キャンプの実施を通して，野外教育の意義と運営・指導の実際について学習する． 実習日程：令和4年9月17日（土）～9月19日（月）を予定 なお、COVID-19の感染状況を考慮して，実習の日程や内容を変更して実施する可能性がある． 詳細については状況が変わり次第連絡します．授業に関連する連絡は主にメールで行うため，受講者はWebclassへの登録を各自で確実に行うこと．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、リーダーシップ、課題解決力 （実技力，コミュニケーション力，一般教養・倫理）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	実習内容に対する理解． より実践的な指導に必要な専門的知識を身につける	○						30
	■情意的領域	野外活動の楽しみを理解し，積極的に取り組む姿勢を身につける	○		○			○ (日誌)	50
	■技能的領域	実践体験を通じて，テントの設営や火起こしなど，野外での生活に必要なスキルを身につける	○					○ (日誌)	20

成績評価の基準	実習参加前後でのレポート評価，実習先での参加状況と評価から総合的に評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	江橋慎四郎編著「野外教育の理論と実際」, 川西正志著「野外活動図鑑―キャンプ」他		
履修条件・ 関連科目	実習参加費（一人9,000円）が必要です． 授業のオリエンテーション，班編成，役割分担，参加費の徴収などを，昼休みなどの空き時間に行います．日程等については，WebClassによるメール，掲示によって別途通知します．実習の運営に支障があるため，無断でガイダンスを欠席した場合，実習への参加を認めない場合があります．メール，掲示板の見落としがないように注意してください．	備考(教員メッセージ含む)	実習日誌と手引きに基づいて課題レポートが要求される．
オフィス・アワー	随時：坂口（大学院棟３Ｆ教官室1)．事前にメールでアポイントをとると確実です．tsakaguc@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉 北村　尚浩 日下　知明 冨山　浩三 古田　洋一	実習のためのグループ別事前学習では，実習中の班の構成を行う．また班ごとに，参加者各自の役割を決定する．	実習中に実施するプログラムについて，振り返りを行う．その内容については，実習日誌に記入する． 記入した内容については，班別ミーティングで共有する．（60分）
2	〃	実習では，テント設営，野外炊飯，野外レクリエーション，キャンプファイヤー，登山ハイキングの実践を行い，諸外国のレジャースポーツ運営（講義）やキャンプファイヤーの企画運営（講義），登山・ハイキング計画の立て方（講義）について学ぶ．	実習終了後のレポート作成（120分）
3	〃	〃	
4	〃	〃	
5	〃	〃	
6	〃	〃	
7	〃	〃	
8	〃	〃	
9	〃	〃	
10	〃	〃	
11	〃	〃	
12	〃	〃	
13	〃	〃	
14	〃	〃	
15	坂口　俊哉	〃	レポート作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	アウトドアスポーツ実習（冬季） (133A0-4217)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	坂口　俊哉・髙橋　仁大・日下　知明・未　　定			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	40名程度
授業の概要	冬季のアウトドアスポーツとして，スキーを中心に実施する．雪上スポーツの実施を通して，冬季における野外活動の意義と指導の実際を学習する．実習地は，妙高高原スキー場を予定している．実習参加費（一人50,000円程度）が必要となる． 実習日程：2023年2月19日から22日（3泊4日） COVID-19の感染拡大状況などを考慮して，実施内容を変更する可能性がある．変更した場合でも，履修継続できることを前提として履修を決定すること． 変更後の実習内容については別途掲載する「アウトドアスポーツ実習（変更時）」に記載してあるので必ず読んでおくこと。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、事業運営力、リーダーシップ （コミュニケーション力、一般教養・倫理）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	実習内容に対する理解，より実践的な指導に必要な専門的知識を身につける．	○		○			○ (日誌)	30
	■情意的領域	積極的に授業に参加する．実習の参加状況．	○					○ (日誌)	30
	■技能的領域	実践体験を通じて，スキー技能を習得する．	○	○					40

成績評価の基準	実習参加前後でのレポート評価，実習先での参加状況と評価から総合的に評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	日本スキー教程，公益財団法人全日本スキー連盟　山と渓谷社		
履修条件・ 関連科目	実習日程：2023年2月19日から22日（3泊4日） 場　　所：新潟県妙高高原 実習参加費として一人50,000円程度必要となる．後期（10月下旬）にガイダンスを行う．詳細については12月開催予定のガイダンスにおいて説明する．その際，実習参加費の一部として一人10,000円を徴収する．ガイダンスの日程等は別途メールにて通知する．メールは大学ドメインのメールアドレス宛に送信する．携帯電話に転送設定し，定期的にメールをチェックする，などの準備をしておくこと．実習の運営に支障があるため，無断でガイダンスを欠席した場合，当該者を参加者リストから自動的に除外する．定員に空きがある場合にのみ，後期の履修登録変更期間中に履修希望者を追加募集する場合がある．4年次の履修は原則的に認めない．	備考(教員メッセージ含む)	実習日誌と手引きに基づいて課題レポートが要求される．
オフィス・アワー	随時：坂口（大学院棟３Ｆ教官室1）事前にメールでアポイントをとること．tsakaguc@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉 髙橋　仁大 日下　知明	スキー学習における基礎的な用語，理論，指導方法を学ぶ．また，用具の取り扱い，雪上での準備運動の方法，滑走方法を学ぶ．	学習した内容の振り返りのために，実習日誌への記入を行うこと．（60分）
2	〃	講義１：雪国の暮らし スキーの歴史や，その背景にある自然環境に対する理解を深めることを目的とした講義	講義の感想を日誌にまとめる（60分）
3	〃	講義２：スキー技術 スキーの技術，専門用語について学ぶ．	講義の感想を日誌にまとめる（60分）
4	〃	講義３：スキーとツーリズム ニセコ，妙高高原などインバウンドの獲得を目指した最新の動向について学ぶ	講義の感想を日誌にまとめる（60分）
5	〃	〃	
6	〃	〃	
7	〃	〃	
8	〃	〃	
9	〃	〃	
10	〃	〃	
11	〃	〃	
12	〃	〃	
13	〃	〃	
14	〃	〃	
15	〃		レポート作成（120分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	海洋スポーツ① (133A0-4218)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	榮樂　洋光・中村　夏実・笹子　悠歩			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	40名

授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっています。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められています。 そこで本授業では、まずは自らが海洋スポーツを楽しむことを前提とし、学習した海洋スポーツ種目について、安全性を認識し、判断力を持って自ら楽しみ、自ら片づけることができる能力を養います。 そのために、以下の授業内容を展開します。 ①セーリング種目であるヨットおよびローイング系種目であるカヌーを中心に、初歩的な技術の習得をめざす。 ②安全性を認識し、判断力を持って活動するための、基礎的な海事知識を学ぶ。 ③必要な道具の準備・水洗い・収納方法を学ぶ。 なお、本授業は2時限続きで行われます。定員は40名とし、20名ずつの2班に分かれてヨットとカヌーを交代で実施します。

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力							
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識および技術習得に必要な知識について理解する。筆記テスト20 点、レポート30 点（5 点× 6 回）			○		○		50
	■情意的領域	指導者およびリーダーの指示をよく理解し、準備、出艇、片付けに協力して、積極的に取り組む。	○						20
	■技能的領域	海洋スポーツに主体的に取り組むための判断力を養う。初歩的な技術を習得し、自ら準備し、自ら楽しめ、自ら片づけることができる。	○						30

成績評価の基準	９０点以上はS、８０点～８９点はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合には履修放棄とみなす。		
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。		
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されているものは事前に相談してください。受講に関する条件・準備等は、掲示します。 授業は2時限目と3時限目に連続して行われます。1日欠席すると2回分の欠席となります。試合等で3日以上欠席すると6回分の欠席となり、出席日数は不足します。履修の際にはこの点について十分に考慮してください。	備考(教員メッセージ含む)	1）道具の都合上、４０名以下の受講者数に限定します。海洋スポーツ①と②の両方を受講することはできません。 2）天候により授業内容が変更されることがあります。 3）授業は海洋スポーツセンターおよびセンター前の海上で実施します.海洋スポーツセンターへの移動手段は，スクールバスに限ります。 4）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお，撮影した映像は，原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし事前に連絡してください。研究棟709 室（榮樂）、研究棟710室（中村）、または海洋スポーツセンター（0994-47-2758） （E-mail）kaispo@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	榮樂　洋光 中村　夏実	オリエンテーション・海洋スポーツに取り組むための基礎知識と態度（講義） 施設の利用法、用具の使い方、ビーチクリーンアップ、水慣れ（実技）	実施週の金曜までにレポート提出① 海洋スポーツについての事前学習とふりかえり（1時間）
2	〃	準備、小型ヨットの艤装および出艇、着艇、帆走（1）、片付け	海洋スポーツについての事前学習とふりかえり（1時間）
3	〃	準備、小型ヨットの艤装および出艇、着艇、帆走（2）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出②　ヨットの基本について予習・復習（1時間）
4	〃	準備、小型ヨットの転覆とリカバリー、片付け	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
5	〃	準備、小型ヨットの帆走（方向転換：タッキング）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出③　ヨットの基本について予習・復習②（1時間）
6	〃	準備、小型ヨットの帆走（方向転換：ジャイビング）、片付け	ヨットの基本について予習・復習②（1時間）
7	〃	準備、小型ヨットの帆走（風上・風下への帆走）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出④　ヨットに関する習得知識をまとめる（1時間）
8	〃	準備、小型ヨットを用いたレース、片付け	ヨットに関する習得知識をまとめる（1時間）
9	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし（シットオントップ）、片付け	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
10	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし（シングルカヤック）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑤　カヌーの基本について予習・復習（1時間）
11	〃	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
12	〃	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑥　カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
13	〃	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する習得知識をまとめる（1時間）

14	〃	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する習得知識をまとめる（1時間）
15	〃	準備、シングルカヤックの漕方とレクリエーション、片付け	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）
16	〃	筆記テスト	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	海洋スポーツ② (133A0-4218)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	榮樂　洋光・中村　夏実・笹子　悠歩			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	40名程度

授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっています。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められています。 そこで本授業では、まずは自らが海洋スポーツを楽しむことを前提とし、学習した海洋スポーツ種目について、安全性を認識し、判断力を持って自ら楽しみ、自ら片づけることができる能力を養います。 そのために、以下の授業内容を展開します。 ①セーリング種目であるウインドサーフィンおよびローイング系種目であるカヌーを中心に、初歩的な技術の習得をめざす。 ②安全性を認識し、判断力を持って活動するための、基礎的な海事知識を学ぶ。 ③必要な道具の準備・水洗い・収納方法を学ぶ。 なお、本授業は2時限続きで行われます。定員は40名とし、20名ずつの2班に分かれてウィンドサーフィンとカヌーを交代で実施します。

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識および、技術習得に必要な知識について理解する。筆記テスト20 点、レポート30 点（5 点×6 回）			○		○		50
	■情意的領域	指導者およびリーダーの指示をよく理解し、準備、出艇、片付けに協力して、積極的に取り組む	○						20
	■技能的領域	海洋スポーツに主体的に取り組むための判断力を養う。初歩的な技術を習得し、自ら準備し、自ら楽しめ、自ら片づけることができる。	○						30

成績評価の基準	９０点以上はS、８０点～８９点はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合には履修放棄とみなす。
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。

履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されているものは事前に相談してください。受講に関する条件・準備等は、掲示します。 授業は2時限目と3時限目に連続して行われます。1日欠席すると2回分の欠席となります。試合等で3日以上欠席すると6回分の欠席となり、出席日数は不足します。履修の際にはこの点について十分に考慮してください。	備考(教員メッセージ含む)	1）道具の都合上、４０名以下の受講者数に限定します。海洋スポーツ①と②の両方を受講することはできません。 2）天候により授業内容が変更されることがあります。 3）授業は海洋スポーツセンターおよびセンター前の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。 4）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし事前に連絡してください。研究棟709 室（榮樂）、研究棟710室（中村）、または海洋スポーツセンター（0994-47-2758） （E-mail）kaispo@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	榮樂　洋光 中村　夏実	オリエンテーション・海洋スポーツに取り組むための基礎知識と態度（講義） 施設の利用法、用具の使い方、ビーチクリーンアップ、水慣れ（実技）	実施週の金曜までにレポート提出①　海洋スポーツについての事前学習とふりかえり（1時間）
2	〃	準備、ウィンドサーフィンの艤装、出艇、着艇、プレセーリング動作の習得、片付け	海洋スポーツについての事前学習とふりかえり（1時間）
3	〃	準備，ウィンドサーフィンの艤装、出艇、着艇、帆走、リカバリー、片付け(1)	実施週の金曜までにレポート提出②　ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
4	〃	準備、ウィンドサーフィンの艤装、出艇、着艇、帆走、リカバリー、片付け(2)	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
5	〃	準備、ウィンドサーフィンの帆走（方向転換：タッキング）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出③　ウインドサーフィンの基本について予習・復習②（1時間）
6	〃	準備、ウィンドサーフィンの帆走（方向転換：ジャイビング）、片付け	ウインドサーフィンの基本について予習・復習②（1時間）
7	〃	準備、ウィンドサーフィンの帆走（風上・風下への帆走）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出④　ウインドサーフィンに関する基礎知識をまとめる（1時間）
8	〃	準備、ウィンドサーフィンを用いたレース、片付け	ウインドサーフィンに関する基礎知識をまとめる（1時間）
9	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし（シットオントップ）、片付け	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
10	〃	準備、カヤックの漕法と沈起こし（シットオントップ）、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑤　カヌーの基本について予習・復習（1時間）
11	〃	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	カヌーの基本について予習・復習②（1時間）
12	〃	準備、カナディアンカヌーの漕法と沈起こし、片付け	実施週の金曜までにレポート提出⑥　カヌーの基本について予習・復習②（1時間）

13	〃	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シットオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する基礎知識をまとめる（1時間）
14	〃	カヌーツーリングの計画と実施 準備、シップトオントップor スノーケリング、片付け	カヌーに関する基礎知識をまとめる（1時間）
15	〃	準備、シングルカヤックの漕方とレクリエーション、片付け	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）
16	〃	筆記テスト	海洋スポーツに関する習得した知識と技術のまとめ（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ラグビー (133A0-4303)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	森下　大輔			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	４５ 名程度
授業の概要	ラグビーの歴史やプレーの原則、競技規則を学習し、ラグビーの理解を深めることができる。 ラグビーの基本的な個人及びチーム技術や特性を学習し、安全かつ楽しくラグビーをプレーすることができる。 ラグビーを安全に実施していくための指導方法を学習し、計画的な練習やゲーム運営ができるようになる。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ラグビーの歴史を学習する ・ラグビーの競技規則を学習する ・ラグビー憲章を通してゲームの原則を学ぶ	○		○				25
	■情意的領域	・積極的かつ自発的に授業、課題、ゲームに取り組むことができる	○						25
	■技能的領域	・パス、キック、ランニング、スクラム、ラインアウト、ディフェンスの基本技術を習得し身体表現ができる ・チーム戦術の考え方を習得する	○	○			○		50

成績評価の基準	授業への参加が２/３以上で、授業への取り組み、態度、技能テストの各合計点が60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	・競技規則については2021年度日本ラグビーフットボール協会競技規則ルールブックを参考とする ・その他必要に応じて資料を配布する		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー			

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森下　大輔	オリエンテーション　ラグビーの歴史や基本ルールの理解	https://www.rugby-japan.jp/ 「ラグビーを知る・楽しむ」を閲覧（15分）
2	〃	ラグビー競技に慣れるための各種ゲームⅠ	https://www.rugby-japan.jp/ 「ラグビーを知る・楽しむ」を閲覧（10分）
3	〃	ラグビー競技に慣れるための各種ゲームⅡ	https://www.rugby-japan.jp/ 「ラグビーを知る・楽しむ」を閲覧（10分）
4	〃	ランニングスキルの習得とゲーム	実施した講義内容の復習（10分）
5	〃	ハンドリングスキルの習得Ⅰとゲーム	実施した講義内容の復習（10分）
6	〃	ハンドリングスキルの習得Ⅱとゲーム	実施した講義内容の復習（10分）
7	〃	キッキングスキルの習得とゲーム	実施した講義内容の復習（10分）
8	〃	競技規則（ルール）の理解と競技場作りについて	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の1頁～28頁を閲覧(30分)
9	〃	ゲームの開始と再開Ⅰ：キックオフとドロップアウトとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の59頁～62頁を閲覧(15分)
10	〃	ゲームの開始と再開Ⅱ：スクラムとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の92頁～101頁を閲覧(15分)
11	〃	ゲームの開始と再開Ⅲ：ラインアウトとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の78頁～91頁を閲覧(15分)
12	〃	ゲームの開始と再開Ⅳ：ペナルティとゲーム	https://www.rugby-japan.jp/future/rule 「令和3年度(2021年度)競技規則」の102頁～106頁を閲覧(15分)
13	〃	ラグビーゲームの運営と実際Ⅰ	各チーム戦術振り返り（15分）
14	〃	ラグビーゲームの運営と実際Ⅱ	各チーム戦術振り返り（15分）
15	〃	ラグビーゲームの運営と実際Ⅲ	各チーム戦術振り返り（15分）
16	〃	学期末試験（実技テスト）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゴルフ① (133A0-4324)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	川野　健一・青木　竜			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	30
授業の概要	ゴルフの基本的な技術（スイングプレーンの形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、ドライバーショット、アプローチ、パターといった技術）を習得すること。ルールやマナーについての認識を深めることを目指す。 またショートゴルフ場でラウンド指導も行う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ゴルフの理論、歴史、マナー、ルールに関する知識の理解と習得。	○						10
	■情意的領域	積極的に授業に参加する	○						80
	■技能的領域	スイングプレーンの形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、ドライバーショット、アプローチ、パターといった基本的なショットを70％程度の正確差に実施できる。	○	○	○				10

成績評価の基準	■授業への取組み状況（90％）　■ テスト　（10％）　を総合的に評価する。■ 出席の条件、1/3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	授業中に配付するプリント。参考図書として、小林正義・片山健二著「ゴルフ指導教本」大修館書店、「PGA基本ゴルフ教本」（公）日本プロゴルフ協会＠2,415円　ゴルフ規則プレーヤーズ版（公）日本ゴルフ協会　定価600円（税別）		
履修条件・ 関連科目	授業は第1回～7回：学内ゴルフ練習場（雨天時はバドミントン練習室）、8回～9回：市内のショートゴルフ場でコース実習を実施。第8回、第9回のラウンド指導は1限～4限で実施。2回にわたり、1日をとって実施するので、木曜開講の授業は履修できない。 また、ショートゴルフ場の使用料が2回で1,200円前後必要となる。 注）第8回（6月2日予定）、9回（6月9日予定）は4コマとしてカウントするため、1回の欠席で4回分の欠席となる	備考(教員メッセージ含む)	8回目（6月2日予定）及び9回目（6月9日予定）の授業は学外のショートゴルフ場で実施するので大学のバス等の使用が必要となる。 コース実習の予備日：6月16日
オフィス・アワー	随時（前もって各教員に連絡する）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	川野　健一	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	復習（1時間）、練習場
2	〃	ショート・アイアン　練習1　ルール、エチケット	復習（1時間）、練習場
3	〃	ショート・アイアン　練習2、ルール、エチケット	復習（1時間）、練習場
4	〃	ミドルアイアン　練習1、ルール、エチケット	ゴルフトーナメントの観戦（1時間）
5	〃	ミドルアイアン　練習2（斜面打ち）（バンカー）	ゴルフトーナメントの観戦（1時間）
6	〃	ロング・アイアン、フェアウェイウッド、ドライバー練習	復習（1時間）、練習場
7	〃	パター練習、バンカー、ルール、エチケット	復習（1時間）、練習場
8	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット、ビデオ	アプローチ、パター、バンカー（1時間）、練習場
9	〃	実践練習：ショートコース、ルール、エチケット	アプローチ、パター、バンカー（1時間）、練習場
10	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	アプローチ、パター、バンカー（1時間）練習場
11	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	アプローチ、パター、バンカー（1時間）練習場
12	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	コース戦略論　イメージトレーニング（３０分）
13	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	コース戦略論　イメージトレーニング（３０分）
14	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	コース戦略論　イメージトレーニング（３０分）
15	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット／試験	コース戦略論　イメージトレーニング（３０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゴルフ② (133A0-4324)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	川野　健一・青木　竜			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	30
授業の概要	ゴルフの基本的な技術（スイングプレーンの形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、ドライバーショット、アプローチ、パターといった技術）を習得すること。ルールやマナーについての認識を深めることを目指す。 またショートゴルフ場でラウンド指導も行う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ゴルフの理論、歴史、マナー、ルールに関する知識の理解と習得。	○						10
	■情意的領域	積極的に授業に参加する	○						80
	■技能的領域	スイングプレーンの形成、ショート・ミドル・ロングアイアンショット、ドライバーショット、アプローチ、パターといった基本的なショットを70％程度の正確差に実施できる。	○	○	○				10

成績評価の基準	■授業への取組み状況（90％）　■ テスト　（10％）　を総合的に評価する。■ 出席の条件、1/3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	授業中に配付するプリント。参考図書として、小林正義・片山健二著「ゴルフ指導教本」大修館書店、「PGA基本ゴルフ教本」（公）日本プロゴルフ協会＠2,415円　ゴルフ規則プレーヤーズ版（公）日本ゴルフ協会　定価600円（税別）		
履修条件・ 関連科目	授業は第1回～7回：学内ゴルフ練習場（雨天時はバドミントン練習室）、8回～9回：市内のショートゴルフ場でコース実習を実施。第8回、第9回のラウンド指導は1限～4限で実施。2回にわたり、1日をとって実施するので、木曜開講の授業は履修できない。 また、ショートゴルフ場の使用料が2回で1,200円前後必要となる。 注）第8回（12月8日予定）、9回（12月15日予定）は4コマとしてカウントするため、1回の欠席で4回分の欠席となる	備考(教員メッセージ含む)	8回目（12月8日予定）及び9回目（12月15日予定）の授業は学外のショートゴルフ場で実施するので大学のバス等の使用が必要となる。 コース実習の予備日：12月22日予定
オフィス・アワー	随時（前もって各教員に連絡する）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	川野　健一	オリエンテーション、ゴルフ歴史、用具論、スウィングの基本理論	復習（１時間）、練習場
2	〃	ショート・アイアン　練習１　ルール、エチケット	復習（１時間）、練習場
3	〃	ショート・アイアン　練習２、ルール、エチケット	復習（１時間）、練習場
4	〃	ミドルアイアン　練習１、ルール、エチケット	ゴルフトーナメントの観戦（１時間）
5	〃	ミドルアイアン　練習２（斜面打ち）（バンカー）	ゴルフトーナメントの観戦（１時間）
6	〃	ロング・アイアン、フェアウェイウッド、ドライバー練習	復習（１時間）、練習場
7	〃	パター練習、バンカー、ルール、エチケット	復習（１時間）、練習場
8	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット、ビデオ	アプローチ、パター、バンカー（１時間）、練習場
9	〃	実践練習：ショートコース、ルール、エチケット	アプローチ、パター、バンカー（１時間）、練習場
10	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	アプローチ、パター、バンカー（１時間）練習場
11	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	アプローチ、パター、バンカー（１時間）練習場
12	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	コース戦略論　イメージトレーニング（３０分）
13	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	コース戦略論　イメージトレーニング（３０分）
14	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット	コース戦略論　イメージトレーニング（３０分）
15	〃	実践練習、ショートコース、ルール、エチケット／試験	コース戦略論　イメージトレーニング（３０分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	なぎなた (133A0-4325)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	下川　美佳・平山　悦子			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	4	受け入れ人数	20
授業の概要	本科目はなぎなたに関する基礎的な実技力を身につける科目である。 日本の伝統文化としての特性を理解させ、正しい基本動作や応用技能を学ぶことを目的とする。 具体的には、バランスのとれた体とよい姿勢、旺盛な気力と活力、礼儀を重んじ相手を尊ぶ心が養われることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・なぎなたにふれ歴史、特徴、練習方法を理解できる。 ・伝統的な考え方と行動の仕方を理解できる。	○		○				20
	■情意的領域	・礼儀作法を学び相手を尊重し技を教え合い互いに協力できるようになる。 ・健康、安全に気を配ることができるようになる。	○		○				30
	■技能的領域	・基本動作を正しく学び、気剣体の一致した打突ができるようになる。	○		○		○		50

成績評価の基準	授業態度、実技およびレポートなどを判断・評価し、60点以上を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	楽しいなぎなたの授業(財)全日本なぎなた連盟 初心者のためのなぎなた(関連実技科目テキスト)		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	手ぬぐい(日本タオル)を準備すること。 学期末試験とは別に希望者には、昇段試験を実施する。 ※新型コロナウィルス感染症対策と状況によってはシラバスを変更する場合があります(Web Classで連絡します)。
オフィス・アワー	授業実施日の授業前後の時間帯(武道館) 下川:木曜日 15:00-16:00(研究棟5階 505教員研究室)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	下川　美佳	オリエンテーション(特性・歴史・計画) 礼法と用具の扱い方	なぎなたの特性と歴史や礼法に関する復習 テキストP1、P4、P5~P8、P22、P23 30分以上
2	下川　美佳 平山　悦子	1.基本動作I (1)各種構えの説明 (2)なぎなたの振り方、足さばき	基本動作の予習 テキストP8~P12 20分以上
3	下川　美佳	2.基本動作II (1)打突部位、操作法 (2)打突法 (3)受け方	基本動作の復習とまとめ テキストP8~P12 30分以上
4	〃	3.基本打突と応用技能 (1)打ち返し (2)しかけ技 (3)応じ方	基本打突と応用技能の予習 テキストP13~P19 20分以上
5	下川　美佳 平山　悦子	(4)しかけ応じ技(1~3本目)	しかけ応じ技 1~3本目の復習 テキストP13~P16 20分以上
6	下川　美佳	〃	しかけ応じ技 1~3本目の復習と4~5本目の予習 テキストP13~P19 20分以上
7	下川　美佳 平山　悦子	〃(4~5本目)	しかけ応じ技 4~5本目の復習 テキストP17~P19 20分以上
8	下川　美佳	〃(1~5本目、演技競技試合)	しかけ応じ技(1~5本目)のまとめ 20分以上 レポート(1~8回分)の作成 40分以上
9	〃	4.防具をつけての打突法と稽古 (1)防具のつけ方 (2)防具をつけての打突法 (3)稽古	打突部位の予習 テキストP20、P24 20分
10	〃	〃	打突法と稽古の予習および復習 テキストP20、P21 20分以上
11	〃	〃	防具をつけての打突法と稽古に関するまとめ テキストP20、P 21 20分以上
12	下川　美佳 平山　悦子	5.試合と審判 (1)なぎなたの審判について (2)試合競技 (3)演技競技	審判方法に関する予習 1時間以上
13	下川　美佳	〃	審判方法の復習 20分以上
14	〃	〃	試合と審判に関するまとめ 20分以上 レポート(9~14回分)の作成 40分以上
15	下川　美佳 平山　悦子	6.全日本の形	レポート(1~15回分に関わる)の作成 1時間以上
16	〃	学期末試験(実技による評価)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	相撲 (133A0-4326)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	諸木　悦朗			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	武道相撲は、日本の伝統文化である。その基礎となる礼法・鍛錬法と相撲の特性を修得し、心技体の錬磨により人間形成を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	相撲に触れ、歴史・練習方法を習得する 指導方法において高レベルの方法を習得する	○		○				30
	■情意的領域	勝者や敗者に向けて、手を差し伸べる精神を作る 相手を思いやる気持ちを養う	○						30
	■技能的領域	基本動作を正しく学び、心・技・体の業を身に付ける 審判規定・基本試合の形式を学ぶ	○		○		○		40

成績評価の基準	実技は基本動作並びに応用力、レポート提出及び小テストの総合得点で成績は評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	二ツ森修ほか著「基礎から学ぶ相撲」（図書刊行会） 藤川武夫ほか著「アマチュア相撲」（技興社）		
履修条件・ 関連科目	柔道の受け身等を習得しておくべきである スパッツ、短パンの着用	備考(教員メッセージ含む)	日本相撲連盟初段取得を目標とする。
オフィス・アワー	授業実施日の時間　１２：３０～１６：００（相撲道場）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	諸木　悦朗	オリエンテーション、相撲の起源、土俵論	「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。（30分）
2	〃	まわしの締め方、礼法（蹲踞、塵浄水）	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う。（30分）
3	〃	基本動作（四股、腰割、開脚、調体）	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う。（30分）
4	〃	基本動作（受け身、運び足）	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う。（30分）
5	〃	対人的技能（押し、突き、寄り）	「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。（30分）
6	〃	ぶつかり稽古、組み手、前さばき	「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。（30分）
7	〃	立ち会いの種類、構え	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う。（30分）
8	〃	差し手の極め方	「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。（30分）
9	〃	決まり手	「基礎から学ぶ相撲」を参考に復習を行う。（30分）
10	〃	禁じ手、危険な組み手	「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。（30分）
11	〃	審判規定	「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。（30分）
12	〃	主審のあり方	「基礎から学ぶ相撲」で予習を行う。（30分）
13	〃	基本試合	課外活動等を活用して、基本動作の復習を行う。（30分）
14	〃	基本試合	課外活動等を活用して、基本動作の復習を行う。（30分）
15	〃	基本試合	課外活動等を活用して、基本動作の復習を行う。（30分）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	弓道 (133A0-4327)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	柚木　秀一			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2,4年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	日本古来の武道である弓道を修練する場合、その基準となり法則となっている射法を理解して、一本の矢を射る過程を全日本弓道連盟が定めている基本動作を始めとする諸動作、そして射法八節を中心とする射法、射技の基本を実技により習熟させる。また、弓具の名称、取り扱い方を熟知させる。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	弓道習得の過程において心身を鍛錬しながら人間完成を図る。	○						20
	■情意的領域	伝統的な武道として礼節を重んじて、他との融和を図り、真善美を追求する。	○						30
	■技能的領域	射法八節に基づき１手（２本）を行射する要領を習得する。	○		○				50

成績評価の基準	出席回数が３分の２以上で、射法八節の習熟度、授業への取り組み状況等を総合的に評価し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書　：全日本弓道連盟発行「弓道教本　第１巻　射法偏」		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	1　弓道場内は素足禁止。 2　長髪は後ろで束ねること。 3　胸部がダブつく服装は控えること。
オフィス・アワー	授業実施日の授業前後の時間帯（弓道場）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	柚木　秀一	オリエンテーション（心構え、弓道場でのマナー） ・日本の弓の歴史と現代の弓道の目的、弓具の名称及び取扱い ・射法八節の説明 ・徒手による射法八節の実技	実施した実技内容を復習する（15分）
2	〃	ゴム弓による射法八節の実技及び基本動作　①	実施した実技内容を復習する（15分）
3	〃	ゴム弓による射法八節の実技及び基本動作　②	実施した実技内容を復習する（15分）
4	〃	素引きによる射法八節の実技及び基本動作　①	実施した実技内容を復習する（15分）
5	〃	素引きによる射法八節の実技及び基本動作　②	実施した実技内容を復習する（15分）
6	〃	矢を番えて引く射法八節の実技及び基本動作	実施した実技内容を復習する（15分）
7	〃	大的での射法八節の実技及び基本動作　①	実施した実技内容を復習する（15分）
8	〃	大的での射法八節の実技及び基本動作　②	実施した実技内容を復習する（15分）
9	〃	大的での射法八節の実技及び基本動作　③	実施した実技内容を復習する（15分）
10	〃	矢道の中ほどから、立射による射法八節の実技及び基本動作　①	実施した実技内容を復習する（15分）
11	〃	矢道の中ほどから、立射による射法八節の実技及び基本動作　②	実施した実技内容を復習する（15分）
12	〃	矢道の中ほどから、立射による射法八節の実技及び基本動作　③	実施した実技内容を復習する（15分）
13	〃	射場から、立射による射法八節の実技及び基本動作　①	実施した実技内容を復習する（15分）
14	〃	射場から、立射による射法八節の実技及び基本動作　②	実施した実技内容を復習する（15分）
15	〃	立射による射法八節の実技及び基本動作の実技試験　③	

授業科目名 (ナンバリングコード)	野外活動 (133A0-4229)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	坂口　俊哉・未　　定			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2	受け入れ人数	10
授業の概要	野外教育分野では,野外活動体験を通じた学習を重視している.この授業では,野外活動を指導する上で必要な基礎的技術を身につけることを目標として様々な活動に取り組む.また,活動場所となる施設の特性に対する理解を深めると同時に,野外での活動を安全に実施するためのポイントについても理解することが期待される.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・野外での炊事についての知識を身につける. ・地図やコンパスなどの使い方を理解する. ・活動内容の内容と背景にある危険について理解する.			○				30
	■情意的領域	・意欲的に活動に取り組む. ・野外教育施設の利用マナーを守ろうとする. ・積極的なコミュニケーションに努める. ・他者への協力的な姿勢.	○						20
	■技能的領域	・薪を使った炊事を安全にできる. ・安全確保のために必要なロープワークができる. ・地図とコンパスを使ったナビゲーションができる.	○	○			○		50

成績評価の基準	授業は全部で8週(16コマ分)開講されます.そのため3週欠席した場合,単位認定の対象となりません. 授業時間の取り組み,レポート,技能テストの得点を合計して60点以上の場合に合格とします.		
テキスト、教材 参　考　書	実際に野外活動を行う上で支障のない服装,装備を準備すること.雨具,手袋(軍手,革手袋)を各自で準備すること. 教材費を実費にて徴収する.		
履修条件・ 関連科目	3年時開講の学外指導実習で「野外教育施設」での実習を希望する学生については,この授業を履修しておくことが望ましい. また,この授業を履修する学生には,「アウトドアスポーツ実習（夏季）」「アウトドアスポーツ実習（冬季）」をあわせて履修することで「野外教育」「野外活動」についての理解を深めてもらいたい.	備考(教員メッセージ含む)	「大隅青少年自然の家」へ移動して授業を行う．COVID-19の感染拡大状況、天候の悪化，他の利用団体との調整により，シラバス通りの授業内容とならない場合もある．
オフィス・アワー	授業に関する相談は,必要に応じて随時受け付けています. メールによる連絡が確実です.以下のアドレス宛にメールを下さい. tsakaguc@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉 未　　定	ガイダンス(授業内容,受講のための準備,受講の心得)	
2	〃	ナビゲーションスキル(地図,コンパスの使い方)	課題1:地図とコンパスを用いて現在地を特定するための方法について調べ，説明できる資料を提出する．（60分）
3	〃	野外調理(1):羽釜とガスバーナーでご飯を炊く(火器の安全な使用方法の習得,炊飯の水加減)	
4	〃	イニシアティブゲーム(理論と実際)	課題2:無洗米を炊く場合の注意点についてレポートする．（60分）
5	〃	野外調理(2):羽釜と薪でご飯を炊く(火起こしの技術習得)	
6	〃	スポーツクライミング(1):安全な活動のための基礎知識習得,必要な用具の種類と使い方,トラバース,トップロープクライミング)	課題3:フリークライミング,エイドクライミング,リードクライミング,トップロープクライミング,ボルダリングの各用語についてその意味を調べてレポートする.（60分）
7	〃	野外調理(3):飯盒と薪でご飯を炊く(飯盒の使い方の習得)	
8	〃	スポーツクライミング(2):トップロープによるクライミング,グレードへの挑戦	課題4:野外で行われるクライミング活動において,活動環境を維持する上で配慮が必要なことを調べレポートすること.（60分）
9	〃	野外調理(4):飯盒と炭でご飯を炊く(炭の火起こし技術の習得)	
10	〃	スポーツクライミング(3):ビレイヤー体験,安全確保の理解と実践	課題5:オリエンテーリングの歴史,種類,必要な道具について調べレポートすること.(60分)
11	〃	野外調理(5):自由調理	
12	〃	オリエンテーリング(1):スコアオリエンテーリングの体験	課題6:コントロールの写真をマップ上に配置した地図の作成（60分）
13	〃	オリエンテーリング(2):前週の続き．マップ完成に向けて．	
14	〃	オリエンテーリング(3):前回の続き	課題７：マップを完成させて提出する（60分）
15	〃	ふりかえり:授業内容の確認と共有	
16	〃	筆記テスト・実技テスト	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力トレーニング (133A0-4330)	授業形態	実技	授業科目区分	専門科目 (関連実技科目)
担当教員名	瓜田　吉久・松村　勲・小森　大輔			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30名程度
授業の概要	本授業では、体力を向上するための各種トレーニング方法について教授するとともに、トレーニングの体験・経験を通して理解を深め、パフォーマンスを向上させることで模範が示せるようになることを目指す。また、学んだことを駆使しながら、学習者を「できるようにさせる」ための体験・経験を通して実技指導力の向上を図る。さらに、学習内容や授業で見つけた「動きのコツ」や「学習上の問題」等をまとめてレポートを提出させる。これにより、指導する種目や学習者の状況に応じてトレーニング法を改善・創造し、指導できるという自信と技量が身につくことがを期待される。その他、持久力のトレーニングにおいては、中学・高校の長距離走（持久走）の授業に対応する内容を展開する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力 （専門的な知識・教養、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・スポーツに要求される体力を向上させるための基礎的なトレーニングの理論を理解している。 ・指導する種目について、学習者の状況に応じてトレーニング法を改善し、指導できるという見通しを獲得している	○		○				40
	■情意的領域	・積極的に授業に参加し、課題に取り組もうとする。 ・授業の実施を安全に行うとする。	○						20
	■技能的領域	・スポーツに要求される体力を向上させるための基礎的なトレーニング法を体得し、模範が示せる。 ・体力トレーニング法の体験・経験を通して指導できる。	○	○					40

成績評価の基準	授業への積極的な参加及び取り組み、実技テストにおける技能習得度、実技実習後に提出するレポート等によって総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業開始時に実技実習のテキストや資料等を配付する。		
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学	備考(教員メッセージ含む)	受講者数によっては、グループ分けをして授業を実施する。その場合、途中で担当者が交代することがある。レポート提出有り。
オフィス・アワー	瓜田：月曜日　14：00～15：00　　研究棟８階　８０２教員研究室 松村：随時　　研究棟３階　３１０教員研究室　※事前にメールでアポを取ること 小森：月曜日　14：00～15：00　　研究棟８階　８０５教員研究室 山口：月曜日　14：00～15：00　　研究棟８階　８０３教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小森　大輔	スピード・パワーのトレーニングⅠ （反応スピード・動作スピードのトレーニング）	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
2	〃	スピード・パワーのトレーニングⅡ （スプリントパワーのトレーニング）	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
3	〃	スピード・パワーのトレーニングⅢ （フットワークのトレーニング）	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
4	〃	スピード・パワーのトレーニングⅣ （プライオメトリックトレーニング）	配付資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
5	瓜田　吉久	レジスタンストレーニングⅠ （ウエイトトレーニングのやり方を知ろう①：全身パワー系種目の動作習得）	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。（1時間）
6	〃	レジスタンストレーニングⅡ （ウエイトトレーニングのやり方を知ろう②：上半身並びに下半身系種目の動作習得）	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
7	〃	レジスタンストレーニングⅢ （ウエイトトレーニングプログラムを体験しよう。アイソメトリックトレーニングを体験しよう）	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
8	〃	レジスタンストレーニングⅣ (マシーンの使い方を知ろう。ウエイトトレーニングの技能を評価する)	配付資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
9	松村　勲	持久力のトレーニングⅠ （持久力の評価とその処方）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）
10	〃	持久力のトレーニングⅡ （持久力トレーニングの強度体験）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）
11	〃	持久力のトレーニングⅢ （タバタトレーニング体験）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。 また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）

12	〃	柔軟性のトレーニング	実際の競技場面で活かせるように考えよう！（1時間）
13	〃	山口先生 総合的体力トレーニングⅠ （サーキット・トレーニングの測定）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）
14	〃	山口先生 総合的体力トレーニングⅡ （サーキット・トレーニングの体験）	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）
15	〃	山口先生 総合的体力トレーニングⅢ	事前に配付する資料等をもとに予習を行うこと。また、復習として、実技の内容等をレポートでまとめること。（1時間）

専　攻　科　目

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－陸上競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	瓜田　吉久・金高　宏文・松村　勲・小森　大輔・永原　隆			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本授業を通じて、陸上競技に関する専門的な運動技能等を修得していくための前提条件となる基礎的、基本的な知識や実技力（トレーニング法や審判法含む）を身につけるとともに、陸上競技のトラック種目における理論を修得する。そして、それらの身に付けた知識や実技力を深化させるとともに指導力の向上につなげるため、その内容をレポートとしてまとめるほか、グループワーク（発表含む）や他者への教授（指導）を行う。これらにより、陸上競技に関する実技力、指導者基礎力を身につけていくほか、専門的な知識・教養、課題解決力、実技指導力を養うことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、指導者基礎力 （実技指導力、課題解決力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・陸上競技のトレーニング法や審判法（ルール含む）についての基礎的な知識を理解する。	○	○	○	○			45
	■情意的領域	・授業に主体的に参加し、課題に取り組む。 ・授業に対し、積極的・建設的な思考に立ち新たな提案ができる	○			○			10
	■技能的領域	・陸上競技のトレーニング全般についての基礎的な実践力を身につけたり、技能が出来る様になる	○	○		○			45

成績評価の基準	３つの授業到達目標をもとに、授業、テスト、レポート、発表など成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業時間毎に必要に応じて資料等を配付する。		
履修条件・ 関連科目	関連実技陸上競技を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	実際の陸上競技会を利用して審判実習を行うため、公認審判員の資格を取得する。そのため、登録料（手帳代等含む）として4,000円程度必要となる。 レポート等有り。授業内容により担当者が交代する。過去に陸上競技を経験し、今後も専門的に陸上競技に関わっていこうとする学生の受講を希望する。
オフィス・アワー	瓜田：月曜日　１４時～１５時　研究棟８階　802教員研究室 松村：随時　研究棟３階　310教員研究室※事前にアポを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	松村　勲	授業ガイダンス（授業の概要、成績評価等），陸上競技とは（なぜ競技を行うのか？）	授業の観点をまとめる。陸上競技について調べる。資料を作成する。（1時間）
前2	〃	陸上競技とは（競技者としてのこれからの展望（発表））	事前に発表内容を作成し、その内容を的確に発表する。（1時間）
前3	〃	競技力を向上する会に参加する。	
前4	〃	大学スポーツとは（陸上競技およびスポーツ全般）	本時のまとめとして、自身が考える大学スポーツの所感を作成する
前5	〃	陸上競技の審判法①（基礎知識編）	事前にルールブックを読み、その内容を把握しておく。（1時間） また、本時の復習としてレポートを作成を行うこと。（1時間）
前6	〃	陸上競技の審判法②（専門知識編）	審判講習会への参加※土曜日に実施されるので注意すること B級審判員免許取得（取得のための費用（4000円程度）がかかります）
前7	〃	アスリートのコンディショニング	本時の復習としてレポートを作成を行うこと。（1時間）
前8	〃	トレーニングマネジメント（自己分析～過去～：説明と作成）	課題作成を課す。そのための事前準備（予習）を行っておく。
前9	〃	トレーニングマネジメント（自己分析～過去～：発表，～現在～：説明と作成）	事前に課題の作成を行い、発表内容をまとめておく。（2時間） また、新たな課題作成を課す。
前10	〃	陸上競技の審判法③（実践Ⅰ）	実際の競技会で審判員を行う。※土曜日に実施 事前に配布するテキスト等で予習を行うこと。 また、本時の復習としてレポートを作成を行うこと。（1時間）
前11	〃	トレーニングマネジメント（自己分析～現在～：発表，目標設定～未来～：説明と作成）	事前に課題の作成を行い、発表内容をまとめておく。（1時間） また、新たな課題作成を課す。
前12	〃	トレーニングマネジメント（目標設定～未来～：発表①）	事前に課題の作成を行い、発表内容をまとめておく。（1時間） また、新たな課題作成を課す。
前13	〃	トレーニングマネジメント（目標設定～未来～：発表②）	事前に課題の作成を行い、発表内容をまとめておく。（1時間） また、新たな課題作成を課す。

前14	〃	陸上競技の審判法④（実践Ⅱ）	実際の競技会で審判員を行う。※土曜日に実施 事前に配布するテキスト等で予習を行うこと。 また、本時の復習としてレポートを作成を行うこと。（1時間）
前15	〃	トレーニング計画について，トレーニングの原則について	配布するテキスト等で学習を行うこと。確認の小テストを行う。（2時間）
前16	〃	学期末試験は行わない	
後1	瓜田　吉久	筋のトレーニング法を知る①　(クリーン並びにスナッチ他)	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後2	〃	筋のトレーニング法を知る②（スクワット他）	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後3	〃	筋のトレーニング法を知る③（ベンチプレス他）	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後4	〃	筋のトレーニング法を知る④（フリーウエイトを使った各種トレーニングの体験他）	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後5	〃	総合的な体力トレーニング法を知る①（トレーニングの解説とプログラムの立案）	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後6	〃	総合的な体力トレーニング法を知る②（立案したプログラムの確認作業他）	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後7	〃	総合的な体力トレーニング法を知る③（作成したプログラムの体験他）	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後8	松村　勲	トレーニング分析と計画の説明，陸上競技の審判法⑥（総合まとめⅠ：グループワーク：指導計画立案）	グループ毎にレクチャーの内容をまとめ、指導計画を練る。トレーニング分析・計画の作成（PPT)
後9	〃	トレーニング分析および計画の発表におけるグループワーク	事前にトレーニング分析および計画を作成しておく（PPT）（3時間）
後10	〃	トレーニング分析および計画（発表①）	事前に発表内容をPPTで作成しておく。また、発表の準備（練習）を行っておくこと。（2時間）
後11	〃	トレーニング分析および計画（発表②）	事前に発表内容をPPTで作成しておく。また、発表の準備（練習）を行っておくこと。（1時間）
後12	松村　勲 永原　隆	陸上競技の審判法⑦（総合まとめⅡ～指導実習～①）	事前に練った指導計画をもとに、他の受講者に内容を伝達する準備を行う。（1時間） また、伝達された内容をレポートとしてまとめる。（2時間）
後13	〃	陸上競技の審判法⑦（総合まとめⅡ～指導実習～②）	事前に練った指導計画をもとに、他の受講者に内容を伝達する準備を行う。（1時間） また、伝達された内容をレポートとしてまとめる。（2時間）
後14	永原　隆	短距離走の理論と実践	レポートにまとめる。（2時間）
後15	松村　勲	中長距離走の理論	レポートとしてまとめる。（2時間）
後16	〃	学期末試験は行わない	

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－陸上競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	瓜田　吉久・金高　宏文・松村　勲・小森　大輔・永原　隆			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本授業では、陸上競技フィールド種目（跳躍種目：棒高跳、三段跳、走幅跳、走高跳、投擲種目：円盤投、槍投、ハンマー投）の初級レベルでの技能習得を目的とした指導法について教授し、体験・経験を通してパフォーマンスを向上させることで模範が示せるようになることを目指す。また、指導的な視点からの体験・経験を積み、指導のポイント等をレポート化することで学習した種目の初級レベルでの指導力を高める。さらに、授業を通して「できること」や「できないこと」を知ることで、学習者の立場を踏まえた指導者としての「運動」理解が深まり、初級者レベルの者に対する効果的な指導を考える能力が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （課題解決力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・運動の意識内容（動感）とフォームの関係を説明している。 ・指導のステップ等を説明している。			○				20
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・授業の実施を安全に行おうとしてる。	○		○				20
	■技能的領域	・学習した種目について、初級レベルで模範が示せる。 ・学習した種目について、フォームの違いや問題点を指摘し、解決方法等を示せる。	○	○					60

成績評価の基準	３つの授業到達目標をもとに、授業、テスト、レポートなど成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業時間毎に必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	陸上競技、競技スポーツ論・実習Ⅰ（陸上競技）、運動学概論、コーチ学概論、スポーツトレーニング実践論等を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	過去に陸上競技を経験し、将来、陸上競技の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。毎回の実習後にレポートの提出がある。
オフィス・アワー	瓜田：月曜日　１４時～１５時　　研究棟８階　802教員研究室 小森：月曜日　１４時～１５時　　研究棟８階　805教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	瓜田　吉久	円盤投(1)：円盤を回転させて投げることができますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前2	〃	円盤投(2)：身体の進行方向を転換させてターンを行うことができますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	競技力向上の会を振り返る（感想文を作成する）。（1時間）
前4	〃	円盤投（3）：1回転ターンをして投げの構えに入れますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前5	〃	円盤投（4）：1回転ターンを用いて円盤を投げられますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前6	〃	円盤投（5）：円盤投の指導体系を理解しましたか。記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前7	〃	槍投（1）：槍をまっすぐ投げて突き刺すことができますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前8	〃	槍投（2）：槍を保持してクロス動作が出来ますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前9	〃	槍投（3）：クロス動作から槍をまっすぐ投げて突き刺すことができますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前10	〃	槍投（4）：助走を用いて槍を投げられますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前11	〃	槍投（5）：槍投の指導体系を理解しましたか。記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前12	〃	ハンマー投（1）：ハンマーを身体の周りでまわせますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

前13	〃	ハンマー投（2）：ハンマーを身体の周りでまわしてからターンができますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前14	〃	ハンマー投（3）：1回転ターンをしてハンマーを投げられますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前15	〃	ハンマー投（4）：ハンマー投の指導体系を理解しましたか。記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後1	小森　大輔	棒高跳(1)：棒高跳の技術構造・習得体系を理解し、4歩助走で突っ込み動作を習得する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後2	〃	棒高跳(2)：4歩助走でぶら下がり、振り上げ動作を習得する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後3	〃	棒高跳(3)：4歩助走でターン動作を習得し、一連の動作を繋げ、跳躍の完成形に近づける。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後4	〃	棒高跳(4)：6歩助走でクリアランスまでの動作を習得し、跳躍の完成形をつくる。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後5	〃	棒高跳(5)：8歩助走で跳躍の完成形をつくる。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後6	〃	棒高跳(6)：技術的課題を抽出し、課題解決に向けた手段を検討し、実践する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後7	〃	棒高跳(7)：目標記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後8	〃	棒高跳(8)：目標記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後9	〃	走高跳(1)：走高跳の技術構造・習得体系を理解し、背面跳を体験する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後10	〃	走高跳(2)：曲線助走を用いて、7歩助走で記録へ挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後11	〃	三段跳(1)：三段跳の技術構造・習得体系を理解し、5歩助走によるイーブン跳躍を習得する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後12	〃	三段跳(2)：7歩助走による様々な跳躍比率を体験し、自身の特性に適した跳躍比率を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後13	〃	三段跳(3)：自身に適した跳躍比率で目標記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後14	〃	走幅跳(1)：走幅跳の技術構造・習得体系を理解し、7歩助走によるかがみ跳および反り跳を体験する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後15	〃	走幅跳(2)：7歩助走によるはさみ跳に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－陸上競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	瓜田　吉久・金高　宏文・松村　勲・小森　大輔・永原　隆			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	－
授業の概要	本授業では、受講した学生が自ら指導者あるいは学習者となることで、指導者の立場からは、授業を行った際「指導できたこと」あるいは「指導できなかったこと」の見識を深める。また、学習者の立場からは、「分かりやすい指導」あるいは「わかりにくい指導」とは何かを整理する。これらによって、指導方法やその内容について分析並びに評価することができる能力を養う。そのために、指導者並びに学習者の各々の立場になり、各立場における「達成性」や「充実度」などを鍵に授業を評価し、自ら用いたあるいは用いられた「指導法」について論議しあう。このことによって、「指導者」になるための循環的・段階的な指導過程やその方法を経験し、指導者としての礎が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・陸上競技の指導法についての専門的知識を理解する。	○		○	○			45
	■情意的領域	・授業に主体的に参加し、課題に取り組む。 ・授業に対し、積極的・建設的な思考に立ち新たな提案ができる。	○						10
	■技能的領域	・陸上競技の指導者として効果的な指導法を考え、指導が出来るようになる。 ・学習の立場を体験し、指導された内容を分析・評価出来るようになる。	○			○			45

成績評価の基準	3つの授業達成目標をもとに、授業、レポート、発表など成績評価方法の割合に則って総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	資料はWebClassにて配付する。必ず、iPadを持参すること。ＪＡＡＦ公認ジュニアコーチの資格取得を希望する学生は、以下の書籍の購入をしておくこと。指導教本アンダー13 楽しいキッズの陸上競技（大修館書店）1,800円＋税、陸上競技指導教本アンダー16･19　基礎から身につく陸上競技（大修館書店）1,900円＋税，陸上競技指導教本アンダー16･19　レベルアップの陸上競技（大修館書店）1,900円＋税
履修条件・ 関連科目	関連実技科目の陸上・体操・水泳を履修していることが望ましい。一方、競技スポーツ論・実習Ⅰ並びにⅡ（陸上競技）は履修していることを前提とする。 備考(教員メッセージ含む)
オフィス・アワー	金高：水曜日　１５時～１６時　　大学院棟3階　　教員研究室4 小森：月曜日　１５時～１６時　　研究棟８階　　805教員研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	金高　宏文 小森　大輔	オリエンテーション：スポーツ指導力を身につけるためには･･･	自分自身の指導力を分析・評価する（30分）.
前2	〃	指導法を学ぶ･･･観察と評価	授業の復習（30分）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	資料等を読んでのレポート課題（30分）
前4	〃	指導実習①＆振り返り（１）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前5	〃	指導実習①＆振り返り（２）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前6	〃	指導実習①＆振り返り（３）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前7	〃	指導実習①＆振り返り（４）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前8	〃	指導実習①＆振り返り（５）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前9	〃	指導実習①＆振り返り（６）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
前10	〃	スポーツ指導実習の準備（１）	指導計画と事前レポートの作成（30分）
前11	〃	スポーツ指導実習の準備（２）	指導計画と事前レポートの作成（30分）
前12	〃	スポーツ指導実習の準備（３）	指導計画と事前レポートの作成（30分）
前13	〃	スポーツ指導実習の準備（４）	指導計画と事前レポートの作成（30分）
前14	〃	スポーツ指導実習の準備（５）	指導計画と事前レポートの作成（30分）
前15	〃	授業の振り返りとまとめ（グループ・ディスカッション）	学習ポートフォリオの整理（30分）
後1	〃	棒高跳の指導実習①（個別指導，幇助を学ぶ）	授業レポートの作成（30分）
後2	〃	棒高跳の指導実習②（個別指導，幇助を学ぶ）	授業レポートの作成（30分）
後3	〃	棒高跳の指導実習③（個別指導，幇助を学ぶ）	授業レポートの作成（30分）
後4	〃	棒高跳の指導実習④（個別指導，幇助を学ぶ）	授業レポートの作成（30分）
後5	〃	棒高跳の指導実習⑤（個別指導，幇助を学ぶ）	指導計画の作成（30分）
後6	金高　宏文	指導実習②＆振り返り（１）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
後7	〃	指導実習②＆振り返り（２）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
後8	〃	指導実習②＆振り返り（３）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
後9	〃	指導実習②＆振り返り（４）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
後10	〃	指導実習②＆振り返り（５）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
後11	〃	指導実習②＆振り返り（６）　15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）

後12	〃	スポーツ指導実習を振り返る（1）	プレゼンPPTの準備or最終レポートの作成（30分）
後13	〃	スポーツ指導実習を振り返る（2）	プレゼンPPTの準備or最終レポートの作成（30分）
後14	〃	スポーツ指導実習を振り返る（3）	プレゼンPPTの準備or最終レポートの作成（30分）
後15	〃	授業の振り返りとまとめ（グループ・ディスカッション）	学習ポートフォリオの整理（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－陸上競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	瓜田　吉久・金高　宏文・松村　勲・小森　大輔・永原　隆			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本授業では、陸上競技フィールド種目の授業や指導に役立つであろう教授法や指導法についてさらに見識を深めるために、競技スポーツ論・実習Ⅱ（陸上競技）において体験した種目を中心に、さらに深化・発展させて授業を行う。これにより、教授法や指導法における高度な理論的背景を知り、指導者としてより高度な指導能力が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、課題解決力 （実技力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・陸上競技フィールド種目の教授法・指導法について専門的知識を理解している。	○		○				60
	■情意的領域	・授業に主体的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・授業に対し、積極的・建設的な思考に立ち新たな提案をしようとしている。	○						10
	■技能的領域	・指導者として効果的な教授法・指導法を考え、指導ができるようになる。	○						30

成績評価の基準	3つの授業到達目標をもとに、授業、レポートなど成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業時間毎に必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	陸上競技、競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲ（陸上競技）を履修していること。	備考(教員メッセージ含む)	レポート作成あり。指導担当学生は、授業日の天候を事前に調査し、雨天時の場合の授業場所の確保を所定の手続きに則って行っておくこと。
オフィス・アワー	瓜田：月曜日　14時～15時　　研究棟8階　802教員研究室 小森：月曜日　14時～15時　　研究棟8階　805教員教官室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	瓜田　吉久	円盤投(1)：円盤を回転させて投げるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前2	〃	円盤投(2)：身体の進行方向を転換させてターンが行えるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	競技力向上の会を振り返る（感想文を作成する）。（1時間）
前4	〃	円盤投(3)：1回転ターンをさせて投げの構えに入れるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前5	〃	円盤投(4)：1回転ターンを用いて円盤を投げられるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前6	〃	円盤投(5)：記録に挑戦させ、学習者の円盤投の技術的課題を抽出して課題解決に向けた手段を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前7	〃	槍投(1)：槍をまっすぐ投げて突き刺せるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前8	〃	槍投(2)：槍を保持してクロス動作が行えるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前9	〃	槍投(3)：クロス動作から槍をまっすぐ投げて突き刺せるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前10	〃	槍投(4)：助走を用いた投げができるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前11	〃	槍投(5)：記録に挑戦させ、学習者の槍投の技術的課題を抽出して課題解決に向けた手段を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前12	〃	ハンマー投(1)：ハンマーを身体の周りでまわせるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前13	〃	ハンマー投(2)：ハンマーを身体の周りでまわしてからターンができるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前14	〃	ハンマー投(3)：1回転ターンをしてハンマーを投げれるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

前15	〃	ハンマー投(4)：記録に挑戦させ、学習者のハンマー投の技術的課題を抽出して課題解決に向けた手段を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後1	小森　大輔	棒高跳(1)：棒高跳の技術構造・習得体系を教授し、4歩助走までの跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後2	〃	棒高跳(2)：4歩助走でぶら下がり、振り上げ動作までを指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後3	〃	棒高跳(3)：4歩助走でターン動作を習得し、一連の動作を繋げた跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後4	〃	棒高跳(4)：6歩助走でクリアランスするまでの跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後5	〃	棒高跳(5)：8歩助走での跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後6	〃	棒高跳(6)：棒高跳の技術的課題を抽出し、課題解決に向けた手段を実践させる。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後7	〃	棒高跳(7)：記録に挑戦させ、技術的な問題点を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後8	〃	棒高跳(8)：記録に挑戦させ、その達成度を評価する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後9	〃	走高跳(1)：走高跳の技術構造・習得体系を教授し、背面跳を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後10	〃	走高跳(2)：曲線助走を用いて、7歩助走で記録へ挑戦させ課題を見つける。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後11	〃	三段跳(1)：三段跳の技術構造・習得体系を教授し、5歩助走によるイーブン跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後12	〃	三段跳(2)：適正跳躍比率を知るために、7歩助走による様々な跳躍比率を体験させる。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後13	〃	三段跳(3)：記録に挑戦させ、技術的な問題点を探るとともにその達成度を評価する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後14	〃	走幅跳(1)：走幅跳の技術構造・習得体系を教授し、7歩助走によるかがみ跳びおよび反り跳を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後15	〃	走幅跳(2)：7歩助走によるはさみ跳びを体験させ、自身に適した跳躍スタイルで記録へ挑戦させる。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ｉ－水泳	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	萬久　博敏・成田　健造			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	本授業では、水の物理的、生理学的特性を理解し、水泳の科学的理論を学習する。また、競泳トレーニングに必要な基礎的知識を修得し、トレーニング計画やプログラムを立案できるようにする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	水の特性や競泳のトレーニング、コーチング、指導方法の基礎を論理的に理解する。	○	○	○	○			40
	■情意的領域	理論、実技ともに積極的に取り組む姿勢を高める。	○			○			30
	■技能的領域	トレーニング方法に合致したトレーニング内容を体得する。	○	○					30

成績評価の基準	授業への参加、与えられた課題でのレポート、技能テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 与えられた参考文献等の調査・読書も成績評価となる。		
テキスト、教材 参　考　書	必要とする参考資料は適時紹介、配付する。詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 テキストは「水泳コーチ教本 第3版（日本水泳連盟編，大修館書店出版，2014，＠5,200円＋税）」を購入すること。		
履修条件・ 関連科目	高い泳力を必要とする授業なので、十分に自らの泳力レベルを考慮して履修する事。	備考(教員メッセージ含む)	競泳選手として競技能力を高めることを目指し、引退後に泳法指導の道を目指す人の履修を希望する。
オフィス・アワー	萬久：随時　実験プール教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室または実験プール教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	萬久　博敏 成田　健造	授業ガイダンス（演習の概要、心構え、成績評価等）の事前に説明	
前2	〃	大学でのスポーツ・競技	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	振り返り（30分）
前4	〃	目標設定	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前5	〃	水泳の安全性①（水泳事故の実態など）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前6	〃	水泳の安全性②（救助法、救急法など）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前7	〃	水泳の安全性③（着衣泳）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前8	〃	競泳のトレーニング①（トレーニング計画）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前9	〃	競泳のトレーニング②（トレーニングの適応）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前10	〃	競泳のトレーニング③（トレーニング強度）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前11	〃	競泳のトレーニング④（トレーニングプログラムの立て方）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前12	〃	競泳のトレーニング⑤（専門用語の解説）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前13	〃	競泳のトレーニング⑥（専門用語の解説）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前14	〃	競泳のトレーニング⑦（トレーニング効果の検証）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
前15	〃	競泳のトレーニング⑧（陸上トレーニングなど）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後1	〃	競泳選手のコンディショニング①（栄養、食事、サプリメントなど）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後2	〃	競泳選手のコンディショニング②（障害予防と対応）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後3	〃	競泳選手のコンディショニング③（競技力向上のためのコンディショニング）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後4	〃	水泳競技の特性	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後5	〃	水泳競技の歴史	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後6	〃	水泳界の現状と課題	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後7	〃	泳法の変化と改善、工夫の歴史について	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後8	〃	水泳のバイオメカニクス①（水中環境の特性など）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後9	〃	水泳のバイオメカニクス②（抵抗と推進など）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後10	〃	競泳の記録更新と泳法の改良や工夫について	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後11	〃	水泳の生理学①（水泳の基礎生理学）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後12	〃	水泳の生理学②（水泳の生理学的指標）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後13	〃	水泳の生理学③（トレーニングにおける生理学的指標）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後14	〃	水泳の医学①（メディカルチェック）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後15	〃	水泳の医学②（アンチ・ドーピング）	授業で実施した内容を復習する（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－水泳	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	萬久　博敏・成田　健造			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	本授業では、水泳指導の基本を学ぶとともに、競泳種目の各泳法技術について探求する。また、泳法教材の作成や水泳指導を実践し、指導方法を身に付ける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	各種泳法について理解する。	○	○	○	○			50
	■情意的領域	理論，実技ともに積極的に取組む姿勢を高める。	○			○			30
	■技能的領域	水泳の指導ができるようになる。	○						20

成績評価の基準	授業への参加、与えられた課題の達成とレポート、技能テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 与えられた参考文献等の調査・読書も成績評価とする。 理解力、実技力と授業態度を総合的に判断。		
テキスト、教材 参　考　書	必要とする参考資料は適時紹介、配付するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 泳法分析や解析等の為の機器のマニュアルを読み、取扱方法を修得する事。		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	水泳競技に関する学習に意欲のある学生の履修を期待する。
オフィス・アワー	萬久：随時　実験プール教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室または実験プール教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	萬久　博敏 成田　健造	授業ガイダンス（演習の概要、心構え、成績評価等）の事前に説明	
前2	〃	水泳指導の基本	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	振り返り（30分）
前4	〃	技術水準別水泳指導	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前5	〃	年齢別指導法①（幼児水泳）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前6	〃	年齢別指導法②（学童水泳）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前7	〃	年齢別指導法③（成人水泳）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前8	〃	泳法理論と実践①（クロール）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前9	〃	泳法理論と実践②（クロール）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前10	〃	泳法理論と実践③（平泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前11	〃	泳法理論と実践④（平泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前12	〃	泳法理論と実践⑤（背泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前13	〃	泳法理論と実践⑥（背泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前14	〃	泳法理論と実践⑦（バタフライ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前15	〃	泳法理論と実践⑧（バタフライ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後1	〃	泳法動画教材作成①（資料収集）	資料収集を実施する（１時間）
後2	〃	泳法動画教材作成②（泳法撮影）	撮影した動画の確認と整理（１時間）
後3	〃	泳法動画教材作成③（泳法撮影）	撮影した動画の確認と整理（１時間）
後4	〃	泳法動画教材作成④（編集）	動画編集作業（１時間）
後5	〃	泳法動画教材作成⑤（編集）	発表に向けて作業を進める（１時間）
後6	〃	泳法動画教材作成⑥（発表）	発表準備及びレポート作成（１時間）
後7	〃	泳法動画教材作成⑦（発表）	レポート作成（１時間）
後8	〃	授業の振り返りとまとめ（グループワーク）	レポート作成（１時間）
後9	〃	水泳指導現場における安全管理	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後10	〃	水泳指導の理論と実践①	指導計画書の作成（１時間）
後11	〃	水泳指導の理論と実践②	指導計画書の作成（１時間）
後12	〃	水泳指導の理論と実践③	指導計画書の作成（１時間）
後13	〃	水泳指導の理論と実践④	指導計画書の作成（１時間）
後14	〃	水泳指導の理論と実践⑤	指導計画書の作成（１時間）
後15	〃	水泳指導の理論と実践⑥	レポート作成（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－水泳	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	萬久　博敏・成田　健造			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	３年次	受け入れ人数	－
授業の概要	本授業では、水泳のトレーニング法、コーチング法に関する指導理論を学習する。また、競技会運営に対応できる能力を身につける。その他、水泳の種目別技術について理解を深める。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （事業運営力、科学的表現力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	トレーニング法とトレーニング効果について理解する。	○	○	○	○			40
	■情意的領域	理論，実技ともに積極的に取組む姿勢を高める。	○						30
	■技能的領域	競技力の向上を図る。	○	○					30

成績評価の基準	授業期間における実習への参加、与えられた課題の達成とレポート、技能テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 与えられた参考文献等の調査・読書も成績評価となる。		
テキスト、教材 参　考　書	必要とする参考資料は適時紹介、配付するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 泳法分析や解析等の為の機器のマニュアルを読み、取扱方法を修得する事。		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	資料に沿って授業を行うので、必ず指示された参考資料を、予習をしておくこと。
オフィス・アワー	萬久：随時　実験プール教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室または実験プール教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	萬久　博敏 成田　健造	授業ガイダンス(演習の概要、心構え、成績評価等)の事前に説明。	
前2	〃	コーチング①（コーチングの基礎）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加	振り返り（30分）
前4	〃	コーチング②（チームマネージメント・チームビルディング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前5	〃	水泳の心理学①（動機付け）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前6	〃	水泳の心理学②（メンタルトレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前7	〃	水泳の心理学③（コミュニケーション）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前8	〃	競泳のスタート理論と実践（段階的指導法）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前9	〃	競泳のスタート理論と実践（グラブ、クラウチング、キック、リレー）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前10	〃	競泳のターン理論と実践（クイック、タッチ、バケット）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前11	〃	競泳のトレーニング理論と実践①（持久性トレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前12	〃	競泳のトレーニング理論と実践②（スプリントトレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前13	〃	競泳のトレーニング理論と実践③（無酸素性トレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前14	〃	競泳のトレーニング理論と実践④（インターバルトレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前15	〃	競泳のトレーニング理論と実践⑤（高強度インターバルトレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後1	〃	競泳のトレーニング理論と実践⑥（低酸素トレーニング、高所トレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後2	〃	競泳のトレーニング理論と実践⑦（陸上トレーニング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後3	〃	飛込競技の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後4	〃	水球競技の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後5	〃	アーティスティックスイミング競技の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後6	〃	オープンウォータースイミング競技の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後7	〃	日本泳法の解説と実践	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後8	〃	障害者水泳	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後9	〃	競泳競技規則	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後10	〃	競泳競技審判法	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後11	〃	競技会の運営	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後12	〃	競泳の科学①（レース分析）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後13	〃	競泳の科学②（ストローク分析）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後14	〃	競泳の科学③（ストローク分析）	授業で実施した内容を復習する（1時間）
後15	〃	競泳の科学④（パフォーマンス評価）	授業で実施した内容を復習する（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－水泳	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	萬久　博敏・成田　健造			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	10名程度
授業の概要	本授業では、コーチングの基本を理解し、年齢や性別、競技レベルに応じたコーチの役割について解説する。また、各泳法のドリル練習法を実践し身につけるとともに、理論的に学習することで競技者、指導者としての資質の向上を図る。その他、水中運動について学習する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	安全水泳、衛生管理基準について理解する。	○		○	○			50
	■情意的領域	理論、実技ともに積極的に取り組む姿勢を高める。	○						30
	■技能的領域	競泳の初心者指導及び競泳の技術的指導及ができるようになる。	○	○		○			20

成績評価の基準	実技力、授業態度、出席状況を総合的に判断する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要とする参考資料は適時紹介、配付するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	萬久：随時　実験プール教員室 成田：随時　研究棟８階８１２教員室または実験プール教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	萬久　博敏	授業ガイダンス(演習の概要、心構え、成績評価等)の事前に説明。	
前2	〃	コーチング①（コーチングの基礎理論）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前3	〃	コーチング②（ジュニアスイマーのコーチング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	振り返り（３０分）
前5	〃	コーチング③（シニアスイマーのコーチング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前6	〃	コーチング④（マスターズスイマーのコーチング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前7	〃	初心者水泳指導①（自由形）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前8	〃	初心者水泳指導②（平泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前9	〃	初心者水泳指導③（背泳ぎ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前10	〃	初心者水泳指導④（バタフライ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前11	〃	競泳の技術トレーニング①（クロールのドリル）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前12	〃	競泳の技術トレーニング②（平泳ぎのドリル）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前13	〃	競泳の技術トレーニング③（背泳ぎのドリル）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前14	〃	競泳の技術トレーニング④（バタフライのドリル）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
前15	〃	競泳の技術トレーニング⑤（スタート・ターンの練習法）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後1	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成①（資料収集）	資料収集を実施する（１時間）
後2	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成②（泳法撮影）	撮影した動画の確認と整理（１時間）
後3	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成③（泳法撮影）	撮影した動画の確認と整理（１時間）
後4	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成④（編集）	編集作業（１時間）
後5	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成⑤（編集）	発表に向けて作業を進める（１時間）
後6	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成⑥（発表）	発表準備及びレポート作成（１時間）
後7	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成⑦（発表）	レポート作成（１時間）
後8	〃	授業の振り返りとまとめ（グループワーク）	レポート作成
後9	〃	成人水泳指導論	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後10	〃	高齢者水泳指導論	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後11	〃	水中運動の理論と実践①（歩行、ジョギング）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後12	〃	水中運動の理論と実践②（体操、ストレッチ）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後13	〃	水中運動の理論と実践③（腰痛水泳、肩こり改善）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後14	〃	水中運動の理論と実践④（アクアビクス）	授業で実施した内容を復習する（１時間）
後15	〃	授業の振り返りとまとめ（グループワーク）	レポート作成（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－体操競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	村田　憲亮・中谷　太希			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	６名程度
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、幇助方法運動形態の技術的分析を学習し、競技者、指導者としての資質の向上を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・採点規則を理解する	○			○			20
	■情意的領域	・積極的に授業に取り組む	○						40
	■技能的領域	・調整力が向上する	○	○					40

成績評価の基準	実技授業への意欲的且つ積極的な取組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著　体操競技教本「ⅠⅡⅢⅣⅤ」（不昧堂）、 金子明友著　「体操競技のコーチング」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習Ⅰ、Ⅱ　体操競技	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	村田　憲亮 中谷　太希	オリエンテーション	授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前2	〃	審判講習会	体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）	「採点規則を事前に読んでおき、予習をしておく。（１時間）
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）	採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）	採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、鉄棒）	採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前8	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前9	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前10	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか・あん馬）	床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬・つり輪）	跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前13	〃	技の習熟度を高める（男子平行棒、女子段違い平行棒）	平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	技の習熟度を高める（男子鉄棒、女子平均台）	鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	試技会	試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	試合ビデオによる解説学習	自己採点をすることで審判能力を高める。（復習1時間）
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者	上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者	胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者	下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）

後7	〃	実技指導実習（マット）の被験者	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習（跳び箱）の被験者	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習（鉄棒）の被験者	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習（平均台）の被験者	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導実習（１）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導実習（２）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養指導演習（１）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養指導演習（２）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング５ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－体操競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	村田　憲亮・中谷　太希			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	6名程度
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、幇助方法、運動形態の技術分析を学習し、競技者､指導者としての資質の向上を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・採点規則を理解する。	○			○			20
	■情意的領域	・積極的に授業に取組む。	○						40
	■技能的領域	・調整力が向上する。	○	○					40

成績評価の基準	実技授業への意欲的かつ積極的な取組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著「体操競技教本Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ」（不昧堂） 金子明友著「体操競技のコーチング」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習Ⅰ、Ⅱ　体操競技	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	村田　憲亮 中谷　太希	オリエンテーション	授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前2	〃	審判講習会	体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）	採点規則の「男子あん馬、女子段違い平行棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）	採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）	採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、男子鉄棒）	採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前8	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前9	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前10	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか、あん馬）	床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬、つり輪）	跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前13	〃	技の習熟度を高める（鉄棒、段違い平行棒）	鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	技の習熟度を高める（鉄棒、平均台）	平均台に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	試技会	試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	試合ビデオによる解説学習	自己採点をすることで審判能力を高める。（復習1時間）
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者	上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者	胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者	下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）

後7	〃	実技指導実習の被験者（マット）	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習の被験者（とび箱）	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習の被験者（鉄棒）	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習の被験者（平均台）	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導演習（1）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導演習（2）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養学指導演習（1）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養学指導演習（2）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング５ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－体操競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	村田　憲亮・中谷　太希			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	6名程度
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、幇助方法、運動形態の技術分析を学習し、競技者､指導者としての資質の向上を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・採点規則を理解する。	○						20
	■情意的領域	・積極的に授業に取組む。	○						40
	■技能的領域	・調整力が向上する。	○	○					40

成績評価の基準	実技授業への意欲的かつ積極的な取組み等の授業態度と出席状況、調整力の実技試験を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著「体操競技教本Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ」（不昧堂） 金子明友著「体操競技のコーチング」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習Ⅰ、Ⅱ 体操競技	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	村田　憲亮 中谷　太希	オリエンテーション	授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前2	〃	審判講習会	体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）
前3	〃	「 競技力向上の会」に参加	会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）	採点規則の「男子あん馬、女子段違い平行棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）	採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）	採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、男子鉄棒）	採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前8	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前9	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前10	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか、あん馬）	床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	指導実習（他の運動クラブの学生に対しての指導）	指導案をしっかり作成する。（予習1時間）
前13	〃	技の習熟度を高める（鉄棒、段違い平行棒）	鉄棒と段違い平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	技の習熟度を高める（鉄棒、平均台）	鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	試技会	試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	試合ビデオによる解説学習	自己採点をすることで審判能力を高める。（復習1時間）
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者	上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者	胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者	下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）

後7	〃	実技指導実習の被験者（マット）	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習の被験者（とび箱）	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習の被験者（鉄棒）	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習の被験者（平均台）	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導演習の被験者及びチェック（1）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	指導実習（他の運動クラブの学生に対しての指導）	指導案をしっかり作成する。（予習1時間）
後13	〃	スポーツ栄養学指導演習の被験者及びチェック（1）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養学指導演習の被験者及びチェック（2）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	総まとめ	今までに行ったことを1時間復習する。（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－体操競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	村田　憲亮・中谷　太希			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	6名程度
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、幇助方法、運動形態の技術分析を学習し、競技者､指導者としての資質の向上を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・採点規則を理解する。	○						20
	■情意的領域	・積極的に授業に取組む。	○						40
	■技能的領域	・調整力が向上する。	○	○					40

成績評価の基準	実技授業への意欲的かつ積極的な取組み等の授業態度と出席状況、調整力の実技試験を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著「体操競技教本Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ Ⅴ」（不昧堂） 金子明友著「体操競技のコーチング」（大修館書店）		
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習Ⅰ、Ⅱ 体操競技	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	村田　憲亮 中谷　太希	オリエンテーション	授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前2	〃	審判講習会	体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（１時間）
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）	採点規則の「男子あん馬、女子段違い平行棒」に関して、予習をしておく。（1時間）
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）	「採点規則」を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）	「採点規則」を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、男子鉄棒）	「採点規則」を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）
前8	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前9	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前10	〃	教育実習模擬授業	体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか、あん馬）	床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前12	〃	指導実習（他の運動クラブの学生に対しての指導）	指導案をしっかりと作成する。（予習1時間）
前13	〃	技の習熟度を高める（鉄棒、段違い平行棒）	鉄棒の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前14	〃	技の習熟度を高める（鉄棒、平均台）	鉄棒の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
前15	〃	試技会	試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後1	〃	試合ビデオによる解説学習	自己採点をすることで審判能力を高める。（復習1時間）
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者	上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者	胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者	下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）

後7	〃	実技指導実習の被験者（マット）	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習の被験者（とび箱）	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習の被験者（鉄棒）	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習の被験者（平均台）	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導演習の被験者及びチェック（1）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	指導実習（他の運動クラブの学生に対しての指導）	指導案をしっかりと作成する。（予習1時間）
後13	〃	スポーツ栄養学指導演習の被験者及びチェック（1）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養学指導演習の被験者及びチェック（2）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	総まとめ	今までに行ったことを1時間復習する。（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ｉ－バレーボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	１５名程度
授業の概要	１．バレーボールの起源・歴史についても知見を広める。 ２．種類の技術の組み合わせによる連続（複合）練習により、基礎技術をマスターする。 ３．各種の試合局面に応じた戦術トレーニングにより、基礎戦術をマスターする。 ４．ソフトバレーやビーチバレー、インドア６人制などの基礎ゲームをマスターする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、指導者基礎力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	複合練習の方法論を理解する。	○	○	○	○			20
	■情意的領域	「積極さ」をトレーニングに活かすことが出来る。	○						20
	■技能的領域	基礎技術や基礎戦術を身に付けゲームが出来る。	○	○	○		○		60

成績評価の基準	基礎技術、基礎戦術、基礎ゲームを身につけること。		
テキスト、教材 参　考　書	Volley chronicle（バレーボール年代記） タブレットを必ず持参すること		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	濱田　幸二 坂中　美郷	基礎技術　セット＆アタック	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前2	〃	基礎技術　アタック＆ブロック、ブロック＆レシーブ	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前3	〃	基礎技術　サーブ＆レセプション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	課題レポート（30分）
前5	〃	基礎技術　レシーブ＆セット	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前6	〃	基礎戦術　レセプションから速攻	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前7	〃	基礎戦術　レセプションから遅攻	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前8	〃	基礎戦術　カウンターアタック　速攻	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前9	〃	基礎戦術　カウンターアタック　遅攻	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前10	〃	基礎戦術　サーブからマッチアップス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前11	〃	基礎ゲーム　６人制バレー　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
前13	〃	基礎ゲーム　６人制バレー　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前14	〃	基礎ゲーム　６人制バレー　審判と運営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前15	〃	基礎ゲーム　６人制バレー　審判と運営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前16	〃	学期末試験	総合的レポート（2時間）
後1	〃	基礎ゲーム　ビーチバレー　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後2	〃	基礎ゲーム　ビーチバレー　審判と運営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後3	〃	基礎ゲーム　ソフトバレー　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後4	〃	基礎ゲーム　ソフトバレー　審判と運営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後5	〃	基礎ゲーム　インドア６人制　技術と戦術　ウォッシュドリル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後6	〃	基礎技術　セット＆アタック　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後7	〃	基礎技術　アタック＆ブロック　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後8	〃	基礎技術　ブロック＆レシーブ　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後9	〃	基礎技術　サーブ＆レセプション　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後10	〃	基礎技術　レシーブ＆セット　複合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後11	〃	基礎技術　レシーブ＆セット＆アタック＆ブロック　複合総合練習	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	基礎戦術　レセプションから速攻　意思決定	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	基礎戦術　カウンターアタック　遅攻　サポート	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	基礎戦術　カウンターアタック　速効　意思決定	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的レポート（２時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－バレーボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	1．競技規則の理解と審判実習を行い、審判活動を身に付ける。 2．競技運営の準備と運営に関するコンテンツと事例を学習し、総合的な競技会の運営法を総合的に身に付ける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、事業運営力、指導者基礎力							
	■認知的領域	ルールを理解することが出来る。 大会運営（競技規則を理解出来）が出来る。	○	○	○	○			20
	■情意的領域	「積極さ」と「謙虚さ」を審判活動に生かすことが出来る。	○						20
	■技能的領域	審判活動を実践できる。	○	○	○		○		60

成績評価の基準	審判活動内容を評価基準表により採点し合否で判定する。競技運営能力は専門的知識を身に付ける。		
テキスト、教材 参　考　書	最新版「JVAルールブック」 Volley chronicle（バレーボール年代記） タブレットを必ず持参すること 随時　資料を配布		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ（バレーボール）	備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	濱田　幸二 坂中　美郷	審判トレーニング　吹笛のバリエーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前2	〃	審判トレーニング　ハンドシグナル　１ｓｔ・２ｎｄレフリー編	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前3	〃	審判トレーニング　ハンドシグナル　線審編、記録員の責務	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	課題レポート（30時間）
前5	〃	審判トレーニング　プレーの構造	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前6	〃	審判トレーニング　プレー上の動作	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前7	〃	審判トレーニング　中断と遅延	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前8	〃	審判トレーニング　不法な行為と罰則	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前9	〃	審判トレーニング　主審の責務	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前10	〃	審判トレーニング　副審の責務	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前11	〃	審判トレーニング　線審・記録員の責務	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
前13	〃	審判トレーニング　審判団のコミュニケーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前14	〃	審判トレーニング　プロトコール	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前15	〃	審判トレーニング　ネット際のプレー	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（２時間）
後1	〃	競技運営トレーニング　競技形式のバリエーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後2	〃	競技運営トレーニング　競技場の規格と設営	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後3	〃	競技運営トレーニング　競技手続と日程　リーグ戦・トーナメント戦	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後4	〃	競技運営トレーニング　組合抽選・対戦カード決定の方式	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後5	〃	競技運営トレーニング　運営役員組織と会議	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後6	〃	競技運営トレーニング　補助役員　ボールコレクター・点示・JVIMS	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後7	〃	競技運営トレーニング　運営マニュアルの作成	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後8	〃	競技運営トレーニング　物品チェックとタイムテーブル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後9	〃	競技運営トレーニング　出場資格とドーピングチェック	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後10	〃	競技運営トレーニング　用具（ネット・ボール等）の規格とチェック	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後11	〃	競技運営トレーニング　大会プログラムの編成	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	競技運営トレーニング　リハーサル大会の準備	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	競技運営トレーニング　総合実習の準備、実施	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	競技運営トレーニング　総合実習の実施、自己評価反省	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（２時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－バレーボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	1．バレーボールの技術ドリルプランニングやコーチングスキルの実習により、中級レベルの技術コーチングを身に付ける。 2．バレーボールの戦術トレーニング実習により、中級レベルの戦術コーチングを身に付ける。 3．体力トレーニングの処方とプランニング実習により、中級レベルの体力養成法及び評価法を身に付ける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バレーボール競技に関しての体力トレーニングの専門知識を身に付ける。	○		○		○		20
	■情意的領域	積極的に率先垂範できる。	○		○	○			20
	■技能的領域	技術・戦術・体力トレーニングの処方が出来る。	○		○		○		60

成績評価の基準	技術コーチング、戦術コーチング、体力養成法をバランス良く習得すること。		
テキスト、教材 参　考　書	Volley chronicle（バレーボール年代記） タブレットを必ず持参すること		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ、Ⅱ（バレーボール）	備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	濱田　幸二 坂中　美郷	技術のコーチング　セッティングドリルとコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前2	〃	技術のコーチング　アタックドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前3	〃	技術のコーチング　アタックのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	課題レポート（30時間）
前5	〃	技術のコーチング　ブロックドリルの展開、ブロックのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前6	〃	技術のコーチング　 レセプションドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前7	〃	技術のコーチング　レセプションのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前8	〃	技術のコーチング　フロアdefense ドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前9	〃	技術のコーチング　フロアdefense のコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前10	〃	技術のコーチング　サーブドリルとコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前11	〃	戦術のコーチング　レセプションから１st・２ndテンポの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
前13	〃	戦術のコーチング　レセプションからディープコートセットの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前14	〃	戦術のコーチング　レセプションからバックアタックの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前15	〃	戦術のコーチング　レセプションからコンビネーション攻撃の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）
後1	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグから１ｓｔテンポ攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後2	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグからコンビネーション攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後3	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグからディープコートセット攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後4	〃	戦術のコーチング　サーブ　ターゲット法の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後5	〃	戦術のコーチング　サーブ　強打法の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後6	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ウォーミングup&クールdown	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後7	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　体幹	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後8	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　上肢	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後9	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　下肢	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後10	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ミドルパワー	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後11	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ハイパワー、プライオメトリックス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	体力トレーニングの処方とプラン　スピード＆アジリティーのコーディネーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	体力トレーニングの処方とプラン　エンデュアランス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	体力トレーニングの処方とプラン　トータルコーディネイト	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－バレーボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	濱田　幸二・坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	1．バレーボールの技術ドリルプランニングやコーチングスキルの実習により、上級レベルの技術コーチングを身に付ける。 2．バレーボールの戦術トレーニング実習により、上級レベルの戦術コーチングを身に付ける。 3．体力トレーニングの処方とプランニング実習により、上級レベルの体力養成法及び評価法を身に付ける。 4．コーチングを客観的に評価する能力を身に付ける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	バレーボール競技に関しての体力トレーニングの専門知識（上級）を身に付ける。	○		○		○		20
	■情意的領域	上級者に対して率先垂範できる。	○		○	○			20
	■技能的領域	技術・戦術・体力トレーニングの処方が上級者に対して出来る。	○		○		○		60

成績評価の基準	技術コーチング、戦術コーチング、体力養成法を専門的に習得すること。		
テキスト、教材 参　考　書	Volley chronicle（バレーボール年代記） タブレットを必ず持参すること		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習　Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（バレーボール）	備考(教員メッセージ含む)	本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	濱田　幸二 坂中　美郷	技術のコーチング　セッティングドリルとコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前2	〃	技術のコーチング　アタックドリルの展開、アタックのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前3	〃	技術のコーチング　ブロックドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	課題レポート（30時間）
前5	〃	技術のコーチング　ブロックのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前6	〃	技術のコーチング　レセプションドリルの展開	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前7	〃	技術のコーチング　レセプションのコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前8	〃	技術のコーチング　フロアdefense ドリルのスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前9	〃	技術のコーチング　フロアdefense のコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前10	〃	技術のコーチング　サーブドリルとコーチングスキル	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前11	〃	戦術のコーチング　レセプションから１st、２ndテンポの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
前13	〃	戦術のコーチング　レセプションからディープコートセットの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前14	〃	戦術のコーチング　レセプションからバックアタックの習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前15	〃	戦術のコーチング　レセプションからコンビネーション攻撃の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
前16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）
後1	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグから１ｓｔテンポ攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後2	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグからコンビネーション攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後3	〃	戦術のコーチング　トランディション攻撃（ディグからディープコートセット攻撃）の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後4	〃	戦術のコーチング　サーブ　ターゲット法の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後5	〃	戦術のコーチング　サーブ　強打法の習熟	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後6	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ウォーミングup&クールdown	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後7	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　体幹	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後8	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　上肢	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後9	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ストレングス　下肢	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後10	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ミドルパワー	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後11	〃	体力トレーニングの処方とプラン　ハイパワー、プライオメトリックス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	体力トレーニングの処方とプラン　スピード＆アジリティーのコーディネーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	体力トレーニングの処方とプラン　エンデュアランス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	体力トレーニングの処方とプラン　トータルコーディネート	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－バスケットボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	１５名程度
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、簡単な技術指導ができるようになる。 １．個人の攻撃に関するスキル ２．基本的なコンビネーション ３．コーチング・講習会における示範能力 ４．基本的なルールの理解と審判法 ５．大会開催時における運営者の役割				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、基本的な審判マニュアルの習得	○	○		○			40
	■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、大隅地区大会レベルにおける審判協力	○			○			20
	■技能的領域	個人技術のポイントを強調した示範能力、、鹿児島県公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40

成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	CAOCH'S　BIBLE　(Sidney　Goldstein)　Golden　Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法　２０１１　（阿部・木葉）大修館書店 DVD各種		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。
オフィス・アワー	随時　体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	三浦　健	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）	シラバスの事前確認（１５分）
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）	体調管理リストの作成（授業後３０分）
前3	〃	競技力向上の会への参加	会終了後　振り返り（２０分）
前4	〃	審判法の基礎（１）審判の役割と責任 審判法の基礎（２）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（３）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（１）　A班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前5	〃	審判法の基礎（４）３パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（５）プライマリー・エリア 審判法の基礎（６）プライマリー・アングル 審判法の基礎（７）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（２）　B班	マニュアルブック予習（１時間）、指導デモ準備（４時間）
前6	〃	審判法の基礎（８）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（９）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（３）　C班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
前7	〃	審判法の基礎（１０）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（１１）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（１２）TOへのレポート方法 指導デモ（４）　D班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
前8	〃	審判法の基礎（１３）スローイン 審判法の基礎（１４）フリースロー 審判法の基礎（１５）特殊なファウル 指導デモ（５）　E班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）　レポート（審判法）提出
前9	〃	ボールを扱う技術（１）ストップ＆ピヴォット ボールを扱う技術（２）ボールハンドリング ボールを扱う技術（３）ドリブルワーク 指導デモ（６）　F班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前10	〃	ボールを扱う技術（４）セットショット＆ジャンプショット ボールを扱う技術（５）レイアップ＆フックショット ボールを扱う技術（６）フリースロー 指導デモ（７）　G班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス＆カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８）　H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）

前12	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９）　A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０）　B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（２時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後13	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後14	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後15	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－バスケットボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	２年次	受け入れ人数	１０名程度
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、簡単な技術指導ができるようになる。 １．個人の攻撃に関するスキルの習熟 ２．基本的なコンビネーションの習熟 ３．コーチング・講習会における示範能力および指示能力 ４．詳細なルールの理解と審判法 ５．大会開催時における運営者の役割				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、総合的な審判マニュアルの習得	○	○					40
	■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、鹿児島県大会レベルにおける審判協力	○			○			20
	■技能的領域	個人技術のポイントを強調した示範能力および指導能力、日本協会公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40

成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	CAOCH'S　BIBLE　(Sidney　Goldstein)　Golden　Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法　２０１１　（阿部・木葉）大修館書店 DVD各種		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。
オフィス・アワー	随時　体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	三浦　健	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）	シラバスの事前確認（１５分）
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）	体調管理リストの作成（授業後３０分）
前3	〃	競技力向上の会への参加	会終了後　振り返り（２０分）
前4	〃	審判法の基礎（１）審判の役割と責任 審判法の基礎（２）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（３）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（１）　A班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前5	〃	審判法の基礎（４）３パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（５）プライマリー・エリア 審判法の基礎（６）プライマリー・アングル 審判法の基礎（７）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（２）　B班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前6	〃	審判法の基礎（８）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（９）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（３）　C班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前7	〃	審判法の基礎（１０）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（１１）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（１２）TOへのレポート方法 指導デモ（４）　D班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前8	〃	審判法の基礎（１３）スローイン 審判法の基礎（１４）フリースロー 審判法の基礎（１５）特殊なファウル 指導デモ（５）　E班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）　レポート（審判法）提出
前9	〃	ボールを扱う技術（１）ストップ＆ピヴォット ボールを扱う技術（２）ボールハンドリング ボールを扱う技術（３）ドリブルワーク 指導デモ（６）　F班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり
前10	〃	ボールを扱う技術（４）セットショット＆ジャンプショット ボールを扱う技術（５）レイアップ＆フックショット ボールを扱う技術（６）フリースロー 指導デモ（７）　G班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり
前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス＆カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８）　H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり

前12	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９）　A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０）　B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（２時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（２時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後13	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後14	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後15	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－バスケットボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	３年次	受け入れ人数	１５名程度
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、チーム指導ができるレベルの総合的なコーチング・スキルを身につける。 １．個人の攻撃に関するスキルの習熟および指導ポイントの習得 ２．基本的なコンビネーションの習熟及び指導ポイントの習得 ３．コーチング・講習会における示範・教示能力および総合的な管理能力 ４．チーム戦術・戦略に関する基本的な理解 ５．詳細なルールの理解と審判法 ６．大会開催時における運営者の役割				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、総合的な審判マニュアルの習得	○	○		○			40
	■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、鹿児島県大会レベルにおける審判協力	○			○			20
	■技能的領域	個人技術のポイントを強調した示範能力および指導能力、日本協会公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40

成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	CAOCH'S　BIBLE　(Sidney　Goldstein)　Golden　Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法　２０１１　（阿部・木葉）大修館書店 DVD各種		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。
オフィス・アワー	随時　体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	三浦　健	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）	シラバスの事前確認（１５分）
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）	体調管理リストの作成（授業後３０分）
前3	〃	競技力向上の会への参加	会終了後　振り返り（２０分）
前4	〃	審判法の基礎（１）審判の役割と責任 審判法の基礎（２）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（３）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（１）　A班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前5	〃	審判法の基礎（４）３パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（５）プライマリー・エリア 審判法の基礎（６）プライマリー・アングル 審判法の基礎（７）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（２）　B班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前6	〃	審判法の基礎（８）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（９）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（３）　C班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前7	〃	審判法の基礎（１０）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（１１）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（１２）TOへのレポート方法 指導デモ（４）　D班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前8	〃	審判法の基礎（１３）スローイン 審判法の基礎（１４）フリースロー 審判法の基礎（１５）特殊なファウル 指導デモ（５）　E班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）　レポート（審判法）提出
前9	〃	ボールを扱う技術（１）ストップ＆ピヴォット ボールを扱う技術（２）ボールハンドリング ボールを扱う技術（３）ドリブルワーク 指導デモ（６）　F班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前10	〃	ボールを扱う技術（４）セットショット＆ジャンプショット ボールを扱う技術（５）レイアップ＆フックショット ボールを扱う技術（６）フリースロー 指導デモ（７）　G班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス＆カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８）　H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）

前12	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９）　A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０）　B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後13	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後14	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後15	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－バスケットボール	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	三浦　健・前村　かおり			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	１５名程度
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、チーム指導ができるレベルの総合的なコーチング・スキルを身につける。 １．個人の攻撃に関するスキルの習熟および指導ポイントの習得 ２．基本的なコンビネーションの習熟及び指導ポイントの習得 ３．コーチング・講習会における示範・教示能力および総合的な管理能力 ４．チーム戦術・戦略に関する基本的な理解 ４．詳細なルールの理解と審判法 ５．大会開催時における運営者の役割				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、総合的な審判マニュアルの習得	○	○					40
	■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、鹿児島県大会・九州大会レベルにおける審判協力	○			○			20
	■技能的領域	個人技術ならびに集団技術のポイントを強調した示範能力および指導能力、日本協会公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40

成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。また県公認、日本協会公認、ならびに上級審判員取得を考慮する。		
テキスト、教材 参　考　書	CAOCH'S　BIBLE　(Sidney　Goldstein)　Golden　Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法　２０１１　（阿部・木葉）大修館書店 DVD各種		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。
オフィス・アワー	随時　体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	三浦　健	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）	シラバスの事前確認（１５分）
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）	体調管理リストの作成（授業後３０分）
前3	〃	競技力向上の会への参加	会終了後　振り返り（２０分）
前4	〃	審判法の基礎（１）審判の役割と責任 審判法の基礎（２）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（３）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（１）　A班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前5	〃	判法の基礎（４）３パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（５）プライマリー・エリア 審判法の基礎（６）プライマリー・アングル 審判法の基礎（７）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（２）　B班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前6	〃	審判法の基礎（８）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（９）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（３）　C班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前7	〃	審判法の基礎（１０）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（１１）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（１２）TOへのレポート方法 指導デモ（４）　D班	マニュアルブック予習 （１時間）指導デモ準備（４時間）
前8	〃	審判法の基礎（１３）スローイン 審判法の基礎（１４）フリースロー 審判法の基礎（１５）特殊なファウル 指導デモ（５）　E班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）　レポート（審判法）提出
前9	〃	ボールを扱う技術（１）ストップ＆ピヴォット ボールを扱う技術（２）ボールハンドリング ボールを扱う技術（３）ドリブルワーク 指導デモ（６）　F班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前10	〃	ボールを扱う技術（４）セットショット＆ジャンプショット ボールを扱う技術（５）レイアップ＆フックショット ボールを扱う技術（６）フリースロー 指導デモ（７）　G班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）

前11	〃	コンビプレイに関する技術（1）パス＆カット コンビプレイに関する技術（2）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（3）ハイ・ロー 指導デモ（８）　H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前12	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９）　A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０）　B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後13	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後14	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
後15	〃	学外における実習活動を行う。	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ｉ－サッカー	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	塩川　勝行・青木　竜			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業ではサッカーにおける指導の実践を通して技術・戦術理論を深く理解するとともに、コーチング法について学ぶことを目的とし、さらにグループディスカッションを行うことによって、様々なサッカーの考え方に触れ、サッカーにおける基礎的な実技力とともに実技指導力を獲得し、競技者としての資質を高めることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （課題解決力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	サッカーにおける基本的な技術・戦術理論及びコーチング法について理解する。			○				20
	■情意的領域	積極的に実技及び実技指導に取り組む。	○		○				30
	■技能的領域	サッカーにおける基本的な技術・戦術理論及びコーチング法を理解し、実践できる。	○		○				50

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、レポートの合計点が60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書として、次のものを推奨する。 「サッカー勝利への技術」（チャールズ・ヒューズ著,大修館,1996,@3,200円）		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	水曜日１２：５０～１６：００　　８階８１０研究室（事前にアポイントを取ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	塩川　勝行 青木　竜	講義：ガイダンス・ゲーム	小レポート（30分）
前2	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前3	〃	競技力を向上する会	小レポート（30分）
前4	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前5	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前6	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前7	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前8	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）
前9	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前10	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前11	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前12	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前13	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前14	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
前15	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）
後1	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）
後2	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後3	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後4	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後5	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後6	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）

後7	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後8	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）
後9	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後10	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後11	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後12	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後13	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後14	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後15	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－サッカー	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	塩川　勝行・青木　竜			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2	受け入れ人数	30
授業の概要	本授業はサッカーの指導者としての技能、指導方法、トレーニング方法を享受することにより、サッカーにおける指導者としてのコーチング力が身につくことが期待され、また日本サッカー協会公認C級コーチの資格を取得することを目的とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法について理解する	○		○		○		40
	■情意的領域	積極的に実技・指導・グループワークに取り組む	○						20
	■技能的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法を実践できる	○			○			40

成績評価の基準	授業への取り組み、筆記テスト、指導の実践の各点数が６０点以上のものを合格とし、資格の特性上、欠席した場合は補講を課すものとする。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは日本サッカー協会C級コーチテキスト「サッカー指導教本」を購入すること		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Iを受講しておくこと	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	水曜日12:50～16:00 8F810研究室（事前にアポイントをとること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	塩川　勝行 青木　竜	ガイダンス・Game・振り返り	小レポート作成（30分）
前2	〃	分析１・実技（技術）・振り返り	小レポート作成（60分）
前3	〃	競技力を向上する会	小レポート作成（30分）
前4	〃	戦術１・実技（戦術）・振り返り	小レポート作成（60分）
前5	〃	戦術２・実技（戦術）・振り返り	小レポート作成（60分）
前6	〃	GK・実技（GK）・振り返り	小レポート作成（60分）
前7	〃	プランニング・実技（プランニング）・振り返り	小レポート作成（60分）
前8	〃	実践ガイダンス・グループワーク	小レポート作成（60分）
前9	〃	コーチング・実技（コーチング）・振り返り	小レポート作成（60分）
前10	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前11	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前12	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前13	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前14	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
前15	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後1	〃	発育発達と一貫指導・チームマネージメント	小レポート作成（60分）
後2	〃	メディカル・サッカーの競技精神	小レポート作成（60分）
後3	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後4	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後5	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後6	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後7	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後8	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後9	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後10	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後11	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後12	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後13	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後14	〃	グループワーク・指導実践	小レポート作成（60分）
後15	〃	閉講ガイダンス	レポート作成（30分）
後16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－サッカー	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	塩川　勝行・青木　竜			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業はサッカーの指導者としての技能、指導方法、トレーニング方法を教授するとともに、指導の実践とディスカッションを繰り返し行う事により、サッカーにおける指導者としてのコーチング力の向上を図ることを目的とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法について理解する。	○		○				30
	■情意的領域	積極的に実技・指導及びディスカッションに取り組む	○			○			30
	■技能的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法を実践できる	○			○			40

成績評価の基準	授業への取り組み（実技・ディスカッション）、レポート、指導の実践の各合計点が60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考：「サッカー指導教本他」（日本サッカー協会C級コーチテキスト）		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ及びⅡを受講しておくこと	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	水曜日１２：５０～１６：００　　８階８１０研究室（事前にアポイントを取ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	塩川　勝行 青木　竜	講義：ガイダンス	小レポート作成（60分）
前2	〃	指導の実践（ボールフィーリング・ドリブル）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前3	〃	競技力を向上する会	小レポート（30分）
前4	〃	指導の実践（ボールフィーリング・ドリブル）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分
前5	〃	指導の実践（パス＆コントロール）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前6	〃	指導の実践（パス＆コントロール）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前7	〃	指導の実践（シュート）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前8	〃	指導の実践（シュート）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前9	〃	指導の実践（サポートの動き）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前10	〃	指導の実践（サポートの動き）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前11	〃	指導の実践（ゴールを狙う動き）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前12	〃	指導の実践（ゴールを狙う動き）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前13	〃	指導の実践（ボールを奪う）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前14	〃	指導の実践（ボールを奪う）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
前15	〃	指導の実践の振り返り	レポート作成（60分）
後1	〃	指導の実践（ボールポゼッション）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後2	〃	指導の実践（ボールポゼッション）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後3	〃	指導の実践（前線の崩し）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後4	〃	指導の実践（前線の崩し）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後5	〃	指導の実践（フィニッシュ）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後6	〃	指導の実践（フィニッシュ）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後7	〃	指導の実践（守備の基本：チャレンジ＆カバー）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後8	〃	指導の実践（守備の基本：チャレンジ＆カバー）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後9	〃	指導の実践（ビルドアップ）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後10	〃	指導の実践（ビルドアップ）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後11	〃	指導の実践（守備の基本：スライド）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後12	〃	指導の実践（守備の基本：スライド）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後13	〃	指導の実践（クロスの攻撃）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後14	〃	指導の実践（クロスの守備）	トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）
後15	〃	総まとめ、ガイダンス	レポート作成（60分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－サッカー	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	塩川　勝行・青木　竜			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	サッカーの指導者としての技能、指導方法、トレーニング方法やサッカーの分析方法を学び理解し、実際にトレーニング計画を立て指導実践を行う中でディスカッションを行い、指導力の向上を図ることを目的とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法について理解する。	○		○				40
	■情意的領域	積極的に実技・指導に取り組む	○						20
	■技能的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法を実践できる	○			○			40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、筆記テスト、指導の実践の各合計点が60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書			
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲを履修しておくこと	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	水曜日１２：５０～１６：００　　８階８１０研究室（事前にアポイントを取ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	塩川　勝行 青木　竜	オリエンテーション	小レポート作成（30分）
前2	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前3	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前4	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前5	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前6	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前7	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前8	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前9	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前10	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前11	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前12	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前13	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前14	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
前15	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後1	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後2	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後3	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後4	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後5	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後6	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後7	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後8	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後9	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後10	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後11	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後12	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後13	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後14	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）
後15	〃	コーチングの実践・グループワーク	トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ｉ－テニス	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	髙橋　仁大・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。 具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○				40
	■情意的領域	主体的に授業に参加し，競技力向上と指導力向上に取り組む	○						20
	■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40

成績評価の基準	授業参画状況，授業への取組状況，期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。		
テキスト、教材 参　考　書	「テニス指導教本Ｉ」日本テニス協会 その他，随時資料を配付する		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe–learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 村上（研究棟8階806教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	髙橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスのゲーム構造の理解	講義内容の予習と復習（1時間）
前2	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	
前4	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前5	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のための基本トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前6	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析④　課題解決のための応用トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前7	〃	サービスの測定と評価①　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のためのトレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前11	〃	サービスの測定と評価②　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
前12	〃	コーチング実習①　初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
前13	〃	コーチング実習②　中・上級者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
前14	〃	コーチング実習③　中・上級者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
前15	〃	コーチング実習④　中・上級者指導の受講	レポート（2時間）
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用	講義内容の予習と復習（1時間）
後3	〃	テニスの指導理論と実践　指導の際の基本的事項	講義内容の予習と復習（1時間）
後4	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後5	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後6	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後7	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後8	〃	サービスの測定と評価③　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
後9	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後10	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習①　初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習②　初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③　初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④　初心者指導の受講	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－テニス	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	髙橋　仁大・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。 具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○				40
	■情意的領域	主体的に授業に参加し，競技力向上と指導力向上に取り組む	○						20
	■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40

成績評価の基準	出席状況，授業への取組状況，期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。		
テキスト、教材 参　考　書	「テニス指導教本Ⅰ」日本テニス協会 その他，随時資料を配付する		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 村上（研究棟8階806教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	髙橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスのゲーム構造の理解	講義内容の予習と復習（1時間）
前2	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前3	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前4	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前5	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のための基本トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前6	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析④　課題解決のための応用トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前7	〃	サービスの測定と評価①　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のためのトレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前11	〃	サービスの測定と評価②　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
前12	〃	コーチング実習①　初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
前13	〃	コーチング実習②　中・上級者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
前14	〃	コーチング実習③　中・上級者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
前15	〃	コーチング実習④　中・上級者指導の指導補助	レポート（2時間）
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用	講義内容の予習と復習（1時間）
後3	〃	テニスの指導理論と実践　指導の際の基本的事項	講義内容の予習と復習（1時間）
後4	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後5	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後6	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後7	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後8	〃	サービスの測定と評価③　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
後9	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後10	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習①　初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習②　初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③　初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④　初心者指導の指導補助	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－テニス	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	髙橋　仁大・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。 具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○				40
	■情意的領域	主体的に授業に参加し，競技力向上と指導力向上に取り組む	○						20
	■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40

成績評価の基準	出席状況，授業への取組状況，期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。		
テキスト、教材 参　考　書	「テニス指導教本Ⅰ」日本テニス協会 その他，随時資料を配付する		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 村上（研究棟8階806教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	髙橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスのゲーム構造の理解	講義内容の予習と復習（1時間）
前2	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	
前4	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前5	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のための基本トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前6	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析④　課題解決のための応用トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前7	〃	サービスの測定と評価①　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のためのトレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前11	〃	サービスの測定と評価②　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
前12	〃	コーチング実習①　初心者指導導入	講義内容の予習と復習（1時間）
前13	〃	コーチング実習②　中・上級者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
前14	〃	コーチング実習③　中・上級者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
前15	〃	コーチング実習④　中・上級者指導実践	レポート（2時間）
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用	講義内容の予習と復習（1時間）
後3	〃	テニスの指導理論と実践　指導の際の基本的事項	講義内容の予習と復習（1時間）
後4	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後5	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後6	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後7	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後8	〃	サービスの測定と評価③　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
後9	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後10	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習①　初心者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習②　初心者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③　初心者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④　初心者指導実践	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－テニス	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	髙橋　仁大・村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	20名程度
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。 具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○				40
	■情意的領域	主体的に授業に参加し，競技力向上と指導力向上に取り組む	○						20
	■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40

成績評価の基準	出席状況，授業への取組状況，期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。		
テキスト、教材 参　考　書	「テニス指導教本Ⅰ」日本テニス協会 その他，随時資料を配付する		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター） 村上（研究棟8階806教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	髙橋　仁大 村上　俊祐	オリエンテーション　テニスのゲーム構造の理解	講義内容の予習と復習（1時間）
前2	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前3	〃	「競技力向上の会」に参加	
前4	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前5	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のための基本トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前6	〃	シングルスのゲームパフォーマンス分析④　課題解決のための応用トレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前7	〃	サービスの測定と評価①　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析①　データ抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析②　データの分析と課題の抽出	講義内容の予習と復習（1時間）
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③　課題解決のためのトレーニング	講義内容の予習と復習（1時間）
前11	〃	サービスの測定と評価②　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
前12	〃	コーチング実習①　初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
前13	〃	コーチング実習②　中・上級者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
前14	〃	コーチング実習③　中・上級者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
前15	〃	コーチング実習④　中・上級者指導の評価	レポート（2時間）
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方	講義内容の予習と復習（1時間）
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用	講義内容の予習と復習（1時間）
後3	〃	テニスの指導理論と実践　指導の際の基本的事項	講義内容の予習と復習（1時間）
後4	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後5	〃	テニスの指導理論と実践　初心者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後6	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後7	〃	テニスの指導理論と実践　初級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後8	〃	サービスの測定と評価③　トラックマンでのサービス測定	講義内容の予習と復習（1時間）
後9	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導①	講義内容の予習と復習（1時間）
後10	〃	テニスの指導理論と実践　中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④　サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習①　初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習②　初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③　初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④　初心者指導の評価	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－海洋スポーツ	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中村　夏実・榮樂　洋光・笹子　悠歩			補助担当者名	笹子悠歩
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	15名程度

授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。それらの社会状況に対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しく安全に楽しめるように、基礎的知識と技術を身につけることを目標として、下記の内容を実施する。本授業では「できる」ことを目指す。 ○気象海象による危険回避の知識、活動種目選択の考え方、また荒天時の代替プログラム例などを教授する。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して、主な海洋スポーツ種目の基礎技術の習得を図る。 ○冬期においては、プールにおける泳力向上とスキンダイビングの基礎技術の習得を図る。 ○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。			○				30
	■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。 シーマンシップを守る。 自然環境に意識を向ける。	○						20
	■技能的領域	ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スキンダイビング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。	○	○			○		50

成績評価の基準	８０点以上はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンダイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。		
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。		
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。	備考(教員メッセージ含む)	１）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 ２）大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 ３）天候により授業内容が変更されることがあります。 ４）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟709室（榮樂）、研究棟710室（中村）、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	中村　夏実 榮樂　洋光	オリエンテーション　カヌー実習（カヤック、カナディアンカヌー　基本的パドリング）	レポートの提出（１）海洋スポーツに関する事前学習とふりかえり（1時間）
前2	〃	カヌー理論・実習①（シットオントップとカナディアンの漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前3	〃	競技力を向上する会に参加	自競技と他競技の相違点まとめる（1時間）
前4	〃	カヌー理論・実習②（シットオントップとカナディアンの漕法と沈の対処）	レポートの提出（２）　カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前5	〃	カヌー理論・実習③（カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前6	〃	カヌー理論・実習④（ツーリング・総括・実技テスト）	レポートの提出（３）カヌーで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
前7	〃	ヨット理論・実習①（艤装と帆走）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前8	〃	ヨット理論・実習②（方向転換）	レポートの提出（４）　ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前9	〃	ヨット理論・実習③（アビーム帆走とマーク回航）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前10	〃	ウィンドサーフィン理論・実習①（艤装とセイルアップ）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前11	〃	ウィンドサーフィン理論・実習②（帆走～タッキング）	レポートの提出（５）ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前12	〃	ウィンドサーフィン理論・実習③（帆走～ジャイビング）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前13	〃	ウィンドサーフィン理論・実習④（風上帆走）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前14	〃	ウィンドサーフィン理論・実習⑤（風下帆走）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）

前15	〃	ウィンドサーフィン理論・実習⑥（風上–風下のマーク回航）	ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が，荒天などの理由で計画どおりに実施できなかった場合，授業または実技評価を行います.	海洋スポーツで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後1	〃	ウィンドサーフィン理論・実習⑦（レース・実技テスト）	レポートの提出（６）　ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後2	〃	ヨット理論・実習④（マーク回航練習）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
後3	〃	ヨット理論・実習⑤（風上–風下レグの帆走）	ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後4	〃	ヨット理論・実習⑥（レース・実技テスト）	レポートの提出（７）　ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後5	〃	ボート理論・実習（オーシャンボート）	ボートの基本について予習・復習（1時間）
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポートの提出（８）舟艇の点検・補修で習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後9	〃	スキンダイビング理論・実習①　（３点セットの取扱い）および泳力の向上	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後10	〃	スキンダイビング理論・実習②　（様々なフィンキック）および泳力の向上	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後11	〃	スキンダイビング理論・実習③　（マスク＆シュノーケルクリア）および泳力の向上	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後12	〃	スキンダイビング理論・実習④　（耳抜きとサーフェイスダイブ）および泳力の向上	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後13	〃	スキンダイビング理論・実習⑤　（スキルアップドリルおよび泳力の向上）	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後14	〃	スキンダイビング理論・実習⑥　（スキルアップドリルおよび泳力の向上）	レポート提出（９）スキンダイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後15	〃	スキンダイビング総括（エントリー～ダイブ～潜行～浮上）	レポートの提出（１０）スキンダイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキンダイビング技能）	海洋スポーツで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－海洋スポーツ	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中村　夏実・榮樂　洋光・笹子　悠歩			補助担当者名	笹子悠歩
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	15名程度

授業の概要	
	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。そこで、海洋および水辺活動を展開できる指導力の獲得をめざし、他者へ注意を払う余裕を持てるレベルの技術を習得するとともに、海洋スポーツ活動の指導補助を多く経験することを目的に、下記の内容を実施する。本授業では「わかる」ことをめざす。 ○海洋スポーツ種目のより高度な技術の習得を図る。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して実習Ⅲ受講者が作成する、海洋スポーツプログラム（指導案）指導実習において、指導補助を体験する。 ○冬期においては、プールにおける泳力向上とスキンダイビング技術の向上を図るとともに、スキンダイビングレスキューを経験する。 ○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。			○				30
	■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○						20
	■技能的領域	ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スキンダイビング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。なぜできたか、なぜできなかったかを論理的に理解し、改善策方策を考える。	○	○			○		50

成績評価の基準	８０点以上はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンダイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。
備考(教員メッセージ含む)	１）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。 ２）大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 ３）天候により授業内容が変更されることがあります。 ４）授業内で、学生への教育効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動のみに使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟710室または海洋スポーツセンター（0994-47-2758）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	中村　夏実 榮樂　洋光	オリエンテーションおよび講義	配布資料を参考にレスキューについて予習する（30分）
前2	〃	動力船の準備／セルフレスキュー／カヌーレスキュー	海に入ります。全身濡れますので、寒くない服装および着替えを準備してください。 レポート（１）レスキューの方法についてまとめる（１時間）
前3	〃	競技力を向上する会に参加	他競技の実情について振り返る（30分）
前4	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習	実習に必要な用具等の確認・修繕を行う（１時間）
前5	〃	指導理論・指導補助実習①ローイング種目および水辺活動 （児童対象・ロールプレイング実習）	ロールプレイング実習の展開について事前準備をする（１時間）
前6	〃	指導理論・指導補助実習②セーリング種目および水辺活動 （児童対象・ロールプレイング実習）	ロールプレイング実習の展開について事前準備をする（１時間） レポート（２）実習記録（１時間）
前7	〃	指導理論・指導補助実習③水辺活動（児童対象・実践実習） 高須小学校ヨット学習（事前学習）	ヨット学習の授業展開について事前準備をする（１時間）
前8	〃	指導理論・指導補助実習④ローイング・セーリング種目（児童対象・実践実習） 高須小学校水辺活動学習（カヌー・ヨット）	ヨット学習の授業展開について事前準備をする（１時間）
前9	〃	指導理論・指導補助実習⑤ローイング・セーリング種目（児童対象・実践実習） 高須小学校水辺活動学習（カヌー・ヨット）	ヨット学習の授業展開について事前準備をする（１時間）
前10	〃	指導理論・指導補助実習⑥実践実習の振り返り 高須小学校水辺活動学習（予備日）	レポート（３）実習記録 レポート（４）ヒヤリハット報告書 （１時間）
前11	〃	指導理論・指導補助実習⑦ヨット （シーホッパー①成人初心者対象）	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする（１時間）

前12	〃	指導理論・指導補助実習⑧ヨット （シーホッパー②成人初心者対象）	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする（１時間）
前13	〃	指導理論・指導補助実習⑨ヨット （シーホッパー③成人初心者対象）	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする（１時間）
前14	〃	指導理論・指導補助実習⑩ヨット （シーホッパー④成人初心者対象）	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする（１時間）
前15	〃	指導理論・指導補助実習⑪ヨット／実技テスト （シーホッパー⑤成人初心者対象）	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする（１時間） レポート（５）（１時間）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が，荒天などの理由で計画通りに実施できなかった場合，授業または実技評価を行います．	
後1	〃	カヌー/ボート理論・実習（オーシャンボート体験）	レポート（６）ボートとカヌーの共通点および相違についてまとめる（１時間）
後2	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習① （基本帆走の復習）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）
後3	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習② （マーク回航・タッキングとジャイビング）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）
後4	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習③ （上－下レグ帆走・コース回航練習）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）
後5	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習④ （レース／実技テスト）	レポート（７）ウィンドサーフィンの帆走技術についてまとめる（1時間）
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	配布資料を参考に復習する（30分）
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	配布資料を参考に復習する（30分）
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポート(8)舟艇の修理等についてまとめる（1時間）
後9	〃	スキンダイビング指導理論・実習①（３点セットの取扱い）および泳力の向上	配布資料を参考に復習する（30分）
後10	〃	スキンダイビング指導理論・実習②（様々なフィンキック）および泳力の向上	配布資料を参考に復習する（30分）
後11	〃	スキンダイビング指導理論・実習③（マスク＆シュノーケルクリア）および泳力の向上	配布資料を参考に復習する（30分）
後12	〃	スキンダイビング指導理論・実習④（耳抜きとサーフェイスダイブ）および泳力の向上	配布資料を参考に復習する（30分）
後13	〃	スキンダイビング指導理論・実習⑤（スキルアップドリル）および泳力の向上	配布資料を参考に復習する（30分）
後14	〃	スキンダイビング指導理論・実習⑥（スキルアップドリル）および泳力の向上	レポート(9)(10)ｽｷﾝﾀﾞｲﾋﾞﾝｸﾞの生理学的要素についてまとめる（1時間）
後15	〃	レスキュー実習（救助者の泳力向上および基本的な救助法）	配布資料を参考に復習する（30分）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキンダイビング技能）	自主練習をする（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－海洋スポーツ	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中村　夏実・榮樂　洋光・笹子　悠歩			補助担当者名	笹子悠歩
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。これらの社会的状況に対応した指導力を高めるため、自らプログラム（学校体験活動、市民講座、競技会、市民レースなど）を立案して、ロールプレイイングで行う指導実習を主とし、下記の内容行う。本授業では、「伝えられる」ことを目指す。 ○海洋スポーツ種目のより高度な技術の習得を図る。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して、海洋スポーツの様々なプログラムを作成し、指導者として、競技スポーツ実習Ⅱ受講者を対象に実践する。 ○冬期においては、プールにおけるスキンダイビング指導実習、およびスキューバダイビング体験を行う。 ○舟艇の応用的な修理修繕方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	指導者として、海洋スポーツを安全に行うための海事知識、危険予知・危険回避の知識、各種目の実技指導理論を理解する。			○				30
	■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○						20
	■技能的領域	安全管理を含め、初心者に対する海洋スポーツ種目の実技指導ができるようになる。 手本を見せられる。説明できる。改善方策を指導できる。	○	○			○		50

成績評価の基準	８０点以上はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はC とする。出席回数が３分の２に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンダイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する		
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。		
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。	備考(教員メッセージ含む)	１）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 ２）大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 ３）天候により授業内容が変更されることがあります。 ４）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	中村　夏実 榮樂　洋光	オリエンテーションおよび講義	配布資料を参考にレスキューについて予習する（30分）
前2	〃	動力船の準備/セルフレスキュー／カヌーレスキュー	海に入ります。全身濡れますので、寒くない服装および着替えを準備してください。
前3	〃	競技力を向上する会に参加	他競技の実情について振り返る（30分）
前4	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習	レポート（１）プログラム作成に関する要件等をまとめる（1時間）
前5	〃	指導理論・指導実習①ローイング種目および水辺活動 （児童対象／ロールプレイング実習）	プログラム案を作成・打ち合わせする（担当者）（2時間）
前6	〃	指導理論・指導実習②セーリング種目および水辺活動 （児童対象／ロールプレイング実習）	プログラム案を作成・打ち合わせする（担当者）（2時間）
前7	〃	指導理論・指導実習③水辺活動（児童対象／実践実習） 高須小学校水辺活動学習（事前学習）	指導計画書（レポート２）　※担当者（2時間） 実施報告書（レポート３）　※担当者（30分）
前8	〃	指導理論・指導実習④ローイング・セーリング種目（児童対象／実践実習） 高須小学校水辺活動学習（カヌー／ヨット）	指導計画書（レポート２）　※担当者（2時間） 実施報告書（レポート３）　※担当者（30分）
前9	〃	指導理論・指導実習⑤ローイング・セーリング種目（児童対象／実践実習） 高須小学校水辺活動学習（カヌー／ヨット）	指導計画書（レポート２）　※担当者（2時間） 実施報告書（レポート３）　※担当者（30分）
前10	〃	指導理論・指導実習⑥実践実習の振り返り 高須小学校水辺活動学習（予備日）	振り返りの意見交換のための準備をする（30分）
前11	〃	指導理論・指導実習⑦（シーホッパー①・成人初心者対象）	指導計画書（レポート４）　※担当者（1時間） 実施報告書（レポート５）　※担当者（30分）
前12	〃	指導理論・指導実習⑧（シーホッパー②・成人初心者対象）	指導計画書（レポート４）　※担当者（1時間） 実施報告書（レポート５）　※担当者（30分）

前13	〃	指導理論・指導実習⑨（シーホッパー③・成人初心者対象）	指導計画書（レポート４）　※担当者（1時間） 実施報告書（レポート５）　※担当者（30分）
前14	〃	指導理論・指導実習⑩（シーホッパー④・成人初心者対象）	指導計画書（レポート４）　※担当者（1時間） 実施報告書（レポート５）　※担当者（30分）
前15	〃	指導理論・指導実習⑪（シーホッパー⑤・成人初心者対象） レース／実技テスト	指導計画書（レポート４）　※担当者（1時間） 実施報告書（レポート５）　※担当者（30分）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が，荒天などの理由で計画通りに実施できなかった場合，授業または実技評価を行います．	
後1	〃	カヌー/ボート理論・実習（オーシャンボート）	レポート（６）カヌーおよびボートに関連する知識をまとめる（1時間）
後2	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習①（基本帆走の復習）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）
後3	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習②（マーク回航・タッキングとジャイビング）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）
後4	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習③（上－下レグ帆走・コース開講練習）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）
後5	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習④（レース） 実技テスト	レポート(7)ウィンドサーフィンの帆走技術について分析しまとめる（1時間）
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	配布資料を参考に復習する（30分）
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	配布資料を参考に復習する（30分）
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポート(8)道具の管理運営についてまとめる（1時間）
後9	〃	スキンダイビング指導理論・指導実習①（基礎技術の復習）	レポート(9)スキンダイビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）
後10	〃	スキンダイビング指導理論・指導実習②（フィンスイム能力の向上）	レポート(10)スキンダイビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）
後11	〃	スキンダイビング指導理論・指導実習③（応用技術；ベイルアウト等の復習）	レポート(11)スキンダイビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）
後12	〃	スキンダイビング指導理論・指導実習④（スキルアップドリル、スキューバダイビング）	レポート(12)スキンダイビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）
後13	〃	スキンダイビング指導理論・指導実習⑤（ダイバーレスキュー①、スキューバダイビング）	レポート(13)スキンダイビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）
後14	〃	スキンダイビング指導理論・指導実習⑥（ダイバーレスキュー②、スキューバダイビング）	スキンダイビングおよびダイビングの基礎知識についてレポートを参考に振り返る（30分）
後15	〃	レスキューの総括	これまでの配布資料およびレポートを参考に振り返る（30分）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキンダイビング技能）	自主練習をする（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－海洋スポーツ	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中村　夏実・榮樂　洋光・笹子　悠歩			補助担当者名	笹子悠歩
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	15名程度

授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。このような社会的なニーズに応えられる即戦力を養うため、リーダーとして受講者グループを統率する事を主とし、以下の授業内容を展開する。 本授業では、「企画できる」ことを目指す。 ○実習Ｉの指導補助を通して、プログラム遂行における安全管理能力の向上を図る。 ○冬期においては、プールにおけるスキンダイビング指導実習、およびスキューバダイビング体験を行う。 ○海洋スポーツプログラムにおける、指導体制や安全管理体制、料金設定等の事例を調べ、それぞれ目的を設定して海洋スポーツ教室やツーリズムをシミュレーションする。 ○舟艇の修理修繕と管理方法を実習する。○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、事業運営力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	実習Ⅲまでに学習した知識をさらに深めるとともに、海洋スポーツ活動の意義と目的を踏まえた、総括的な活動の企画に関する知識を習得する。			○				30
	■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○						20
	■技能的領域	海洋スポーツ活動を企画し、対象者やスタッフの技量や人数、季節、使用できる用具、フィールド等に則した計画を立案して、楽しく、安全に、総括的な指導ができる。	○	○			○		50

成績評価の基準	８０点以上はA、７０点～７９点はB、６０点～６９点はCとする。出席回数が３分の２に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンダイビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。
テキスト、教材 参　考　書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供する。

履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。	備考(教員メッセージ含む)	１）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 ２）大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 ３）天候により授業内容が変更されることがあります。 ４）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	中村　夏実 榮樂　洋光	オリエンテーション　水慣れ活動の指導	レポートの提出（１）海洋スポーツに関する事前学習とふりかえり（1時間）
前2	〃	カヌー指導計画・実習①（シットオントップとカナディアンの漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前3	〃	競技力を向上する会に参加	自競技と他競技の相違点をまとめる（1時間）
前4	〃	カヌー指導計画・実習②（シットオントップとカナディアンの漕法と沈の対処）	レポートの提出（２）　カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前5	〃	カヌー指導計画・実習③（カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処）	カヌーの基本について予習・復習（1時間）
前6	〃	カヌー指導計画・実習④（ツーリング・総括）	レポートの提出（３）カヌーで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
前7	〃	ヨット指導計画と指導実習①（艤装と帆走）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前8	〃	ヨット指導計画と指導実習②（方向転換）	レポートの提出（４）ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前9	〃	ヨット指導計画と指導実習③（アビーム帆走とマーク回航）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
前10	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習①（艤装とセイルアップ）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前11	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習②（帆走～タッキング）	レポートの提出（５）ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前12	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習③（帆走～ジャイビング）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）

前13	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習④（風上帆走）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前14	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習⑤（風下帆走）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前15	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習⑥（風上－風下のマーク回航）	ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画どおりに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。	海洋スポーツで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後1	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習⑦（レースの運営）	レポートの提出（６）ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後2	〃	ヨット指導計画と指導実習④（マーク回航練習）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
後3	〃	ヨット指導計画と指導実習⑤（風上–風下レグの帆走）	ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後4	〃	ヨット指導計画と指導実習⑥（レース運営）	レポートの提出（７） ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる
後5	〃	ボート指導計画・実習（オーシャンボート）	ボートの基本について予習・復習（1時間）
後6	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習①	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後7	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習②	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後8	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習③	レポートの提出（８）舟艇の点検・補修で習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後9	中村　夏実	スキンダイビング指導計画・実習①	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後10	〃	スキンダイビング指導計画・実習②	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後11	〃	スキンダイビング指導計画・実習③	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後12	〃	スキンダイビング指導計画・実習④、スキューバダイビング実習①	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後13	〃	スキンダイビング指導計画・実習⑤、スキューバダイビング実習②	スキンダイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後14	〃	スキンダイビング指導計画・実習⑥、スキューバダイビング実習③	レポート提出（９）スキンダイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後15	中村　夏実 榮樂　洋光	スキンダイビングレスキュー実習	レポートの提出（１０）スキンダイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキンダイビング技能）	海洋スポーツで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－自転車競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山口　大貴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	8名程度
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。具体的には、ペダリング技能評価に関する理論、乗車の基礎技能（直進、曲がる、止まる）、集団走行、補助運動、道路交通法、応急処置等を段階的に学習する。そして、学習内容を深めるためにレポートを作成する。その他、他者とのグループワークを行う。これにより、実技力および指導者基礎力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、キャリアデザイン力、一般教養・倫理							
	■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について基礎的な知識を理解する。			○				40
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究をしようとしている。	○		○				20
	■技能的領域	・学習課題の習得・改善過程を理解しながらパフォーマンスを発揮（身体表現）できるようになる。	○						40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（トラック・ロードバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。		
履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（１列走行）の技能を有していること。	備考(教員メッセージ含む)	過去に自転車競技を経験し、今後も専門的に本競技へ関わっていく意思がある学生の受講を希望する。レポート課題有り。
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山口　大貴	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。 大学自転車競技について学習する。	授業時に連絡する。
前2	〃	これまでの競技活動の振り返りと今後の展望について考える。	授業時に連絡する。
前3	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を理解・習得する。安全なローラー台の乗車方法を習得する。	授業時に連絡する。
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加する。	授業時に連絡する。
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を応用し、集団走行（１列走行、2列並走、3列並走）を習得する。	授業時に連絡する。
前6	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を応用し、集団走行（１列走行、2列並走、3列並走）を習得する。	授業時に連絡する。
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）の習得方法を学習する。	授業時に連絡する。
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の習得方法を学習する。	授業時に連絡する。
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の習得方法を学習する。	授業時に連絡する。
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。	授業時に連絡する。
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析方法を学習する。	授業時に連絡する。
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析方法を学習する。	授業時に連絡する。
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。
前14	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。
前15	〃	自転車競技の種目構造と課題解決のための方法を理解する。	授業時に連絡する。
前16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。
後1	〃	コントロールテストの方法を理解する（持久系種目）。	授業時に連絡する。
後2	〃	コントロールテストの方法を理解する（持久系種目）。	授業時に連絡する。
後3	〃	コントロールテストの方法を理解する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後4	〃	コントロールテストの方法を理解する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後5	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見する。	授業時に連絡する。
後6	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見する。	授業時に連絡する。

後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。	授業時に連絡する。
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。	授業時に連絡する。
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解する。	授業時に連絡する。
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解する。	授業時に連絡する。
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－自転車競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山口　大貴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	8名程度
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。具体的には、ペダリング技能評価に関する理論、乗車の基礎技能（直進、曲がる、止まる）、集団走行、補助運動、道路交通法、応急処置等について理解し、模範の提示ができるように学習する。そのため、指導のポイントを整理するためのレポートを作成する。その他、他者とのグループワークや相互指導を行う。これにより、初級レベルの対象者への指導を考える力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、指導者基礎力、コミュニケーション力 （実技指導力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について基礎的な知識を理解する。 ・他者の問題点を理解し、指摘することができる。			○				40
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究をしようとしている。	○		○				20
	■技能的領域	・学習課題の習得・改善過程を理解しながらパフォーマンスを発揮（身体表現）し、模範を示すことができる。	○						40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（ロード・トラックバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。		
履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（１列走行）の技能を有していること。	備考(教員メッセージ含む)	過去に自転車競技を経験し、今後も専門的に本競技へ関わっていく意思がある学生の受講を希望する。レポート課題有り。
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山口　大貴	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。 大学自転車競技について学習する。	授業時に連絡する。
前2	〃	大学自転車競技者として自らの目指す姿や価値観について発表する。	授業時に連絡する。
前3	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を理解し、他者に模範を示すことができる。安全なローラー台の乗車方法を習得する。	授業時に連絡する。
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加する。	授業時に連絡する。
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（１列走行、2列並走、3列並走）を習得し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。
前6	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（１列走行、2列並走、3列並走）を習得し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）の習得方法を学習し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の習得方法を学習し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の習得方法を学習し、他者に模範を示すことができる。	授業時に連絡する。
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。	授業時に連絡する。
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価する。	授業時に連絡する。
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価する。	授業時に連絡する。
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。
前14	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。
前15	〃	自転車競技の種目構造と課題解決のための方法を理解し、他者に説明する。	授業時に連絡する。
前16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。
後1	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。
後2	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。

後3	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後4	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後5	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。
後6	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－自転車競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山口　大貴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	8名程度
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。具体的には、ペダリング技能評価に関する理論、乗車の基礎技能（直進、曲がる、止まる）、集団走行、補助運動、道路交通法、応急処置等について理解し、模範の提示や他者の問題点を指摘できるように学習する。これにより高度な指導力を身につけることが期待される。その他、他者とのグループワークや相互指導を行う。これにより、初級レベルの対象者への指導を考える力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について専門的な知識を理解している。			○				40
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究し、新たな提案をしようとしている。	○		○				20
	■技能的領域	・指導者として模範を提示しながら、対象者の技能に対して効果的な指導を実践している。	○						40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（ロード・トラックバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。		
履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（１列走行）の技能を有していること。	備考(教員メッセージ含む)	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（１列走行）の技能を有していること。
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山口　大貴	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。大学自転車競技とは。	授業時に連絡する。
前2	〃	大学自転車競技者として自らの目指す姿や価値観について発表する。	授業時に連絡する。
前3	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を説明するために他者の指導を分析する。安全なローラー台の乗車方法を習得する。	授業時に連絡する。
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加する。	授業時に連絡する。
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（直進する、曲がる、止まる）を指導するための資料作成を行う。	授業時に連絡する。
前6	〃	指導実習&振り返り。	授業時に連絡する。
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。	授業時に連絡する。
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価・考察する。	授業時に連絡する。
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価・考察する。	授業時に連絡する。
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速、捲り、差し）を指導するための資料作成を行う。	授業時に連絡する。
前14	〃	指導実習の準備	授業時に連絡する。
前15	〃	指導実習の準備	授業時に連絡する。
前16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。
後1	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（持久系種目）。	授業時に連絡する。
後2	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（持久系種目）。	授業時に連絡する。
後3	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後4	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後5	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。
後6	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。

後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－自転車競技	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	山口　大貴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	8名程度
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。1対1の個別指導と1対複数名の団体指導を実践し、高度な指導力を身につけることが期待される。また、スポーツ用自転車の普及を目指すために、イベントマネージャーとして地域活性イベントを企画支援する力も身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、指導者基礎力 （課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について専門的な知識を理解している。			○				40
	■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究し、新たな提案をしようとしている。	○		○				20
	■技能的領域	・指導者として模範を提示しながら、対象者の技能に対して効果的な指導を実践している。	○						40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（ロード・トラックバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。		
履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（1列走行）の技能を有していること。	備考(教員メッセージ含む)	過去に自転車競技を経験し、今後も専門的に本競技へ関わっていく意思がある学生の受講を希望する。レポート課題有り。
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	山口　大貴	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。 大学自転車競技について学習する。	授業時に連絡する。
前2	〃	大学自転車競技者として自らの目指す姿や価値観について発表する。	授業時に連絡する。
前3	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を説明するために他者の指導を分析する。安全なローラー台の乗車方法を習得する。	授業時に連絡する。
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加する。	授業時に連絡する。
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（直進する、曲がる、止まる）を指導するための資料作成を行う。	授業時に連絡する。
前6	〃	指導実習&振り返り。	授業時に連絡する。
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）を説明するために他者の指導を分析する。	授業時に連絡する。
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。	授業時に連絡する。
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解・説明し、分析・評価・考察する。	授業時に連絡する。
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解・説明し、分析・評価・考察する。	授業時に連絡する。
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速、捲り、差し）を指導するための資料作成を行う。	授業時に連絡する。
前14	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の改善方法を検討する。	授業時に連絡する。
前15	〃	自転車競技の種目構造と課題解決のための方法を理解し、他者に説明する。	授業時に連絡する。
前16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。
後1	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。
後2	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。
後3	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後4	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。
後5	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自身と他者の課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。

後6	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自身と他者の課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考えて、これまでの経験を基に他者へ伝達する。	授業時に連絡する。
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考えて、これまでの経験を基に他者へ伝達する。	授業時に連絡する。
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－野球 (141A1-5290)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	藤井　雅文			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	２０　名程度

授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について体系的に学ぶことにより、野球に関する専門的な実技力・指導力を身に着けるための基礎的基本的な知識技能を修得する。 ・野球の歴史（学生野球、職業野球）、取り巻く環境（部活動、人口減少、経済、国際野球）の基本事項について学習する ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）について、基本的な仕組みと練習法について学習する ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、基本的な身体つくりや怪我予防について学習する ・戦術（攻撃、守備、バッテリー）についての基本事項を学習する ・野球規則や審判法について基本事項を学習する ・大会開催時における運営者の基本的な役割について学習する ・野球パフォーマンス測定で使用する機器について、基本的な使用方法を学習する ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定につなげる方法を学習する

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	（コミュニケーション力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について基礎的な知識を理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○		○	○	○		30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する補助活動を積極的に行う。	○		○				30
	■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着ける。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着ける。	○	○					40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	藤井　雅文	オリエンテーション	レポート等、授業時にアナウンスする
前2	〃	野球の歴史	レポート等、授業時にアナウンスする
前3	〃	野球のスタイル	レポート等、授業時にアナウンスする
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	レポート等、授業時にアナウンスする
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）	レポート等、授業時にアナウンスする
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）	レポート等、授業時にアナウンスする
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）	レポート等、授業時にアナウンスする
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）	レポート等、授業時にアナウンスする
前9	〃	勝負師①（打者の戦術：好球必打）	レポート等、授業時にアナウンスする
前10	〃	勝負師②（走者の戦術：Getベース）	レポート等、授業時にアナウンスする
前11	〃	勝負師③（バッテリーの戦術）	レポート等、授業時にアナウンスする
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：塁上死）	レポート等、授業時にアナウンスする
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）	レポート等、授業時にアナウンスする
前14	〃	野球規則①（ルールと審判法）	レポート等、授業時にアナウンスする
前15	〃	野球規則②（ルールと審判法）	レポート等、授業時にアナウンスする
前16	〃	学期末試験	レポート等、授業時にアナウンスする
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする
後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする
後5	〃	職人⑤（キャッチングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする
後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする
後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）	レポート等、授業時にアナウンスする
後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）	レポート等、授業時にアナウンスする

後9	〃	野球と教育学（野球のはじまり、今後の部活動と野球教育）	レポート等、授業時にアナウンスする
後10	〃	野球と経営学（野球組織の成り立ち、チーム作りの重要性）	レポート等、授業時にアナウンスする
後11	〃	野球と経済学（プロ・アマの経済、学生野球の経済）	レポート等、授業時にアナウンスする
後12	〃	野球と経済学（道具、施設、イベントの経済）	レポート等、授業時にアナウンスする
後13	〃	野球と建築学・生物学（野球場、屋内練習場、用具）	レポート等、授業時にアナウンスする
後14	〃	野球人口の推移（野球人口の減少、健全な野球界発展にむけて）	レポート等、授業時にアナウンスする
後15	〃	日本と世界の野球（世界の野球システム、野球ビジネス）	レポート等、授業時にアナウンスする
後16	〃	学期末試験	レポート等、授業時にアナウンスする

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－野球 (141A1-5291)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	藤井　雅文			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	２年次	受け入れ人数	２０名程度
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について実践現場で実施することにより、野球に関する専門的な実技力・指導力を身に着ける。 ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）の練習法についての実践 ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、身体つくりや怪我予防についての実践 ・基本的な戦術（攻撃、守備、バッテリー）についての実践と応用 ・野球規則について理解した上で、実際に審判員として試合を裁く ・大会開催時における運営者の基本的な役割の実践 ・野球パフォーマンス測定で使用する機器について、実際に使用して扱えるようになる ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定の実施				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	（コミュニケーション力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について基礎的な知識を理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○	○	○	○	○		30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する補助活動を積極的に行う。	○		○				30
	■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着ける。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着ける。	○	○					40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	藤井　雅文	オリエンテーション	レポート等、授業時にアナウンスする
前2	〃	野球の歴史の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前3	〃	野球のスタイルの復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	レポート等、授業時にアナウンスする
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前9	〃	勝負師①（打者の戦術：好球必打）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前10	〃	勝負師②（走者の戦術：Getベース）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前11	〃	勝負師③（バッテリーの戦術）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：塁上死）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前14	〃	野球規則①（ルールと審判法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前15	〃	野球規則②（ルールと審判法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
前16	〃	学期末試験	レポート等、授業時にアナウンスする
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後5	〃	職人⑤（キャッチングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする

後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後9	〃	野球と教育学（野球のはじまり、今後の部活動と野球教育）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後10	〃	野球と経営学（野球組織の成り立ち、チーム作りの重要性）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後11	〃	野球と経済学（プロ・アマの経済、学生野球の経済）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後12	〃	野球と経済学（道具、施設、イベントの経済）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後13	〃	野球と建築学・生物学（野球場、屋内練習場、用具）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後14	〃	野球人口の推移（野球人口の減少、健全な野球界発展にむけて）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後15	〃	日本と世界の野球（世界の野球システム、野球ビジネス）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする
後16	〃	学期末試験	レポート等、授業時にアナウンスする

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－野球 (141B1-5290)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	藤井　雅文			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	３年次	受け入れ人数	２０名程度
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について実践現場で実施することにより身に着けた野球に関する専門的な実技力・指導力を基に、実際に指導を行う。 ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）の練習法について指導する ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、身体つくりや怪我予防について指導する ・基本的な戦術（攻撃、守備、バッテリー）について指導する ・野球規則について理解した上で、実際に審判員として他年代の試合を裁く ・大会開催時における運営者の役割を理解し指導する ・野球パフォーマンス測定で使用する器具について説明・指導する ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定の仕方を指導する				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	（コミュニケーション力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○	○	○	○	○		30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する活動を積極的に行う。	○		○				30
	■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着け指導する。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着け指導する。	○	○					40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	藤井　雅文	オリエンテーション	レポート等、授業時にアナウンスする
前2	〃	野球の歴史の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前3	〃	野球のスタイルの発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	レポート等、授業時にアナウンスする
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）の指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前9	〃	勝負師①（打者の戦術：好球必打）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前10	〃	勝負師②（走者の戦術：Getベース）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前11	〃	勝負師③（バッテリーの戦術）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：塁上死）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前14	〃	指導実習①	レポート等、授業時にアナウンスする
前15	〃	指導実習②	レポート等、授業時にアナウンスする
前16	〃	指導実習③	レポート等、授業時にアナウンスする
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後5	〃	職人⑤（キャッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後9	〃	指導実習④	レポート等、授業時にアナウンスする
後10	〃	指導実習⑤	レポート等、授業時にアナウンスする

後11	〃	指導実習⑥	レポート等、授業時にアナウンスする
後12	〃	指導実習⑦	レポート等、授業時にアナウンスする
後13	〃	指導実習⑧	レポート等、授業時にアナウンスする
後14	〃	指導実習の振り返り①	レポート等、授業時にアナウンスする
後15	〃	指導実習の振り返り②	レポート等、授業時にアナウンスする
後16	〃	指導実習の振り返り③	レポート等、授業時にアナウンスする

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－野球 (141C1-5290)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	藤井　雅文			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	２０名程度
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について実践現場で実施することにより身に着けた野球に関する専門的な実技力・指導力を基に、実際に指導を行う。 ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）の練習法について指導する ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、身体つくりや怪我予防について指導する ・基本的な戦術（攻撃、守備、バッテリー）について指導する ・野球規則について理解した上で、実際に審判員として他年代の試合を裁く ・大会開催時における運営者の役割を理解し指導する ・野球パフォーマンス測定で使用する器具について説明・指導する ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定の仕方を指導する				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	（コミュニケーション力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○	○	○	○	○		30
	■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する活動を積極的に行う。	○		○				30
	■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着け指導する。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着け指導する。	○	○					40

成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。
オフィス・アワー	随時　803教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	藤井　雅文	オリエンテーション	レポート等、授業時にアナウンスする
前2	〃	野球の歴史の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前3	〃	野球のスタイルの発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加	レポート等、授業時にアナウンスする
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）の指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前9	〃	勝負師①（打者の戦術：好球必打）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前10	〃	勝負師②（走者の戦術：Getベース）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前11	〃	勝負師③（バッテリーの戦術）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：塁上死）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
前14	〃	指導実習①	レポート等、授業時にアナウンスする
前15	〃	指導実習②	レポート等、授業時にアナウンスする
前16	〃	指導実習③	レポート等、授業時にアナウンスする
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後5	〃	職人⑤（キャッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする
後9	〃	指導実習④	レポート等、授業時にアナウンスする

後10	〃	指導実習⑤	レポート等、授業時にアナウンスする
後11	〃	指導実習⑥	レポート等、授業時にアナウンスする
後12	〃	指導実習⑦	レポート等、授業時にアナウンスする
後13	〃	指導実習⑧	レポート等、授業時にアナウンスする
後14	〃	指導実習の振り返り①	レポート等、授業時にアナウンスする
後15	〃	指導実習の振り返り②	レポート等、授業時にアナウンスする
後16	〃	指導実習の振り返り③	レポート等、授業時にアナウンスする

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学総論 (141A2-1200)	授業形態	講義	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	北村　尚浩・中垣内　真樹・沼尾　成晴・坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	60名以内
授業の概要	生涯スポーツ系の各領域（コミュニティ・マネジメント、健康・体力、野外教育）を概観し、基礎的な知識を身につける。生涯スポーツ論・演習を選択するための、指針となる授業科目である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	（キャリアデザイン力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	生涯スポーツ系の各領域について理解する。	○		○				60
	■情意的領域	生涯スポーツに対して関心を持つ。 提示された課題に対して積極的に取り組む。	○			○			40
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業中に行う小レポート、プレゼンテーション、課題レポート等と授業への取組状況を総合的に評価する。 3分の2以上の出席を必須とする。		
テキスト、教材 参　考　書	随時資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ学概論、スポーツ社会学を履修することが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	ゲストスピーカーによる講話を行うこともある。
オフィス・アワー	北村（メール：kitamura@nifs-k.ac.jp） 中垣内（メール：gaichi@nifs-k.ac.jp） 沼尾（メール：numashige@nifs-k.ac.jp) 坂口（メール：tsakaguc@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	オリエンテーション	
2	〃	生涯スポーツ振興とコミュニティスポーツの役割	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
3	〃	コミュニティスポーツの現場（1）：総合型地域スポーツクラブ	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
4	〃	コミュニティスポーツの現場（2）：公共スポーツ施設	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
5	〃	コミュニティスポーツの現場（3）：民間フィットネスクラブ	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
6	中垣内　真樹 沼尾　成晴	健康・体力づくりに携わる運動・スポーツ指導者の活躍できる現場（概論）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
7	〃	健康・体力づくりに携わる運動・スポーツ指導者の活躍できる現場（民間・公営フィットネスクラブ）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
8	〃	健康・体力づくりに携わる運動・スポーツ指導者の活躍できる現場（特定非営利活動法人）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
9	〃	健康・体力づくりに必要な知識（健康管理概論）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
10	〃	健康・体力づくりに必要な知識（健康づくり施策概論）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
11	坂口　俊哉	野外活動，アウトドア・スポーツを概観する	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
12	〃	アウトドア・スポーツを仕事にする（ツーリズム）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
13	〃	アウトドア・ポーツを仕事にする（野外教育）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
14	〃	アウトドア・スポーツの基礎知識（リスクマネジメント）	授業内容の予習，復習，およびレポート作成（60分）
15	〃	アウトドア・スポーツの基礎知識（リスクマネジメント）	アウトドアスポーツの基礎知識（環境保護）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰ－コミュニティ・マネジメント (141A2-3200)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前田　博子・隅野　美砂輝・棟田　雅也			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2	受け入れ人数	30
授業の概要	Ⅰでは，主にスポーツマネジメントの分野から，以下の項目を取り上げる． 1．スポーツ組織やスポーツイベント、スポーツ事業のマネジメントに関する基本的な知識・方法を身につける。 2．組織のマネジメント、イベントやプログラムの開発・企画・運営に関し、基本的な考え方を習得する。 3．課題・レポートの効果的な書き方およびプレゼンテーションの技法を身につける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、キャリアデザイン力、専門的な知識・教養 （事業運営力、一般教養・倫理、課題解決力、科学的表現力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・スポーツ組織やスポーツイベント、スポーツ事業のマネジメントに関する基本的な知識を身につける ・組織のマネジメント、イベントやプログラムの開発・企画・運営に関し基本的な考え方を習得する	○		○	○			70
	■情意的領域	・課題・レポートについて主体的に取り組む ・積極的に授業に参加し意見を述べる ・グループワークにおいても他者と共同し積極的に意見をまとめる	○						30
	□技能的領域								

成績評価の基準	プレゼンテーション、課題の提出状況、課題の内容、授業内での積極性		
テキスト、教材 参　考　書	テキストはなし、教材は適宜提供する。		
履修条件・ 関連科目	・1年次の履修は認めない ・生涯スポーツ、スポーツ産業、スポーツマネジメント系の履修をしておくことが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	授業では積極的に取り組むこと
オフィス・アワー	前田博子：606教員室 棟田雅也：602教員室 隅野美砂輝：501教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　博子 隅野　美砂輝 棟田　雅也	授業計画の説明、オリエンテーション、生涯スポーツ実習の流れ	シラバスを読み込む（1時間）
2	〃	スポーツ組織のマネジメント（1）	事前配布資料の読み込み（1時間）
3	〃	スポーツ組織のマネジメント（2）	事前配布資料の読み込み（1時間）
4	〃	スポーツ組織のマネジメント（3）	事前配布資料の読み込み（1時間）
5	〃	プロスポーツ組織のマネジメント（1）	事前配布資料の読み込み（1時間）
6	〃	プロスポーツ組織のマネジメント（2）	事前配布資料の読み込み（1時間）
7	〃	プロスポーツ組織のマネジメント（3）	事前配布資料の読み込み（1時間）
8	〃	まとめ、ディスカッション	事前配布資料の読み込み、まとめ、プレゼン、ディスカッションの準備（1時間）
9	〃	スポーツイベントのマネジメント（1）	事前配布資料の読み込み（1時間）
10	〃	スポーツイベントのマネジメント（2）	事前配布資料の読み込み（1時間）
11	〃	スポーツイベントのマネジメント（3）	事前配布資料の読み込み（1時間）
12	〃	スポーツコミッションのマネジメント（1）	事前配布資料の読み込み（1時間）
13	〃	スポーツコミッションのマネジメント（2）	事前配布資料の読み込み（1時間）
14	〃	スポーツコミッションのマネジメント（3）	事前配布資料の読み込み（1時間）
15	〃	まとめ、ディスカッション	事前配布資料の読み込み、まとめ、プレゼン、ディスカッションの準備（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱ－コミュニティ・マネジメント (141B2-3210)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前田　博子・隅野　美砂輝・棟田　雅也			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	30
授業の概要	Ⅱでは，主にコミュニティスポーツの概要について学ぶ. また，Ⅰを踏まえ，コミュニティにおけるスポーツ環境のマネジメントについても取り上げる. 各自の出身地や自身の体験を対象に，コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの実態や政策を調査しながら，現実に即した内容について言及する. 夏季休業中に行う生涯スポーツ指導実習との関連にも配慮しながら進めていく. 授業を通して地域の実情に合致したスポーツ振興に関わることのできる人材となることが期待される.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、コミュニケーション力、キャリアデザイン力 （一般教養･倫理、課題解決力、科学的表現力、専門的な知識・教養）							
	■認知的領域	コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントについて現状を理解し，スポーツ振興方策について提案できるようになる.			○	○			50
	■情意的領域	コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントについて関心を持つ. 授業における課題に対して積極的に取り組む.	○		○	○			20
	■技能的領域	パワーポイントを使ったプレゼンテーション技能を身に付ける.				○			30

成績評価の基準	授業中で求めるレポート（40点）授業での発表と資料作成（40点）授業への参加（20点）		
テキスト、教材 参　考　書	適宜プリントを用意する.		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ総論、生涯スポーツ論・演習I–コミュニティ・マネジメントの単位修得が必須。 生涯スポーツ学概論、スポーツ産業論、スポーツマーケティング論を修得していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時，各研究室　前田博子606，棟田雅也602，隅野美砂輝501 メールによる連絡も可		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　博子 隅野　美砂輝 棟田　雅也	授業の進め方，コミュニティの定義	シラバスによる事前学習・出身地域の特徴について資料収集（1時間）
2	前田　博子	コミュニティの概念と現代的課題	授業の復習・地域特性についてのレポート作成（1時間）
3	〃	子ども時代の「地域」概念とスポーツ活動 過去の経験を元に考える	授業の復習・子ども時代のスポーツ活動についてのデータ収集（1時間）
4	〃	中高生年代の「地域」概念とスポーツ活動 過去の経験を元に考える	授業の復習・中高生年代のスポーツ活動についてのデータ収集（1時間）
5	前田　博子 隅野　美砂輝 棟田　雅也	地域スポーツの場で働く 場に併せて自分自身を考える	授業の復習・履歴書の作成（1時間）
6	前田　博子	グループワークの発表 小中高のスポーツ活動のまとめ	授業の復習・小中高のスポーツ活動のレポート作成（1時間）
7	〃	地域における「マイノリティ」・高齢者とスポーツ活動 基礎データとの関連から考える	授業の復習・高齢者のスポーツ活動のデータ収集（1時間）
8	〃	地域における「マイノリティ」・障害者とスポーツ活動 基礎データとの関係から考える	授業の復習・障害者のスポーツ活動のデータの収集（1時間）
9	〃	グループワークの発表 高齢者と障害者のスポーツ活動のまとめ	授業の復習・高齢者と障害者のスポーツ活動のレポート作成（1時間）
10	〃	スポーツ政策の概要とコミュニティスポーツ	授業の復習・地域スポーツ政策関連データの収集（1時間）
11	隅野　美砂輝 棟田　雅也	地域のスポーツ環境の実態（イベント、ツーリズム、プロスポーツ）（1）	授業の復習（1時間）地域の基礎データ収集（1時間）
12	〃	地域のスポーツ環境の実態（イベント、ツーリズム、プロスポーツ）（2）	授業の復習（1時間）地域の基礎データ収集（1時間）
13	〃	地域のスポーツ環境の実態（イベント、ツーリズム、プロスポーツ）（3）	授業の復習（1時間）地域の基礎データ収集（1時間）
14	〃	地域のスポーツ環境の実態（イベント、ツーリズム、プロスポーツ）（4）	授業の復習（1時間）地域の基礎データ収集（1時間）
15	前田　博子 隅野　美砂輝 棟田　雅也	まとめ　地域スポーツの課題と可能性	授業の復習・地域スポーツ政策のレポート作成（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲ－コミュニティ・マネジメント (141B2-3211)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前田　博子・隅野　美砂輝・棟田　雅也			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	30
授業の概要	Ⅲでは，夏季休暇中に行う生涯スポーツ指導実習を題材に，コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの実態の情報を提供する．実習によって得た情報を踏まえて，今後のコミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの発展について検討する機会を提供する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力		授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	実習の経験を分析して報告できる 他者の実習の情報を自分の経験と併せて系統的に解釈できる コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの実態に関する課題を把握する			○	○			40
	■情意的領域	自身の報告および他の受講生の報告を含む授業全体に積極的に参加する	○			○			10
	■技能的領域	効果的なプレゼンテーション能力 イベントの企画・発信力 等を身につける	○			○			50

成績評価の基準	実習報告レポート（40点）　発表（30点）　企画課題（20点）　授業における参加状況（10点）		
テキスト、教材 参　考　書	適宜プリントを配付する		
履修条件・ 関連科目	履修条件：以下の科目を修得していること。 生涯スポーツ総論、生涯スポーツ論・演習I –コミュニティ・マネジメント、 生涯スポーツ論・演習II–コミュニティ・マネジメント、 生涯スポーツ指導実習	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時，各研究室　前田博子606，棟田雅也602，隅野美砂輝501 メールによる連絡も可		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　博子 隅野　美砂輝 棟田　雅也	授業の進め方 実習の振り返りとまとめ方	シラバスによる予習（1時間）実習所感文作成による振り返り（1時間）
2	〃	生涯スポーツ指導実習　本年度の傾向 実習所感文のピアチェック	実習に関するまとめ（1時間）授業の復習（1時間）
3	〃	生涯スポーツ指導実習の振り返り　実施内容について 実習内容に関する情報交換ＧＷ１	実習に関するまとめ（1時間）授業の復習（1時間）
4	〃	実習報告１ 実習内容について	実習に関するまとめ（1時間）授業の復習（1時間）
5	〃	実習報告１のまとめ 本年度の実習内容の特徴	実習に関するまとめ（1時間）授業の復習（1時間）
6	〃	実習の振り返り　実習先の施設と組織 実習先に関する情報交換ＧＷ２	実習に関するまとめ（1時間）授業の復習（1時間）
7	〃	実習報告２ 実習先施設と組織について	実習に関するまとめ（1時間）授業の復習（1時間）
8	〃	実習報告２のまとめ 本年度の実習施設の特徴	実習に関するまとめ（1時間）授業の復習（1時間）
9	〃	実習の振り返り　実習先施設の評価 実習先評価に関する情報交換ＧＷ３	実習に関するまとめ（1時間）授業の復習（1時間）
10	〃	実習報告３ 実習先評価	実習に関するまとめ（1時間）授業の復習（1時間）
11	〃	実習報告３のまとめ スポーツ施設・組織の評価について	課題の準備（1時間）授業の復習（1時間）
12	〃	地域の多様性と地域スポーツの実態 前期授業との関係から	課題の準備（1時間）授業の復習（1時間）
13	〃	地域スポーツイベントの企画 地域特性に合わせたスポーツイベントとは	課題の準備（1時間）授業の復習（1時間）
14	〃	プレゼンテーション 地域スポーツイベントの企画	課題の準備（1時間）授業の復習（1時間）
15	〃	まとめ	授業の復習（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰ－健康・体力 (141A2-3220)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中垣内　真樹・藤田　英二・沼尾　成晴			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	健康の維持・増進の運動や生涯スポーツの普及と高齢者に至る幅広い層の対象者を指導することを目指す上で必要な運動指導に関わる基礎的な知識を習得し、実際に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義および演習を通して身につけることを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等に関する知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○		○				40
	■情意的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等に関する知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○						30
	■技能的領域	運動指導に関わる技能を実践し、遂行できる能力を身につける。	○						30

成績評価の基準	レポートが提出されているという条件で、授業期間に行なったレポート、授業中の態度・意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	教科書：「健康運動指導士養成講習会テキスト」上下巻（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） 参考書：「運動処方の指針　運動負荷試験と運動プログラム　原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円） 参考資料は必要に応じて配布する。		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ学総論を履修していることが望ましい。 健康運動指導士の資格取得に必要な科目を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	中垣内：随時（研究棟4階　407研究室） 藤田　：メール（fujita@nifs-k.ac.jp） 沼尾　：メール（numashige@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹 藤田　英二 沼尾　成晴	オリエンテーション	
2	中垣内　真樹	健康づくり運動の歴史とあり方を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
3	沼尾　成晴	健康管理ー健康の概念、介護予防の概論を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
4	〃	生活習慣病とその要因を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
5	藤田　英二	虚弱高齢者への自立支援の現状と運動指導の実際を知る	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
6	〃	機能解剖学とバイオメカニクス（運動や動作の基本を理解する）	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
7	中垣内　真樹	基本運動プログラムの組み立て方を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
8	〃	基本運動プログラムを指導する－実際の指導方法を知る－	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
9	沼尾　成晴	有酸素性運動の理論を学ぶ－ウォーキング－	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
10	〃	柔軟運動（ストレッチ）の理論と指導方法を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
11	藤田　英二	レジスタンス運動の実際と運動指導方法を学ぶ－筋力づくり－	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
12	中垣内　真樹	多重課題エクササイズの実際と指導方法を学ぶ－スクエアステップ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
13	沼尾　成晴	身体組成の測定方法および評価方法を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
14	〃	生活習慣病者に対する運動処方の理論と指導方法を学ぶ	WebClassでの復習・小レポート（1時間）
15	中垣内　真樹 藤田　英二 沼尾　成晴	前期まとめ	レポート（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱ－健康・体力 (141B2-3220)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中垣内　真樹・藤田　英二・沼尾　成晴			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	健康の維持・増進の運動や生涯スポーツの普及と高齢者に至る幅広い層の対象者を指導することを目指す上で必要な運動指導に関わる技能や身体機能測定に関わる技能を習得し、実際に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義、演習を通して身につけることを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等にかんする知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○		○				30
	■情意的領域	健康づくりや自立維持のための運動プログラムに関心を持ち、積極的に取り組む。	○						30
	■技能的領域	運動指導に関わる技能を実践し、遂行できる能力を身につける。	○						40

成績評価の基準	レポートが提出されているという条件で、授業期間に行なったレポート、授業中の意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	教科書：「健康運動指導士養成講習会テキスト」上下巻（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） 参考書：「運動処方の指針　運動負荷試験と運動プログラム　原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円） 参考資料は必要に応じて配布する。		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ論・演習Ⅰ―健康・体力―は履修済みであり、学外実習を履修していること。 健康運動指導士の資格取得に必要な科目を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	中垣内：随時（研究棟4階　407研究室） 藤田　：メール（fujita@nifs-k.ac.jp） 沼尾　：メール（numashige@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹 藤田　英二 沼尾　成晴	オリエンテーション	
2	〃	個人による運動の実践と指導　　―ノルディックウォーキングを経験する―	小レポート（30分）
3	〃	身体組成の評価方法を学ぶ①　　―DXA法―	WebClassでの復習（30分）
4	〃	身体組成の評価方法を学ぶ②　　―DXA法―	小レポート（30分）
5	〃	中高齢者の身体機能の評価方法を学ぶ①　－有酸素性能力－	小レポート（30分）
6	〃	中高齢者の身体機能の評価方法を学ぶ②　－フィールドテスト－	小レポート（30分）
7	〃	高齢者の認知機能の評価方法を学ぶ　―認知機能検査―	小レポート（30分）
8	〃	高齢者の筋力運動の実践と指導　―貯筋運動―	小レポート（30分）
9	〃	肥満の運動指導のあり方を学ぶ　－サーキット運動－	小レポート（30分）
10	〃	脳賦活の運動指導のあり方　－多重課題運動－	小レポート（30分）
11	〃	運動指導の実際（指導現場を知る）　－貯筋運動－	小レポート（30分）
12	〃	運動指導の実際（指導現場を知る）　－多重課題運動－	小レポート（30分）
13	〃	運動指導の実際（指導現場を知る）　－中高年の健康支援－	小レポート（30分）
14	〃	運動指導の実際（指導現場を知る）　－高齢者の健康支援－	小レポート（30分）
15	〃	まとめ	レポート（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲ－健康・体力 (141B2-3221)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	中垣内　真樹・藤田　英二・沼尾　成晴			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	15名程度
授業の概要	前期の生涯スポーツ論・演習Ⅰ－健康・体力および学外実習後の授業としてそれまでの総括をおこなうとともに健康運動指導士の受験資格取得に向けて実際に様々な対象者に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義、実習を通して身につけることを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力		授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等にかんする知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○		○				30
	■情意的領域	健康づくりや自立維持のための運動プログラムに関心を持ち、積極的に取り組む。	○						30
	■技能的領域	運動指導に関わる技能を実践し、遂行できる能力を身につける。	○						40

成績評価の基準	レポートが提出されているという条件で、授業期間に行なったレポート、授業中の意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	教科書：「健康運動指導士養成講習会テキスト」上下巻（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） 参考書：「運動処方の指針　運動負荷試験と運動プログラム　原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円） 参考資料は必要に応じて配布する。		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ論・演習ⅠおよびⅡ―健康・体力―は履修済みであり、学外実習を履修していること。 健康運動指導士の資格取得に必要な科目を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	中垣内：随時（研究棟4階　407研究室） 藤田　：メール（fujita@nifs-k.ac.jp） 沼尾　：メール（numashige@nifs-k.ac.jp)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹 藤田　英二 沼尾　成晴	オリエンテーション	
2	〃	学生の夏期学外実習の報告①　－課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図る－	小レポート（30分）
3	〃	学生の夏期学外実習の報告②　－課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図る－	小レポート（30分）
4	〃	学生の夏期学外実習の報告③　－課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図る－	小レポート（30分）
5	〃	学生の夏期学外実習の報告④　－課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図る－	小レポート（30分）
6	〃	フレイル予防のための運動プログラムの作成①	小レポート（30分）
7	〃	フレイル予防のため運動プログラムの作成②	小レポート（30分）
8	〃	フレイル予防のための運動指導の実際①	小レポート（30分）
9	〃	フレイル予防のための運動指導の実際②	小レポート（30分）
10	〃	健康支援プログラムの作成　特定保健指導	小レポート（30分）
11	〃	健康支援の実際　特定保健指導	小レポート（30分）
12	〃	多世代交流型スポーツイベントプログラムの作成	小レポート（30分）
13	〃	多世代交流型スポーツイベントの実際	小レポート（30分）
14	〃	健康運動指導士資格試験の受験対策～傾向と対策～	小レポート（30分）
15	〃	後期のまとめ	レポート（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰ－野外教育 (141A2-3230)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	－

授業の概要	アウトドアスポーツを中心に、レジャー、レクリエーション、野外教育などの場で実施されている様々なアクティビティーについて概観する。また、一部のアクティビティーについては、実際に体験する機会を設ける。講義では、これらのアクティビティーを成り立たせている様々な資源(人、物、金、情報)に目を向けることで、アウトドアスポーツの普及や発展に必要な要素について検討する。具体的作業として、グループ・ディスカッションに基づいた発表をしてもらう。 サービス消費者としての視点とサービス提供サイドの視点の両方から日本のアウトドアスポーツを俯瞰することで、「アウトドアスポーツ」「野外活動」「レクリエーション」「レジャー」「野外教育」それぞれのイメージを明確にすることが求められる。 この科目の受講生は、次の年度以降で「生涯スポーツ論・演習Ⅱ－野外活動」、「生涯スポーツ指導実習－野外教育施設」を選択することを前提としている。 この科目を履修することで、実習先の選択のために必要な基礎知識を身につけることが最終目標である。

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 （専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	「アウトドアスポーツ」「野外活動」「レクリエーション」「レジャー」「野外教育」とは何か？その概念や目的、内容などについて自分自身の言葉で説明できるようになることを目標とする。		○	○				50
	■情意的領域	他者の考えを理解しようとする姿勢と、自己の考えを他者に伝える積極的な姿勢を身につけることを目標とする。	○			○			30
	■技能的領域	インターネットなどのメディアを利用した情報収集とその結果の提示の仕方を身につけること。テントの設営、タープの設営、ロープワークなどの技能を身につけること。			○	○			20

成績評価の基準	アウトドアスポーツ産業に関連するレポートを複数回提出してもらう。 グループディスカッションに基づいたプレゼンテーション（発表）を複数回実施する。これらの内容から総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する。教科書指定はない。参考図書として次の書籍を推薦する。「レジャー白書」公益財団法人日本生産性本部、「野外教育入門－やさしくわかる自然体験活動」星野敏男他編著、小学館、「野外教育の理論と実際－組織キャンプ入門」東京YMCA野外教育研究所編、学分社。		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ指導実習で野外教育施設での実習を希望する学生はこの科目を履修する必要がある。 生涯スポーツレクリエーション＆ゲームズ、アウトドアスポーツ実習（夏季）などを履修することが望ましい。 野外活動Ⅰ・Ⅱのいずれかについては、必ず履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	授業中にディスカッションする機会を設ける。積極的な取り組みを期待している。
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp）。大学院生棟３Ｆ教官室１		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉	オリエンテーション（学外実習について、授業の進め方について）	課題１：マインドマップの作成方法について学ぶこと（60分）
2	〃	野外教育・野外活動・組織キャンプ（関連用語と概念の整理）	課題2：NEALの資格認定制度のについて調べ，制度の狙いやカリキュラムについて学習すること．また類似した資格にどのようなものがあるのか調べること．（60分）
3	〃	組織キャンプの実際（目的、対象、アクティビティー、運営組織など）	課題3：配布資料を読んで，野外教育の歴史について学ぶこと（60分）
4	〃	野外活動のプログラム(アクティビティーの様々と課題、学校教育との関係)	課題4：マインドマップの作成（60分）
5	〃	野外教育の歴史と社会的背景（定義、意義、目的）	課題5：配布資料を読んで，野外教育の目的について理解を深めること．（60分）
6	〃	体験１（アイスブレイク、ロープワーク）	課題6：アイスブレイクとは何か，どのようなことをするのか，情報を収集しておくこと．（60分）
7	〃	野外活動の指導者（資格、統括団体）	課題7：ロープワークプログラム作成のための情報を収集しておくこと（60分）
8	〃	野外活動の動向（種目の多様化、参加人口など）	課題8：レジャー白書から，スキー，キャンプの2種目について実施率の推移を調べておくこと．（60分）
9	〃	野外活動・野外教育のリスクマネジメントと法的責任	課題9：登山中に発生するリスクについて情報を収集すること．特に，山岳遭難の動向を対象とする．（60分）
10	〃	環境教育と野外活動・教育	課題10：アウトドアスポーツと関連する環境問題に関する新聞記事を読み，そのコピーと内容を要約したレポートを準備すること．（60分）
11	〃	体験２（スラックライン）	課題11：スラックライン指導マニュアル作成（60分）

12	〃	野外活動の用具(地図、コンパス、バーナー、ランタンなどの取り扱い方)	課題12：火器を使用する場合のマニュアル作成（60分）
13	〃	野外教育の施設（自然の家など）の現状と課題	課題13：視察した施設の概要と利用者（引率者）の立場からチェックした問題点をまとめておくこと（60分）
14	〃	体験３（PA プログラム）	課題14：PAプログラムの指導マニュアルを作成すること（90分）
15	〃	野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの発表と比較・検討	課題15：野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの提出、発表準備（60分）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱ－野外教育 (141B2-3230)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	－
授業の概要	野外教育や野外活動指導者として必要な知識を身につけることを目標としている。具体的には、野外教育の意義や価値、野外教育が必要とされる社会的な背景や野外教育の歴史について学ぶ。また、野外教育を取り巻く課題について検討する。 生涯スポーツ指導実習で、「野外教育施設」での実習を希望する学生にとっては必修の講義科目である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 （専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	野外教育とは何か？野外活動とは何か？その目的などについて自分自身の言葉で説明できるようになること。野外教育プログラムのポイントを理解することを目標とする。			○				50
	■情意的領域	他者の考えを理解しようとする姿勢と、自己の考えを他者に伝える積極的な姿勢を身につけることを目標とする。	○			○			30
	■技能的領域	インターネットなどのメディアを利用した情報収集とその結果の提示の仕方を身につけること アウトドア用品の扱い方（テント、シュラフ、火器類など）を身につける			○	○			20

成績評価の基準	野外教育とは何か，自然体験活動などの周辺概念を含めた理解度を評価する．また、学外実習に向けた準備のための施設選び、プログラムへの理解と準備などの条件について課されるレポート、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する．		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する。教科書指定はない。参考図書として次の書籍を推薦する。「野外教育入門－やさしくわかる自然体験活動」星野敏男他編著、小学館、「野外教育の理論と実際－組織キャンプ入門」東京YMCA野外教育研究所編、学分社。		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ指導実習で野外教育施設での実習を希望する学生はこの科目を履修する必要がある。 生涯スポーツレクリエーション＆ゲームズ、夏季山岳レジャー・スポーツ実習などを履修していることが望ましい。 野外活動Ⅰ・Ⅱのいずれかについては、必ず履修しておくこと。	備考(教員メッセージ含む)	授業中にディスカッションする機会を設ける。積極的な取り組みを期待している。
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp）。大学院生棟３Ｆ教官室１		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉	オリエンテーション（学外実習について、授業の進め方について）	課題１：履修を希望する野外教育施設の名称、規模、運営形態などについて調べておくこと（60分）
2	〃	野外教育プログラムの実際１（導入）	課題2：野外教育プログラムで頻繁に行われているアイスブレイクプログラムについて、その内容をレポートすること（60分）
3	〃	野外教育プログラムの実際２（導入の実践）	課題3：授業内で実施したプログラムの動画を確認して改善点について検討したレポートを作成しておくこと。次週の授業で報告してもらう。
4	〃	野外教育プログラムの実際３(導入のマニュアル化)	課題4：アイスブレイクプログラムを実施するためのマニュアルを作成する（60分）
5	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(不登校への対応)	課題5：国立の自然の家などの取り組み事例を探し、募集対象、開催時期、プログラムの内容について詳細あに調べておくこと（60分）
6	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(防災キャンプ)	課題6：防災キャンプの実例について情報を収集し、５分間で内容を紹介するための準備をしてておくこと（60分）
7	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(ロープワーク１)	課題7：ロープワークプログラム作成のための情報を収集しておくこと（60分）
8	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(ロープワーク２)	課題8：ロープワークの指導を目的とした動画を撮影して編集しておくこと（60分）
9	〃	実習施設の選択１	課題9：実習施設の紹介を各自行ってもらう。プレゼンテーションの準備が必要である詳細は授業で指示する（60分）
10	〃	実習施設の選択	課題10：実習に必要な書類の作成（60分）
11	〃	体験１（スラックライン）	課題11：スラックライン指導マニュアル作成（60分）
12	〃	野外活動の用具(地図、コンパス、バーナー、ランタンなどの取り扱い方)	課題12：火器・刃物を使用する場合のマニュアル作成（60分）
13	〃	野外活動の用具(テント、タープ、シュラフなどの取り扱い)	課題13：3泊4日のソロキャンプに必要な持ち物リストを作成しておくこと（60分）
14	〃	体験2（PA プログラム）	課題14：PAプログラムの体験中の心理的状況を詳細にレポートすること（90分）
15	〃	野外教育施設での実習をセントラルイメージとしたマインドマップの発表	課題15：野外教育施設での実習をセントラルイメージとしたマインドマップの作成と発表準備をしておくこと（60分）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲ－野外教育 (141B2-3231)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	－
授業の概要	野外教育施設での実習内容を振り返り，野外教育の理論と実践について理解を深めることを目標としています．具体的には，各施設で実施された野外活動プログラムの内容・目的・対象とプログラムの企画運営について発表を行ってもらいます．また，これらの情報をもとに，新たな野外活動プログラムの企画・立案を行い発表してもらいます．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	（指導者基礎力，専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・野外教育の目的と効果について整理する． ・効果的な野外教育のための企画・運営のポイントについて理解する．	○		○	○			40
	■情意的領域	・自身の意見を積極的に発信する力を身につける． ・他者の意見を傾聴する姿勢を身につける．	○			○			20
	■技能的領域	・パワーポイントを使用した効果的なプレゼンテーション能力を身につける． ・野外活動のプランニング能力を身につける．	○		○	○			40

成績評価の基準	1.スポーツ指導実習の内容についての報告 2.野外活動の企画発表内容 3.授業への取り組み を総合的に判断して評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を配付する．		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ論・演I–野外教育論・演習を履修していること．また，野外教育分野の生涯スポーツ指導実習を終了していること， 野外教育関連活動のボランティア経験，指導経験があることを条件として考慮する場合もある．	備考(教員メッセージ含む)	履修学生の人数によって授業内容に変更がある場合がある。
オフィス・アワー	授業に関する質問・相談については随時受け付けています. 事前にメールで連絡してもらえると確実です.以下のアドレスに連絡してください. tsakaguc@nifs–k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉	ガイダンス(授業内容,授業の進め方,成績の評価)	課題1:実習日誌をもとに,実習中の行動を一覧表にして提出すること.（60分）
2	〃	野外教育プログラムの実際と評価ポイント:夏季山岳レジャー・スポーツ実習を例として	課題2.「大人のキャンプin甑島」の報告書を読んで,キャンプ企画運営の問題点について整理してレポートすること.（90分）
3	〃	野外教育プログラムの実際と評価ポイント:甑島アイランドキャンパス事業を例として	課題3：授業で学んだ評価のポイントに沿って，報告書に記載された内容を再評価すること．（60分）
4	〃	野外教育プログラムの支援の実際:企画,運営作業の整理,プレゼンテーション準備(報告のポイント)	課題4：実習内容の報告準備．何を伝えるか，骨子を明確にすること．（60分）
5	〃	プレゼンテーション準備:グループ分け,役割分担,発表順の決定	課題5：プレゼンテーションの作成（60分）
6	〃	プレゼンテーション1:実習内容の発表と実習内容の検討	課題6：授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること.（60分）
7	〃	プレゼンテーション2:実習内容の発表と実習内容の検討	課題7:授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること.（60分）
8	〃	プレゼンテーション3:実習内容の発表と実習内容の検討	課題8：授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること.（60分）
9	〃	野外教育プログラムの企画:コンセプト作り,目的の設定,プログラム内容の検討	課題9：授業中に話し合った内容についてまとめ，レポートを作成すること．（60分）
10	〃	野外教育プログラムの企画:日程の確定,スタッフ配置,スタッフ行動表の作成,備品リストの作成.	課題10：野外教育プログラムの企画書（募集要項）の作成．（60分）
11	〃	野外教育プログラムの企画:施設利用申請の実際,参加者名簿,利用施設と活動内容,雨天プログラム,リスクマネジメントの計画.	課題11：スポーツを実施する上での様々なリスクに対応した保険の情報を収集しておくこと．怪我をした場合，死亡した場合（被害を受けた場合）だけでなく加害者になった場合についても調べておくこと．（60分）
12	〃	野外教育プログラムの企画：リスクマネジメントの具体策	課題12：バックカントリーでのスキー・スノーボードにおける自治体やスキー場の対応例について，以下の視点から情報を収集すること．１．活動場所の制限方法，２．制限のための人員確保，３．様々な費用の確保方法．（60分）

13	〃	野外活動に対する助成金:助成団体,申請手続き	課題13：野外活動の普及・発展などを目的とした助成金について，助成の対象，助成金学，申請方法，成果の報告方法などについて情報を収取しておくこと．（60分）
14	〃	野外活動と地方自治体の取り組み:被災地の復興,過疎地の活性化,観光地の集客例	課題14:企画案の提出とプレゼンテーションの準備．（120分）
15	〃	プレゼンテーション4:野外教育プログラムの企画発表と討論	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅰ－柔道 (141A3-5210)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	小澤　雄二・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業に積極的に取り組むことによって、柔道の特性を理解し対象や目的に応じた実践的指導ができる能力が身に付くことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、他者に伝える能力が身に付く。	○	○	○				30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践することができる。	○	○			○		40

成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	武道課程柔道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	小澤　雄二 小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画等の説明） （武道館にて柔道衣着用）	課外活動を活用して30～60分の自主学習
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ	課外活動を活用して30～60分の自主学習
前3	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前4	〃	「競技力向上の会」に参加する	
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前15	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑧	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前16	〃	前期総括	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習

後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括①　プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括②　プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③　プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅱ－柔道 (141A3-5211)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	小澤　雄二・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業では、1年次の「専修武道論・実習Ⅰ-柔道」で学んだ対象や目的に応じた実践的指導力をさらに高めることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力							
	■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、適切に他者に伝える能力が身に付く。	○	○	○				30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践・応用することができる。	○	○			○		40

成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	武道課程柔道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出すること。 2．授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	小澤　雄二 小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画等の説明） （武道館にて柔道衣着用）	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウオーミングアップ	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前3	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前4	〃	「競技力向上の会」に参加する	
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前15	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑧	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前16	〃	前期総括	
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括①　プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括②　プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③　プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅲ－柔道 (141B3-5210)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	小澤　雄二・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業では、1・2年次で身に付けた対象や目的に応じた実践的指導力をさらに高め、適切に指導・助言できることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、適切に他者に伝える能力が身に付く。	○	○	○				30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践・応用しながら適切に指導・助言することができる。	○	○			○		40

成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	武道課程柔道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出すること。 2．授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	小澤　雄二 小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画等の説明） （武道館にて柔道衣着用）	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前3	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前4	〃	「競技力向上の会」に参加する	
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前15	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑧	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前16	〃	前期総括	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習

後13	〃	実技技能の総括①　プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括②　プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③　プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅳ－柔道	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	小澤　雄二・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	25名程度
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業では、1・2・3年次で身に付けた対象や目的に応じた実践的指導力を基に、適切かつ体系的に指導・助言できることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、他者に適切かつ具体的・体系的に伝える能力が身に付く。	○		○				30
	■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
	■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践・応用しながら適切かつ体系的に指導・助言することができる。	○						40

成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	随時、資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	専修武道論・実習Ⅳ－柔道の単位取得者が履修できる。	備考(教員メッセージ含む)	1．欠席届は必ず本人が提出すること。 2．授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	小澤　雄二 小崎　亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画の説明） （武道館にて柔道衣着用）	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ	課外活動を活用して30～60分の自主学習
前3	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前4	〃	「競技力向上の会」に参加する	
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前15	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑧	課外活動を活用して30～60分の自主練習
前16	〃	前期総括	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習

後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括①　プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括②　プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③　プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅰ－剣道 (141A3-5220)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・下川　美佳			補助担当者名	
単位数	6　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	30

授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業に真剣に取り組むことによって剣道の基礎・基本を理解し正しく実践できる能力が身につくことが期待される。 尚、今年度は前期第3回目の授業は、全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。 また、新型コロナウィルス感染症の進捗状況によっては大幅に授業内容等を変更する場合がある。（その際にはWebClassにて対応する）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、指導者基礎力 （実技指導力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における基礎的な知識を理解することができる。	○	○	○				10
	■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を意欲的に取り組むことができる。	○					○ (※)	40
	■技能的領域	正しい基本動作を習得する。	○	○			○	○ (※)	50

成績評価の基準	授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。 技能的領域のうち自己の修錬の成果として、試合・審判活動及び昇段の状況についても考慮する。		
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2，800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2，100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）		
履修条件・ 関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 下川　美佳	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ (主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ (懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前7	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）

前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1–3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4–7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1–3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅱ－剣道 (141A3-5221)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・下川　美佳			補助担当者名	下川　美佳
単位数	6　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	30

授業の概要

本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。

授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。

本授業では、1年次の「専修武道論・実習I–剣道」で学んだ剣道の技能の錬度をより高めて実践できる能力を身につけることが期待される。

尚、今年度は前期第3回目の授業は、全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。
また、新型コロナウィルス感染症の進捗状況によっては大幅に授業内容等を変更する場合がある。（その際にはWebClassにて対応する）

授業の到達目標及び成績評価の方法

授業の到達目標		成績評価の方法						
		授業期間				定期試験	その他	割合 %
ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における基礎的な知識を更に理解することができる。	○	○	○				10
■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を錬度を高めて意欲的に取り組むことができる。	○					○ (※)	40
■技能的領域	正しい基本動作・応用動作を習得する。	○	○			○	○ (※)	50

成績評価の基準	授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。 技能的領域のうち自己の修錬の成果として、試合・審判活動及び昇段の状況についても考慮する。		
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2，800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2，100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）		
履修条件・ 関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。	備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 下川　美佳	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ (主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ (懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前7	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）

前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1–3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4–7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1–3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅲ－剣道 (141B3-5220)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・下川　美佳			補助担当者名	下川　美佳
単位数	6　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	30

授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業では、1・2年次で身につけた実技力を基盤として正しく示範し、適切に指導・助言できる、体系的な実技指導力を身につけることが期待される。 尚、今年度は前期第3回目の授業は、全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。 また、新型コロナウィルス感染症の進捗状況によっては大幅に授業内容等を変更する場合がある。（その際にはWebClassにて対応する）

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、指導者基礎力 （事業運営力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における発展的な知識を理解することができる。	○	○	○				10
	■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を更に錬度を高めて意欲的に取り組むことができる。	○					○ (※)	40
	■技能的領域	正しい基本動作を習得する。	○	○			○	○ (※)	50

成績評価の基準	授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。 技能的領域のうち自己の修錬の成果として、試合・審判活動及び昇段の状況についても考慮する。
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2，800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2，100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）
履修条件・ 関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。
備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２Ｆ剣道教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 下川　美佳	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ (主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ (懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前7	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）

前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1–3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4–7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1–3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅳ－剣道 (141C3-5210)	授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)
担当教員名	前阪　茂樹・竹中　健太郎・下川　美佳			補助担当者名	下川　美佳
単位数	6　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	20

授業の概要

本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力(審判等も含む)を修学全期に渡って身につけていく科目(Ⅰ~Ⅳ)である。
授業内容・方法については、剣道の理念、修錬の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義+実技の複合型授業方法により学ぶ。
本授業では、1・2・3年次で身につけた実技力・示範力をもとに対象、目的に応じて適切に指導・助言できる、体系的な実技指導力を身につけることが期待されることから外部団体（全日本剣道連盟）においても「社会体育指導員（初級）」認定科目となっている。

尚、今年度は前期第3回目の授業は、全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。
また、新型コロナウィルス感染症の進捗状況によっては大幅に授業内容等を変更する場合がある。（その際にはWebClassにて対応する）

授業の到達目標及び成績評価の方法

授業の到達目標		成績評価の方法						
		授業期間				定期試験	その他	割合 %
ＤＰで目指す資質・能力	運動実技力、実技指導力、事業運営力 （指導者基礎力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	剣道の理念及び歴史や特性に裏付けられた技能全般における知識の理解力を深めることがで きる。	○						30
■情意的領域	正しい着具・着装や礼法に基づいた自然な立居振舞い、剣道の基本に即した技術錬度を更に向上させて実践できる。	○						30
■技能的領域	剣道の技術的内容について概ね示範・指導ができる。	○					○ (※)	40

成績評価の基準	※認知・情意・技能の三領域をそれぞれ具体的に、出席点３０点、授業内の取り組みの成果（レポート）３０点、自己修錬の取り組み（部活動含める）４０点、合計100点で評価し、60点以上を合格（単位認定）とする。
テキスト、教材 参　考　書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2，800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2，100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）
履修条件・ 関連科目	専修武道論・実習III–剣道の単位修得者が履修できる。
備考(教員メッセージ含む)	武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２Ｆ剣道教員室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
前1	前阪　茂樹 竹中　健太郎 下川　美佳	第1～5回目　基本的技能の習得と稽古 （1）剣道の歴史・特性及び理念等の概説 （2）正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ （3）基本動作(単独・相対) （4）攻めの分析と対人的技能Ⅰ (主にしかけ技) （5）攻めの分析と対人的技能Ⅱ (懸待一致の修錬、しかけ・応じ技) （6）木刀による剣道基本技稽古法 （7）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前6	〃	第6～10回目　各種稽古法の理解とその実践 （1）切り返し （2）約束稽古 （3）打ち込み稽古 （4）かかり稽古 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前7	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前11	〃	第11～14回目　試合・審判法の実習と稽古 （1）試合・審判規則・運営要領の解説 （2）試合・審判実技 （3）様々な試合の方法と審判実技 （4）大会形式での運営と評価 （5）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）

前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目　指導法の研修と稽古 （1）「剣道指導の心構え」概説 （2）剣道指導の在り方（目的・目標・計画） （3）個人指導法(基本～応用) （4）集団指導法（対象別） （5）年齢・目的等に応じた指導法の研究 （6）稽古時における事故対応の観察と対処 （7）道場の衛生管理と安全管理Ⅱ （8）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後6	〃	第6回目　剣道に即したトレーニング法と稽古 （1）体力トレーニング （2）柔軟性、敏捷性・持久性をつけるトレーニング （3）剣道基本稽古 （4）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後7	〃	第7～13回目　日本剣道形の実習と稽古 （1）日本剣道形について（形修錬の意義・目的・制定の経緯等） （2）日本剣道形 太刀形 1–3 本目 （3）日本剣道形 太刀形 4–7 本目 （4）日本剣道形 小太刀形 1–3 本目 （5）日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 （6）地稽古（互格稽古）	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30~60分の自主学習（稽古）
後14	〃	実技内容の総括①	
後15	〃	実技内容の総括② 剣道具類等の管理と点検	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ指導実践概論 (141A0-1100)	授業形態	講義	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)
担当教員名	前田　博子・中垣内　真樹・金高　宏文・濱田　幸二・竹中　健太郎・塩川　勝行・坂口　俊哉・小崎　亮輔			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	本講義では，3年次で履修する学外者を対象とした「スポーツ指導実習（必修）」に向け，認知（知識）的、情意(態度)的な準備を行う．選択できるスポーツ指導実習には，スポーツコーチ実習あるいは武道指導実習と，生涯スポーツ指導実習がある．しかし，多様な指導場面を理解するために，各実習の概略等を理解することを求める．授業では，まず受講生自身の大学入学までに受けたスポーツ指導体験を振り返り，スポーツ指導等への興味・関心を高める．その後，スポーツ指導実習に臨んだ学生の体験講話等を手がかりに，受講生自身の将来のスポーツ指導者像や実習の選択を考え，来るスポーツ指導実習への準備を図る．また，スポーツ指導で求められる適切な人間関係を結ぶコミュニケーション力の基礎についても学ぶ．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・ 自分自身が受けたスポーツ指導を振返り，自らが関わろうとする将来のスポーツ指導への手がかり・指針を説明する． ・ スポーツ指導の基礎的な理論やスキルを理解する． ・ さまざまなスポーツ活動の場について理解する．			○				60
	■情意的領域	スポーツ指導及び実習に関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的にかつ受講生同士で協力して探求しようとする．	○						40
	■技能的領域								

成績評価の基準	毎時行なう授業内で行う授業レポートと宿題（40点：5点×8回）と，３回の時間外レポート（60点：20点×3回）による要求課題の達成度を基に評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	毎時間，WebClassを用いて，授業ワークを行う．そのため，i-PadもしくはPCを持参すること．資料等は，WebClassにて配布する．		
履修条件・ 関連科目	本授業後に開講する「キャリアデザインⅡ」も合わせて受講することが望まれます．	備考(教員メッセージ含む)	スポーツ指導実習の理解とともに，卒業後のスポーツや武道等との関わり方を積極的に考えて欲しい．
オフィス・アワー			

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　博子 金高　宏文	スポーツ指導実習について／スポーツ指導に必要な知識とスキル	WebClassで授業内容の復習と宿題（30分以上）
2	金高　宏文 塩川　勝行	指導対象への対応について考える（コミュニケーション演習を含む）	１回目レポート（20点）提出，WebClassで授業内容の復習と宿題（30分以上）
3	濱田　幸二 塩川　勝行	スポーツ活動の現場について／スポーツ指導実習報告	WebClassで授業内容の復習・レポート作成（1時間）
4	竹中　健太郎	武道活動の現場について／武道指導実習報告	2回目レポート（20点）提出．WebClassで授業内容の復習と宿題（30分以上）．
5	前田　博子	コミュニティ・スポーツの現場について／生涯スポーツ指導実習報告①	WebClassで授業内容の復習と宿題（1時間）
6	前田　博子 中垣内　真樹	健康づくりの現場について／生涯スポーツ指導実習報告②	WebClassで授業内容の復習と宿題（1時間）
7	坂口　俊哉	野外活動の現場について／生涯スポーツ指導実習報告③	WebClassで授業内容の復習と宿題（１時間）
8	金高　宏文	授業のまとめと学習の振り返り（コミュニケーション演習を含む）	3回目レポート（20点）提出．

授業科目名	スポーツ指導実習 (スポーツコーチ実習)	授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)
担当教員名	競技スポーツ論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの担当教員		補助担当者名		
単位数	1単位（1週間）又は 2単位（2週間）	履修年次	3年次	受け入れ人数	
授業の概要	本実習では，将来のスポーツ指導者としての専門職に必要な理論の学習を基礎に，さらに，より実践的な指導力を育成するため，各専門領域に関連する実際のスポーツ指導現場での指導実習を実施することとしています．そこでは，実際のスポーツ現場における指導実習や生の体験を通して，学生の専門的な知識や指導技術を高め，ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他（　）	割合(%)
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成). ・指導体験を記述・説明する（実習日誌の作成）. ・指導体験を分析・評価する（所感文等の作成）.			○	○		大学評価	50
	■情意的領域	・事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる. ・指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる. ・実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる.	○					大学及び実習先評価	30
	■技能的領域	・ビジネスマナー及び一般常識を身につける. ・指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○					実習先評価	20

成績評価の基準	設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする.		
テキスト、教材 参考書	①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」を配布. 参考図書は、授業時に推薦する.		
履修条件・関連科目	「競技スポーツ論・実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない	備考（教員メッセージ含む）	本実習は、原則として夏期休業中の１週間又は２週間とし、履修可能単位数は２単位（１単位最低５日間）、１単位だけ履修する場合は１週間（最低５日間）を２回実施します。また、実習に関するガイダンスを２年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、２年次後期のガイダンス等で確認してください。
オフィス・アワー	教務課キャリア支援係へ相談ください．適宜、担当教員と連絡調整します（月～金、9:00～17:00）.		

授業計画

回	授業担当者	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)
1	競技スポーツ論・実習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ授業担当教員	【事前学習】	
2		① オリエンテーション：スポーツコーチ実習の意義・目的・内容	①WebClassにより復習
3		② 訪問先の選択及び施設等研究	②実習先研究レポートの作成
4		③ 事前準備（履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等）	③事前準備の資料等作成
5		④ スポーツコーチ実習受け入れ先等からの講話とグループディスカッション	④WebClass により復習
6		【実習活動】	
7		⑤ スポーツコーチ指導実習（1単位：1週間／30ｈ、2単位：2週間／60ｈ）	⑤実習日誌の作成、挨拶状作成
8		【事後学習】	
		⑥ スポーツコーチ体験の分析・評価及び今後の展望	⑥所感文の作成
		⑦ 事後報告①（スポーツコーチ体験の発表会等）	⑦発表資料の作成
		⑧ 事後報告②（スポーツコーチ体験の発表会等）	⑧WebClass により復習

授業科目名	スポーツ指導実習 (生涯スポーツ指導実習)	授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)
担当教員名	前田（博）、中垣内、沼尾、北村、坂口、隅野、棟田		補助担当者名		
単位数	１単位（1週間）又は 2単位（2週間）	履修年次	３年次	受け入れ人数	
授業の概要	本実習では，将来のスポーツ指導者としての専門職に必要な理論の学習を基礎に，さらに，より実践的な指導力を育成するため，各専門領域に関連する実際のスポーツ指導現場での指導実習を実施することとしています．そこでは，実際のスポーツ現場における指導実習や生の体験を通して，学生の専門的な知識や指導技術を高め，ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、リーダーシップ	授業期間				定期試験	その他（　）	割合(%)
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成). ・指導体験を記述・説明する（実習日誌の作成）. ・指導体験を分析・評価する（所感文等の作成）.			○			大学評価	20
	■情意的領域	・事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる. ・指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる. ・実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる.	○					大学及び実習先評価	60
	■技能的領域	・ビジネスマナー及び一般常識を身につける. ・指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○					実習先評価	20

成績評価の基準	設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする.		
テキスト、教材 参考書	①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」をWebClassを用いて配布. 参考図書は、授業時に推薦する.		
履修条件・関連科目	○スポーツ学総論（２単位）を修得していなければならない。 ○「生涯スポーツ論・演習Ⅰ」「生涯スポーツ論・実習Ⅱ」及び「生涯スポーツ論・演習Ⅲ」を履修しなければならない。	備考（教員メッセージ含む）	本実習は、原則として夏期休業中の１週間又は２週間とし、履修可能単位数は２単位（１単位最低５日間）、１単位だけ履修する場合は１週間（最低５日間）を２回実施します。また、実習に関するガイダンスを２年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、２年次後期のガイダンス等で確認してください。
オフィス・アワー	各担当教員の研究室において、随時（月～金、9:00～17:00）.		

授業計画

回	授業担当者	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)
1	前田（博）、中垣内、北村、坂口	【事前学習】	
2		① オリエンテーション：生涯スポーツ指導実習の意義・目的・内容	①WebClassにより復習
3		② 訪問先の選択及び施設等研究	②実習先研究レポートの作成
4		③ 事前準備（履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等）	③事前準備の資料等作成
5		④ 生涯スポーツ関連講師による講和とレポート	④WebClass により復習
6		【実習活動】	
7		⑤ 生涯スポーツ指導実習（2単位：2週間）	⑤実習日誌の作成
8		【事後学習】	
		⑥ 生涯スポーツ指導体験の分析・評価及び今後の展望	⑥所感文の作成
		⑦ 事後報告①（生涯スポーツ指導体験の発表会等）	⑦発表資料の作成
		⑧ 事後報告②（生涯スポーツ指導体験の発表会等）	⑧WebClass により復習

授業科目名	スポーツ指導実習 (武道指導実習)	授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)
担当教員名	専修武道論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの担当教員		補助担当者名		
単位数	1単位（30時間）又は 2単位（60時間）	履修年次	3年次	受け入れ人数	武道課程3年生全員
授業の概要	本実習では，ディプロマポリシー達成のため，将来の武道指導者として必要な学内においての専門学習を基礎に，更により実践的な指導力を育成するため，柔道や剣道における指導現場での指導実習を実施することとしています．そこでは，実際の現場における生の体験を通して，学生の専門的な知識や指導技術を高め，ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、リーダーシップ	授業期間				定期試験	その他（　）	割合(%)
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成). ・指導体験を記述・説明する（実習日誌の作成）. ・指導体験を分析・評価する（所感文等の作成）.			○	○		大学評価	50
	■情意的領域	・事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる. ・指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる. ・実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる.	○					大学及び実習先評価	30
	■技能的領域	・マナー及び一般常識を身につける. ・指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○					実習先評価	20

成績評価の基準	設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする.
テキスト、教材 参考書	①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」を配布. 参考図書は、授業時に推薦する.

履修条件・関連科目	「スポーツ指導実践概論」及び「専修武道論・実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない	備考（教員メッセージ含む）	本実習は、原則として3年次の5月～2月の間に行います。履修可能単位数は２又は１単位（１単位最低30時間）で実施します。また、実習に関するガイダンスを２年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、２年次後期のガイダンス等で確認してください。
オフィス・アワー	教務課キャリア支援係へ相談ください．適宜、担当教員と連絡調整します（月～金、9:00～17:00）.		

授業計画

回	授業担当者	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)
1	専修武道論・実習Ⅰ～Ⅳの授業担当教員	【事前学習】	
2		① オリエンテーション：武道指導実習の意義・目的・内容	①WebClassにより復習
3		② 訪問先の選択及び施設等研究	②実習先研究レポートの作成
4		③ 事前準備（履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等）	③事前準備の資料等作成
5		④ 実習受け入れ先等からの講話とグループディスカッション	④WebClass により復習
6		【実習活動】	
7		⑤ 武道指導実習（1単位：通算30ｈ、2単位：通算60ｈ）	⑤実習日誌の作成、挨拶状作成
8		【事後学習】	
		⑥ 学外での指導体験の分析・評価及び今後の展望	⑥所感文の作成
		⑦ 事後報告その1	⑦発表資料の作成
		⑧ 事後報告その2	⑧WebClass により復習

教　職　科　目

授業科目名 (ナンバリングコード)	教師論 (151A0-1300)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	山本　一生			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	教育とはどのような営みか、学校は何をするところか、教師の仕事とは何か、といった原理的な問いについて概説する。こうした問いを大切にしながら、教職の専門性の基礎をなす教養を身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養･倫理、専門的な知識･教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	講義内容について理解し、自分の考えをレポートに記述することができる。 教員の役割、倫理、制度、求められる資質・能力などについての基礎的知識を身につける。			○		○		50
	■情意的領域	授業に毎回出席をし、主体的に授業に参加する。 意欲的に課題に取り組む。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業への取り組み（50%），小レポートと筆記試験（50%）による総合評価を行い、60点以上の者を合格とします。		
テキスト、教材 参　考　書	・テキストは，次のものを購入すること。 『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示　文部科学省）『高等学校学習指導要領』（平成29年3月告示　文部科学省） ・参考書として，次のものを推薦する。『ワークで学ぶ教育学』井藤元編（ナカニシヤ出版、2015年、2500＋税）		
履修条件・ 関連科目	教職関連科目全般	備考(教員メッセージ含む)	事前に配付された資料プリントや予告されたテキストの指定箇所については予め熟読して授業に臨むこと。
オフィス・アワー	随時。研究棟3階308号室 ※ただし、訪問の際には事前にメール等でアポイントを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山本　一生	開講にあたって（ガイダンス）	授業資料の復習（30分）
2	〃	教職の意義と役割、教育課程と教員免許制度	授業資料の復習（30分）
3	〃	教員の職務内容、教職の特性	授業資料の復習（30分）
4	〃	学級経営、チーム学校としての運営	授業資料の復習（30分）
5	〃	現代社会と学校教育（１）――教育課程と学力の問題	授業資料の復習（30分）
6	〃	現代社会と学校教育（２）――学校で培われるジェンダーの問題	授業資料の復習（30分）
7	〃	現代日本の教育理念（１）――教育基本法（旧法と新法）	授業資料の復習（30分）
8	〃	現代日本の教育理念（２）――学習権の保障	授業資料の復習（30分）
9	〃	現代日本の教育理念（３）――教育の自律性	授業資料の復習（30分）
10	〃	教職の専門性を考える（１）――教職の意義と教師の役割	授業資料の復習（30分）
11	〃	教職の専門性を考える（２）――教師の職務内容	授業資料の復習（30分）
12	〃	教職の専門性を考える（３）――研修・服務・身分保障	授業資料の復習（30分）
13	〃	教員養成制度の改革	授業資料の復習（30分）
14	〃	ライフイメージのなかで教職を考える――進路選択のために	授業資料の復習（30分）
15	〃	授業のまとめ、振り返り	授業資料の復習（1時間）
16	〃	学期末試験	授業の復習

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育心理学 (151A0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	中本　浩揮			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	学校教育は児童生徒がより豊かな人生を送るための人格成長を発達過程を含めて考える必要がある。本授業では，そのような教育実践に欠かせない教育心理学の基礎知識として，個性を活かす児童生徒の理解，学習指導の方法，教育効果の評価を身につける。具体的には，個性を生かすための生徒理解として，発達，人格，動機づけ，学習指導の方法として，記憶のメカニズム及び学習理論の応用，さらに，教育効果の評価を適切に行うために学力観，教育評価の方法について学習する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育現場で実践するための心理学的知識を説明できる。 教育心理学の知識に基づいて、教育現場での課題について考えることができる。	○	○			○		70
	■情意的領域	教育心理学の知見を教育実習や教育現場、あるいはスポーツの指導現場を想定しながら積極的な姿勢で学ぶことができる。	○						20
	■技能的領域	各領域の講義内容に対して、適切なまとめができる。	○		○				10

成績評価の基準	小テスト，授業後の感想，レポート，及び学期末試験を実施する。これらを総合して成績評価を行う。出席２/３未満の者は放棄扱いとし評価しない。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しないが，必要に応じて資料を配付する。 参考書：桜井茂男編「最新　たのしく学べる教育心理学」図書文化		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	受講人数が多いため基本的に1 年生の受講は認めない。 毎回小テストを行うので，前回授業の復習をして授業に望むこと。
オフィス・アワー	随時(707教員室)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中本　浩揮	オリエンテーション　教育心理学とは？	教育心理学の学修内容の復習(30分)
2	〃	発達①　発達の捉え方と発達の一般法則	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
3	〃	発達②　発達の規定因と教育観	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
4	〃	発達③　発達段階と発達課題～乳児期から幼児期まで～	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
5	〃	発達④　発達段階と発達課題～児童期から青年期まで～	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
6	〃	人格①　パーソナリティーの諸理論	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
7	〃	人格②　パーソナリティーの形成と測定	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
8	〃	動機づけ①　動機づけ諸理論	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
9	〃	動機づけ②　動機づけの規定因	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
10	〃	動機づけ③　教育と動機づけ	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
11	〃	学習①　記憶のメカニズム	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
12	〃	学習②　運動と記憶	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
13	〃	学習③　学習諸理論と教授方法	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
14	〃	学級集団の理解	小テストに向けての復習・考察ミニレポート(1時間)
15	〃	教育評価	期末試験に向けての復習(1時間)
16	〃	学期末試験	期末試験に向けた復習(5時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	特別支援教育 (151A0-1302)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	1	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童・生徒が抱える学習上又は生活上の困難さの解決及び学校適応の促進のために、特別支援教育に関する制度の理念と仕組み、教育課程、発達障害等の特徴や支援、支援体制の構築について理解する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養･倫理、専門的な知識･教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	講義内容を理解し、意見をレポートに記述することができる。 特別支援教育に関する基礎的知識を身につけている。			○				40
	■情意的領域	授業に毎回参加し、レポートを提出する。また、グループワーク等に主体的に参加する。			○				60
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業への参加および最終レポートを総合して評価する。 また、３回以上欠席した場合には単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	特別支援学校学習指導要領（幼稚部・小学部・中学部・高等部)		
履修条件・ 関連科目	教職科目全般	備考(教員メッセージ含む)	レポート(授業時間と最終)が課されます。
オフィス・アワー	随時：事前にメールでアポをとってください。 605教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	インクルーシブ教育システム	授業資料の復習（30分）
2	〃	特別支援教育に関する教育課程と個別の教育支援計画・個別の指導計画	授業資料の復習（30分）
3	〃	障害のある子どもの特徴	授業資料の復習（30分）
4	〃	障害のある子どもへの支援	授業資料の復習（30分)
5	〃	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱のある子どもの特徴	授業資料の復習（30分
6	〃	母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある子どもの特徴	授業資料の復習（30分）
7	〃	関係機関や家庭と連携した支援体制の構築	授業資料の復習（30分）
8	〃	授業のまとめ	授業資料の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	道徳の理論と指導法 (151A0-1303)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	山本　一生・栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2	受け入れ人数	150人程度
授業の概要	道徳と道徳教育について、その意義や原理、道徳性の発達の側面から理解する。また、現代社会における道徳教育の課題について考え、学校で取り組む道徳教育の役割と指導法、そして評価についての知識と技能を身につける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養･倫理、専門的な知識･教養	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	授業内容を理解し、自分の考えを述べることができる。 道徳教育を実践するための基本的な知識を身につけている。			○				50
	■情意的領域	授業に毎回出席し、主体的に授業に参加する。 課題に対して意欲的に取り組む。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業への参加状況・レポート・課題提出状況を総合的に評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領　特別の教科　道徳編』(平成29年告示)156円＋税 参考書：必要に応じて、授業中に随時紹介します。また、参考資料は適宜配付します。		
履修条件・ 関連科目	教職科目全般	備考(教員メッセージ含む)	授業内での小レポート作成、「特別の教科　道徳」の学習指導案の作成課題、模擬授業があります。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。 栗山：研究棟6階 605教員研究室 山本：研究棟3階 308教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山本　一生	オリエンテーション一道徳教育とは何か	授業資料の復習(30分)
2	〃	道徳教育の意義と課題	授業資料の復習(30分)
3	〃	道徳性の発達に関する理論	授業資料の復習(30分)
4	〃	道徳教育の歴史①戦前の修身教育	授業資料の復習(30分)
5	〃	道徳教育の歴史②戦後教育における道徳教育	授業資料の復習(30分)
6	栗山　靖弘	学習指導要領と道徳教育	授業資料の復習(30分)
7	〃	道徳科の内容と指導法	授業資料の復習(30分)
8	〃	学校における道徳教育の取り組み	授業資料の復習(30分)
9	〃	道徳教育の年間計画と学習指導案	授業資料の復習(30分)
10	〃	道徳の評価	授業資料の復習(30分)
11	山本　一生 栗山　靖弘	模擬授業の準備	授業資料の復習(30分)と模擬授業の準備(1時間)
12	〃	模擬授業	授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)
13	〃	模擬授業	授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)
14	〃	模擬授業	授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)
15	〃	模擬授業	授業資料の復習(30分)および模擬授業の振り返り(30分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	総合的な学習の時間の指導法 (151A0-1304)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	山本　一生・栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	3	受け入れ人数	100名程度
授業の概要	授業の前半では、学習指導要領や実践事例の理解を通じて、総合的な学習／探究の時間の目標・内容・評価等についての理解を深める。後半では、指導計画の作成をベースに、発表とディスカッションを行い、総合的な学習／探究の時間の単元構成ができるようになることを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養･倫理、専門的な知識･教養 （コミュニケーション力、キャリアデザイン力、課題解決力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	「総合的な学習の時間」の基礎的な意義・目標・内容について、説明することができる。「総合的な学習の時間」における課題解決のプロセスと指導方法を説明することができる。			○				50
	□情意的領域								
	■技能的領域	他の受講者とコミュニケーションを取りながら、「総合的な学習の時間」の指導計画を作成することができる。			○	○			50

成績評価の基準	レポート、発表および授業への積極的な参加の度合いを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	・毎回、資料を配付する。 ・テキストは以下のものを購入すること。 ①「中学校学習指導要領(平成２９年告示)解説　総合的な学習の時間編」(文部科学省、2019年、228円＋税) ②「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説　総合的な探究の時間編」(文部科学省、2019年、270円＋税) ・その他、参考文献は適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	教職科目全般	備考(教員メッセージ含む)	中学校・高等学校の教員免許状の取得を目指している者は履修すること。
オフィス・アワー	山本：随時(事前にメールでアポをとること)、308教員研究室 栗山：随時(事前にメールでアポをとること)、605教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	総合的な学習／探究の時間の目標と意義	授業資料の復習(30分)
2	〃	総合的な学習／探究の時間の目標と内容① (横断的・総合的な課題と学習)	授業資料の復習(30分)
3	〃	総合的な学習／探究の時間の目標と内容② (地域や学校の特色に応じた課題)	授業資料の復習(30分)
4	〃	総合的な学習／探究の時間の授業方法	授業資料の復習(30分)
5	山本　一生	総合的な学習／探究の時間の評価	授業資料の復習(30分)
6	〃	総合的な学習／探究の時間の年間指導計画・単元計画の事例	授業資料の復習(30分)
7	〃	総合的な学習／探究の時間の単元計画の作成	授業資料の復習(30分)
8	〃	単元計画の発表とディスカッション	最終レポートに向けて、授業内容全体を復習する(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	特別活動論 (151A0-1305)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	浜田　幸史・栫　ちか子			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	170名程度
授業の概要	集団生活を営む学校において、集団活動や体験的な活動を通してよりよい人間関係形成能力を育成する特別活動は、「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」から構成されている。この活動は、社会に参画するために必要となる自主的・実践的な態度や自治的能力を育成する観点からも重要な要素を含んでいる。本授業では、特別活動の趣旨、その目的、具体的な活動内容や教育課程上の位置付けなどについて、基礎的な理解を深めながら教師の適切な関わり方など学校生活における実践的な取組を学ぶ。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養 （指導者基礎力）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	特別活動の意義、特別活動を構成している「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の特質について理解している。					○		50
	■情意的領域	特別活動の意義等を理解するために、積極的に授業に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	特別活動を構成している「学級活動」、「生徒会活動」、「学校行事」の具体的な実施計画や工夫に富んだ通信物を作成することができる。	○		○				20

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート、定期試験等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄と見なし、定期試験の受験を認めません。		
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別活動編』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説　特別活動編』		
履修条件・ 関連科目	関連科目は、教職科目全般です。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。よりよい学級、学年、学校をつくるために特別活動を推進できる教員を目指してもらいたいです。
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟６階608教員研究室） 栫（研究棟７階703教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	浜田　幸史 栫　ちか子	オリエンテーション、特別活動とは	授業内容の復習（30分）
2	〃	特別活動に期待される教育の効果	授業内容の復習（30分）
3	〃	学級活動	授業内容の復習（30分）
4	〃	生徒会活動	授業内容の復習（30分）
5	〃	学校行事	授業内容の復習（30分）
6	〃	特別活動のデザイン テーマを基にした実施計画の作成	授業内容の復習（30分） 実施計画の作成（２時間）
7	〃	特別活動への教員の適切な関わり テーマを基にした通信物の作成	授業内容の復習（30分） 通信物の作成（２時間）
8	〃	授業のまとめ、学期末試験	学期末試験内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育方法・技術 (151A0-1306)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2	受け入れ人数	150人程度
授業の概要	学校における「授業づくり」を中心的に学ぶ科目である。特に、「授業」という営みを構成している要素や、主要な教授法について理解することを目的として講義を行う。学校現場の具体的な事例をとりあげながら、授業の設計と実施、指導案の作成等について考えていく。また、教育評価、授業研究、学力、知識に関する理論についても学習する。近年の学校現場では情報通信技術を用いた教育実践も行われているため、それらの機器の種類や基本的な使用法、メディア・リテラシーについても学習する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、一般教養・倫理 （指導者基礎力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育方法・技術に関する基礎的知識と実践を理解している。 また、それをもとに自分の意見を述べることができる。			○				40
	■情意的領域	授業に毎回出席し、レポートを提出する。また、グループワーク等の活動に主体的に参加し、課題に意欲的に取り組む。			○				60
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業参加状況・課題・レポートを総合的に評価します。 出席が2/3を下回った場合には、単位認定の対象外とします。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：特に指定しない。授業は配付資料を用いて行う。 参考書：授業中に必要に応じて紹介・配付する。		
履修条件・ 関連科目	教職関連科目全般	備考(教員メッセージ含む)	教員を志望している学生が受講していることを前提に講義を行います。 保健体育の教員は、保健と体育という、座学と実技の両方の授業を行わなければなりません。また、総合的な学習の時間や特別活動も担当することになります。そうした授業を実施するうえでの基盤となる知識や考え方を修得するための科目だと認識してください。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。研究棟6階　605教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	教育方法・技術について―オリエンテーション	授業の復習(60分)
2	〃	学習指導の基本原理	授業の復習(60分)
3	〃	指導技術の基礎	授業の復習(60分)
4	〃	教育方法と「言語活動の充実」	授業の復習(60分)
5	〃	学習指導の形態	授業の復習(60分)
6	〃	教材と学習環境	授業の復習(60分)
7	〃	知識と学習	授業の復習(60分)
8	〃	教育評価	授業の復習(60分)
9	〃	授業研究	授業の復習(60分)
10	〃	学習指導案①実例と作成	授業の復習(60分)
11	〃	学習指導案②グループでの検討	授業の復習(60分)
12	〃	情報機器の活用①情報教育とICT(デジタル教材を含む)	授業の復習(60分)
13	〃	情報機器の活用②思考力とメディア・リテラシー	授業の復習(60分)
14	〃	授業づくりの実際―現場の教師の経験から	授業の復習(60分)
15	〃	授業のまとめ	授業の復習(60分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	学校と教育の歴史 (151A0-1307)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	山本　一生			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	1年次	受け入れ人数	１６０名程度
授業の概要	先人が行ってきた教育実践やその思想を歴史的に概観し、教育の基本的概念や本質について考えるとともに、過去から現在に至るまでの学校の変遷を理解する。前半は主に西洋の教育思想を扱い、後半は日本の教育制度、特に学校制度の歴史を扱う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	講義内容について理解する。学校と教育の歴史における基礎的知識を身につけ、重要事項について説明できる。 教育の現代的課題について、歴史的視点から客観的に考えることができる。					○		50
	■情意的領域	授業に毎回出席をし、主体的に授業に参加する。 意欲的に課題に取り組む。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業参加状況、小レポート、学期末試験を総合的に評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：『教育原理 (よくわかる! 教職エクササイズ)』ミネルヴァ書房、2018年 参考書：『増補改訂版　ワークで学ぶ教育学』ナカニシヤ出版、2020年ほか随時紹介します。		
履修条件・ 関連科目	教職課程を履修していること。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時、研究棟3階308号室 ※ただし、訪問の際には事前にメール等でアポイントを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山本　一生	オリエンテーション、教育とは何か	授業資料の復習（３０分）
2	〃	人間と文化	授業資料の復習（３０分）
3	〃	古代ギリシア・ローマの教育	授業資料の復習（３０分）
4	〃	中世ヨーロッパの思想と教育①：キリスト教と教育	授業資料の復習（３０分）
5	〃	古代中国の思想、古代日本の教育	授業資料の復習（３０分）
6	〃	中世日本の教育	授業資料の復習（３０分）
7	〃	近世日本の教育：江戸時代の武士・庶民の教育	授業資料の復習（３０分）
8	〃	中世ヨーロッパの思想と教育②：ルネサンスとヒューマニズム	授業資料の復習（３０分）
9	〃	ヨーロッパの教育の近代化：子供の誕生・近代学校の誕生	授業資料の復習（３０分）
10	〃	近代教育制度の成立と展開	授業資料の復習（３０分）
11	〃	近代日本の教育①：学校制度の確立	授業資料の復習（３０分）
12	〃	近代日本の教育②：大正デモクラシーと教育	授業資料の復習（３０分）
13	〃	近代日本の教育③：戦時体制下の教育	授業資料の復習（３０分）
14	〃	戦後の日本の教育改革	授業資料の復習（３０分）
15	〃	これからの教育改革の動向：現代社会の教育課題	授業資料の復習（３０分）
16	〃	学期末試験	授業の復習

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育法・教育行政 (151A0-1308)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	教育法・教育行政の理論や教育に関する法令等を解説することによって、受講生が教育法・教育行政の基礎知識を身につけることができるようになることを目標とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育法・教育行政の基礎知識を身に付ける。教員採用試験の教育放棄の問題の解き方を身に付ける。		○			○		90
	■情意的領域	授業に積極的に参加し、復習問題に取り組む。	○		○				10
	□技能的領域								

成績評価の基準	学期末試験の成績、小テストの成績、毎回の授業時に課される復習問題（レポート）への取組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：『ガイドブック教育法』（三省堂、新訂版）、朝倉征夫編『おさえておきたい教育法規』（酒井書店）『憲法と教育人権』（日本評論社）、『解説　教育六法』（三省堂、2019年版）		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	森：水曜日、木曜日の午後（５０８研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	オリエンテーション：講義全体の構成・進め方の解説、教育行政・法規の基本原理	履修要項・シラバスの予習（10分以上）
2	〃	教育法・教育行政の全体構造	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
3	〃	教育の基本理念に関する規定①（日本国憲法の教育関連規定）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
4	〃	教育の基本理念に関する規定②（教育基本法の規定①）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
5	〃	教育の基本理念に関する規定③（教育基本法の規定②）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
6	〃	教育の基本理念に関する規定④（教育基本法の規定③）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
7	〃	教育行政の理念と仕組み①（地教行法による教育委員会に関する規定）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
8	〃	教育行政の理念と仕組み②（地教行法による教育委員会に関する規定）+小テスト	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
9	〃	学校教育に関する規定①（学校の管理・経費の負担）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
10	〃	学校教育に関する規定②（学校の目的・目標①）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
11	〃	学校教育に関する規定③（学校の目的・目標②）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
12	〃	学校と地域との連携①（学校評議員制度）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
13	〃	学校と地域との連携②（学校運営協議会制度）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
14	〃	学校安全への対応①（学校保健安全法の規定①）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
15	〃	学校安全への対応②（学校保健安全法の規定②）	テキスト・資料の予習・復習（30分以上）
16	〃	学期末試験	

授業科目名 (ナンバリングコード)	介護等体験 (151A0-6300)	授業形態	実習	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	介護等体験小委員会			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	―
授業の概要	高齢者や障がい者に対する思いやりや心の痛みについて理解し、各人の価値観の相違を認めることができる人間を育成する。 小学校、中学校教諭の普通免許状の取得に義務付けられています。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	コミュニケーション力、課題解決力、一般教養・倫理	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域								
	■情意的領域								
	■技能的領域								

成績評価の基準	事前指導のオリエンテーション、ガイダンス、ならびに２回の特別講義。 特別支援学校での２日間の実習、社会福祉施設での５日間の実習、それぞれに関するレポートの提出。 以上のいずれかが欠けた場合、単位は認定されない。		
テキスト、教材 参　考　書	適時配付する。		
履修条件・ 関連科目	中学校教諭一種免許状取得希望者は必ず履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	実習経費は自己負担要です。特別支援学校での実習、社会福祉施設での実習、介護等体験賠償責任保険、の合計が１万円程度です。 ○実務経験のある教員による授業科目：特別支援学校及び社会福祉施設の職員が実習を担当
オフィス・アワー	キャリア支援係　８：３０～１７：１５		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	介護等体験小委員会	オリエンテーション	復習（３０分）
2	〃	「特別支援学校での実習」の実習先、日程の調整と決定	実習施設の確認（３０分）
3	〃	「特別支援学校での実習」に向けての特別講義	復習（３０分）
4	〃	「社会福祉施設での実習」の実習先、日程の調整と決定	実習施設の確認（３０分）
5	〃	「社会福祉施設での実習」に向けての特別講義	復習（３０分）
6	〃	服装、身だしなみ、マナーの特別講義・実習	復習（３０分）
7	〃	特別支援学校での実習　２日間	日誌の作成（３０分×２日）
8	〃	社会福祉施設での実習　５日間	日誌の作成（３０分×５日）
9	〃	事後指導	復習（３０分）
10	〃	レポート提出	日誌の作成（３０分×２日）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生徒・進路指導論 (151A0-1309)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3	受け入れ人数	150人程度
授業の概要	生徒指導の意義や原理、学校現場での実際の進め方について理解することを目的とする。生徒指導の課題は時代とともに変遷している。そのため、生徒指導上の今日的課題を理解し、個別・集団での指導法や、教員間および専門家・関係機関との連携について理解する。さらに、生徒の人間形成を長期的な視点から支援することを目指す教育活動として、進路指導・キャリア教育の意義と指導法について理解する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、一般教養･倫理、専門的な知識･教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	講義内容を理解し、生徒・進路指導について自分の考えを述べることができる。 学校教育を取り巻く諸問題について、その社会的背景や解決のためのアプローチを考察することができる。			○				40
	■情意的領域	毎回、授業に出席し、レポートを提出する。 また、授業中のグループワーク等の活動に主体的に参加し、課題に意欲的に取り組む。	○						60
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業参加状況、レポートを総合的に判断して評価します。 出席回数が2/3を下回った場合には単位認定の対象外とします。		
テキスト、教材 参　考　書	テキスト：文部科学省, 2010,『生徒指導提要』(337円＋税) 参考書：その他の参考書等は、必要に応じて授業中に随時紹介・配付します。		
履修条件・ 関連科目	教職関連科目全般	備考(教員メッセージ含む)	教員を志望している学生が受講していることを前提に講義を行います。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。研究棟6階 605教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	生徒指導の意義と原理	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
2	〃	教育課程と生徒指導	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
3	〃	生徒理解と集団・個別指導の方法	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
4	〃	学校における生徒指導体制	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
5	〃	学級担任・教科担任の立場と役割等	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
6	〃	居場所としての学級(規範意識の醸成および自己肯定感の育成)	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
7	〃	生徒指導の実際ー現場の教師の経験から	授業の復習(60分)
8	〃	生徒指導の諸課題①生徒文化と少年非行	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
9	〃	生徒指導の諸課題②情報・消費社会のなかの生徒	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
10	〃	生徒指導の諸課題③いじめ問題	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
11	〃	生徒指導の諸課題④不登校	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
12	〃	生徒指導の諸課題⑤グループでの事例検討	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
13	〃	進路指導とキャリア教育①キャリア教育の意義と位置づけ	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
14	〃	進路指導とキャリア教育②ガイダンスとしての進路指導	テキストの予習(30分)、授業資料の復習(30分)
15	〃	授業のまとめ	授業資料の復習(60分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育相談・カウンセリング論 (151A0-1310)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	中本　浩揮・幾留　沙智・山下　協子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	200名程度
授業の概要	現代の教育現場では子どもの不適応あるいは発達障がいなど対応すべき事項が多様化している。そのため、教育相談における現代的課題の理解や解決に関する実際的に応用可能な基礎技能を身に付けることは教師としての責務といえる。本講義では、教育現場の事例を通して、カウンセリングの基礎、臨床現場におけるカウンセリングと学校現場における教育相談の違いについての理解を深める。また、様々な不適応行動や発達障がいに対する現状と心理学から見た理論・対処法の学習を通じて、教育相談の意義を理解したり、組織的な取組みや連携の必要性について理解する。さらに種々の問題を予防する開発的カウンセリングとして、構成的グループ・エンカウンターの実際について体験を通して身に付ける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養							
	■認知的領域	教育現場で生じる生徒の心の問題や発達障がいに対処できる知識を身につける。	○	○	○		○		60
	■情意的領域	教育相談・カウンセリングの基礎理論や意義，学校教育との関係に関する理解を深める。	○	○	○		○		20
	■技能的領域	子どもの自己理解・他者理解・社会性を発達させる実践的スキルを身に付ける。		○	○		○		20

成績評価の基準	小テスト、授業後の感想、レポート、及び学期末試験を実施する。これらを総合して成績評価を行う。出席２/３未満の者は放棄扱いとし評価しない。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配付する。		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	受講人数が多いため基本的に１・２年生の受講は認めない。
オフィス・アワー	随時(707教員室)		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中本　浩揮	なぜ学校現場にカウンセリングが必要か？	カウンセリングの必要性について復習する(30分)
2	〃	カウンセリングの基礎と生徒理解	カウンセリングの基礎について復習する(30分)
3	〃	カウンセリングの基礎と傾聴技法	小テストに向けての復習(30分)
4	〃	カウンセリングの体験　自己式カウンセリング	カウンセリングについての復習(30分)
5	山下　協子	カウンセリングの実際と学校連携	小テストに向けての復習(30分)
6	中本　浩揮	問題行動の実際　不登校	小テストに向けての予習(30分)
7	山下　協子	不登校児の理解とカウンセリング的対応	小テストに向けての復習・レポート(1時間)
8	中本　浩揮	問題行動の理解と教育相談	小テストに向けての復習(30分)
9	〃	問題行動の実際　いじめ	小テストに向けての復習(30分)
10	〃	問題行動の理解と対応　いじめ	小テストに向けての復習(30分)
11	幾留　沙智	開発的カウンセリングの考え方と現場での応用事例	予防的カウンセリングの予習と小テストに向けての復習(30分)
12	〃	構成的グループ・エンカウンターの基礎と実際	小テストに向けての復習・レポート(1時間)
13	中本　浩揮	発達障がいの理解と対応①　ADHD	小テストに向けての復習(30分)
14	〃	発達障がいの理解と対応②　自閉症スペクトラム	小テストに向けての復習(30分)
15	〃	教育・相談カウンセリングの総括	期末試験に向けての復習(1時間)
16	中本　浩揮 幾留　沙智	学期末試験	期末試験の復習(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育課程論 (151A0-1311)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (教職)
担当教員名	山本　一生			補助担当者名	
単位数	1　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	180名程度
授業の概要	教育課程編成の原理・原則や編成の基準、今日的課題への対応等を概説し、学校における教育課程の位置付け並びに教育課程の歴史的変遷、学習指導要領の意義を理解する。また、これらの知識を活用した教育課程の実際についての学習ノートを作成し、説明ができるようにする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	一般教養・倫理、専門的な知識・教養 （指導者基礎力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学習指導要領総則を理解している。 教育課程の概念を説明している。					○		50
	■情意的領域	教育課程の理解に向けて、学習ノートなどを活用して意欲的に取り組もうとする。	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記に示した割合で出席状況や期末試験等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	〈テキスト〉 文部科学省「中学校学習指導要領解説（総則編）」及び「高等学校学習指導要領解説（総則編）」		
履修条件・ 関連科目	「中学校教諭一種免許状（保健体育）」、「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」を取得しようとする者は受講すること。 教職科目全般	備考(教員メッセージ含む)	教育課程編成の一般方針や歴史的変遷などを学びます。本講座は時間割等を編成するための拠り所になります。
オフィス・アワー	随時（研究棟3階308号室） ※ただし、訪問の際には事前にメール等でアポイントを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山本　一生	教育課程とは何か　学校区分による日本の教育課程の編成	授業内容の復習（30分）
2	〃	カリキュラム概念の成立と変遷	授業内容の復習（30分）
3	〃	「顕在的カリキュラム」と「潜在的カリキュラム」	授業内容の復習（30分）
4	〃	教育課程に関する法と制度	授業内容の復習（30分）
5	〃	学習指導要領の歴史的変遷	レポート作成（２時間）
6	〃	カリキュラム・マネジメント	授業内容の復習（30分）
7	〃	主体性の育成	授業内容の復習（30分）
8	〃	全体まとめと学期末試験	学期末試験内容の復習（１時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅰ (152A0-1300)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	浜田　幸史・栫　ちか子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	170名程度
授業の概要	本授業では、保健体育教員を目指すためのガイダンス的内容を取り上げる。特に、保健体育教員として身に付けておかなければならない資質・能力に関する内容としての授業づくりや教材研究の進め方、部活動指導への関わり方などについて理解を深めることができるようにする。さらに、学級経営や生徒指導など学級担任として果たさなければならない役割等についても理解することができるようにする。また、都道府県及び政令指定都市における教員採用選考試験の内容についても調べ、見通しを立てながら計画的に準備を進めることができるようにする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養 （一般教養・倫理）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	保健体育教員として身に付けておかなければならない資質・能力や教育課題について理解している。	○				○		50
	■情意的領域	保健体育教員として身に付けておかなければならない資質・能力や教育課題について理解するために、授業に積極的に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	教員採用選考試験の動向、運動部活動の在り方について考察したことをわかりやすく書き表すことができる。			○				20

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート、定期試験等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄とみなし、定期試験の受験を認めません。		
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編』 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編　体育編』 杉山重利・佐藤豊・園山和夫編著『新・目指そう保健体育教師』朝日出版社 伊藤博子著『保健体育教師になろう』大修館書店		
履修条件・ 関連科目	関連科目は、教職科目全般です。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 保健体育教員を目指すに当たってのガイダンス的内容を学習します。本科目を受講して教職についての理解を一層深め、保健体育科教育法Ⅱ～Ⅳの履修に向けての見通しを立ててください。
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟６階608教員研究室） 栫（研究棟７階703教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	浜田　幸史 栫　ちか子	オリエンテーション、保健体育教員の仕事	授業内容の復習（30分）
2	〃	我が国の学校と教員、今日的教育課題	授業内容の復習（30分）
3	〃	保健体育教員を目指すには 出身地の「教員採用選考試験の動向」についてのレポート	授業内容の復習（30分） レポート作成（２時間）
4	〃	保健体育教員に求められる資質・能力とは	授業内容の復習（30分）
5	〃	体育授業の指導１	授業内容の復習（30分）
6	〃	体育授業の指導２	授業内容の復習（30分）
7	〃	体育授業の指導３	授業内容の復習（30分）
8	〃	体育理論授業の指導	授業内容の復習（30分）
9	〃	保健授業の指導１	授業内容の復習（30分）
10	〃	保健授業の指導２	授業内容の復習（30分）
11	〃	運動部活動の指導 「運動部活動の在り方」についてのレポート	授業内容の復習（30分） レポート作成（２時間）
12	〃	学級担任の仕事	授業内容の復習（30分）
13	〃	教育実習のねらいと実際	授業内容の復習（30分）
14	〃	教育実習Ｑ＆Ａ	授業内容の復習（30分）
15	〃	教員採用選考試験合格を目指して	授業内容の復習（30分）
16	〃	学期末試験	学期末試験内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅱ (152A0-1301)	授業形態	講義	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	浜田　幸史・栫　ちか子			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	2年次	受け入れ人数	170名程度
授業の概要	本授業は、学習指導要領の内容を基盤として、保健体育を構成している各運動領域、体育理論及び保健について解説し、学校における保健体育学習に対する総括的な理解を深めることをねらいとする。このことを通して、保健体育学習の「目標―内容－指導－評価」の一体化を図る指導の在り方や授業の構造について理解を深め、単元及び単位時間の授業計画立案についての基礎知識を習得するよう取り組む。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、専門的な知識・教養 （事業運営力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	保健体育科の目標及び内容，指導計画の作成と内容の取扱い等について理解している。					○		50
	■情意的領域	保健体育を構成している各運動領域、体育理論、保健について理解を深め、授業に積極的に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	年間指導計画、単元計画、単位時間の指導計画及び学習指導案を作成することができる。			○				20

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート、定期試験等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄とみなし、定期試験の受験を認めません。		
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』及び『高等学校学習要領（平成30年告示）解説保健体育編　体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 保健体育』		
履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰを履修し、その単位を修得していることを履修条件とします。 ３年次の保健体育科教育法Ⅲ及びⅣ、４年次の教育実習Ⅰ・Ⅱの基礎固めとなる授業になります。 関連科目は、教職科目全般です。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 学習指導要領の内容を理解し、学習指導案を作成できるようになることが、３年次の保健体育科教育法Ⅲ、保健体育科教育法Ⅳ、４年次の教育実習の充実につながります。
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟６階608教員研究室） 栫（研究棟７階703教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	浜田　幸史 栫　ちか子	オリエンテーション 保健体育科とは	授業内容の復習（30分）
2	〃	学習指導要領とは	授業内容の復習（30分）
3	〃	体育学習の指導①（体つくり運動）	授業内容の復習（30分）
4	〃	体育学習の指導②（器械運動）	授業内容の復習（30分）
5	〃	体育学習の指導③（陸上競技）	授業内容の復習（30分）
6	〃	体育学習の指導④（水泳）	授業内容の復習（30分）
7	〃	体育学習の指導⑤（球技）	授業内容の復習（30分）
8	〃	体育学習の指導⑥（武道）	授業内容の復習（30分）
9	〃	体育学習の指導⑦（ダンス）	授業内容の復習（30分）
10	〃	体育学習の単元計画・学習指導案の作成	学習指導案の作成（３時間）
11	〃	体育学習の単元計画・学習指導案の作成	学習指導案の作成（３時間）
12	〃	体育学習の指導⑧（体育理論） 学習指導案（体育分野）の提出	授業内容の復習（30分）
13	〃	保健学習の指導	授業内容の復習（30分）
14	〃	保健学習の単元計画・学習指導案の作成	学習指導案の作成（３時間）
15	〃	保健学習の単元計画・学習指導案の作成、授業のまとめ	学習指導案の作成（３時間）
16	〃	学期末試験 学習指導案（保健分野）の提出	学期末試験内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅲ (152B0-3300)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	浜田　幸史・栫　ちか子・鵜木　親志			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	120名
授業の概要	保健体育科教育法Ⅰ及び保健体育科教育法Ⅱで身に付けたことを踏まえて、４年次の教育実習に向けた実践力を身に付けるために、保健体育科の目標や内容、指導法、評価法等について理論と実際を往還しながら、単元構造図、学習指導案等を作成して模擬授業を行う。 模擬授業の実施に当たっては、選択領域を「球技」、「体つくり運動」、「体育理論・保健」の３つに分け、その中から各自で２領域を選択して、週休日に計画する５時間の集中講義において２回ずつの模擬授業を行う。その他に５時間の平常授業を実施する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、指導者基礎力、専門的な知識・教養 （リーダーシップ）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解している。			○			○ (振り返り)	20
	■情意的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解するために、授業に自主的に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	指導と評価についての計画を作成することができる。 基本的な指導技術を用いて、模擬授業を行うことができる。	○			○			50

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄と見なします。なお、定期試験は行いません。		
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』		
履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱを履修し、その単位を修得していることを履修条件とします。 通常の授業５回の他に、週休日等に５時間の集中講義を複数回実施します。その内の２回の集中講義に出席可能であることを確認して履修してください。 なお、模擬授業グループの編成をするため、必ず事前に履修登録を済ませ、第１回目の授業に出席してください。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 授業力の高まりは、４年次の教育実習の充実につながります。
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟６階608教員研究室） 栫（研究棟７階703教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	浜田　幸史 栫　ちか子 鵜木　親志	オリエンテーション、授業づくり 模擬授業グループの編成	授業内容の復習（30分）
2	〃	授業づくりの実際 模擬授業グループの確認	授業内容の復習（30分）
3	〃	集中講義１に向けた模擬授業の役割分担、授業構想等	授業内容の復習（１時間）
4	〃	集中講義１（４～８回）５～６月の週休日等での実施 集中講義１－①　指導と評価の計画、教材・教具の作成等	
5	〃	集中講義１－②　指導と評価の計画、教材・教具の作成等	
6	〃	集中講義１－③　模擬授業、授業研究等	
7	〃	集中講義１－④　模擬授業、授業研究等	
8	〃	集中講義１－⑤　模擬授業、授業研究等	模擬授業の反省と分析（２時間）
9	〃	集中講義２に向けた模擬授業の役割分担、授業構想等	授業内容の復習（１時間）
10	〃	集中講義２（10～14回）６～７月の週休日等での実施 集中講義２－①　指導と評価の計画、教材・教具の作成等	
11	〃	集中講義２－②　指導と評価の計画、教材・教具の作成等	
12	〃	集中講義２－③　模擬授業、授業研究等	
13	〃	集中講義２－④　模擬授業、授業研究等	
14	〃	集中講義２－⑤　模擬授業、授業研究等	模擬授業の反省と分析（２時間）
15	〃	模擬授業の振り返り	授業内容の復習（30分）
16	〃	授業のまとめ、よりよい授業づくり	授業内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	保健体育科教育法Ⅳ (152B0-3301)	授業形態	講義・演習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	浜田　幸史・栫　ちか子・鵜木　親志			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	3年次	受け入れ人数	120名

授業の概要	保健体育科教育法Ⅰ及び保健体育科教育法Ⅱで身に付けたこと、保健体育科教育法Ⅲにおける模擬授業の実践を踏まえ、４年次の教育実習に向けて、より高い実践力を身に付けるために、保健体育科の目標や内容、指導法、評価法等について理論と実際を往還しながら、学習指導案等を作成して模擬授業を行う。また、撮影した動画を視聴し、授業者の指導技術等について分析を行う。 模擬授業の実施に当たっては、選択領域を「体つくり運動・器械運動・ダンス」、「球技・武道」、「体育理論・保健」の３つに分け、その中から各自で２領域を選択して、２回以上の模擬授業を行う。 授業分析を通じて、保健体育科教育法Ⅲより、さらに高い授業実践力を育成することをねらいとする。

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養 （指導者基礎力、リーダーシップ）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解し、指導上の留意点等を説明している。			○			○ (振り返り)	20
	■情意的領域	指導と評価の計画、教材・教具の作成、模擬授業、授業研究等に関する基本的事項を理解し、指導上の留意点等を説明するために、授業に自主的に参画しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	指導と評価についての計画を作成することができる。 基本的な指導技術を用い、自分なりの工夫を図って、模擬授業を行うことができる。	○			○			50

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート等の内容から総合的に評価します。また、３分の２以上の出席がない場合、履修放棄とみなします。なお、定期試験は行いません。
テキスト、教材 参　考　書	文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』

履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修し、その単位を修得していることを履修条件とします。 学習指導案作成や授業分析等、授業時間外の学習時間の確保が必要です。その時間確保が可能であることを確認して履修してください。 なお、模擬授業グループの編成をするため、必ず事前に履修登録を済ませ、第１回目の授業に出席してください。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 授業力の高まりは、４年次の教育実習の充実につながります。
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟６階608教員研究室） 栫（研究棟７階703教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	浜田　幸史 栫　ちか子 鵜木　親志	オリエンテーション 模擬授業グループの編成	授業内容の復習（30分）
2	〃	授業づくり、授業分析の実際 模擬授業グループの確認	授業内容の復習（30分）
3	〃	第１ピリオド①　授業づくり 学習指導案等の作成	学習指導案等の作成（３時間）
4	〃	第１ピリオド②　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
5	〃	第１ピリオド③　模擬授業	授業分析等（１時間30分）
6	〃	第１ピリオド④　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
7	〃	第２ピリオド①　授業づくり 学習指導案等の作成	学習指導案等の作成（３時間）
8	〃	第２ピリオド②　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
9	〃	第２ピリオド③　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
10	〃	第２ピリオド④　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
11	〃	第３ピリオド①　授業づくり 学習指導案等の作成	学習指導案等の作成（３時間）
12	〃	第３ピリオド②　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
13	〃	第３ピリオド③　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
14	〃	第３ピリオド④　模擬授業、授業分析	授業分析等（１時間30分）
15	〃	模擬授業の振り返り	授業内容の復習（30分）
16	〃	授業分析の振り返り	授業内容の復習（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育実習Ⅰ (152C0-6300)	授業形態	実習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	浜田　幸史・栫　ちか子・鵜木　親志			補助担当者名	
単位数	5　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	「中学校教諭一種免許状（保健体育）」並びに「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」の取得希望者は、教育実習Ⅱではなく、本授業を選択する。 実習前には、教育実習の意義や目的を正しく理解し、学習指導案の作成等を通して、適切な生徒対応や学習指導等について説明できるようにする。実習中は、授業実践をはじめとして教育活動全般に主体的に関わり、教職についての見識を深めることに努める。実習後は、自身の取組を振り返り、より高い実践力を身に付けるためにできることを整理する。 なお、事後指導や教職実践演習での授業分析等に活用するために、教育実習における研究授業等の様子を撮影できるよう、実習校に事前に承諾を得る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養 （事業運営力、リーダーシップ）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育実習の意義や目的を理解し、適切な生徒対応や学習指導等について説明している。	○		○				20
	■情意的領域	学習指導案作成、授業実践をはじめとする教育活動全般、事後の振り返り等に主体的に取り組もうとする。	○						30
	■技能的領域	生徒の実態に応じた学習指導案を作成し、適切な生徒対応や学習指導等について説明することができる。 基本的な指導技術を用い、自分なりの工夫を図って授業を行うことができる。また、自分なりの視点をもって授業分析ができる。	○		○				50

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、学習指導案、事後レポート、事後提出物（所感、手引き、評価票、出勤簿）の内容、実習成績から総合的に評価します。また、事前指導において３分の２以上の出席がない場合、履修放棄とみなし、教育実習への参画を認めません。事前・事後指導において３分の２以上の出席がない場合も履修放棄とみなします。なお、定期試験は行いません。
テキスト、教材 参　考　書	鹿屋体育大学『教育実習の手引き』及び『教育実習の手引き別冊保健体育学習ハンドブック』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』及び『高等学校学習要領（平成30年告示）解説保健体育編　体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 【高等学校 保健体育】』

履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修し、その単位を修得しており、履修要項「教育実習参加資格」を満たしていることを履修条件とします。 事前指導（教員から指示された回）にスーツ等で出席すること、教育実習前に時間的なゆとりをもって学習指導案を作成し提出することを遵守してもらいます。なお、学習指導案については、教員の指導助言を受け、一定レベル以上のものを作成してもらいます。 また、必ず事前に履修登録を済ませ、第１回目の授業に出席してください。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 単位修得不足で教育実習参加資格を満たすことができず、教育実習を辞退せざるを得ないケースがあります。教育実習校へ多大な迷惑をかけることになりますので、確実に参加できるよう、確認をお願いします。
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟６階608教員研究室） 栫 （研究棟７階703教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	浜田　幸史 栫　ちか子 鵜木　親志	オリエンテーション　教育実習の意義・目的・内容	授業内容の復習（30分）
2	〃	単元計画及び学習指導案の作成指導	学習指導案の作成（３時間）
3	〃	学習指導案の作成指導	学習指導案の作成（３時間）
4	〃	外部講師による講話「教育実習を行うに当たって」	授業内容の復習・レポート作成（１時間）
5	〃	教育実習への最終確認と教師としての心構え	授業内容の復習・携行品等の確認（１時間）
6	〃	教育実習（６～12回は実習校での実践活動）	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
7	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
8	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
9	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
10	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
11	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
12	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
13	〃	事後指導（教育実習の振り返り、礼状の作成等）	礼状の作成等（３時間）
14	〃	事後指導（所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（３時間）
15	〃	事後指導（所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（３時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教育実習Ⅱ (152C0-6301)	授業形態	実習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	浜田　幸史・栫　ちか子・鵜木　親志			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	―

授業の概要	「高等学校教諭一種免許状（保健体育）」のみの取得希望者は、教育実習Ⅰではなく、本授業を選択する。 実習前には、教育実習の意義や目的を正しく理解し、学習指導案の作成等を通して、適切な生徒対応や学習指導等について説明できるようにする。実習中は、授業実践をはじめとして教育活動全般に主体的に関わり、教職についての見識を深めることに努める。実習後は、自身の取組を振り返り、より高い実践力を身に付けるためにできることを整理する。 なお、事後指導や教職実践演習での授業分析等に活用するために、教育実習における研究授業等の様子を撮影できるよう、実習校に事前に承諾を得る。

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	指導者基礎力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養 （事業運営力、リーダーシップ）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	教育実習の意義や目的を理解し、適切な生徒対応や学習指導等について説明している。	○		○				20
	■情意的領域	学習指導案作成、授業実践をはじめとする教育活動全般、事後の振り返り等に主体的に取り組もうとする。	○						30
	■技能的領域	生徒の実態に応じた学習指導案を作成し、適切な生徒対応や学習指導等について説明することができる。 基本的な指導技術を用い、自分なりの工夫を図って授業を行うことができる。また、自分なりの視点をもって授業分析ができる。	○		○				50

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、学習指導案、事後レポート、事後提出物（所感、手引き、評価票、出勤簿）の内容、実習成績から総合的に評価します。また、事前指導において３分の２以上の出席がない場合、履修放棄と見なし、教育実習への参画を認めません。事前・事後指導において３分の２以上の出席がない場合も履修放棄と見なします。なお、定期試験は行いません。
テキスト、教材 参　考　書	鹿屋体育大学『教育実習の手引き』及び『教育実習の手引き別冊保健体育学習ハンドブック』 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　保健体育編』及び『高等学校学習要領（平成30年告示）解説保健体育編　体育編』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　保健体育】』及び『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 【高等学校 保健体育】』

履修条件・ 関連科目	原則として、保健体育科教育法Ⅰ、Ⅱを履修し、その単位を修得しており、履修要項「教育実習参加資格」を満たしていることを履修条件とします。 事前指導（教員から指示された回）にスーツ等で出席すること、教育実習前に時間的なゆとりをもって学習指導案を作成し提出することを遵守してもらいます。なお、学習指導案については、教員の指導助言を受け、一定レベル以上のものを作成してもらいます。 また、必ず事前に履修登録を済ませ、第１回目の授業に出席してください。	備考(教員メッセージ含む)	実務経験のある教員による授業科目です。学校現場に適応できるよう指導していきます。 単位修得不足で教育実習参加資格を満たすことができず、教育実習を辞退せざるを得ないケースがあります。教育実習校へ多大な迷惑をかけることになりますので、確実に参加できるよう、確認をお願いします。
オフィス・アワー	随時：浜田（研究棟６階608教員研究室） 栫　（研究棟７階703教員研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	浜田　幸史 栫　ちか子 鵜木　親志	オリエンテーション　教育実習の意義・目的・内容	授業内容の復習（30分）
2	〃	単元計画及び学習指導案の作成指導	学習指導案の作成（３時間）
3	〃	学習指導案の作成指導	学習指導案の作成（３時間）
4	〃	外部講師よる講話「教育実習を行うに当たって」	授業内容の復習・レポート作成（１時間）
5	〃	教育実習への最終確認と教師としての心構え	授業内容の復習・携行品等の確認（１時間）
6	〃	教育実習　（６～12回は実習校での実践活動）	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
7	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
8	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
9	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
10	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
11	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
12	〃	教育実習	実習校での授業準備・実践・振り返り等（実態に応じて各自で時間設定）
13	〃	事後指導（教育実習の振り返り、礼状の作成等）	礼状の作成等（３時間）
14	〃	事後指導（所感の作成，研究授業の分析，期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（３時間）
15	〃	事後指導（所感の作成，研究授業の分析，期間記録作成等）	所感の作成、研究授業の分析、期間記録作成等（３時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	教職実践演習（中・高） (152C02301)	授業形態	演習	授業科目区分	教職科目 (専門)
担当教員名	教職教育等小委員会			補助担当者名	
単位数	2　単位	履修年次	4	受け入れ人数	150
授業の概要	本授業は、教職に関する科目及び教科に関する科目の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものであり、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項の４事項についてのディスカッション等を通して、教職生活をより円滑にスタートできるようにするための内容を取り上げる。 なお、原則として２限～４限で連続して開講し、２０～２５人の小クラスを基本として展開する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	事業運営力、指導者基礎力、専門的な知識・教養	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項の４つのテーマについて理解することができる。 各課題についての自身の考えをまとめることができる。			○				60
	■情意的領域	教員としての諸課題に課題意識を持ち、その解決に向けての各テーマに取り組むことができる。 設定されたテーマのディスカッションに積極的に参加することができる。	○						20
	■技能的領域	設定されたテーマに対して、自身の意見について発表やプレゼンテーションをすることができる。				○			20

成績評価の基準	３分の２以上の出席を原則とし、授業への積極的な準備や参加度、各テーマのレポートから総合的に評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは、「教職実践演習の手引き」を用いる。（大学より配付）		
履修条件・ 関連科目	教育実習を履修した者、または履修年度において教育実習を履修予定の者	備考(教員メッセージ含む)	教員免許状を取得するための必修科目である。
オフィス・アワー	キャリア支援係８：30～17：15		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	教職教育等小委員会	全体オリエンテーション	テキストの予習（30分以上）
2	教職教育等小委員会	教科の指導力に関する事項	テキストの予習（30分以上）
3	〃	〃　課題検討	テキストの予習・復習（30分以上）
4	〃	〃　課題検討	テキストの予習・復習（30分以上）
5	教職教育等小委員会	使命感や責任感等に関する事項	テキストの予習（30分以上）
6	〃	〃　授業ビデオ討論	テキストの予習・復習（30分以上）
7	〃	〃　授業ビデオ討論	テキストの予習・復習（30分以上）
8	教職教育等小委員会	生徒理解や学級経営等に関する事項：子どもの人権保障の観点から	テキストの予習（30分以上）
9	〃	〃　ロールプレイ	テキストの予習・復習（30分以上）
10	〃	〃　ロールプレイ	テキストの予習・復習（30分以上）
11	教職教育等小委員会	社会性や対人関係能力に関する事項	テキストの予習（30分以上）
12	〃	〃　演習	テキストの予習・復習（30分以上）
13	〃	〃　演習	テキストの予習・復習（30分以上）
14	教職教育等小委員会	まとめ	テキストの予習・復習（30分以上）
15	〃	まとめ	テキストの予習・復習（30分以上）

ゼミナール

スポーツ・武道実践科学系

瓜田吉久ゼミ……265
金高宏文ゼミ……266
小澤雄二ゼミ……267
濱田幸二ゼミ……268
前阪茂樹ゼミ……269
中村夏実ゼミ……270
髙橋仁大ゼミ……271
竹中健太郎ゼミ……272
三浦　健ゼミ……273
萬久博敏ゼミ……274
松村　勲ゼミ……275
塩川勝行ゼミ……276
榮樂洋光ゼミ……277
下川美佳ゼミ……278
村上俊祐ゼミ……279
永原　隆ゼミ……280
坂中美郷ゼミ……281
小森大輔ゼミ……282
藤井雅文ゼミ……283
山口大貴ゼミ……284

スポーツ生命科学系

山本正嘉ゼミ……285
前田　明ゼミ……286
田巻弘之ゼミ……287
中垣内真樹ゼミ……288
モハモド　モニルル　イスラム　ゼミ……289
吉田剛一郎ゼミ……290
藤田英二ゼミ……291
廣津匡隆ゼミ……292
沼尾成晴ゼミ……293
髙井洋平ゼミ……294
與谷謙吾ゼミ……295
村田宗紀ゼミ……296

スポーツ人文・応用社会科学系

前田博子ゼミ……297
山田理恵ゼミ……298
森　克己ゼミ……299
北村尚浩ゼミ……300
関　朋昭ゼミ……301
和田智仁ゼミ……302
浜田幸史ゼミ……303
中本浩揮ゼミ……304
山本一生ゼミ……305
中村　勇ゼミ……306
坂口俊哉ゼミ……307
隅野美砂輝ゼミ……308
栫　ちか子ゼミ……309
栗山靖弘ゼミ……310
幾留沙智ゼミ……311

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A02300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	瓜田　吉久			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	本ゼミナールは、陸上競技のパフォーマンス向上を目的に、練習やトレーニング等の中で生じる諸問題を取り上げ、問題の所産を分析・評価して課題を見つけ、課題解決のための糸口や方策（方法）を考えながら、新たな取り組みを見つけていくという能力を養うために行う。そのために、実践の場で生じる諸問題を拾い上げ、その内容を発表しながらディスカッションを繰り返し、練習やトレーニングに還元できる方法論を整理していくということが行われる。これらにより、体育専攻学生としてまた競技者としての能力の向上が期待される。また、卒業研究に向けて課題を明らかにできる能力や卒業研究に関する作業方法等も身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・授業並びに発表内容について理解している。 ・発表内容をもとに課題の設定と解決方法等の提案ができる。	○			○			40
	■情意的領域	・授業に主体的に参加し、意欲的に課題に取り組もうとする。 ・授業の意義を理解し、内容を追求、探究しようとしている。	○						20
	■技能的領域	・適切なプレゼンテーションができる。 ・論理的に内容をまとめ発信することができる。 ・他者と積極的・建設的に意見交換が行える。	○			○			40

成績評価の基準	３つの授業達成目標をもとに、授業や発表など成績評価方法の割合に則って評価し、60 点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業の中で随時紹介する。		
履修条件・ 関連科目	陸上競技、陸上競技スポーツ論・実習等を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	発表のための作業を行うため、ワード、エクセル、パワーポイントなどができるようになっていること。
オフィス・アワー	月曜日：１４時～１５時　研究棟８階　　802教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	瓜田　吉久	ゼミナールⅠ（２年生）1回～30回 各自、トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて資料収集を行い、分析、考察を加えて、自分の考えをまとめ発表する。発表内容に対する討論を行いながら演習を進める。	課題を設定し、発表の準備及び討論に備えて予習を行う。(1時間)
2	〃	ゼミナールⅡ（３年生）１回～30回 各自、トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて資料収集を行い、分析、考察を加えて、自分の考えをまとめ発表する。発表内容に対する討論を行いながら演習を進める。	課題を設定し、発表の準備及び討論に備えて予習を行う。(1時間)
3	〃	ゼミナールⅢ（４年生）１回～30回 発表内容を卒業研究としてまとめるために関連する資料を収集しながら討論を行い、併せて卒業研究作成のための方法を理解する。	卒業研究作成に関する作業を行う。(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	金高　宏文			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本授業は，“実践的スポーツ指導者”となるために必要な「動きを科学する」ための見識や測定スキルを教授する．具体的には，スポーツ運動の技術（コツ・カンも含む）や体力及びそのトレーニング方法に関する見識を深め，「バイオメカニクス的分析」あるいは「パフォーマンス分析」が行なえる研究スキルの修得を目指す．また，卒業研究に向けて受講生の関心があるテーマについて，先行研究を調べ，発表・討論し，新たな研究課題や問題を発見する中で，問題解決能力とコミュニケーション能力が高まることも期待している．その結果，受講生のスポーツのトレーニング，指導に合理性が身に付くことを期待している．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・運動学及びトレーニングに関する基礎的な事項を説明できる． ・自分自身の競技発達史について，運動学及びトレーニング学的視点より分析・評価する．	○		○	○			35
	■情意的領域	・運動やトレーニングに関わる事象や理論について興味・関心を持ち，それを積極的にかつ協力して探求しようとする．	○						15
	■技能的領域	・ 設定された時間内でパワーポイントでの発表ができる． ・ IT 及び図書館での文献検索ができる． ・ 映像分析（動画編集，連続写真，時間分析）ができる．			○	○			50

成績評価の基準	技術や体力，トレーニングに関する見識の深化，論理的な発表・討論力の習得及び各種測定・分析法の習得度を評価とする．
テキスト、教材 参　考　書	i-PadもしくはPCを持参すること．授業の教材は，WebClassやメール等で配付する．なお，参考図書として「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法（大修館）」を推薦する。
履修条件・ 関連科目	運動生理学，バイオメカニクス，トレーニング科学概論，スポーツトレーニング実践論，運動学概論，コーチ学概論，トレーニング方法論・実習を履修しておくことが望ましい．
備考(教員メッセージ含む)	レポートの提出やパワーポイント発表を頻繁に行う．また，レポート作成や発表のために主体的に授業時間外に各種の測定等をする必要がある．さらに，色々な共同研究の補助員として児童・生徒及び選手における体力・運動能力等の測定に協力する場合がある．
オフィス・アワー	水曜日：15：00 ～16：00、大学院棟３階，教員室4

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	金高　宏文	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 ・ 発育・発達データの収集と分析（PHV 等の分析） ・ 運動発達史等の作成とスポーツ技能・戦術レベルの評価（コツ・カン分析） ・ 簡易なバイオメカニクス的測定・分析法の理解とデータ収集 ・ 体力・形態測定法の理解と継続的なデータ収集 ・ プレゼンテーションの方法	発育発達データの収集・整理、運動発達史の作成・分析、体力・形態測定の実施、簡易な動作分析を実施し、それらのプレゼンテーション資料を作成する。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 ・ 発育・発達データの収集と分析（PHV 等の分析） ・ 運動発達史等の作成とスポーツ技能・戦術レベルの評価（コツ・カン分析） ・ バイオメカニクス的測定・分析法の理解とデータ収集・分析・解析 ・ 文献研究の行ない方とまとめ方 ・ 卒業研究のテーマの絞り込みと予備実験の企画・実施	授業課題や研究テーマに関する文献の収集・整理、予備実験の企画立案、実験準備、実験、データ分析・解析をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 ・ 文献研究結果のプレゼンテーションと討議。 ・ 卒業研究テーマについての本実験の企画案のプレゼンテーションと討議 ・ 実験結果のプレゼンテーションと討議 ・ 卒業研究の中間発表、本発表に向けてのプレゼンテーション練習	卒業論文作成のための本実験の企画案の作成、実験準備、実験、データの分析・解析、文献の収集・整理をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	小澤　雄二			補助担当者名	小崎　亮輔
単位数	4　単位	履修年次	２～４年次	受け入れ人数	7名程度
授業の概要	本授業をとおして柔道方法学的な課題を見出し、課題解決のための知識や手法を身に付けることで、自らの競技力および指導力の向上のために活用すると共に、卒業論文にスムーズに着手できる準備をすることを目的とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	本授業における実験・検査結果や先行研究の報告を客観的に分析・理解し、それらを関連付け、柔道方法学的な課題を見出し、課題解決のための知識や手法を身に付けることができる。	○		○	○			40
	■情意的領域	柔道方法学的な課題を見出し、課題解決のための知識や手法を身に付けるにあたり、発表や討論に積極的に取り組み、自らの考えについて他者と意見交換することで、考えをより深めることができる。	○		○	○			30
	■技能的領域	柔道方法学的な課題を見出し、身に付けた課題解決のための知識や手法を、自らの競技力および指導力の向上のために活用することができる。	○		○	○			30

成績評価の基準	「主体的、対話的であったか」、「自らの考えを深められたか」、「柔道方法学的な課題を自らの競技力および指導力の向上に活用できたか」などを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	尾形敬史・小俣幸嗣、「柔道指導Ｑ＆Ａ」、道和書院 向井幹博・山口香、「ジュニアのための考える柔道」、東京書店 その他、適宜資料を配布		
履修条件・ 関連科目	特になし	備考(教員メッセージ含む)	柔道には様々な側面があります。柔道を専門とする皆さんには、敢えて多面的な視点も養ってほしい。
オフィス・アワー	随時：502研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小澤　雄二	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 柔道方法学的な課題を見出すことを目的に、全身反応時間測定、バランステスト、人柄検査などを行う。さらに、その結果を分析し、導き出されたことをまとめて発表する。	結果の分析、まとめ、発表のための資料作成
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 柔道方法学的な課題を見出すことを目的に、文献を検索し、各自が興味・関心のある先行研究を熟読した後に、内容をまとめて発表する。	先行研究の熟読、まとめ、発表のための資料作成。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 各自が卒業論文の執筆に向けた柔道方法学的なテーマを焦点化し、先行研究や研究の背景を踏まえた仮設を立て、それを検証する方法を選択し、まとめて発表する。	卒業論文テーマの焦点化、仮設の立脚、検証方法の選択、まとめ、発表のための資料作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	濱田　幸二			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	コーチング（特に球技：バレーボール競技）に関する文献を検索・抄読を行い、戦術及び技術的ゲーム分析・バイオメカニクス的分析・心理学的分析から競技力向上に関するコーチングに結びつける。また、実践的なコーチングテクニックを身に付けるために、調査・実験から現場で活用できるコーチングを探求する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	先行研究（文献）の抄読から、コーチングを多面から分析する能力を養う。	○		○				40
	■情意的領域	学会や研究集会に参加し、最新の研究を知る。			○				20
	■技能的領域	知識をもとに、コーチングが出来るようになる。	○		○				40

成績評価の基準	授業への取り組みは、先行研究の抄録作成及び理解度を授業ごとに行う。 レポート等の提出状況は、年度末に論文形式１編でまとめとして作成し提出する。		
テキスト、教材 参　考　書	随時配付する。		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ、競技スポーツ論・実習Ⅱ、 競技スポーツ論・実習Ⅲの履修が望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特に球技種目全般に関して多方面からコーチングを研究します。その他コーチングに関して随時相談を受け付けます。
オフィス・アワー	随時　808教員室（濱田）、球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	濱田　幸二	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 各実験や調査に不可欠な統計の基礎知識を理解する。また、国内外におけるバレーボール関連の文献検索を行い、抄読会を行う。	ゲーム分析ソフトの使用法の習得 グラフ及び表の作成法の習得 映像解析ソフトの使用法の習得
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 卒業研究のテーマを探るため、選手及び指導者から見て解明したいテーマを決める。研究テーマに沿って先行研究の収集と理解から、予備実験（調査）を行い結果及び考察を行い次年度の卒業研究へつなげる。	研究テーマの選定を行うため先行研究の資料収集
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 研究テーマに沿って、より深く、より鮮明にするため、実験（調査）を行い、卒業研究を完成させる。またプレゼンテーション能力の向上も行う。	実験（調査）データの解析と考察

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A02300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	前阪　茂樹			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	1～2
授業の概要	この科目(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)は，武道／剣道の哲理・原理・指導法などのテーマについて、体育学の知識を総合的に活用し、学年進行に従って課題設定、解決、説明する能力を積み上げつつ身につける科目である。また、実技と理論の両面から積極的に取り組んでいくことにより、実技面での課題を浮き彫りにし、それらの解決策を模索することで、結果として自己教育能力を高め、総合領域としての武道学としての能力を育成することを目指している。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （運動実技力、実技指導力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の特性を理解できる。	○		○	○			40
	■情意的領域	剣道における諸問題について関心を持ち、積極的に課題を見出し、その解決に努める態度が身についている。	○		○	○			30
	■技能的領域	自らの剣道実践における課題を設定し、追求することができる。	○		○	○			30

成績評価の基準	体育学・武道学の知識、積極的な課題設定への取り組み、形を中心とした技倆などを総合的に評価。		
テキスト、教材 参　考　書	提供する資料：沢庵宗彭　原著「不動智神妙録」、宮本武蔵　原著「五輪書」、全日本剣道連盟「剣道講習会資料」等 購入すべきテキスト：「剣道」（高野佐三郎著　現代語訳　監修・中村民雄　島津書房、1915,@3200）		
履修条件・ 関連科目	剣道・武道に関する科目を履修していること。	備考(教員メッセージ含む)	剣道を，競技的側面＜伝統文化的側面で捉え，自らの稽古により体認しようと志す者を受け付ける． テキストは必ず購入して下さい。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２F 剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前阪　茂樹	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 剣道の基礎的理論の学習 剣道や武道に関する文献検索 剣道実技実践演習	レポート作成等
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 レポート作成のためのトレーニング 剣道（現代語訳版）　抄読 五輪書　抄読 剣道形　特別実習 剣道実技実践演習	レポート作成等
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 不動智神妙録　抄読 猫の妙術　　抄読 個々の課題設定に伴う研究／指導 剣道（現代語訳版）　抄読 五輪書　抄読 剣道形　特別実習 剣道実技実践演習	レポート作成等

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	中村　夏実			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	現在の日本社会において、「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民の海洋への理解を深めるためにも、競技・レクリエーションにかかわらず、海洋スポーツ活動や水辺活動に造詣の深い人材が求められている。 ゼミナールでは、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズに応えられる能力、また、海上および水上環境においてテクノロジーを活用したコーチングができる能力の獲得を目指し、海洋スポーツに関する課題解決能力を養う。主に下記の実践活動および研究活動を展開する。 ○海洋スポーツプログラムに参加し、海洋スポーツの指導法を習得すると共に、海洋スポーツ活動を企画・運営する能力を養う。 ○海洋スポーツ（カヌー・ボート・その他パドルスポーツ、スキンダイビング等）に関する先行研究を検討し、研究計画を立て、情報やデータを収集・分析できる能力を養う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・海洋スポーツの文化的背景や発展の歴史を理解する。 ・安全管理を理解する。 ・先行研究の内容と課題を説明し、新たな解決方法を考察する。	○			○			40
	■情意的領域	・海洋スポーツを取り巻く自然環境、社会環境、先行研究等に興味を持ち、主体的、継続的に課題解決に取り組む。	○						20
	■技能的領域	・安全に海洋スポーツの指導ができる。 ・文献検索ができる。 ・収集した情報や研究成果を海洋スポーツのコーチングに活用できるように工夫する。	○						40

成績評価の基準	海洋スポーツ活動における指導補助としての指導スキル、授業内での課題発表、卒業研究への取り組み状況の各得点を合計し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料および図書を提供する。また、ウォータースポーツ文献情報データベースを参照する。		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ（海洋スポーツ）または関連実践（海洋スポーツ）を受講していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	授業内で発表やレポート提出を求める。そのために時間外での事前準備および事前学習が必要となることがある。海洋センターの地域貢献事業に協力し補助指導員として貢献する場合がある。 やる気と体力に自信があり、日本の海洋スポーツの振興に貢献にしたいという熱意を望みます。
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡して下さい。 natsumi@nifs-k.ac.jp または海洋スポーツセンター（0994-47-2758）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　夏実	ゼミナールⅠ（2年次）1回～30回 ①海洋スポーツに関する社会学的研究、指導法に関する研究、競技力向上に関する研究など、学術雑誌および啓発書当の関連書籍の検索と検討 ②海洋スポーツ活動指導補助の実践 ③文献検索とデータベースコンテンツ作成 ④海洋スポーツ関連書籍を読む ⑤海洋スポーツ関連資格の取得を推奨する	下記の事項を指導実践の場としてもよい。 ・公開講座の補助員 ・学長杯ヨットレースの運営 ・地域の海洋スポーツ関連行事の運営補助 ・競技選手のトレーニングに関するサポート活動
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1回～30回 ①ウォータースポーツ文献情報データベースのコンテンツ作成 ②海洋スポーツ行事における指導法の習得 ③研究データの収集方法とデータ解析方法（解析ソフトの使い方）の習得 ④海洋スポーツ関連学術論文の抄読 ⑤卒業研究の計画立案のための論文購読およびデータ収集方法の実習 ⑥海洋スポーツ関連資格の取得を推奨する	下記の事項を指導実践の場としてもよい。 ・公開講座の補助員 ・学長杯ヨットレースの運営 ・地域の海洋スポーツ関連行事の運営補助 ・競技選手のトレーニングに関するサポート活動
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1回～30回 ①卒業研究の計画と実行 ②必要に応じた実験および調査とデータの処理（統計処理） ③海洋スポーツ行事の企画と運営 ④卒業研究関連の文献を読む ⑤卒業研究（論文の作成とプレゼンテーション） ⑥海洋スポーツ関連資格の取得を推奨する	下記の事項を指導実践の場としてもよい。 ・公開講座の補助員 ・学長杯ヨットレースの運営 ・地域の海洋スポーツ関連行事の運営補助 ・競技選手のトレーニングに関するサポート活動

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	髙橋　仁大			補助担当者名	村上　俊祐
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	本ゼミナールでは、体育学の知識を用いて試合（ゲーム）や映像を分析する能力を身につけるとともに、卒業研究に向けて主体的、計画的および継続的に課題に取り組む意思を身につける。さらにそれらを通じて、ゲームパフォーマンス分析や映像分析の実践的かつ創造的なリーダーとしての資質を身につける科目である。具体的には、ディスカッションやグループ学習により試合（ゲーム）の分析方法や実践での活用方法、分析結果などスポーツ戦術・ゲームパフォーマンス分析に関する理解を深めるとともに、スポーツ指導における映像の活用方法やその効果についての理解を深める。これらを基に卒業研究を行い、スポーツにおける分析や映像の活用についてのスキルを獲得する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ゲームパフォーマンス分析の方法を理解する スポーツ指導における映像の活用法と効果について理解する				○			30
	■情意的領域	ゲームパフォーマンス分析を実践に活用する スポーツ指導に映像を活用する	○			○			20
	■技能的領域	ゲームパフォーマンス分析・映像分析ソフトのスキルを獲得する 研究をまとめることができる 研究成果を分かりやすくプレゼンテーションできる				○		○ (卒業研究)	50

成績評価の基準	授業期間における課題への取組状況と発表内容、卒業研究への取組状況の各得点を合計し、60 点以上のものを合格とする		
テキスト、教材 参　考　書	「スポーツの戦術入門」（ヤーン・ケルン著（朝岡、水上、中川監訳）、大修館、1998） 「THE ESSENTIALS OF PERFORMANCE ANALYSIS」（M. Hughes and I. M. Franks, Routledge, 2008） 「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」（福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版、2018）　他、配布資料等		
履修条件・ 関連科目	情報処理Ａ・Ｂ・Ｃ、スポーツ戦術実践論、バイオメカニクス、スポーツパフォーマンス研究論	備考(教員メッセージ含む)	本ゼミナール内での連絡に大学のメールを活用するので、メール操作等に習熟しておくこと。コンピュータの基本操作についても習熟しておくことが望ましい。
オフィス・アワー	随時　事前にアポイントをとること 髙橋（研究棟8階809教員研究室またはスポーツパフォーマンス研究センター）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙橋　仁大	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 ・スポーツにおける映像分析ソフトや映像収集機器等を用いた実習を体験し、ソフトウェアや機器に関する情報を得る。 ・学内外の各種セミナー等に参加し、スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析、スポーツにおける映像活用に関する情報を得る。	課題発表のための予習と復習（1時間） 各種セミナー等への参加（2時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 ・スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析に関するこれまでの研究について概観するとともに、自身の卒業研究テーマについてディスカッションを行う。 ・スポーツにおける映像分析ソフトや映像収集機器等を用いた実習を行い、ソフトウェアや機器に関する理解を深める。 ・学内外の各種セミナー等に参加し、スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析、スポーツにおける映像活用に関する理解を深める。	課題発表のための予習と復習（1時間） 各種セミナー等への参加（2時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 ・ゼミナールⅡで検討した卒業研究テーマを基に、卒業研究の作成を行う。 ・スポーツにおける映像分析ソフトや映像収集機器等を用いた実践を主体的に行い、ソフトウェアや機器に関するスキルを獲得する。 ・学内外の各種セミナー等に参加し、スポーツ戦術やゲームパフォーマンス分析、スポーツにおける映像活用に関する理解を深め、実践場面への活用方法を探る。	卒業研究の作成（30時間） 各種セミナー等への参加（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	竹中　健太郎			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7名
授業の概要	剣道の歴史、日本剣道形、審判法、指導法について実践的、主体的な課題研究を検討・論議する。また、本ゼミナール活動は、実技と理論の両面から積極的に取り組んでいくことにより、実技面での課題を浮き彫りにし、それらの解決策を模索することで、結果として自己教育能力を高め、武道領域における剣道を学問として捉え、専門的なの能力を育成することを目指している。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	伝統文化性、競技性のそれぞれにおいて剣道の特性を深く理解し、他者に発信できる。	○		○	○			30
	■情意的領域	剣道における諸問題について関心を持ち、積極的に問題を発見し、その解決に努める態度が身についている。	○		○	○			30
	■技能的領域	自らの剣道実践における課題を設定し、追求することができる。	○		○	○			40

成績評価の基準	理論と実技の両面での総合評価。		
テキスト、教材 参　考　書	提供する資料：宮本武蔵「五輪書」、全日本剣道連盟「剣道講習会資料」等 購入すべきテキスト：「剣道」（高野佐三郎著、島津書房、1915,＠5,800） 購入するのが望ましいテキスト：実践研究の考え方と論文の書き方（福永哲夫・山本正嘉編、市村出版、2018、＠3,000）		
履修条件・ 関連科目	剣道・武道に関する全科目	備考(教員メッセージ含む)	剣道実技を通して浮き彫りになった問題点を整理するゼミナールである。様々な職域において剣道指導者を志す者を受け入れる。
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00 ～16：30、武道館２Ｆ剣道教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	竹中　健太郎	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 剣道の歴史的研究 現代剣道に関するの問題点の整理と討論 日本剣道形の研究 指導法及び技術論に関する事例研究	レポートを作成
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 五輪書購読・討論 日本剣道形の研究 指導法及び技術論に関する事例研究と検討 剣道の先行研究についての討論及び課題追求	レポートを作成 発表（プレゼンテーション）準備
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 日本剣道形の研究 指導法及び技術論に関する事例研究の検討 剣道に関するトピックスの整理と自己修行観の総括 卒業研究に向けての取組	レポートを作成 発表（プレゼンテーション）準備

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	三浦　健			補助担当者名	前村　かおり
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	本ゼミナールは、自身が実践しているスポーツに関し、競技力向上（技術・戦術・運営等）のために①工夫して取り組んだこと②課題を設定して取り組むことのいずれかについて詳細に分かりやすく論じ、取り組んだ成果を評価・診断することにより、研究論文としてまとめる能力を身に付ける科目です。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・実践研究に関する論文の抄読を実施し、論文のまとめ方の概略を理解する。	○			○			30
	■情意的領域	・授業に主体的に参加し、積極的に取り組む。 ・研究課題を見つけ、探求する。	○						20
	■技能的領域	・論理的にまとめることができる。 ・適切なプレゼンテーションができる。 ・適切な一般的なデータや画像データ（映像等）を活用して評価・診断ができる。	○			○			50

成績評価の基準	授業の到達目標を基に総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	発表の際、ゼミナール構成員が積極的にディスカッションを行うことで、各自の研究課題が明確化するよう取り組んで欲しい。また、各々の測定、実験等には全員で協力して作業をして欲しい。
オフィス・アワー	随時：総合体育館教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	三浦　健	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 自身が当該スポーツを実践するに当たり、競技力を向上する上で興味のある課題を見つけるために、発表や論文抄読等に積極的に参加する。	発表がある際には、事前準備を行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 自身が当該スポーツを実践するに当たり、競技力を向上する上で興味のある課題を見つけるために、発表や論文抄読等を担当する。他のゼミ生が担当する際には積極的にディスカッションに参加する。	発表がある際には、事前準備を行う。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 研究課題に関する発表や先行研究論文の抄読等を担当する。他のゼミ生が担当する際には積極的にディスカッションに参加し、課題についての明確化への助言をする。	発表がある際には、事前準備を行う。測定、実験、分析等を実施し、論文としてまとめる。卒業研究のプレゼンテーションの準備を行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	萬久　博敏			補助担当者名	成田　健造
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7
授業の概要	競泳の競技力向上を中心としたスポーツ生理学、心理学、力学やコーチング理論など幅広い科学分野の知識と指導能力、コーチングテクニックを身につけ、実際の現場における競技者、指導者としての資質向上を図る。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	水泳の特性を理解し、水泳指導、競技力向上に必要な知識を身につける。	○		○	○			40
	■情意的領域	水泳全般に関心を持ち、ゼミや各種測定へ意欲的に参加する。	○						30
	■技能的領域	水泳指導技術、コーチングテクニックを習得する。	○						30

成績評価の基準	到達目標を基に総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料の配布、テキストの紹介をする。		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（水泳）を受講していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時：実験プール教官控室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	萬久　博敏	ゼミナールⅠ（２年）1～30回 水泳について幅広く学習するとともに、関心のあるテーマについて資料収集を行い発表やディスカッショを実施する。	レポート作成・授業内容の復習
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1～30回 水泳に関係する文献を検索し、抄読会を実施する。また、興味のあるテーマの資料・情報収集を通して、卒業研究のテーマを決定する。	資料収集及びプレゼンテーション資料作成、発表準備
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1～30回 卒業研究論文作成に向けての資料収集・実験（調査）・プレゼンテーションの方法について学習を進める。	卒業研究論文の作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	松村　勲			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	本ゼミナールは、陸上競技中長距離走のトレーニングやコーチングに関しての見識を深めるとともに、新たな発想（トレーニング法やコーチング法）を開拓するものである。具体的には、理論と実践を結びつける為、過去や現在のトレーニングと理論（先行研究など）を比較検討するなどし、過去や現在のトレーニング（取り組み）の課題点を導き出す（課題解決力）ほか、理論から導き出せる新たなトレーニング法を探求し、陸上競技中長距離走についての知識（科学的表現力含む）と発想を教授する。これにより、陸上競技中長距離走の指導に関しての深い知識と応用力が身に付くことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	陸上競技中長距離走のトレーニング方法（理論）について理解する。 各トレーニング方法の効果を説明し、解決法を提案できる。	○		○	○			50
	■情意的領域	文献（先行研究など）探しや発表などを行い、主体的に作業課題に取り組む。 陸上競技中長距離走に興味・関心を持つ。	○			○			30
	■技能的領域	実際にトレーニングを鑑みることができるようになる（分析、反省力）。 また、新たなトレーニング法（解決法や測定法含む）を考えることができるようになる（発想力）。	○						20

成績評価の基準	授業期間中における演習への参加と取り組み態度、レポート（発表含む）内容の得点を合計し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜必要な資料を配布する（各自準備してもらう）。 その他、参考書として次のものを推薦する。「持久力の科学」（石河利寛 竹宮隆 編、杏林書院、1997、＠8,000円）、「長距離走者の生理科学」（平木場浩二 編、杏林書院、2004、＠2,520円）		
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習(陸上競技）ならびに競技スポーツ理論（陸上競技）を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	いろいろな経験や知識、新たな発想を得る為、積極的な討論を期待する。
オフィス・アワー	随時　研究棟3階　310教員室　※事前にメールでアポを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	松村　勲	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 陸上競技中長距離走に関する資料を収集し、過去や現在行っているトレーニングの効果や有効性などを分析し、理解する。そして、それらをまとめパワーポイント等で発表を行う。その発表をゼミナール内で討論しながら、さらに見識を深めていく。	過去や現在のトレーニング等について整理し、課題や疑問点等を洗い出す（15時間）。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 陸上競技中長距離走に関する資料を収集し、過去や現在行っているトレーニングの効果や有効性などを分析し、理解する。そして、それらをまとめパワーポイント等で発表を行う。その発表をゼミナール内で討論しながら、さらに見識を深めていく。	過去や現在のトレーニング等について整理し、課題や疑問点等を洗い出す（30時間）。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 培った見識を活用し、トレーニング分析の実施や新たなトレーニング法（解決方法や分析方法、測定方法含む）の発想をもとに、卒業研究論文およびその発表を仕上げていく。	文献研究（先行研究等）を積極的に実施する（60時間）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	塩川　勝行			補助担当者名	青　木　　竜
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	サッカー競技に関する文献、資料を収集し、多角的な視点からサッカーについて理解を深め、実際のトレーニングやコーチングに役立てる。また自ら映像の分析・編集を行い、競技者及び指導者としての資質の向上を図り、卒業研究に生かす。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	サッカー競技に関する文献、資料を収集し、多角的にサッカーに関する理解を深める。	○		○				50
	■情意的領域	積極的に授業・ディスカッションに参加する	○						50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業への出席が2/3 以上という条件で、授業への取り組み及び課題の提出、発表の各合計点が60 点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	特になし。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	水曜日１２：５０～１６：００　　８階８10 研究室（事前にアポイントを取ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	塩川　勝行	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 サッカーに関する国内外の自分が興味を持つ文献や資料、映像の収集を行う。また、各分析や資料収集に必要なゲーム分析の方法を習得する。	適時指示する
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 サッカーに関する国内外の自分が興味を持つ文献や資料、映像の収集を行い、研究テーマの概略を決定する。また、サッカーにおける映像の分析、編集を行い、現場に役立つ情報のフィードバック方法について検討を行って行く。 ユース年代のトレーニング方法・コーチング方法についても、指導の実践を行いながら討論を行う。	適時指示する
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 各自の研究テーマを確定するとともに、より深く追求し、卒業論文の作成に取りかかる。論文作成方法やプレゼンテーション方法を学び、その成果を定期的に発表し、討論して行く。 また、ユース年代のトレーニング方法・コーチング方法についても、指導の実践を行いながら討論を行う。	適時指示する

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	榮樂　洋光			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	各7名
授業の概要	本ゼミナールは、海洋スポーツの実践・研究活動を行うために必要となる知識や技術の習得、指導方法を学ぶ科目である。学びを通して、海洋スポーツ活動に主体的、計画的に取り組むことができ、対象者のニーズに合わせた実践指導ができる能力を身につけていく。また、理論に関する知識を深め、高い実践力を育成していくことを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	海洋スポーツの特性を理解し、他者に発信することができる	○			○			40
	■情意的領域	海洋スポーツに関心を持ち、主体的、計画的な取り組みができる。	○						20
	■技能的領域	・安全な海洋スポーツの指導ができる ・先行研究等の資料まとめができる ・海洋スポーツ指導に活用できる資料作成ができる	○						40

成績評価の基準	授業における課題への取り組み状況と発表内容および卒業研究へ向けた取り組み状況の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	適宜必要な資料を配付する		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ-海洋スポーツ-を履修しておくことが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	随時　研究棟7階709教員研究室または海洋スポーツセンター（47-2758）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	榮樂　洋光	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 海洋スポーツに関する文献・資料収集および抄読を行う 収集資料から得られた分析方法や研究方法について学ぶ	事前準備について適宜指示する
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 海洋スポーツ種目の中から興味ある分野を限定した文献・資料収集および抄読を行う 卒業研究へつながる予備調査を行い、分析、発表を行う	事前準備について適宜指示する
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業研究テーマに沿った文献・資料収集、実験（調査）を行う 論文作成に向けた学習を行う（文書作成、データ処理、プレゼンテーション方法）	事前準備について適宜指示する

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	下川　美佳			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7
授業の概要	本授業では体育学の知識を活用し，武道(剣道)の実技や理論に関する課題を浮き彫りにして，その解決策を模索し，それらを他者に説明する能力と，主体的，計画的，継続的に課題に取り組む意思の獲得を目指す．また，実技と理論の両面から積極的に取り組むことにより，自己教育能力を高め，総合領域としての武道(剣道)学としての能力を身につけることを期待している．具体的な活動としては，武道に関する文献資料を用いて，特に剣道の歴史，原理，指導方法に関する見識を深め，それらの知識を応用して，実践的な課題について検討・議論する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	剣道の伝統文化性，競技性，運動性，精神性に関する基礎的な事項を説明できる．	○		○	○			30
	■情意的領域	剣道における諸問題について関心を持ち，積極的に問題を発見し，その解決に努める態度が身についている．	○		○	○			30
	■技能的領域	・ＩＴおよび図書館での文献検索ができる． ・設定された時間内でプレゼンテーションができる． ・自らの剣道実践における課題を設定し，追求することができる．	○		○	○			40

成績評価の基準	課題への取り組み状況や発表の内容および実技の伎倆などの習熟度を評価する．
テキスト、教材 参　考　書	提供する資料:「剣道講習会資料(全日本剣道連盟)」等 購入すべきテキスト:「剣道(高野佐三郎 著，島津書房，1915.@5,800)」 購入するのが望ましいテキスト:「教育剣道の科学(全国教育系大学剣道連盟編，大修館書店，2004.@2,300)」，「体育・スポーツにおける実践研究の考え方と論文の書き方(福永哲夫・山本正嘉編，市村出版，2018.@3,000)」
履修条件・ 関連科目	剣道・武道に関する教科
備考(教員メッセージ含む)	レポートの提出やパワーポイント発表を頻繁に行う．そのために授業時間外での事前準備および，事前学習が必要である． 武道(剣道)実技に関連する課題を論理的に捉え，その知識を実践で活用することを目指す者を受け付ける．
オフィス・アワー	水曜日:9:00~16:00(研究棟 5F 505教員研究室) ただし，事前に連絡をすること． shimo@nifs-k.ac.jpまたは 0994-46-4953(505教員研究室)

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	下川　美佳	ゼミナールI(2年次)1~30回 ・武道(剣道)に関連する学術雑誌および啓発書等の検索と検討 (歴史的研究，指導法や技術論に関する研究など) ・現代剣道に関する問題点の整理と検討 ・プレゼンテーションの方法	武道(剣道)に関連する文献を収集・整理し，現代剣道に関する問題点を検討して，それらのプレゼンテーション資料を作成する．
2	〃	ゼミナールII(3年次)1~30回 ・日本剣道形の研究 ・指導法および技術論に関する事例研究 ・卒業研究の企画立案のための論文輪読 (剣道の先行研究を用いた課題追求と方法の検討) ・卒業研究のテーマの絞り込みと予備実験(調査)の企画・実施	授業課題や研究テーマに関する文献の収集・整理，予備実験(調査)の企画立案，実験(調査)準備，実験(調査)，データ分析・解析し，それらのプレゼンテーション資料を作成する．
3	〃	ゼミナールIII(4年次)1~30回 ・卒業研究テーマについての本実験(調査)の企画案のプレゼンテーションと討論 ・実験(調査)結果のプレゼンテーションと討論 ・卒業研究の中間発表と，本発表に向けてのプレゼンテーション ・自己修行観の総括	卒業研究作成のための本実験(調査)の企画案の作成，実験(調査)準備，実験(調査)，データ分析・解析，文献の収集・整理をし，それらのプレゼンテーション資料を作成する．

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	村上　俊祐			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	２～４年次	受け入れ人数	―
授業の概要	テニスやコーチングに関する幅広い知識を持ったエビデンスベースの指導を実践できる能力を養う。本ゼミナールでは、体育・スポーツ科学の知識を用いて、テニスのゲームパフォーマンスや技術を分析する能力を身につける。また、撮影した映像や取得したデータなどを活用したコーチングを実践できる指導者としての資質を身につける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・テニスの競技特性を理解し、ゲームパフォーマンスや技術に関する事項を説明できる。 ・コーチングに関する基礎的な理論を理解し、説明することができる。				○			30
	■情意的領域	・テニスのゲームパフォーマンスや技術の分析、コーチングの理論および実践に興味・関心を持ち、積極的かつ主体的に探求しようとする。	○			○			20
	■技能的領域	・映像分析ソフトや機器等を用いて、ゲームパフォーマンスや技術を適切に評価できる。 ・収集した情報や研究成果について、わかりやすくプレゼンテーションできる。				○			50

成績評価の基準	授業期間における課題への取組状況と発表内容、卒業研究への取組状況の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。
テキスト、教材 参　考　書	授業時に資料等を配布する。参考図書は、以下の通りである。 「テニス指導教本Ⅰ」（公益財団法人日本テニス協会編、大修館書店、2015） 「球技のコーチング学」（日本コーチング学会編著、大修館書店、2019） 「スポーツパフォーマンス分析入門―基礎となる理論と技法を学ぶ―」（ピーター・オドノヒュー著、中川昭監訳、橘肇／長谷川悦示訳、大修館書店、2020） 「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」（福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版、2018）
履修条件・ 関連科目	トレーニング科学概論、コーチ学概論、スポーツ戦術実践論、競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲ（テニス）を履修しておくことが望ましい。
備考(教員メッセージ含む)	何事にも関心を持ち、ゲームパフォーマンス分析や指導実践の継続、各種測定への積極的な参加により、自身でより良い「学び」の場を作り上げていくことを望む。
オフィス・アワー	随時　研究棟８階　８０６教員研究室

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	村上　俊祐	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 ・映像分析ソフトウェアによるゲームパフォーマンス分析を体験する。 ・テニスの技術評価のための各種機器を用いた測定を体験する。 ・各種セミナー等に参加し、ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する情報を得る。	課題発表のための予習 各種セミナー・講習会への参加
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 ・ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する先行研究について、プレゼンテーションやディスカッションを通して概観し、卒業研究のテーマを検討する。 ・映像分析ソフトウェアによるゲームパフォーマンス分析を実践し、機器の操作、戦術の評価に関する理解を深める。 ・テニスの技術評価のための各種機器を用いた測定を実施し、技術の評価に関する理解を深める。 ・各種セミナー等に参加し、ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する理解を深める。	課題発表のための予習 各種セミナー・講習会への参加
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 ・ゼミナールⅡで検討した卒業研究テーマを基に、プレゼンテーションやディスカッションを重ね、卒業研究の作成に繋げる。 ・映像分析ソフトウェアによるゲームパフォーマンス分析やテニスの技術評価のための各種測定を主体的に行い、そのスキルを磨く。 ・各種セミナー等に参加し、ゲームパフォーマンス分析やテニスのコーチングに関する理解を深め、実践場面で活用する。	卒業研究の作成 各種セミナー・講習会への参加

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	永原　隆			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	5
授業の概要	本授業では，研究に必要な実験・分析方法や論理的思考について学び，先行研究の体系化によって自ら課題を設定し，それを解決することを通して，研究を実践する能力を身に付ける．また，学術研究の知見や課題の解決を通して，効果的な競技力の向上法について指導できる能力を身につける．陸上競技スプリント走を研究対象とする場合が多いが，研究対象種目は問わない．また，研究手法も各自の課題に対応したものを用いる．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	対象とする運動の特性を理解し，スポーツの実践や研究に必要な知識を身に付ける．	○		○	○			40
	■情意的領域	対象とするスポーツ運動の理解，研究に関する議論，論文の作成に積極的に取り組む．	○			○			20
	■技能的領域	研究で用いる機器やソフトウェアを適切に用いることができる．			○	○			40

成績評価の基準	対象とする運動への理解度，測定・分析手法の習熟度，課題の達成度によって評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて紹介，提供する．		
履修条件・ 関連科目	トレーニング科学，体力学，バイオメカニクス，運動生理学，解剖学など	備考(教員メッセージ含む)	高い志のある者が対象です．
オフィス・アワー	随時　大学院棟3階　教員室1		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	永原　隆	ゼミナールI（２年）1～３０回 ・研究テーマに必要な測定機器の操作について学ぶ. ・研究テーマに必要な分析手法について学ぶ. ・研究テーマに関する文献の要約を発表する. ・簡易的な測定のデータをまとめ，発表する.	研究テーマに関する文献の要約，測定データの整理・分析，研究内容の発表準備（60分）.
2	〃	ゼミナールII（３年）1～３０回 ・研究テーマに必要な測定機器の操作について身に付ける. ・研究テーマに必要な分析手法について身に付ける. ・研究テーマに関する複数の文献について要約を発表する. ・テーマを設定し，研究内容を発表する.	研究テーマに関する文献の要約，測定データの整理・分析，研究内容の発表準備（60分）.
3	〃	ゼミナールIII（４年）1～３０回 ・研究テーマに必要な分析手法について身に付ける. ・研究テーマに関する卒業研究論文を執筆する. ・研究テーマに関するプレゼンテーションを行う.	研究テーマに関する文献の要約，測定データの整理・分析，研究論文の作成，プレゼンテーションの準備（90分）.

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	坂中　美郷			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7
授業の概要	バレーボールにおけるコーチングに関する文献を検索・抄読を行い、戦術及び技術的ゲーム分析・バイオメカニクス的分析・心理学的分析から競技力向上に関するコーチングに結びつける。また、実践的なコーチングテクニックを身に付けるために、調査・実験から現場で活用できるコーチングを探求する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （コミュニケーション力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	先行研究（文献）の抄読から、コーチングを多面から分析する能力を養う。	○		○				40
	■情意的領域	（ゼミナールⅠ）学会誌や専門書を探索する。 （ゼミナールⅡ・Ⅲ）各実験の補助等を行い自身の研究課題を探求する。	○						30
	■技能的領域	知識をもとに、コーチングが出来るようになる。	○		○				30

成績評価の基準	授業への取り組みは、先行研究の抄録作成及び理解度を授業ごとに行う。 レポート等の提出状況は、年度末に論文形式１編でまとめとして作成し提出する。		
テキスト、教材 参　考　書	随時配付する。		
履修条件・ 関連科目	（ゼミナールⅠ）競技スポーツ論・実習Ⅰ （ゼミナールⅡ）競技スポーツ論・実習Ⅰ、競技スポーツ論・実習Ⅱの履修が望ましい （ゼミナールⅢ）競技スポーツ論・実習Ⅰ、競技スポーツ論・実習Ⅱ、競技スポーツ論・実習Ⅲ	備考(教員メッセージ含む)	随時相談を受け付けます。
オフィス・アワー	随時　601教員室、球技体育館準備室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂中　美郷	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 各実験や調査に不可欠な統計の基礎知識を理解する。また、国内外におけるバレーボール関連の文献検索を行い、抄読会を行う。	ゲーム分析ソフトの使用法の習得（授業毎1時間） グラフ及び表の作成法の習得（授業毎1時間） 映像編集ソフトの使用法の習得（授業毎1時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 卒業研究のテーマを探るため、選手及び指導者から見て解明したいテーマを決める。研究テーマに沿って先行研究の収集と理解から、予備実験（調査）を行い結果及び考察を行い次年度の卒業研究へつなげる。	研究テーマの選定を行うため先行研究の資料収集（授業毎1時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 研究テーマに沿って、より深く、より鮮明にするため、実験（調査）を行い、卒業研究を完成させる。またプレゼンテーション能力の向上も行う。	実験（調査）データの解析と考察（授業毎2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	小森　大輔			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7名
授業の概要	本ゼミナールは、陸上競技のパフォーマンスを向上させるためのトレーニング法について自らの実践を通して行う。パフォーマンスを適切に評価するために、「バイオメカニクス的分析」、あるいは「パフォーマンス分析」が行える研究スキルの習得を目指す。体力、トレーニング方法、コーチングに関する見識を深めるために、文献の検索・抄読を行う。これらにより、問題解決能力、コミュニケーション能力、競技者としての能力の向上が期待される				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・体力、トレーニング法、コーチングに関する基礎的な事項を説明できる。 ・発表内容をもとに課題の設定と解決方法などが提案できる。	○			○			40
	■情意的領域	・授業に興味・関心を持って参加し、意欲的に課題に取り組もうとする。 ・授業の意義を理解し、内容を積極的かつ協力して探求しようとする。	○						20
	■技能的領域	・適切なプレゼンテーションができる。 ・映像分析(動画編集、連続写真作成)ができる。 ・ITおよび図書館での文献検索ができる。	○			○			40

成績評価の基準	3つの授業達成目標をもとに、授業や発表など成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業の中で適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング科学概論、運動学概論、コーチ学概論、体力トレーニング、競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲ(陸上競技)を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	何事にも積極的に取り組む姿勢を求む。
オフィス・アワー	随時　研究棟8階　805教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	小森　大輔	ゼミナールⅠ ・これまでのコーチングを振り返る ・これまでの競技歴(発育・発達を含む)を振り返る ・トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて、分析・考察を加えて、自分の考えを発表する	発表者が課題を見つけ、発表および討論に備えて予習を行う。
2	〃	ゼミナールⅡ ・これまでのコーチングを振り返る ・これまでの競技歴(発育・発達を含む)を振り返る ・トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて、分析・考察を加えて、自分の考えを発表する ・バイオメカニクス的測定・分析法の理解とデータ収集・分析 ・文献研究の行い方とまとめ方	、予備実験などの実施、データ収集および分析をし、それらのプレゼンテーション資料を作成する
3	〃	ゼミナールⅢ ・卒業研究テーマの決定、論文作成に向けての資料収集およびまとめる ・卒業研究の中間発表、本発表に向けてのプレゼンテーション練習 ・トレーニングの現場で抱く疑問や関心などについて、分析・考察を加えて、自分の考えを発表する ・バイオメカニクス的測定・分析法の理解とデータ収集・分析 ・文献研究の行い方とまとめ方	卒業研究作成に関する作業を行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	藤井　雅文			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7　名程度
授業の概要	野球の歴史やしくみ、取り巻く環境や練習法などについて概説し、それらの深い知識を活かして強いチームや魅力的なチームを作り上げる指導法やリーダーシップを学習し、高い能力を持った競技者、指導者としての資質能力の向上を図る。さらに、実践現場で競技に関わることで技術・戦術・マネジメント等に関する各々の問題点を浮き彫りにし、卒業研究に繋げる。また、卒業研究に向けて先行研究を調べ、発表・討論し、新たな研究課題や問題を発見する中で、問題解決能力や科学的表現力、コミュニケーション能力が高まることを期待する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （コミュニケーション力）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・先行研究の抄読から、指導について多面的に分析する能力を養う。 ・野球に関することについて理解し、他者に分かりやすく発信することができる。	○		○	○			40
	■情意的領域	・先行研究の抄読から、指導について多面的に分析する能力を養う。 ・野球に関することについて理解し、他者に分かりやすく発信することができる。	○		○	○			30
	■技能的領域	・論理的に内容をまとめて、適切なプレゼンテーションで発信することができる。 ・知識をもとにポイントを押さえた安全で適切な指導ができる。	○		○	○			30

成績評価の基準	授業への出席が２/３以上という条件で、授業への取り組み及び課題の提出、発表の各合計点が60点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	授業の中で随時紹介する。		
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習（野球）を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし
オフィス・アワー	随時　研究棟8階804教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤井　雅文	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 野球に関する情報（文献、資料、映像等）の収集、抄読を行い、情報の基本的な分析方法を学習する。また収集した情報から基本的な研究方法について学習する。	事前準備について適宜指示する
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 実践現場で抱く疑問や関心などから興味のある分野を中心に資料収集を行い、分析、考察を加えて自分の考えをまとめて発表する。その過程を通じて、卒業研究で解明したいテーマの概略を決定する。	事前準備について適宜指示する
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 ゼミナールⅡで検討した研究テーマに沿った文献、資料収集、実験（調査）を行い、卒業研究論文を完成させる。また、プレゼンテーションの作成方法や発表方法について学習し、自身の研究について他者に分かりやすく発表する。	事前準備について適宜指示する

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	山口　大貴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	－
授業の概要	本授業では、自転車競技を柱として、競技力向上に関する実践的知見の創出を目指している。そのために、測定・実験を通じて、「バイオメカニクス的分析」、「パフォーマンス分析」が行える研究能力の修得を目指す。卒業論文では、受講生の興味関心があるテーマを設定し、研究課題に主体的・計画的に取組む能力を身につける。その他、自らが作成した資料を基に、プレゼンテーションおよびディスカッションする能力を身につける。これにより、課題解決力および科学的表現力、コミュニケーション能力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・専門競技に関することについて基礎的な事項を他者に分かりやすく説明することができる。	○			○			40
	■情意的領域	・授業に興味・関心を持って積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究をしようとしている。	○			○			20
	■技能的領域	・パワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。 ・映像分析（連続写真作成、動画編集）ができる。 ・ITおよび図書館での文献検索ができる。	○			○			40

成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、発表等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	随時紹介する。		
履修条件・ 関連科目	運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング科学概論、運動学概論、コーチ学概論、競技スポーツ論・実習（自転車競技Ⅰ～Ⅲ）を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	何事にも積極的で意欲のある学生を歓迎します。 専門は自転車競技ですが、他競技の学生の受け入れについても検討しますので相談ください。
オフィス・アワー	時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階　803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ・Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	山本　正嘉			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2・4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	２、３年次には、トレーニング科学やスポーツ科学に関して、自身が興味を持つテーマについて、簡単な測定や実験を行い、その成果を輪番制で発表し、全員でディスカッションを行う。また、その成果を実際のスポーツ現場における競技力向上に結びつけることも考える。４年次には、それらの成果を生かして本格的な卒業研究を行う。そしてその成果を『スポーツパフォーマンス研究』をはじめとした学術雑誌への投稿という形に結実させることを目指す。また，全学年を通して，スポーツトレーニング教育研究センターを中心として行われている各種プロジェクト（各種競技の競技力向上の研究や，子どもの体力向上の研究における体力測定など）の測定に積極的に参加し，現場での経験を多く積むことも目指す.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	トレーニングにおける科学とは何かを理解し、科学的なトレーニングを行うために必要な基礎知識や概念を身につける。	○			○		○ (実験)	30
	■情意的領域	スポーツ選手（人間）を対象として、トレーニングに関する測定や実験を行う際に必要な方法論や心構えについて、自らの実践を通して学ぶ。	○			○		○ (実験)	40
	■技能的領域	人間を対象とした測定や実験を行う際に必要な、様々な技術（機器の使用方法やデータ処理の仕方など）を身につける。	○			○		○ (実験)	30

成績評価の基準	上記の３領域に関する習得状況を総合的に判断する		
テキスト、教材 参　考　書	山本著『トレーニング科学入門』（市村出版、2021）。福永・山本編著『体育スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方』（市村出版、2018）、なお本学のホームページから『スポーツパフォーマンス研究』を閲覧すると，本ゼミ生が卒業研究や修士論文等で行った研究が学術論文として多数公表されており、ゼミの研究内容も把握できるので見てください.		
履修条件・ 関連科目	トレーニング科学概論 スポーツサイエンス実習（運動生理学・バイオメカニクス ）	備考(教員メッセージ含む)	学習効果を高めるために、２、３、４年生および大学院生が一緒になって行う。
オフィス・アワー	随時可能ですが，事前にアポイントを取る方が確実です：スポーツトレーニング教育研究センター２階（山本教員室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山本　正嘉	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 ３、４年生や大学院生の発表を聴講し、トレーニング科学やスポーツ科学の方法論について学ぶ。また討論に参加することで、ディスカッションの方法についても学ぶ。馴れてきたら、自身での発表も行う。	輪番制でプレゼンテーションを行う。このために、自身で文献を探し購読を行う。測定や実験も自ら立案して行う。成果の発表はパワーポイントを用いて行う。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 前年度の興味や研究をさらに発展させ、卒業研究を作成するための諸方法について学び、卒業研究をまとめる。その際、科学の有効性とその限界の双方をたえず意識しつつ研究を進める。卒業研究の成果は、学会・研究会での発表や、学術論文として公表することを目指す。	輪番制でプレゼンテーションを行う。このために、自身で文献を探し購読を行う。測定や実験も自ら立案して行う。成果の発表はパワーポイントを用いて行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅢ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	前田　明			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	バイオメカニクス、トレーニング科学に関する基礎的内容を学び、その成果を実際のフィールドにて協議パフォーマンスの向上、健康増進活動に活用していく手法を学ぶ。ゼミナールⅠ及びⅡの前半においては、バイオメカニクス、トレーニング科学に関する基礎的事項の全般を学び、ゼミナールⅡの後半からはそれを踏まえて卒業研究のテーマの決定、及びその実行を進めていく。自らテーマを選択し、自由名発想のもとオリジナリティにあふれた卒業研究を遂行できる能力を育む。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バイオメカニクス実験で得たデータをもとに、図表で結果を表し、参考文献をもとに考察を加え、科学論文の形式に則ってレポートを作成できるようになる。	○						50
	■情意的領域	検者、あるいは被検者として積極的に参加し、各種測定技術を身につける。発表や質疑応答の態度を学ぶ。	○						25
	■技能的領域	研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論などを明瞭簡潔にまとめ、伝えるプレゼンテーション能力を身につける。				○			25

成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	スポーツバイオメカニクス　（金子公宥著　杏林書院）		
履修条件・ 関連科目	バイオメカニクス　運動生理学　解剖生理学	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	事前連絡　研究棟4階405教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
3	前田　明	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 卒業研究の実験を実行する。先行研究を十分に踏まえた実験計画をたて、妥当性のある方法論をもとに結果を導き出し、考察を深める。質疑応答を含めた、プレゼンテーション技術を学ぶ。	卒業研究に関する資料収集。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	田巻　弘之			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	本科目では、スポーツ、健康づくりにおける基礎的な科学的表現力を身につけるため、合理的な身体活動や運動の効果についての生理学的/組織細胞学的根拠を調べ、実験を通して検証していく。また、文献を検索して文献管理ソフトでデータベース化し、論文作成に活用する方法を身につける。本授業により、スポーツ、体力・健康増進に関して新しい知見を見出すよう議論でき、円滑に卒業論文を完成することができる。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	生体反応や組織細胞をイメージングする原理を理解し、運動効果について生理学的根拠を述べることができる。	○			○			30
	■情意的領域	授業で実施する実験・実習等に積極的に取り組み、チームで協力して課題に挑戦する。	○			○			30
	■技能的領域	・特殊な実験機器操作や解析手法など適切な研究手法を習得する。 ・必要な文献をPubMed等で検索でき、EndNote等にデータベース化して、論文作成に活用することができる。	○			○			40

成績評価の基準	上記３領域に関する習得状況について総合的に評価する。ルーブリックを配布する。		
テキスト、教材 参　考　書	（参考書）1）計測法入門―計り方,計る意味, 内山 靖, 協同医書出版社 (2001), ISBN:978-4763910301, 2)新しい骨形態計測, 遠藤直人監修, ウイネット (2014), ISBN:978-4434190803, 3)細胞・組織染色の達人, 大久保和央(著), 羊土社 (2018), ISBN:978-4758122375, 4)これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版, 酒井聡樹, 共立出版 (2015), ISBN: 978-4320005952, 5)実験で使うとこだけ生物統計1, 池田郁男, 羊土社 (2017), ISBN: 978-4758120760, 6)実験で使うとこだけ生物統計2, 池田郁男, 羊土社 (2017), ISBN: 978-4758120777, 7)EndNote活用ガイド デジタル文献整理術, 讃岐美智義, 克誠堂出版 (2018), ISBN: 978-4-7719-0496-5		
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクス、体育学実験を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	田巻　弘之	ゼミナールⅠ（２年）１～３０回 ・パソコンの使い方を学び、基本的なソフトの操作ができるように練習する。 ・PCを用いる実験機器の使用方法や測定、分析の基本原理と技術を実習する。 ・興味あるテーマの論文について抄読、内容をプレゼンテーションする。 ・リサーチラボノートの記録の仕方を学び、実習する。 ・PubMed等で文献を検索し、文献管理ソフトEndNoteの使用方法を学び、参考文献をデータベース化し、その便利さに感動する。	各授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（各2時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１～３０回 ・パソコンの使い方を学び、基本的なソフトの操作ができるように練習する。 ・興味あるテーマの論文について抄読し、内容をプレゼンテーションして、卒業研究のテーマを決定する。 ・研究テーマに関連する実験機器の使用方法や測定、分析（筋電図、筋力測定、筋酸素飽和度測定、骨強度測定、ビデオ撮影、画像分析、組織染色、顕微鏡観察・撮影等）の基本原理と技術を実習する。 ・計測信号をA/D変換してPCで記録する方法、データ解析ソフトの使用方法を学ぶ。 ・研究の目的や仮説を設定し、スケジュールと実験プロトコルを作成して、実験を実施する。 ・PubMed等で文献を検索して、文献管理ソフトのEndNoteの使用方法を学び、参考文献をデータベース化する。 ・リサーチラボノートの記録の仕方を学び、実習する。 ・各自の卒業研究テーマについて、「卒業研究計画書」を作成し、発表する。	各授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（各2時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１～３０回 ・実験で得られた結果を分析し、全体でディスカッションする。 ・必要な統計方法（ソフト）を学び、自己の卒業研究に用いる。 ・PubMed等で文献を検索して、文献管理ソフトのEndNoteの使用方法を学び、参考文献をデータベース化し、卒業論文の作成に活用する。 ・卒業論文、研究発表用プレゼンテーション資料を作成する。 ・卒業研究をプレゼンテーションする。	各授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（各2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	中垣内　真樹			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	健康づくりや介護予防のための運動の方法論やその効果について国内外の研究論文を抄読して見識を深める。それらの実践方法や効果についてディスカッションしながら卒業論文のテーマを決定し、卒業論文を遂行できる能力を身につける。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康づくりや介護予防に関する運動方法について国内外の研究をリビューし、研究手法や新たな研究課題を探求する。	○		○	○			30
	■情意的領域	健康づくりや介護予防の運動の指導、効果判定の測定を通して、研究手法の習得に積極的に取り組む。	○			○			40
	■技能的領域	研究の背景（目的）、方法、考察など論理的にまとめることができ、さらにそれらを伝えるプレゼンテーション能力を身につける。	○			○			30

成績評価の基準	卒業論文の作成に向けて積極的に取り組むこと、授業への参加状況や発表内容で総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料等を紹介・配布する。 参考書：「健康運動指導士養成講習会テキスト上・下」（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） 　　：「運動処方の指針　運動負荷試験と運動プログラム　原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円)		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	健康づくり、介護予防、生涯スポーツに興味があり、地域に出て積極的に指導や研究に取る組むことを望みます。
オフィス・アワー	随時：研究棟　4階　407研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中垣内　真樹	ゼミナールⅠ（2年次）1～30回 健康づくり、介護予防の運動指導現場を見学・参加し、運動指導の方法論を学ぶ。	健康づくり、介護予防の運動方法やその効果についての資料を収集する.
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1～30回 健康づくり、介護予防の運動方法論やその効果に関する国内外の研究論文をリビューし、今後の研究課題などを討論し、卒業論文のテーマについて検討する。	国内外の研究論文を検索し、それらをリビューし、発表できるようにまとめる.
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1～30回 卒業論文の作成する。指導、調査、測定を実施し、得られた結果を分析・考察して、プレゼンテーションできるようにする。	指導、調査、測定の方法および分析（統計解析等）の方法についての情報を収集する.

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	モハモド　モニルル　イスラム			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7
授業の概要	健康づくりまたは高齢者の自立維持のために有効な運動のあり方というテーマに関する国内外の論文を抄読し，また測定や調査および実験を行い，身体の運動の有用性を知り，運動スポーツの意義を検討する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	健康づくりまたは高齢者の自立維持のために必要な運動とその具体的方法についての知識を高め，今日的な課題と今後のあり方を理解できるようになる。	○		○				30
	■情意的領域	積極的に授業に参加し，さまざまなテーマについても興味や関心を持つことができるようになる。意見を述べ，他の学生と共同作業ができるようになる。	○						40
	■技能的領域	科学的に思考し，計画，解析，発表ができるための基本的技術を習得する。				○			30

成績評価の基準	自分の取り込む卒業研究につながるテーマを見つけ，計画，立案，調査研究の実施，展開，まとめといった研究の手順を理解し，それぞれの成果を発表する。この一連の取り組みを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	随時紹介する。		
履修条件・ 関連科目	公衆衛生学，ヘルスプロモーション，運動生理学などの健康づくりに関わる基本的な事項を理解しておくことが望まれる。	備考(教員メッセージ含む)	積極的に授業に参加し，興味のある課題を立て，研究の手順や方法を学んでもらうとともに研究を通して運動を指導する（運動により支援する）ということの難しさと楽しさを知ってほしい。
オフィス・アワー	教員研究室509号（内線: 4962）にて随時（但し，事前に申し出ること）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	モハモド　モニルル イスラム	ゼミナールⅠ　（2年）１～３０回　国内外の関連する文献や過去に行われてきた研究の検索などをもとに，新しい研究課題をみつけ，研究の立案，計画，準備などをおこない，その展開を図り，成果を報告発表する。	関連知識を学び，研究プロジェクトや学内外の研究のためにおこなう運動指導に積極的に参加し，指導能力を高める。
2	〃	ゼミナールⅡ　（3年）１～３０回　国内外の関連する文献や過去に行われてきた研究の検索などをもとに，新しい研究課題をみつけ，研究の立案，計画，準備などをおこない，その展開を図り，成果を報告発表する。	関連知識を学び，研究プロジェクトや学内外の研究のためにおこなう運動指導に積極的に参加し，指導能力を高める。
3	〃	ゼミナールⅢ　（4年）１～３０回　国内外の関連する文献や過去に行われてきた研究の検索などをもとに，新しい研究課題をみつけ，研究の立案，計画，準備などをおこない，その展開を図り，成果を報告発表する。	関連知識を学び，研究プロジェクトや学内外の研究のためにおこなう運動指導に積極的に参加し，指導能力を高める。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	吉田　剛一郎			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	運動にともなうからだの変化について生化学・栄養学面から学ぶ。糖質・脂質・タンパク質、いわゆる三大栄養素と、生命活動に不可欠なビタミンとミネラルが生体内代謝におよぼす役割について学ぶ。その後、エネルギー産生、疲労、およびアンチ・ドーピングをテーマとして実験、調査およびディスカッションを行うことにより、運動がからだにおよぼす影響を系統的に理解できる能力を養う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （一般教養・倫理、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	栄養素および生体内の代謝を理解し、運動に関する実験・調査を行うための知識を身につけることができる。			○	○			40
	■情意的領域	適切な受講姿勢を保ち、積極的に作業課題に取り組むことができる。	○						30
	■技能的領域	実験のテクニックや機器の操作方法を習得し、データの解析に必要な統計学的手法を身につけることができる。	○						30

成績評価の基準	ゼミナールの到達目標は、最終的に卒業研究の完成を目指すことにあり、そのために努力を行ったかということを評価の基準とする。		
テキスト、教材 参　考　書	入村達郎 訳『ストライヤー生化学』（トッパン） 上代淑人 訳『ハーパー生化学』（丸善）		
履修条件・ 関連科目	分野科目の偏りなく履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	自らの目標に向かって、自主的に努力を行ったという満足感を感じ取ってほしい。
オフィス・アワー	随時　３０７研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	吉田　剛一郎	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 ・からだの構造と機能について学ぶ。 ・実験・実習に対する態度と基本的なテクニックを身につける。	・関連する文献を読む。 ・実験方法を学ぶ。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 ・糖質、脂質、タンパク質などのからだを構成する物質、およびその代謝に必要となるビタミンとミネラルについて学ぶ。 ・実験のテクニックや機器の操作方法を習得する。 ・データの解析に必要な統計学的手法を身につける。	・関連する文献を読む。 ・実験方法を学ぶ。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 ・運動時の水分出納・エネルギー代謝、エネルギー産生とビタミン（カルニチン欠損マウスを用いて）、練習を繰り返す根拠となる生体内代謝と遺伝学的背景、栄養素補給のタイミング、疲労とその対策、アンチ・ドーピングなどについて学ぶ。 ・ディスカッション、および卒業研究を行うことによりその理解度を深める。	・関連する文献を読む。 ・実験方法を学ぶ。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	藤田　英二			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7名
授業の概要	アスレティックトレーニングや高齢者等への健康運動などの、様々な対象に対する運動処方の領域に関する見識を高め、それらについてのアプローチ法や研究法について考究する。これにより、課題解決力、科学的支援力、科学的表現力が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	アスレティックトレーニングや高齢者等への健康運動領域に関する先行研究をレビューし、研究手法を学ぶとともに、新たな問題点や研究課題を発見する。	○		○	○			30
	■情意的領域	先行研究の調査、発表、討論、および実験測定への参加など、積極的に課題へと取り組む。	○			○			40
	■技能的領域	実験測定に必要な基本手技を身につけるとともに、論理的思考の養成と、プレゼンテーション能力の向上を図る。				○			30

成績評価の基準	卒業研究作成に向けて積極的に取り組んでいるかどうかを中心に、参加状況などを加味して総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料を提供する。		
履修条件・ 関連科目		備考(教員メッセージ含む)	何事にも積極的に取り組む姿勢を望む。
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	藤田　英二	ゼミナールⅠ（2年次）1～30回 国内外の関連する文献・先行研究の検索と検討をし、興味の持てる内容に関して報告・発表を行う。	関連領域の知識を学び、研究活動の手伝いを積極的に行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1～30回 国内外の関連する文献・先行研究の検索と検討をし、興味の持てる内容に関して新しい課題を見つけ報告・発表を行う。	各種実験機材や測定機器の扱いに慣れるとともに、積極的に実験や測定に参加する。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1～30回 卒業研究に向け、研究を進める為の諸方法について学び、具体的な調査・測定を行う。得られた結果を分析・考察し、その内容を適切にプレゼンテーションできるようにする。	各自の卒論テーマに関連する文献について輪番制でプレゼンテーションを行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	廣津　匡隆			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	健康科学的な各分野からアプローチし、スポーツと健康についての深い知識の学修と研究方法の修得を目指す。本授業では救急処置法、整形外科的疾患に対する運動療法、リハビリテーション、身体障害者スポーツ、運動と骨代謝などについて概説することにより、スポーツ医科学的な事項について教授する。これにより、スポーツ指導者にとって必須の医科学的知識が身につくことが期待される。この授業は、健康科学的な研究分野を通じて、本学の教育目標における「スポーツ・武道及び体育・健康づくりに関する課題解決に向けて取り組めるような能力」を身につける科目です。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （コミュニケーション力、専門的な知識･教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	リハビリテーション、救急処置法の正確な実施方法について理解できる。整形外科的疾患に対する運動療法を説明し、新たな解決方法を提示する。		○		○			40
	■情意的領域	身体障害者スポーツ・運動療法などに対し、主体的に取り組み、作業課題を遂行できる。運動と骨代謝について興味関心を持つことができる。	○						30
	■技能的領域	ゼミ活動に継続的に参加し、スポーツ医科学的な事項について演習できる。健康的なスポーツ指導が、正確に実施できるようにする。	○						30

成績評価の基準	授業期間における意欲、テスト、発表などを総合的に評価し、６０点以上のものを合格とする。		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」小出清一他編集（南江堂）、「スポーツリハビリテーションの臨床」青木治人他著（メディカル・サイエンス・インターナショナル）、「スポーツ整形外科学」松本秀男他著（文光堂）		
履修条件・ 関連科目	救急処置論・実習、アスレチックトレーナー論、スポーツ医学、障害者スポーツ論を履修することが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	このゼミナールでは、一律不変の内容を講義するのではなく、各学生の希望学習分野に応じて、できるだけ能動（流動）的な授業を展開する。「白熱した授業」になるようにお互いに積極的に討論できることを目指す。
オフィス・アワー	廣津：水曜日　10時30分～11時30分　研究棟3階　304研究室　（要予約）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	廣津　匡隆	ゼミナールⅠ（２年）１回～３０回 ・「救急処置法」、「アスレチックトレーナー論」などについて検討し、考究する。 ・各自の興味、関心に基づくテーマを決定し、資料収集、分析、考察、抄読会などを行う。検討内容に関しディスカッションを加え、演習を行う。	・学習、討論会、抄読会においては、順番に発表などを行う。（16時間） ・レポートを適時に作成する（4時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～３０回 ・「スポーツ医科学」、「整形外科的疾患に対する運動療法」などについて検討し、考究する。 ・各自の興味、関心に基づくテーマを決定し、資料収集、実験・測定法などの実習、学習・討論会、抄読会などを行う。検討内容を卒業研究に発展させるため、卒業研究の意義、研究計画の作成、資料分析方法などについて理解を深める。	・学習、討論会、抄読会においては、順番に発表などを行う。（８時間） ・卒業研究に向けての資料収集と分析などを進める（8時間） ・レポートを適時に作成する（4時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～３０回 ・「身体障害者スポーツ」、「運動と骨代謝」などについて検討し考究する。 ・健康的なスポーツ指導者にとり必須の知識を修得し、スポーツ指導などが正確に施行可能な技術水準に到達する。 ・各自のテーマを決定し、資料収集、データ処理法などの学習、討論会などを行う。 ・学習内容を卒業研究としてまとめるため、論文作成・発表方法など検討する。	・卒業研究論文を作成し、修正を加え、完成させる（16時間） ・レポートを適時に作成する（4時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2100)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	沼尾　成晴			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	肥満や生活習慣病予防のための運動方法論やその効果に関する国内外の資料や研究論文を講読して，それらに対する見識を高める。また、実験や測定を通して、研究方法を学びながら、データを分析・評価する能力やそれらを適切に表現・発表できる能力を高めることを目指している。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	肥満や生活習慣病予防のための運動方法論やその効果に関する国内外の資料や研究論文をまとめ、研究手法の理解や研究課題の発見ができる。	○		○	○			30
	■情意的領域	先行研究の探索、発表、討論および実験測定への参加など積極的に自らの課題解決へ取り組むことができる。	○			○			40
	■技能的領域	研究の背景、目的、方法、結果、考察を論理的かつ明瞭にまとめ、わかりやすく発表できる能力を身につける。	○			○			30

成績評価の基準	卒業論文の作成に向けた取組状況とともに、授業への参加状況や発表などを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて資料等を紹介・提供する。		
履修条件・ 関連科目	特になし。	備考(教員メッセージ含む)	健康づくりや生涯スポーツなどに強く興味があり、将来の目標と関連づけながら学ぼうとする姿勢を期待します。また、何事にも積極的に取り組むことを望みます。
オフィス・アワー	随時：研究棟4階　406研究室 （不在の時もあるため、事前にメール(numashige@nifs-k.ac.jpで連絡することが望ましい）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	沼尾　成晴	ゼミナールⅠ（2年次）1～30回 運動処方について調査し、運動処方に関する基礎的な知識を深める。また、調査した内容について発表する。	運動処方に関する資料を収集する。
2	〃	ゼミナールⅡ（3年次）1～30回 肥満や生活習慣病予防のための運動方法論やその効果に関する国内外の資料や研究論文を講読して、研究課題などを討論し、自身の卒業論文のテーマを検討する。	自身で興味関心のある研究課題を探索し、その課題の解決方法（測定方法など）に関する発表資料を作成する。
3	〃	ゼミナールⅢ（4年次）1～30回 卒業研究の作成に向け、調査や測定などを実施し、得られた結果を分析・考察してその内容を適切に発表できるようにする。	調査や測定などの予定や結果などの資料の作成やデータを分析する方法（統計解析など）について自ら情報を収集する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2100)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	髙井　洋平			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	－
授業の概要	本ゼミナールでは、実験実習を通じて、トレーニングをキーワードに、人間の身体組成や筋機能の可塑性ならびに運動パフォーマンスの変化に関する知識を習得するとともに、研究の目的に応じてデータを分析・評価・総括する能力、およびデータに基づいた議論ができる能力を身に付けることを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	自己のテーマにそった先行知見の網羅、実験方法、データの採取・分析方法の習得			○	○			50
	■情意的領域	実験実習・ゼミ内でのディスカッションにおける積極的な参加						○ (実験実習)	20
	■技能的領域	先行知見のレジュメの作成・データのプレゼンテーション能力の向上				○		○ (実験実習)	30

成績評価の基準	知識：実験手法，データ分析，教科書および学術論文の数 技能：プレゼンテーションおよびレポートの内容（データの解釈，研究の構成および着眼点） 態度：実験・ディスカッションへの参加，他者の実験への積極的な協力
テキスト、教材 参　考　書	スポーツ科学，トレーニング科学に関連する領域の教科書および学術論文
履修条件・ 関連科目	備考(教員メッセージ含む)
オフィス・アワー	随時可能（スポーツトレーニング教育研究センター２階，教員室２）

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	髙井　洋平	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 テーマを決めて実験実習を行い、互いに検者と被検者をやりながら、実験の難しさ、データ取得および分析の大変さを学ぶ。	授業の進行に合わせて、プレゼンテーションおよびショートレポートの提出を適宜指示する。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 テーマを決めて実験実習を行い、互いに検者と被検者をやりながら、ヒトを対象とした実験手法を取得する。得られたデータに基づき、分析の視点、プレゼンテーションの方法を学ぶ。さらに、テーマに関連した解説記事等を参考に、データを総括するためのレポートの作成技術を高める。適宜、実験・データの解析についてのプレゼンテーション・ショートレポートの提出を課す。	授業の進行に合わせて、プレゼンテーションおよびショートレポートの提出を適宜指示する。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 各自の研究テーマを確定し、実験・データの分析を行う。研究テーマに関連した論文を読み、自身のデータの解釈・考察する能力を鍛える。定期的に実験の進捗状況、得られたデータについてプレゼンテーションを行う。発表を通して、実験結果の解釈を深めると同時に、互いのディスカッション能力を鍛える。また、定期的にショートレポートを提出し、それに基づくミーティングを行うことで論文作成技術を高め、卒業論文の完成を目指す。	卒業論文の作成についてテーマ別のミーティングを実施し、卒業論文の内容に関連した課題を適宜課す。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	與谷　謙吾			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	本ゼミナールは、身体パフォーマンスにおける神経-筋機能や活動様式を明らかにするために、様々な機器(筋電図や磁気刺激等)を使用して研究を進める。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	生理学を基礎とし、動物機能に関わる知識・課題が理解できる	○		○	○			40
	■情意的領域	実験・実習に対して検者や被検者として積極的に参加する	○						30
	■技能的領域	卒業論文作成に向けた実験機器の操作や解析法ができるようになる	○						30

成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	必要に応じて紹介する。		
履修条件・ 関連科目	運動生理学、解剖生理学、バイオメカニクスを履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	特になし。
オフィス・アワー	研究棟3階 306研究室、研究棟2Fバイオメカニクス実験室（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです：yotani@nifs-k.ac.jp）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	與谷　謙吾	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 担当教員や先輩の実験に積極的に参加し、実験の流れや雰囲気をつかむ。また、興味があるテーマを模索する。	配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をCiNiiやPubMed等で調べ、データベース化して構築する。
2	〃	ゼミナールⅡ(3年)1回～30回 担当教員や先輩の実験に積極的に参加し、実験の手続きや雰囲気をつかむ。また、興味があるテーマを模索する。	配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をCiNiiやPubMed等で調べ、データベース化して構築する。
3	〃	ゼミナールⅢ(4年)1回～30回 卒業論文作成のために研究テーマを定め、実験・データ分析を行う。また、得られた結果を基に、明確なプレゼンテーションができるようにする。	卒業論文作成に取り組む。（随時）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	村田　宗紀			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	スポーツにおいて何気なく目にする物体や身体の運動を力学現象としてとらえ，観察・説明する能力を習得する．本ゼミナールでは，スポーツバイオメカニクスにおける専門知識を学ぶとともに，各自の興味のに基づく課題設定を設定し，自身で解決に至るプロセスを経験することで，論理思考や自身の計画をマネージメントする能力を習得する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	ヒトの身体をはじめとするスポーツ場面における運動を力学現象としてとらえ，説明することができる．			○	○			40
	■情意的領域	関連する情報収集を行うことができる． 自身の意見をもち，積極的に議論に参加することができる．	○		○	○			30
	■技能的領域	各種測定機器を適切に使用できる． 基本的なアカデミックライティングやプレゼンテーションを身につける．	○		○	○			30

成績評価の基準	出席は最低条件とし，議論参加に対する積極性，レポートや発表内容などを総合的に判断する．		
テキスト、教材 参　考　書	参考書：『スポーツバイオメカニクス20講』阿江通良，藤井範久，朝倉書店（2002） 参考書：『バイオメカニクスと動作分析の原理』【著】Iwan W. Griffiths【訳】石毛勇介，川本竜史，NAP（2008） 参考書：『バイオメカニクス　人体運動の力学と制御』【著】David A. Winter【訳】長野明紀，吉岡伸輔，ラウンドフラット（2011） 参考書：『よくわかる初等力学』前野昌弘，東京図書		
履修条件・ 関連科目	バイオメカニクス	備考(教員メッセージ含む)	基本的な数学（線形代数，微積分など）と力学の知識が必要となる．知識が不足する場合は時間外学習を行い，各自で補うこと． また，他人の実験などに積極的に参加すること．
オフィス・アワー	随時　研究棟4階　404教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	村田　宗紀	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 ・動作分析の基本的な事柄を学ぶ（力学・数学を含む）． ・力学と身体運動の関係を学ぶ． ・スポーツにおいて，自身が興味のある動作を文献研究など打通じて理解する．	・授業で課した課題を行うこと． ・各授業で生じた疑問点を解消する． ・不足する知識や，興味のあることを学習すること．
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 ・スポーツバイオメカニクスで行う基本的な分析法や，実際の分析に必要となる基礎知識を習得する． ・卒業研究に必要となる，文献研究やプレゼンテーション資料の作成などを習得する．	・授業で課した課題を行うこと． ・各授業で生じた疑問点を解消する． ・不足する知識や，興味のあることを学習すること．
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 3年次の活動に基づき，自身で課題を設定し，研究計画を立て，遂行すること．	・授業で課した課題を行うこと． ・各授業で生じた疑問点を解消する． ・不足する知識や，興味のあることを学習すること．

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ・Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	前田　博子			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2・4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	社会に対して幅広い関心を持ち，情報に接する． スポーツの多様な側面についての知識を得る． スポーツにおける社会課題に気づき，問題意識を持つ． 質問紙調査の方法を学ぶ．調査用紙の作成，調査の実施，データの扱い，レポートの作成． 各自のテーマに基づき，卒業研究と並行して，問題関心を深める． 他者のテーマを理解し，相互に議論を行う． 卒業研究のプロポーザル発表会，中間発表会，最終発表会で行うプレゼンテーションに備え，適切な資料，スライドおよび発表原稿を作成する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	現代社会の現状と課題に関する知識を身に付ける スポーツに関わる問題についての理解力を高める	○		○	○			40
	■情意的領域	課題に対して積極的に取り組む ゼミ時間における議論に話題を提供し，積極的に発言する	○			○			30
	■技能的領域	スポーツおよび社会問題について，適切な資料を入手する方法を身に付ける 調査研究の方法を身に付ける	○		○				30

成績評価の基準	1）スポーツと社会に関する問題提示がなされたら，2）提示された問題を理解し，議論に参加し適切な発言を行ったか，3）与えられた課題に取り組んだか，4）提出した課題の完成レベル等から総合的に判定する．		
テキスト、教材 参　考　書	適宜，資料の提示もしくは配布を行う．		
履修条件・ 関連科目	「ジェンダー論」（1年後期），「生涯スポーツ学概論」（2年前期）「社会学」（2年後期）を履修していることが望ましい．	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	606研究室（随時）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	前田　博子	2年次：社会に対して幅広い関心を持ち，情報に接する．	
3	〃	4年次： 各自のテーマに基づき，卒業研究と並行して，問題関心を深める． 他者のテーマを理解し，相互に議論を行う． 卒業研究のプロポーザル発表会，中間発表会，最終発表会で行うプレゼンテーションに備え，適切な資料，スライドおよび発表原稿を作成する．	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	山田　理恵			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	体育・スポーツ史の研究法および叙述の仕方を修得し、人間の身体運動をめぐる諸現象について歴史的に論じ考察を行う。また、近接分野からのアプローチも行う。それらを通して、現代社会における体育・スポーツの意義や在り方を考究する。 それらによって、専門的な知識を活用し、論理的に考え表現できる能力、課題解決に向けて考え実践できる能力を身につけることが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツ史の研究法を修得する。さらに、近接分野の研究法についても理解する。史料の収集法を修得し、史料吟味について理解する。	○			○			50
	■情意的領域	ディスカッションに積極的に参加する。課題に意欲的に取り組む。	○			○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	授業および課題に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	国内外の著名な文献を適宜用い、必要に応じて資料を配付する。また、参考書は適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	「体育・スポーツ史」「歴史・社会学」の両方を履修していることが望ましいが、少なくとも「体育・スポーツ史」を履修していること。	備考(教員メッセージ含む)	活発なディスカッションと主体的な研究テーマの追究に取り組むことを期待する。
オフィス・アワー	随時（７０５研究室）		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山田　理恵	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 体育・スポーツの歴史的、歴史人類学的研究に関連する著名な文献を購読しながら、最新の研究成果を学ぶとともに研究の動向を分析し、問題意識を高める。また、体育・スポーツ史の研究法を修得する。さらに、近接分野の研究法についても理解する。それらの過程において各自が興味・関心を持ったテーマについて文献・資料を収集し、検討する。成果を各自発表し、ディスカッションする。	○関連する領域の文献等の予習・復習（毎回30分以上）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 体育・スポーツの歴史的、歴史人類学的研究に関連する著名な文献を購読しながら問題意識を高める。各自が興味・関心を持ったテーマを卒業研究に向けて設定、そのテーマに関連する先行研究を検討し、史料の調査・収集および史料吟味を行う。必要に応じて、近接分野の研究法も援用する。成果を各自発表し、ディスカッションする。	○関連する領域の文献等の予習・復習 ○卒業研究に関連する文献・史料の調査・収集、史料吟味 ○卒業研究の研究計画の作成
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 卒業研究として設定した研究テーマについて、継続して、先行研究の検討、史料の収集と吟味を行い、それらをもとに考察する。最終的にはその成果を卒業研究として論文にまとめ、発表会において発表する。	○ 卒業研究の論文作成 ○ 発表会の資料作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	森　克己			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	スポーツと法並びに子どもの人権に関する文献を研究することにより、スポーツの法的問題や子どもの人権について考える基本的な知識・考え方を身につけるとともに、学生個人の研究テーマに沿った研究指導を行うことを目標とする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツと法に関する問題の知識・考え方を身に付ける。 子どもの人権に関する問題の知識・考え方を身に付ける。	○			○			50
	■情意的領域	スポーツと法並びに子どもの人権に関するテーマについて問題意識を持って授業に積極的に臨んでいる。	○			○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	標記の到達目標に基づき、学生の演習への参加、発表の内容・態度を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	スポーツと法並びに子どもの人権に関する文献・資料を適宜指導教官が提供するとともに、学生各自が自分の卒業研究テーマに関する文献・資料を持ち寄り、それらの文献・資料に基づき演習を行う。		
履修条件・ 関連科目	スポーツと法、人権論、日本国憲法を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー			

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	森　克己	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 今年度は、次のテーマなどについて演習を行う。 （1）スポーツの権利性 （2） スポーツ選手の人権問題（指導者による体罰問題の現状と対策、パブリシティの権利、ドーピング問題への対応など） （3）スポーツ事故の判例研究・リスクマネジメント （4）イギリススポーツ法の研究（ユニバーサル・アクセス権、スポーツ団体のchild protection 制度など） (5)スポーツintegrityの問題 （6）学校教育と子どもの人権問題（いじめ、体罰、虐待、モンスターペアレントなど）	授業での発表の準備、予習・復習（各回30分以上）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 今年度は、次のテーマなどについて演習を行う。 （1）スポーツの権利性 （2） スポーツ選手の人権問題（指導者による体罰問題の現状と対策、パブリシティの権利、ドーピング問題への対応など） （3）スポーツ事故の判例研究・リスクマネジメント （4）イギリススポーツ法の研究（ユニバーサル・アクセス権、スポーツ団体のchild protection 制度など） (5)スポーツintegrityの問題 （6）学校教育と子どもの人権問題（いじめ、体罰、虐待、モンスターペアレントなど）	授業での発表の準備、予習・復習（各回30分以上）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 今年度は、次のテーマなどについて演習を行う。 （1）スポーツの権利性 （2） スポーツ選手の人権問題（指導者による体罰問題の現状と対策、パブリシティの権利、ドーピング問題への対応など） （3）スポーツ事故の判例研究・リスクマネジメント （4）イギリススポーツ法の研究（ユニバーサル・アクセス権、スポーツ団体のchild protection 制度など） (5)スポーツintegrityの問題 （6）学校教育と子どもの人権問題（いじめ、体罰、虐待、モンスターペアレントなど）	授業での発表の準備、予習・復習（各回30分以上）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	北村　尚浩			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	生涯スポーツについての理解を深めるとともに、社会現象としてのスポーツについて社会科学的研究の視点から考察する。また、各種イベントや調査測定等の現場での体験を通して実践的な能力を修得する。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	生涯スポーツの概念について理解する 生涯スポーツ政策について理解する	○			○			40
	■情意的領域	課題に積極的に取り組むことができる。	○			○			30
	■技能的領域	適切な日本語表現でレポートを書くことができる プレゼンテーションを通して自分の意見を発表することができる	○		○	○			30

成績評価の基準	認知的、情意的、技能的領域の到達状況を加味して総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	生涯スポーツ実践論（市村出版）		
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ・レクリエーション＆ゲームズ、スポーツ社会学、情報処理A，情報処理C 未履修者は3年次、4年次で履修すること．また、3年次の社会調査論を履修すること。	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時 （６１０研究室）kitamura@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	北村　尚浩	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 ・ニュースポーツを中心としたスポーツ種目に関する知識を学習する ・レポートの書き方、プレゼンテーションの基礎を学習する ・日本におけるスポーツ政策について学ぶ	生涯スポーツ関連イベント等の運営補助、生涯スポーツ関連の調査測定等の補助などを通し、実践的 な指導力を修得する。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 ・ニュースポーツを中心としたスポーツ種目に関する知識と技術を修得する ・レポートの書き方、プレゼンテーションの基礎を修得する ・スポーツにおける社会学的研究法の基礎について学習する ・各自の興味・関心に応じた文献を収集して抄録にまとめ、発表・ディスカッションを行なう	生涯スポーツ関連イベント等の運営補助、生涯スポーツ関連の調査測定等の補助などを通し、実践的 な指導力を修得する。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 ・卒業研究のための資料収集、調査・分析方法について学習する ・プレゼンテーションの技法を修得し、卒業研究に関するディスカッションを通して、その能力を高める ・卒業研究を通して、生涯スポーツや社会現象としてのスポーツに関する知識を深める	生涯スポーツ関連イベント等の運営補助、生涯スポーツ関連の調査測定等の補助などを通し、実践的 な指導力を修得する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	関　朋昭			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	スポーツマネジメントやマーケティングに関する知識や技能，興味関心を持つ等の態度を身につけ，各自がスポーツについて自分なりの理解ができ，説明ができ、ディスカッションできることを目標としている。課題解決力，科学的表現力が身につくことが期待される。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する幅広い知識を獲得する。			○	○			30
	■情意的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する事例や研究について興味・関心を持ち，積極的に探究する姿勢を持つ。	○		○	○			30
	■技能的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する課題発表，研究発表、またはそれに関するディスカッションができる。	○			○			40

成績評価の基準	2/3 以上出席したものを評価の対象者とする。		
テキスト、教材 参　考　書	「スポーツマーケティング」原田宗彦編著、大修館書店、2008　など		
履修条件・ 関連科目	スポーツマネジメント概論，スポーツ社会学，スポーツ産業論，スポーツマーケティング論	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	604研究室　月曜日　16-17時　seki@nifs-k.ac.jp		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	関　朋昭	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 ・文献抄読、書籍抄読、事例紹介等の課題発表を通して、スポーツマネジメントやマーケティングの理論と実践を学ぶ。	各種セミナー等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 ・文献抄読、書籍抄読、事例紹介等の課題発表を通して、スポーツマネジメントやマーケティングの理論と実践を学ぶ。 ・卒業研究のテーマを決定する。	課題発表のための情報収集、資料作成 各種セミナー・学会等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 卒業研究の作成、発表 ・資料収集、研究計画の立案、データ収集、データ集計・分析、考察、まとめ、発表。 （発表時期；　５月中旬：プロポーザル、10 月下旬：中間、１月中旬：最終）	卒業研究の作成 各種セミナー・学会等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	和田　智仁			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	競技スポーツやスポーツ科学の研究において，コンピュータやネットワークなどの情報通信技術(ICT:Information and Communication Technology)が様々な形で活用されている．本ゼミナールでは，スポーツやスポーツ科学に利用されるICT，特に映像や各種センサーを用いた分析・測定技術について，文献調査や発表・ディスカッション等を通じて理解を深めるとともに，実際の競技での利用など演習を行う．これらによりICTのスポーツ領域における実践的な活用能力を修得することを目的とする．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	コンピュータとネットワークの基本的構成や特性を理解する。 動画の撮影や取り扱いに関する知識を有し、スポーツに応用できる。	○		○				25
	■情意的領域	関連する事項に興味・感心を持ち、必要となる情報を主体的に調査・収集する。また、それを実践する。 ゼミでの議論に積極的に参加する。	○			○			50
	■技能的領域	スポーツ活動にコンピュータやタブレットを活用することができる。 スポーツ活動に関するビデオ撮影や編集を行うことができる．	○			○			25

成績評価の基準	課題に対する取り組み状況と，担当教員と共に設定した個人別の学習目標への到達度などから評価する．		
テキスト、教材 参　考　書	適宜紹介する		
履修条件・ 関連科目	情報処理A, 情報処理B,情報処理C, トレーニング科学概論，バイオメカニクスを履修していること．	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	事前連絡　研究棟４階　405教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	和田　智仁	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 コンピュータとネットワークに関する基礎的な理論について理解し，これを利用できるようになる． また，学内に存在する各種の実験・測定機器，解析ソフトウェア等を調査し，それぞれの特徴や活用事例について理解する．	関連する事項に興味を持って広く情報を収集し，発表・レポート提出に備える．
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 学内の実験・測定機器，解析ソフトウェア等を利用し，その操作方法を身につける． スポーツにおけるICT 活用に関する国内外の事例を論文などから調査研究する．	学内で行われている実験・測定等に積極的に参加し，操作技術などを習得する． 関連研究を調査する．
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 各自の研究テーマを決定した上で研究計画を策定し，それぞれのテーマについて実践的な活動を通じて研究を進めていく． 同時に，論文作成や発表の方法などについても学習を行う．	関連研究を調査する． 実験やビデオ分析等の実践的な活動を，計画に従って着実に実施する．

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	浜田　幸史			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7人
授業の概要	中学校・高等学校教論（保健体育）に必要不可欠な資質・能力を育成するために、学習指導要領、学校関係法令についての理解を深めたり、現代的な諸問題に関する教育内容についての考察を行ったりする。具体的には、関連書籍の精読や関連情報の分析を基に、他者との討論やワークショップ等を行い、学校教育（主に体育や保健）の見方・考え方を広げたり深めたりする。卒業研究については、各自のテーマに関連する先行研究や各種調査結果、関係法令等を調べたり、アンケート調査やインタビュー調査等を行ったりして、課題を明確にしたり、仮説を検証したりして、課題の解決策を講じるなど持論を展開できるようにする。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力、専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学校教育全般や保健体育科教育についての課題を発見したり、解決策を講じたりしている。	○		○	○			20
	■情意的領域	学校教育全般や保健体育科教育についての課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断しようとする。	○			○			30
	■技能的領域	学校教育全般や保健体育科教育についての課題や解決策を他者にわかりやすく伝えることができる。	○		○	○			50

成績評価の基準	授業の到達目標に則り、上記のとおりの割合で、授業への参画状況や、レポート、プレゼンテーション等の内容から総合的に評価します。		
テキスト、教材 参　考　書	必要な資料については、授業で配付します。教材・参考書については、授業で適宜紹介します。		
履修条件・ 関連科目	中学校・高等学校教論（保健体育）を目指しており、学校教育全般や保健体育科教育についての課題を発見し、解決したいと考えている者の履修を認めます。関連科目は、教職科目全般、主に保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳです。	備考(教員メッセージ含む)	志ある中学校・高等学校教論（保健体育）として、世のため人のために働きながら、自己の向上を図っていけるよう、熱い思いを交流し、活動を楽しみながら、主体的・対話的で深い学びを展開していきましょう。
オフィス・アワー	随時：研究棟６階608教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	浜田　幸史	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 学校教育関連書籍の精読や関連情報の分析を基に、他者との討論やワークショップ等を行い、学校教育の見方・考え方を広げたり深めたりする。	授業の復習、レポートの作成等（30時間）
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 保健体育科教育関連書籍の精読や関連情報の分析を基に、他者との討論やワークショップ等を行い、体育や保健の見方・考え方を広げたり深めたりする。	授業の復習、レポートの作成等（30時間）
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 各自のテーマに関連する先行研究や各種調査結果、関係法令等を調べたり、アンケート調査やインタビュー調査等を行ったりして、課題を明確にしたり、仮説を検証したりして、課題の解決策を講じるなど持論を展開できるようにする。	授業の復習、卒業研究等（90時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	中本　浩揮			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	心理学の諸理論を主とした体育学の知識を教育、スポーツ・武道などの現実場面に応用すること、また現実場面で生じる現象の生起メカニズムについて心理学的な視点から考究することを目指す。具体的には、各々が興味を持った心理学的知見及び現象を深く探求し、課題を設定し、それに関わる調査や実験を中心とした研究手法の獲得から、研究結果の効果的な発表技法、論文としてのまとめ方の習熟を通して、各々が特定の領域に対する実践力ある知を形成することを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツ場面の解決すべき課題について、具体例をあげ説明できる。 体育・スポーツ場面における解決すべき課題について、心理学理論に基づいて説明できる。 既存の理論では説明できない問題をあげることができる。				○			40
	■情意的領域	心理学理論について積極的に文献調査を行い、ディスカッションによって課題を深めることができる。 実験・調査に主体的に取り組むことができる。	○						30
	■技能的領域	実践的、理論的根拠をつけた意見を述べることができる。 各種測定機器を利用できる。 科学論文の基本形式について理解し、レポートすることができる。	○			○			30

成績評価の基準	2/3以下の出席の場合は評価しない。基本的な授業形態が発表のため、発表資料の提出やプレゼンで使用したパワーポイントを総合的に評価する。授業中の議論への積極性を評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	2年生　教育心理学、スポーツ心理学、スポーツカウンセリング論、体育学実験Ⅰ・Ⅱ 3年生　上記に加え、教育相談・カウンセリング、応用スポーツ心理学 4年生　上記すべて	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中本　浩揮	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 心理学における基本的な諸理論の学習として、受講者全員が興味のある心理学的知見について資料を収集しまとめて発表する。また、発表者、聴講者相互に知識を深めるためにディスカッションを行い、レポートとしてまとめ発表者に提出する。	学術書、論文などを収集し、発表の準備を行う。発表後にはレポートとしてまとめる。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 2年次に得た心理学的知識を利用して、現実場面において生じる興味のある現象について発表し、ディスカッションを通して考究する。また、各々が興味を持った現象や疑問がどのようにすれば解決されるかについて文献調査した後、調査、実験についての案を考え基礎的なデータを得る。これらの活動を通して、疑問を調査、結果をまとめる技能を獲得する。	現実場面で生じる現象を心理学的な知見から考究するための調査、資料収集を行う。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 3年次の活動を通して得た資料やデータを再度精査し、教育、体育、スポーツに対する自己の疑問を卒業論文としてまとめるために、本調査、実験を行い現場への応用を目指す。	卒業論文の作成に関する調査・実験、発表、まとめを行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	山本　一生			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	教育や体育についての諸問題について、歴史学的および教育学的手法を用いたアプローチの仕方を学ぶ。具体的には学校教育や体育などに関して歴史学的手法で書かれた文献を講読し、受講者の問題意識を深めていく。さらに文献講読や自信の研究発表を通じて、卒業研究をまとめる力を養う。 また、体験型学習を企画し、積極的に活動をマネジメントできる能力を養う。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学校教育や学校文化、体育に関する歴史学的研究手法を身につける。	○						40
	■情意的領域	歴史学や教育学に関する文献調査を積極的に行う。ゼミで積極的に議論に参加する。	○			○			30
	■技能的領域	教育学および歴史学の研究手法を身につける。	○			○			30

成績評価の基準	ゼミでの参加状況、発表、レポートを総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	随時紹介する。		
履修条件・ 関連科目	教職課程を履修していることが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	積極的にゼミ運営に参画することを望みます
オフィス・アワー	随時。研究棟3階308号室 ※ただし、訪問の際には事前にメール等でアポイントを取ること		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	山本　一生	ゼミナールⅠ（2年）1回～30回 学校教育や学校文化、体育関連の基礎的文献を講読し、知識の習得と文献要約の方法を身につける。合わせて体験型学習を企画し、積極的に参加する。	授業の復習、発表準備
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1回～30回 学校教育や学校文化、体育関連の基礎的文献を講読し、知識の習得と文献要約の方法を身につける。合わせて体験型学習を企画し、積極的に参画する。 後期から卒業研究のテーマ設定に向けて各自の問題関心に沿った文献講読と研究発表を行う。	授業の復習、発表準備
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1回～30回 卒業研究のテーマを設定し、研究計画を立てて実行する。研究計画では初発の関心、先行研究リストの作成を行い、卒業研究を進める。合わせて体験型学習を企画し、積極的に参画する。	授業の復習、発表準備

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	中村　勇			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	武道に関する歴史，理論，思想，技術論，競技論，国際論など様々な分野について考究する． 武道の特定を理解し，各種武道に関する課題を検討する． 固定概念にとらえわれず，客観的視野による研究および分析能力を身につけた新時代のニーズに見合った武道専門家を育成する．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
			授業期間				定期試験	その他	割合 %
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （一般教養・倫理、専門的な知識・教養）	授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	武道の基礎・応用・実践分野に関する様々な知識を習得している 武道に関する理論・学術研究の動向や内容について知識を持っている	○			○			50
	■情意的領域	武道に関して学究的興味を持っている 積極的に課題を解決する意欲を持っている	○			○			50
	□技能的領域								

成績評価の基準	出席，取り組み状況，課題に対する発表，意見表明などの内容を総合的に評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	随時，提供する		
履修条件・ 関連科目	武道関連の講義を受講していることが望ましい	備考(教員メッセージ含む)	日本武道学会への参加および学会大会への参加を希望する 柔道や剣道のみならず武道全般に興味がある学生を求める
オフィス・アワー	水曜日　昼休み　３限目　他随意　研究棟５０３教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	中村　勇	ゼミナールⅠ（２年）１回～15回 武道に関する基礎知識，最新動向，資料の検索方法 ゼミナールⅠ（２年）15回～30回 武道に関する基礎知識，最新動向，資料の検索・読解方法	図書館などで資料収集とプレゼン準備（各回30分以上）
2	中村　勇	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 武道に関する文献資料の収集，ディベートやプレゼンテーション能力の向上	資料収集およびプレゼンテーション準備等（各回30分以上）
3	中村　勇	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 ・武道に関する学術研究論文の作成に関する資料収集，分析，執筆，プレゼンテーションの方法の習熟 ・武道に関する高度なディベート力の養成	武道に関する資料収集，資料作成等

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	坂口　俊哉			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	本ゼミナールでは、野外教育、レジャー・レクリエーションに関連する文献を検索、抄読する。最終的には、論文を完成させるために必要な「研究の手順」を身につけてもらうことが目標である。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	論文作成に必要な知識を身につける。			○	○			60
	■情意的領域	討論での積極的な発言（疑問点など）を行うことができる。	○			○			20
	■技能的領域	メール、表計算、ワープロ、統計パッケージ、プレゼンテーションなどのソフトを使いこなすことができる。			○	○			20

成績評価の基準	課題の提出、発表内容などを総合的に判断して評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	授業の中で紹介する。		
履修条件・ 関連科目	統計学や社会調査に関わる科目を履修しておくことが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	３年次の実習（必修）で、野外教育施設での実習を検討している学生にはこのゼミを選択してもらいたい。
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp)。大学院生棟３Ｆ教官室2		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	坂口　俊哉	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 テーマ：視野を広げる。論文作成に必要な基礎的スキルを身につける。 前期：レジャー・レクリエーションに関する国内・国外の現状や問題点について調べる。興味関心を持てるテーマを見つけ、テーマについて各自が調べ、その内容について報告し全員で討論を行う。 後期：授業では、レポート作成方法の初歩について学ぶ。	メール、表計算、ワープロ、プレゼンテーションなどのソフトを使いこなすための課題。 各自プレゼンテーションを行い、レポートを提出する。 月に1回程度、ゼミ生全員が集まって状況を報告するミーティングを行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 テーマ：研究テーマの決定と研究計画の作成 前期：研究の目的設定とデータの収集方法、分析手法について学ぶ。各種の統計手法を用いた研究論文を紹介する。結果のまとめ方、レポートの方法について学ぶ。 後期：卒業研究のテーマを絞り込む。そのためには、関連する先行研究を収集して、読みこなす作業を行う。研究の目的設定とデータの収集方法、分析手法について学ぶ。各種の統計手法を用いた研究論文を紹介する。結果のまとめ方、レポートの方法について学ぶ。	国内・外のジャーナルに掲載された論文、総説、研究レポートなどを受講者全員で分担し、内容の要約を作成する。 月に1回程度、ゼミ生全員が集まって状況を報告するミーティングを行う。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 テーマ：各自、卒業研究のテーマを明確にし、論文を作成する。 前期：各自の研究テーマについて、目的設定とデータの収集方法、分析手法について学ぶ。結果のまとめ方、レポートの方法について学ぶ。 後期：論文の作成。各自の進行状況に応じて助言・指導を行う。	研究に関する相談は随時受け付けるが、可能な限り、相談内容を文章化すること。 月に1回程度、ゼミ生全員が集まって状況を報告するミーティングを行う。

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	隅野　美砂輝			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	スポーツマネジメントやマーケティングに関する知識や技能、興味関心を持つ等の態度を身につけ、各自がスポーツについて自分なりの理解ができ、説明ができ、ディスカッションできることを目標としている。課題解決力，科学的表現力が身につくことが期待される.				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する幅広い知識を獲得する。			○	○			30
	■情意的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する事例や研究について興味・関心を持ち、積極的に探究する姿勢を持つ。	○		○	○			30
	■技能的領域	スポーツマネジメントやマーケティングに関する課題発表、研究発表、またはそれに関するディスカッションができる。	○			○			40

成績評価の基準	2/3 以上出席したものを評価の対象者とする。		
テキスト、教材 参　考　書	「スポーツマーケティング」原田宗彦編著、大修館書店、2008　など		
履修条件・ 関連科目	スポーツ経営管理学概論、スポーツ社会学 スポーツ産業論、スポーツマーケティング論	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	501研究室　月曜日　16-17時　msumino@nifs-k.ac.jp、501 教員室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	隅野　美砂輝	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 ・文献抄読、書籍抄読、事例紹介等の課題発表を通して、スポーツマネジメントやマーケティングの理論と実践を学ぶ。	各種セミナー等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 ・文献抄読、書籍抄読、事例紹介等の課題発表を通して、スポーツマネジメントやマーケティングの理論と実践を学ぶ。 ・卒業研究のテーマを決定する。	課題発表のための情報収集、資料作成 各種セミナー・学会等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 卒業研究の作成、発表 ・資料収集、研究計画の立案、データ収集、データ集計・分析、考察、まとめ、発表。 （発表時期；　５月中旬：プロポーザル、10 月下旬：中間、1 月中旬：最終）	卒業研究の作成 各種セミナー・学会等への参加 調査研究への参画 プロジェクトへの参画

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	栫　ちか子			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	7
授業の概要	2.3年次には，「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献の分析を行い，教育方法上の原理について基礎的・基本的な知識を修得する．また，中学校・高等学校における保健体育科の目標，内容，指導法等について学習指導要領に基づき学習し、ディスカッションやプレゼンテーション等を通して，保健体育科の特性を生かした指導方法や指導技術等の実践的指導力を育成する．さらに，4年次には，各自が設定した「保健体育」の授業づくりに関するテーマについて，研究計画を作成し，先行研究や各種調査結果，関係法令等の調査及びアンケート・インタビュー・授業実践等を行う．それらの研究結果・考察についてプレゼンテーションとディスカッションを行い，課題解決能力を高める．				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力 （科学的支援力，専門的な知識・教養）	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	・「保健体育」の授業づくりについての教育方法上の基礎的・基本的な事項を説明できる ・「保健体育」の授業づくりについて，保健体育科教育学的視点から，課題を見つけ，その解決法を提案する ・設定したテーマについて，保健体育科教育学的視点から，分析・評価する	○		○	○			40
	■情意的領域	・「保健体育」に関連する様々なテーマについて興味・関心をもち，思考を深めた上で，自分の意見を他者に伝えようとしている． ・学校体育全般に関わる現状や理論に興味・関心をもち，合理的解決に向けて，仲間と協力して探求しようとしている ・保健体育科教育学に関する最新の知見について興味・関心を持ち，研究計画に基づき，主体的に卒業研究に取り組もうとしている	○						20
	■技能的領域	・「保健体育」の授業づくりに関する課題を見つけ，その解決法について，パワーポイントを用いて発表することができる ・資料や文献を検索し，それらの内容についてポイントを絞って，他者にわかりやすくプレゼンテーションができる ・適切な表現と構成で，論文を作成することができる ・各自のテーマについて，設定された時間内で，パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことができる	○		○	○			40

成績評価の基準	2.3年次では，授業の到達目標に基づき，レポートやディスカッション，プレゼンテーション等から，保健体育科教育学に関する知識の深化を判断する． 4年次では，3つの領域の授業の到達目標をもとに，授業への取組，作成された論文の内容，プレゼンテーション等から，判断する．		
テキスト、教材 参　考　書	中学校学習指導要領解説　保健体育編，高等学校学習指導要領解説　保健体育編・体育編 タブレットまたはパソコンを持参すること		
履修条件・ 関連科目	中学校・高等学校の保健体育教師を目指している者	備考(教員メッセージ含む)	高い実践的指導力のある教員の育成を目指しているため，ディスカッションやプレゼンテーションを数多く行い，レポート・論文作成等を頻繁に課す．学校教育・保健体育に関する今日的課題に高い関心，熱い思いを持ち，主体的に研究に取り組む学生を求む．
オフィス・アワー	随時：研究棟7階703教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栫　ちか子	ゼミナールⅠ（2年）1～30回 「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等を収集し，抄読を行い，中学校・高等学校における保健体育科の学習指導要領の内容を踏まえたディスカッションを行う．さらに，学習指導案に基づいた模擬授業を通して，実践的指導力の向上を図る．	「保健体育」の授業づくりに関する資料や文献等の収集，プレゼンテーションの準備，学習指導案の作成，教材開発等
2	〃	ゼミナールⅡ（3年）1～30回 卒業研究につながる内容について，資料や文献等を収集し，予備調査等を実施して，プレゼンテーション及びディスカッションを行う．卒業研究のテーマを絞り込み，次年度の卒業研究へ繋げる．	研究テーマに関する資料．文献の収集，予備調査，プレゼンテーションの作成，研究計画の作成等
3	〃	ゼミナールⅢ（4年）1～30回 各自が設定した「保健体育」の授業づくりに関するテーマについて，研究計画に基づき，調査・研究した結果についてプレゼンテーション及びディスカッションを行う．さらに卒業研究の完成に向け，論文を作成し，プレゼンテーションを繰り返しながら，研究の深化を図る．	先行研究や各種調査結果，関係法令等の調査及びアンケート・インタビュー・授業実践，論文作成，プレゼンテーション作成等

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134B0-2101)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	栗山　靖弘			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	教育や体育・スポーツをめぐる現象や問題に対して社会学の手法を用いてアプローチする。具体的には、学校教育や体育・スポーツに関する文献を読み解き、受講者の関心を深める。また、質問紙調査、インタビュー調査、資料研究等の社会調査を通じて、学校教育や体育・スポーツに関する実態の把握と、得られたデータを解釈する力を身につけ、卒業研究を進める。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	学校教育や体育・スポーツ分野に関する社会学的研究についての知識を身につける。 また、社会調査の方法を修得する。	○		○				40
	■情意的領域	関心のあるテーマや現象について主体的に情報を収集する。 ゼミでは積極的に議論に参加する。	○			○			30
	■技能的領域	社会調査の方法を身につける。	○			○			30

成績評価の基準	ゼミでの発表、提出課題、レポートを総合的に評価表します。		
テキスト、教材 参　考　書	教育社会学・スポーツ社会学に関する文献を用いて、適宜資料を配付する。 参考書は適宜紹介する。		
履修条件・ 関連科目	教職課程科目を履修していることが望ましい。	備考(教員メッセージ含む)	議論に積極的に参加し、関心のあるテーマについて主体的・意欲的に取り組むことを期待します。
オフィス・アワー	随時対応。事前にメールでアポを取ってください。 研究棟6階605教員研究室		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	栗山　靖弘	ゼミナールⅠ(2年)1回～30回 　学校教育や体育スポーツ関連の基礎的な文献を読み解くことで、知識の修得ならびに文献の読み方を身につける。また、ゼミ報告を通じて、文献の要約や文章作成の方法を身につける。	授業の復習、発表準備、レポート等の作成
2	〃	ゼミナールⅡ(3年)1回～30回 　前期は、学校教育や体育スポーツ関連の文献を読み解き、知識の修得ならびに文献の読み方を身につける。また、ゼミ報告を通じて、文献の要約や文章作成の方法を身につける。 後期からは、卒業研究のテーマ設定に向けて、各自の関心のある分野についての文献講読と発表を行う。	授業の復習、発表準備、レポート等の作成
3	〃	ゼミナールⅢ(4年)1回～30回 　卒業研究のテーマを設定したうえで研究計画を立てる。その中で、先行研究の検討と調査方法の選定を行い、卒業研究を進める。 また、論文作成やプレゼンテーション の方法等もについても身につける。	授業の復習、発表準備、レポート等の作成

授業科目名 (ナンバリングコード)	ゼミナールⅠ～Ⅲ (134A0-2300)	授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｾﾞﾐﾅｰﾙ（卒業研究）)
担当教員名	幾留　沙智			補助担当者名	
単位数	4　単位	履修年次	2～4年次	受け入れ人数	―
授業の概要	体育・スポーツ現場で生じる諸課題に対して、体育・スポーツ心理学についての体系化された知識を用いてアプローチし、課題を解決できるような専門性を身に付けることを目指す。				

授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標		成績評価の方法						
	ＤＰで目指す資質・能力	課題解決力、科学的表現力	授業期間				定期試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	体育・スポーツ場面の解決すべき課題について、具体例をあげ説明できる。 体育・スポーツ場面における解決すべき課題について、心理学理論に基づいて説明できる。 既存の理論では説明できない問題をあげることができる。				○			40
	■情意的領域	心理学理論について積極的に文献調査を行い、ディスカッションによって課題を深めることができる。 実験・調査に主体的に取り組むことができる。	○						30
	■技能的領域	実践的、理論的根拠をつけた意見を述べることができる。 各種測定機器を利用できる。 科学論文の基本形式について理解し、レポートすることができる。	○						30

成績評価の基準	2/3以下の出席の場合は評価しない。基本的な授業形態が発表のため、発表資料の提出やプレゼンで使用したパワーポイントを総合的に評価する。授業中の議論への積極性を評価する。		
テキスト、教材 参　考　書	テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。		
履修条件・ 関連科目	2年生　スポーツ心理学、スポーツカウンセリング論、体育学実験Ⅰ・Ⅱ 3年生　上記に加え、応用スポーツ心理学 4年生　上記すべて	備考(教員メッセージ含む)	
オフィス・アワー	随時（603教員室）だが、予めメールにて連絡をすることが望ましい（ikudome@nifs-k.ac.jp）。		

授業計画

回	担当教員名	授業内容	授業時間外の指導等 (予習、復習、ﾚﾎﾟｰﾄ等課題の指示)
1	幾留　沙智	ゼミナールⅠ（２年）１回～30回 心理学における基本的な諸理論の学習として、受講者全員が興味のある心理学的知見についての教科書や専門書を読み、まとめて発表する。また、発表者、聴講者相互に知識を深めるためにディスカッションを行う。	発表の準備を行う。
2	〃	ゼミナールⅡ（３年）１回～30回 2年次に得た心理学的知識を利用し、自身がもつ体育・スポーツ場面の課題や問題に関連する論文を批判的に読み、まとめて発表する。また、ディスカッションを通して、卒業論文で扱うテーマを決定し、リサーチクエスチョンを生成する。	発表の準備を行う。ゼミで行われる実験・調査に積極的に参加する。
3	〃	ゼミナールⅢ（４年）１回～30回 3年次の活動を通して生成したリサーチクエスチョンを検証する方法を決定し、実際に調査・実験を行い、卒業論文としてまとめる。	卒業論文の作成に関する調査・実験、発表、まとめを行う。

2022 年度

4

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	㉙	30

5

日	月	火	水	木	金	土
1	2	③	④	⑤	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	⑱	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8

日	月	火	水	木	金	土
・	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	⑪	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	⑲	20	21	22	㉓	24
25	26	27	28	29	30	

10

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1
2	3	4	5	6	7	8
9	⑩	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	③	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	㉓	24	25	26
27	28	29	30			

12

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1

日	月	火	水	木	金	土
①	②	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	⑪
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	㉓	24	25
26	27	28				

3

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	㉑	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2023 年度

4

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	㉙
30						

5

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	③	④	⑤	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	⑰	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

8

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	⑪	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

9

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	⑱	19	20	21	22	㉓
24	25	26	27	28	29	30

10

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	⑨	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	1	2	③	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	㉓	24	25
26	27	28	29	30		

12

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1

日	月	火	水	木	金	土
・	①	2	3	4	5	6
7	⑧	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
⑪	⑫	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	㉓	24
25	26	27	28	29		

3

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	⑳	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

〒891－2393　鹿児島県鹿屋市白水町１番地
鹿　屋　体　育　大　学
編集・発行：教務委員会
電話　0994 － 46 － 4865（教育支援係）